

愛媛県美術館

平成30年度年報・研究紀要第18号

**ANNUAL REPORT
and
BULLETIN**

THE MUSEUM OF ART, EHIME

総目次

■ 平成30年度年報

I	沿 革	1
II	展覧会事業	
1	コレクション展示	2
2	企画展示・共催展示・特別展示	14
III	作品の収集事業及び保存管理	
1	収集方針	77
2	取得作品の概要	78
3	収蔵作品数	82
4	保存・修復	82
5	館藏品貸出状況	83
IV	調査研究事業	85
V	教育普及事業	
1	普及啓発事業	87
(1)	連続講座	
(2)	一日講座	
(3)	土曜講座	
(4)	コレクショントーク	
2	創作活動支援事業	91
(1)	アトリエの設置	
(2)	創作学習の支援	
3	美術情報関係事業	92
(1)	美術館情報発信	
(2)	美術情報の提供	
4	他機関との連携事業	92
(1)	館内プログラム	
(2)	館外プログラム	
(3)	大学との連携	
(4)	審査員・委員	
5	その他	100
(1)	第20回愛媛県美術館開館記念イベント	
(2)	平成30年度文化庁・地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業	
VI	貸館事業	
1	展示施設の利用方法	102
2	展示施設の利用状況	103
VII	入館者の状況	107

VIII	組織及び職員構成	
1	組織図	108
2	職員名簿	108
IX	愛媛県美術館協議会委員名簿	109
X	関係法規	
1	愛媛県美術館使用料条例	110
2	愛媛県美術館管理規則	110
3	愛媛県博物館協議会設置条例	115
4	愛媛県美術館協議会運営規則	115
5	愛媛県美術品等収集評価委員会設置要綱	115
XI	施設・設備の概要	117

■ 愛媛県美術館研究紀要 第18号

- * 実践報告 来館者の持っている力を引き出す①
—コレクション展『なぞなぞ美術館』の試み— 鈴木 有紀
- * アンデルとナポレオン時代の美術活動展 武田 信孝
- * 真鍋博研究 グループ「実在者」と『5人の片眼の兵隊』 五味 俊晶
- * 【開催報告】コレクション特別展「松山藩御用絵師列伝」 長井 健

○ 開館までの歩みとその後

- 昭和45年 9月 愛媛県立美術館が開館
- 昭和54年10月 愛媛県立美術館分館郷土美術館を設置
- 平成2年 5月 生活文化県政推進懇談会で新しい美術館の建設が提言される
9月 愛媛県中核美術館整備検討委員会設置
(会長：門田圭三 委員21人)
- 平成3年 3月 第1回整備検討委員会開催
11月 「県民の美術館に対するニーズ調査及び特色ある美術館の調査」
(～4年2月まで)
11月 第2回整備検討委員会開催
- 平成5年 3月 第3回整備検討委員会開催
- 平成6年 6月 立地場所について検討委員会に確認
- 平成7年10月 第4回整備検討委員会開催
11月 中核美術館基本構想報告
- 平成8年11月 現状変更許可（文化庁）
12月 起工式
- 平成10年 4月 愛媛県立美術館は教育委員会から知事部局に移管
9月 定礎式
10月 愛媛県立美術館を廃止し、愛媛県美術館を設置
11月 落成式
- 平成12年 4月 知事部局から教育委員会へ移管
- 平成21年 3月 愛媛県美術館分館（萬翠荘）を廃止し、萬翠荘を知事部局に移管
- 平成30年 4月 教育委員会から知事部局へ管理運営を事務委任

II 展覧会事業

1 コレクション展示

○ 企画展示室

平成30年6月26日～8月19日

日本画家 高橋周桑

作家名	作品名	制作年	材質・形状	寸法(cm)	備考
高橋周桑	冬木立		紙本着色・額	60.5×50.0	
高橋周桑	鶯	昭和15年(1940)	絹本着色・額	38.5×49.5	
高橋周桑	新樹	昭和25年(1950)	紙本着色・額	50.0×57.0	
高橋周桑	春蘭	昭和26年(1951)	紙本着色・額	77.0×45.0	
高橋周桑	鮎	昭和26年(1951)	紙本着色・額	23.5×26.5	
高橋周桑	柿	昭和26年(1951)	紙本着色・額	43.0×51.0	
高橋周桑	牡丹	昭和27年(1952)	紙本着色・額	59.0×49.0	
高橋周桑	松	昭和29年(1954)	紙本着色・額	108.0×147.0	寄託作品
高橋周桑	桜	昭和29年(1954)	紙本着色・額	39.0×48.0	
高橋周桑	山	昭和29年(1954)	紙本着色・額	52.0×44.0	
高橋周桑	松と鳥	昭和29年(1954)	紙本着色・額	43.0×49.5	
高橋周桑	菖蒲	昭和29年(1954)	紙本着色・額	50.0×42.0	
高橋周桑	白木蓮之図	昭和30年(1955)	絹本着色・軸	43.0×49.5	
高橋周桑	富士と松原	昭和30年(1955)	紙本着色・額	50.0×42.0	
高橋周桑	鉄仙瓶	昭和31年(1956)	紙本着色・額	60.0×59.0	
高橋周桑	海	昭和32年(1957)	紙本着色・額	136.0×112.0	
高橋周桑	松と桜	昭和32年(1957)	紙本着色・二曲屏風一隻	142.0×139.2	寄託作品
高橋周桑	朝顔	昭和33年(1958)	絹本着色・額	40.2×50.0	
高橋周桑	濠の月	昭和36年(1961)	紙本着色・額	60.0×86.4	
高橋周桑	雪木立	昭和36年(1961)	紙本着色・額	74.8×66.6	
高橋周桑	皿の杏	昭和36年(1961)	紙本着色・額	39.0×50.0	
高橋周桑	木立	昭和37年(1962)	紙本着色・額	60.0×50.0	
高橋周桑	林	昭和38年(1963)	紙本着色・額	52.0×40.0	
高橋周桑	春暁	昭和38年(1963)	紙本着色・額	44.0×51.0	

平成30年6月26日～8月19日

没後100年 河崎蘭香×生誕130年 高島華宵

作家名	作品名	制作年	材質・形状	寸法(cm)	備考
河崎蘭香	小女春遊廻図	大正4年(1915)	絹本着色・軸		寄託作品
河崎蘭香	美人観桜廻図	大正5年(1916)	絹本着色・軸		寄託作品
河崎蘭香	和楽之図	大正5年(1916)	絹本着色・軸		寄託作品
河崎蘭香	霜月十五日		絹本着色・軸		寄託作品
河崎蘭香	『女学世界』口絵 明治45年6月号	明治45年(1902)	雑誌		高島華宵大正ロマン館蔵
河崎蘭香	『少女画報』口絵 大正5年6月号	大正5年(1916)	雑誌		高島華宵大正ロマン館蔵
河崎蘭香ほか	『婦人画報』挿図 大正3年5月号	大正3年(1914)	雑誌		高島華宵大正ロマン館蔵
高島華宵	桜花令嬢	昭和8年(1933)	絹本着色・軸	100.0×32.5	
高島華宵	梅花美人	昭和10-20年代	絹本着色・軸		個人蔵
高島華宵	雨あがり	昭和20年代	絹本着色・軸		高島華宵大正ロマン館蔵
高島華宵	南紀の波		絹本着色・額		高島華宵大正ロマン館蔵
高島華宵	『少女画報』表紙 大正15年7月号	大正15年(1926)	雑誌		高島華宵大正ロマン館蔵
高島華宵	『婦人世界』表紙 昭和2年5月号	昭和2年(1927)	雑誌		高島華宵大正ロマン館蔵
高島華宵	『日本少年』表紙 昭和2年11月号	昭和2年(1927)	雑誌	45.5×33.5	高島華宵大正ロマン館蔵

平成30年6月26日～8月19日

平成29年度新収蔵品展

作家名	作品名	制作年	材質・形状	寸法(cm)	備考
熊谷守一	桃	昭和16年(1941)	油彩・板	23.8×32.9	
遠藤広実	源氏物語図	弘化元-2年 (1844-45)	絹本着色・軸双幅	各90.0×32.0	下村観山 旧蔵
喜多武清	鳥鶯図	天保8年(1837)	絹本墨画淡彩・軸双幅	各129.5×49.5	
鏑木雲譚	草虫図	江戸時代後期	絹本着色・軸	108.0×41.0	

沖冠岳	鴨之図	天保11年(1840)	絹本墨画淡彩・軸	127.7×53.8	
沖冠岳	月梅図	天保13年(1842)	絹本墨画淡彩・軸	104.0×35.9	
沖冠岳	双鶴梅図	嘉永3年(1850)	絹本着色・軸	104.0×41.0	
沖冠岳	虎図	安政2年(1855)	絹本墨画淡彩・軸	107.3×48.7	
沖冠岳	旭日図	元治2年(1865)	絹本着色・軸	39.2×69.0	
武田耕雪	石鎚山		絹本着色・額	36.0×89.0	
柳瀬正夢	早朝の甲斐駒	昭和11年(1936)	油彩・画布	31.0×40.0	
越智宗茂	カンボ・デ・クリプターナの家	昭和50年(1975)	油彩・画布	102.0×127.5	
越智宗茂	裸婦	1960年代	油彩・画布	145.3×89.8	
越智宗茂	北信雪景	昭和51年(1976)	油彩・画布	112.0×146.0	
越智宗茂	雪の安曇野	昭和58年(1983)	油彩・画布	130.5×161.5	
越智宗茂	ロンドン・チェルシー街のパブ	平成7年(1995)	油彩・画布	117.5×151.0	
古茂田公雄	[風景]	昭和38年(1963)頃	油彩・画布	33.3×45.5	
高田修	婦人像	昭和11年(1936)	油彩・画布	72.0×58.3	
木和村創爾郎	近江八景	昭和34年(1959)	木版・紙(8点組)	各45.6×30.2	

平成30年 6月26日～8月19日
星新一×真鍋博=本、ふたりの仕事

分類	書籍名	タイトル	発行年月	出版社	備考
油彩	湿地区		1953		
油彩	蒲団		1955		
原画	真鍋博漫画集 寝台と十字架		1958.3	ユリイカ	
原画	真鍋博漫画集 寝台と十字架	(カバー表紙)	1958.3	ユリイカ	
書籍	真鍋博漫画集 寝台と十字架[復刻]		2007.2	トムズボックス	愛媛県立図書館蔵
原画	動物園/作:真鍋博		1959.3	ユリイカ	
原画	動物園/作:真鍋博		1959.3	ユリイカ	
原画	動物園/作:真鍋博		1959.3	ユリイカ	
原画	動物園/作:真鍋博		1959.3	ユリイカ	
原画	動物園/作:真鍋博		1959.3	ユリイカ	
原画	動物園/作:真鍋博		1959.3	ユリイカ	
原画	動物園/作:真鍋博		1959.3	ユリイカ	
原画	動物園/作:真鍋博		1959.3	ユリイカ	
原画	動物園/作:真鍋博		1959.3	ユリイカ	
原画	動物園/作:真鍋博		1959.3	ユリイカ	
原画	動物園/作:真鍋博		1959.3	ユリイカ	
原画	動物園/作:真鍋博		1959.3	ユリイカ	
原画	動物園/作:真鍋博		1959.3	ユリイカ	
原画	動物園/作:真鍋博		1959.3	ユリイカ	
書籍	動物園/作:真鍋博		1959.3	ユリイカ	愛媛県立図書館蔵
原画	朝日ジャーナル 1960年	レベルセブン 第七地下壕/ 原作:モルデカイ・ロシュワルト		朝日新聞社	
原画	朝日ジャーナル 1960年	レベルセブン 第七地下壕/ 原作:モルデカイ・ロシュワルト		朝日新聞社	
原画	朝日ジャーナル 1960年	レベルセブン 第七地下壕/ 原作:モルデカイ・ロシュワルト		朝日新聞社	
原画	朝日ジャーナル 1960年	レベルセブン 第七地下壕/ 原作:モルデカイ・ロシュワルト		朝日新聞社	
書籍	レベルセブン 第七地下壕/ 原作:モルデカイ・ロシュワルト			朝日新聞社	愛媛県立図書館蔵
原画	消しゴム/原作:アラン・ロブ=グリエ、訳:中村真一郎	(カバー表紙)	1959.10.	河出書房新社	
書籍	消しゴム/原作:アラン・ロブ=グリエ、訳:中村真一郎		1959.10.	河出書房新社	愛媛県立図書館蔵
原画	愛媛の昔語り/作:真鍋博	鶴ワンブチ	1960.1	朝日出版	
原画	愛媛の昔語り/作:真鍋博	古木の精	1960.1	朝日出版	
原画	愛媛の昔語り/作:真鍋博	キツネのちょうちん	1960.1	朝日出版	
原画	愛媛の昔語り/作:真鍋博	タスキのあだうち	1960.1	朝日出版	
原画	愛媛の昔語り/作:真鍋博	熊谷桜	1960.1	朝日出版	
原画	愛媛の昔語り/作:真鍋博	夜がけ馬	1960.1	朝日出版	
原画	愛媛の昔語り/作:真鍋博	自慢ばなし	1960.1	朝日出版	
原画	愛媛の昔語り/作:真鍋博	石になったもち	1960.1	朝日出版	
原画	愛媛の昔語り/作:真鍋博	力持ちの嫁	1960.1	朝日出版	
書籍	愛媛の昔語り/作:真鍋博		1960.1	朝日出版	愛媛県立図書館蔵

*以下すべて書籍の著者は星新一

原画	宝石 1958年10月号	おーい でてこーい	1959.10.	宝石社	
雑誌	宝石 1958年10月号	おーい でてこーい	1959.10.	宝石社	愛媛県立図書館蔵
原画	悪魔のいる天国	(カバー表紙)	1961	中央公論社	
原画	悪魔のいる天国	(扉)	1961	中央公論社	
原画	悪魔のいる天国	もたらされた文明	1961	中央公論社	
原画	悪魔のいる天国	合理主義者	1961	中央公論社	
原画	悪魔のいる天国	黄金のオウム	1961	中央公論社	
原画	悪魔のいる天国	デラックスな金庫	1961	中央公論社	
原画	悪魔のいる天国	相続	1961	中央公論社	
原画	悪魔のいる天国(新潮文庫)	(カバー表紙)	1975	新潮社	
原画	悪魔のいる天国(新潮文庫)	合理主義者	1975	新潮社	
原画	悪魔のいる天国(新潮文庫)	黄金のオウム	1975	新潮社	
原画	悪魔のいる天国	肩の上の秘書	1961	中央公論社	
原画	悪魔のいる天国(新潮文庫)	肩の上の秘書	1975	新潮社	
原画	悪魔のいる天国	サーカスの旅	1961	中央公論社	
原画	悪魔のいる天国(新潮文庫)	サーカスの旅	1975	新潮社	
原画	悪魔のいる天国	殉職	1961	中央公論社	
原画	悪魔のいる天国(新潮文庫)	殉職	1975	新潮社	
書籍	悪魔のいる天国		1961	中央公論社	愛媛県立図書館蔵
書籍	悪魔のいる天国(新潮文庫)		1975	新潮社	愛媛県立図書館蔵
原画	夢魔の標的(日本SFシリーズ3)	(カバー表紙)	1964.7	早川書房	
原画	SFマガジン 1963年12月号	夢魔の標的(扉)	1963.12	早川書房	
原画	夢魔の標的(ハヤカワJA文庫)	(カバー表紙)	1973.3	早川書房	
原画	夢魔の標的(新潮文庫)	(カバー表紙)	1977.12	新潮社	
原画	夢魔の標的(新潮文庫)		1977.12	新潮社	
原画	夢魔の標的(新潮文庫)		1977.12	新潮社	
原画	夢魔の標的(新潮文庫)		1977.12	新潮社	
原画	夢魔の標的(新潮文庫)		1977.12	新潮社	
原画	夢魔の標的(新潮文庫)		1977.12	新潮社	
書籍	夢魔の標的(日本SFシリーズ3)		1964.7	早川書房	愛媛県立図書館蔵
書籍	夢魔の標的(ハヤカワJA文庫)		1973.3	早川書房	愛媛県立図書館蔵
書籍	夢魔の標的(新潮文庫)		1977.12	新潮社	愛媛県立図書館蔵
雑誌切抜	SFマガジン 1963年12月号		1963.12	早川書房	愛媛県立図書館蔵
原画	ボンボンと悪魔	第一部 夜のかたすみ(扉)	1962.7	新潮社	
原画	ボンボンと悪魔	椅子	1962.7	新潮社	
原画	ボンボンと悪魔	雪の夜	1962.7	新潮社	
原画	ボンボンと悪魔	処方	1962.7	新潮社	
原画	ボンボンと悪魔	夢の男	1962.7	新潮社	
原画	ボンボンと悪魔(新潮文庫)	椅子	1974.1	新潮社	
原画	ボンボンと悪魔(新潮文庫)	不運	1974.1	新潮社	
原画	ボンボンと悪魔(新潮文庫)	囚人	1974.1	新潮社	
原画	ボンボンと悪魔	すばらしい食事	1962.7	新潮社	
原画	ボンボンと悪魔(新潮文庫)	すばらしい食事	1974.1	新潮社	
原画	ボンボンと悪魔	循環気流	1962.7	新潮社	
原画	ボンボンと悪魔(新潮文庫)	循環気流	1974.1	新潮社	
原画	ボンボンと悪魔	目撃者	1962.7	新潮社	
原画	ボンボンと悪魔(新潮文庫)	目撃者	1974.1	新潮社	
原画	ボンボンと悪魔	夜の侵入者	1962.7	新潮社	
原画	ボンボンと悪魔(新潮文庫)	夜の侵入者	1974.1	新潮社	
原画	ボンボンと悪魔	賢明な女性たち	1962.7	新潮社	
原画	ボンボンと悪魔(新潮文庫)	賢明な女性たち	1974.1	新潮社	
原画	ボンボンと悪魔	むだな時間	1962.7	新潮社	
原画	ボンボンと悪魔(新潮文庫)	むだな時間	1974.1	新潮社	
書籍	ボンボンと悪魔		1962.7	新潮社	愛媛県立図書館蔵
書籍	ボンボンと悪魔(新潮文庫)		1974.1	新潮社	愛媛県立図書館蔵
原画	ポッコちゃん(新潮文庫)	よごれている本	1971.5	新潮社	
原画	ポッコちゃん(新潮文庫)	ツギ計画	1971.5	新潮社	
原画	ポッコちゃん(新潮文庫)	悲しむべきこと	1971.5	新潮社	
原画	ポッコちゃん(新潮文庫)	(カバー表紙)	1987.5	新潮社	

原画	ボッコちゃん(新潮文庫)	悪魔	1987.5	新潮社	
原画	ボッコちゃん(新潮文庫)	変な薬	1987.5	新潮社	
原画	ボッコちゃん(新潮文庫)	変な薬	1971.5	新潮社	
原画	別冊推理小説 1976年春	ボッコちゃん	1976	双葉社	
書籍	ボッコちゃん(新潮文庫)		1971.5	新潮社	愛媛県立図書館蔵
書籍	ボッコちゃん(新潮文庫)		1987.5	新潮社	愛媛県立図書館蔵
原画	ようこそ地球さん(新潮文庫)	(カバー表紙)	1972.6	新潮社	
原画	ようこそ地球さん(新潮文庫)	復讐	1972.6	新潮社	
原画	ようこそ地球さん(新潮文庫)	(カバー裏表紙)	1972.6	新潮社	
原画	ようこそ地球さん(新潮文庫)	弱点	1972.6	新潮社	
原画	ようこそ地球さん(新潮文庫)	弱点	1982.8	新潮社	
原画	ようこそ地球さん(新潮文庫)	探検隊	1972.6	新潮社	
原画	ようこそ地球さん(新潮文庫)	探検隊	1982.8	新潮社	
原画	ようこそ地球さん(新潮文庫)	宇宙からの客	1972.6	新潮社	
原画	ようこそ地球さん(新潮文庫)	宇宙からの客	1982.8	新潮社	
原画	ようこそ地球さん(新潮文庫)	天使考	1972.6	新潮社	
原画	ようこそ地球さん(新潮文庫)	天使考	1982.8	新潮社	
書籍	ようこそ地球さん(新潮文庫)		1972.6	新潮社	愛媛県立図書館蔵
原画	おのぞみの結末(新潮文庫)	(カバー表紙)	1976.3	新潮社	
原画	おのぞみの結末(新潮文庫)	おのぞみの結末	1976.3	新潮社	
原画	いんなあとりっぶ 1975年1月号	おのぞみの結末	1975.1	いんなあとりっぶ社	
原画	おのぞみの結末(新潮文庫)	一年間	1976.3	新潮社	
原画	おのぞみの結末(新潮文庫)	ひとつの目標	1976.3	新潮社	
原画	おのぞみの結末(新潮文庫)	現実	1976.3	新潮社	
原画	おのぞみの結末(新潮文庫)	親しげな悪魔	1976.3	新潮社	
原画	おのぞみの結末(新潮文庫)	わが子のために	1976.3	新潮社	
原画	おのぞみの結末(新潮文庫)	空の死神	1976.3	新潮社	
書籍	おのぞみの結末(新潮文庫)		1976.3	新潮社	愛媛県立図書館蔵
原画	妖精配給会社(新潮文庫)	アフターサービス	1976.11	新潮社	
原画	妖精配給会社(新潮文庫)	おそろべき事態	1976.11	新潮社	
原画	妖精配給会社(新潮文庫)	三角関係	1976.11	新潮社	
原画	妖精配給会社(新潮文庫)	妖精配給会社	1976.11	新潮社	
原画	妖精配給会社(新潮文庫)	遠大な計画	1976.11	新潮社	
原画	妖精配給会社(新潮文庫)	ごきげん保険	1976.11	新潮社	
原画	妖精配給会社(新潮文庫)	ボタン星からの贈り物	1976.11	新潮社	
書籍	妖精配給会社(新潮文庫)		1976.11	新潮社	愛媛県立図書館蔵
原画	妄想銀行(新潮文庫)	(カバー表紙)	1878.3	新潮社	
原画	妄想銀行(新潮文庫)	敏感な動物	1878.3	新潮社	
原画	妄想銀行(新潮文庫)	大黒さま	1878.3	新潮社	
原画	妄想銀行(新潮文庫)	あるスパイの物語	1878.3	新潮社	
原画	妄想銀行(新潮文庫)	陰謀団ミダス	1878.3	新潮社	
原画	妄想銀行(新潮文庫)	海のハーブ	1878.3	新潮社	
原画	妄想銀行(新潮文庫)	声	1878.3	新潮社	
原画	妄想銀行(新潮文庫)	長生き競争	1878.3	新潮社	
書籍	妄想銀行(新潮文庫)		1878.3	新潮社	愛媛県立図書館蔵
原画	おせっかいな神々(新潮文庫)	(カバー表紙)	1979.5	新潮社	
原画	おせっかいな神々(新潮文庫)	古代の秘法	1979.5	新潮社	
原画	おせっかいな神々(新潮文庫)	マスコット	1979.5	新潮社	
原画	おせっかいな神々(新潮文庫)	権利金	1979.5	新潮社	
原画	おせっかいな神々(新潮文庫)	歴史の論文	1979.5	新潮社	
原画	おせっかいな神々(新潮文庫)	商売の神	1979.5	新潮社	
原画	おせっかいな神々(新潮文庫)	午後の出来事	1979.5	新潮社	
原画	おせっかいな神々(新潮文庫)	そそっかしい相手	1979.5	新潮社	
書籍	おせっかいな神々(新潮文庫)		1979.5	新潮社	愛媛県立図書館蔵
原画	ひとにぎりの未来	(カバー表紙)	1969.3	新潮社	
原画	ひとにぎりの未来	(扉)	1969.3	新潮社	
原画	ひとにぎりの未来(新潮文庫)	(カバー表紙)	1980.5	新潮社	
原画	ひとにぎりの未来(新潮文庫)	塔	1980.5	新潮社	
原画	ひとにぎりの未来(新潮文庫)	愛の作用	1980.5	新潮社	

原画	ひとにぎりの未来(新潮文庫)	新しい装置	1980.5	新潮社	
原画	ひとにぎりの未来(新潮文庫)	番号をどうぞ	1980.5	新潮社	
原画	ひとにぎりの未来(新潮文庫)	犯罪の舞台	1980.5	新潮社	
原画	ひとにぎりの未来(新潮文庫)	自信にみちた生活	1980.5	新潮社	
書籍	ひとにぎりの未来		1969.3	新潮社	愛媛県立図書館蔵
書籍	ひとにぎりの未来(新潮文庫)		1980.5	新潮社	愛媛県立図書館蔵
原画	だれかさんの悪夢(新潮文庫)	(カバー表紙)	1981.7	新潮社	
原画	だれかさんの悪夢(新潮文庫)	空白の行動	1981.7	新潮社	
原画	だれかさんの悪夢(新潮文庫)	たのしい毎日	1981.7	新潮社	
原画	だれかさんの悪夢(新潮文庫)	女とふたりの男	1981.7	新潮社	
原画	だれかさんの悪夢(新潮文庫)	ごねどく屋	1981.7	新潮社	
原画	だれかさんの悪夢(新潮文庫)	おせっかい	1981.7	新潮社	
原画	だれかさんの悪夢(新潮文庫)	テレビの神	1981.7	新潮社	
書籍	だれかさんの悪夢(新潮文庫)		1981.7	新潮社	愛媛県立図書館蔵
原画	未来いそっぷ(新潮文庫)	(カバー表紙)	1982.8	新潮社	
原画	未来いそっぷ(新潮文庫)	ある夜の物語	1982.8	新潮社	
原画	未来いそっぷ(新潮文庫)	いそっぷ村の繁栄 カラスとキツネ	1982.8	新潮社	
原画	未来いそっぷ(新潮文庫)	頭の大きなロボット	1982.8	新潮社	
原画	未来いそっぷ(新潮文庫)	利口なオウム	1982.8	新潮社	
原画	未来いそっぷ(新潮文庫)	やさしい人柄	1982.8	新潮社	
原画	未来いそっぷ(新潮文庫)	熱中	1982.8	新潮社	
原画	未来いそっぷ(新潮文庫)	ねらった金庫	1982.8	新潮社	
書籍	未来いそっぷ(新潮文庫)		1982.8	新潮社	愛媛県立図書館蔵
原画	エヌ氏の遊園地(新潮文庫)	(カバー表紙)	1985.7	新潮社	
原画	エヌ氏の遊園地(新潮文庫)	けちな願い	1985.7	新潮社	
原画	エヌ氏の遊園地(新潮文庫)	あこがれの朝	1985.7	新潮社	
原画	エヌ氏の遊園地(新潮文庫)	危険な年代	1985.7	新潮社	
原画	エヌ氏の遊園地(新潮文庫)	女の効用	1985.7	新潮社	
原画	エヌ氏の遊園地(新潮文庫)	港の事件	1985.7	新潮社	
原画	エヌ氏の遊園地(新潮文庫)	臨終の薬	1985.7	新潮社	
書籍	エヌ氏の遊園地(新潮文庫)		1985.7	新潮社	愛媛県立図書館蔵
原画	声の網(角川文庫)	(カバー表紙)	1985.10.	角川書店	
原画	声の網(角川文庫)	夜の事件	1985.10.	角川書店	
原画	声の網(角川文庫)	おしゃべり	1985.10.	角川書店	
原画	声の網(角川文庫)	家庭	1985.10.	角川書店	
原画	声の網(角川文庫)	ノアの子孫たち	1985.10.	角川書店	
原画	声の網(角川文庫)	亡霊	1985.10.	角川書店	
原画	声の網(角川文庫)	ある願望	1985.10.	角川書店	
原画	声の網(角川文庫)	重要な仕事	1985.10.	角川書店	
原画	声の網(角川文庫)	反射	1985.10.	角川書店	
原画	声の網(角川文庫)	反抗者たち	1985.10.	角川書店	
原画	声の網(角川文庫)	ある一日	1985.10.	角川書店	
原画	声の網(角川文庫)	ある仮定	1985.10.	角川書店	
原画	声の網(角川文庫)	四季の終り	1985.10.	角川書店	
書籍	声の網(角川文庫)		1985.10.	角川書店	愛媛県立図書館蔵
原画	どんぐり民話館(新潮文庫)	(カバー表紙)	1992.12	新潮社	
原画	どんぐり民話館(新潮文庫)	お寺の伝説	1992.12	新潮社	
原画	どんぐり民話館(新潮文庫)	双眼鏡	1992.12	新潮社	
原画	どんぐり民話館(新潮文庫)	来訪者たち	1992.12	新潮社	
原画	どんぐり民話館(新潮文庫)	花	1992.12	新潮社	
原画	どんぐり民話館(新潮文庫)	青年とお城	1992.12	新潮社	
原画	どんぐり民話館(新潮文庫)	神殿	1992.12	新潮社	
書籍	どんぐり民話館(新潮文庫)		1992.12	新潮社	愛媛県立図書館蔵
原画	これからの出来事(新潮文庫)	(カバー表紙)			
原画	これからの出来事(新潮文庫)	(カバー表紙部分)			
原画	これからの出来事(新潮文庫)	ひとつのドア			
原画	これからの出来事(新潮文庫)	ある古風な物語			
原画	これからの出来事(新潮文庫)	安全な生活			
原画	これからの出来事(新潮文庫)	これからの出来事			

原画	これからの出来事(新潮文庫)	会議のパターン			
原画	これからの出来事(新潮文庫)	満開の季節			
原画	これからの出来事(新潮文庫)	小さなバーの会話			
書籍	これからの出来事(新潮文庫)				愛媛県立図書館蔵
原画	つねならぬ話(新潮文庫)	(カバー表紙)	1994.7	新潮社	
原画	つねならぬ話(新潮文庫)	風の神話	1994.7	新潮社	
原画	つねならぬ話(新潮文庫)	やじうま神話	1994.7	新潮社	
原画	つねならぬ話(新潮文庫)	旅情	1994.7	新潮社	
原画	つねならぬ話(新潮文庫)	海の若大将	1994.7	新潮社	
原画	つねならぬ話(新潮文庫)	夢20夜 ネズミ(第15夜)	1994.7	新潮社	
原画	つねならぬ話(新潮文庫)	川	1994.7	新潮社	
書籍	つねならぬ話(新潮文庫)		1994.7	新潮社	愛媛県立図書館蔵
原画	星新一の作品集10 マイ国家、ひとにぎりの未来[愛蔵版]		1975.3	新潮社	愛媛県立図書館蔵
原画	星新一の作品集11 おみそれ社会、だれかさんの悪夢[愛蔵版]		1975.4	新潮社	愛媛県立図書館蔵
原画	星新一の作品集1 ボッコちゃん、ようこそ地球さん[愛蔵版]		1974.6	新潮社	愛媛県立図書館蔵
原画	星新一の作品集2 悪魔のいる天国、宇宙のあいさつ[愛蔵版]		1974.7	新潮社	愛媛県立図書館蔵
書籍	星新一の作品集[全18巻/愛蔵版]		1974.6- 1975.11	新潮社	愛媛県立図書館蔵
原画	きまぐれフレンドシップPART1(新潮文庫)		1980	新潮社	
書籍	きまぐれフレンドシップPART1(新潮文庫)		1980	新潮社	愛媛県立図書館蔵
原画	きまぐれフレンドシップPART2(新潮文庫)		1988	新潮社	愛媛県立図書館蔵
書籍	きまぐれフレンドシップPART2(新潮文庫)		1988	新潮社	愛媛県立図書館蔵
原画	きまぐれ体験旅行(講談社文庫)		1981.6	講談社	
書籍	きまぐれ体験旅行(講談社文庫)		1981.6	講談社	愛媛県立図書館蔵
原画	きまぐれ暦(新潮文庫)		1979.9	講談社	
書籍	きまぐれ暦(新潮文庫)		1979.9	講談社	愛媛県立図書館蔵
原画	真鍋博のプラネタリウム 星新一の挿絵たち(新潮文庫)		1983.10.	新潮社	
書籍	真鍋博のプラネタリウム 星新一の挿絵たち(新潮文庫)		1983.10.	新潮社	愛媛県立図書館蔵
原画	星新一の1001編 読んでみようかな読みなおそうかな			新潮社	
原画	星新一の1001編フェア			新潮社	

平成30年6月26日～8月19日
武智光春コレクション 福田平八郎 夏の風物

作家名	作品名	制作年	材質・形状	寸法(cm)	備考
福田平八郎	南瓜天津桃	昭和32年	紙本着色	35.6×52.5	野間仁根旧蔵
福田平八郎	鯉(丹頂)	昭和38年	紙本着色	77.3×52.1	
福田平八郎	青楓大瑠璃	昭和40年	紙本着色	45.6×33.4	
福田平八郎	蛸	昭和43年	紙本着色	40.9×53.0	
福田平八郎	水蜜桃	昭和43年	紙本着色	39.5×53.0	

平成30年6月26日～8月19日
海外の美術：キラキラとピカピカ

作家名	作品名	制作年	材質・形状	寸法(cm)	備考
ジャン=バティスト=カミーユ=コロー	ヴィル=ダヴレー 白樺のある池	1855-60年頃	油彩・画布	49.0×73.0	
ウジェーヌ=ルイ=ブーダン	プレスト、停泊地	1872年	油彩・画布	55.2×89.5	
クロード=モネ	アンティーブ岬	1888年	油彩・画布	65.0×92.0	
ジョルジュ=マンザナ=ピサロ	孔雀		ポショワール・紙	33.4×50.5	
アルフォンス=ミュシャ	『ロレンザッチオ』のポスター	1896年	リトグラフ・紙	206.8×76.5	
アンドレ=ロート	マルグリットの肖像	1913年	油彩・画布	164.0×86.0	
オシップ=ザッキン	恋人達 または、2つのトルソの親密性	1957-59年 (1998年鑄造)	ブロンズ(光沢 仕上げ)	126.0×64.0 ×33.0	

平成30年10月30日～12月3日

武智光春コレクション 福田平八郎 秋・初冬の風物

作家名	作品名	制作年	材質・形状	寸法(cm)	備考
福田平八郎	喜雀	昭和38年	紙本着色	36.5×27.3	
福田平八郎	鶯(雪中)	昭和26年	紙本着色	31.4×41.0	
福田平八郎	鴛鴦	昭和40年	紙本着色	65.0×97.0	
福田平八郎	初雪	昭和41年	紙本着色	41.5×55.5	
福田平八郎	釣白画像	昭和11年	紙本着色	16.7×52.4	

平成30年10月30日～12月3日

海外の美術：人と交通

作家名	作品名	制作年	材質・形状	寸法(cm)	備考
エミール＝アントワヌ・ブールデル	高貴な重荷	1910年	ブロンズ	83.5×23.6×28.0	
ジャン＝バティスト＝カミーユ・コロドー	ヴィル＝ダヴレー 白樺のある池	1855-60年頃	油彩・画布	49.0×73.0	
ウジェーヌ＝ルイ・ブーダン	プレスト、停泊地	1872年	油彩・画布	55.2×89.5	
クロード・モネ	アンティーブ岬	1888年	油彩・画布	65.0×92.0	
オディロン＝ルドン	アポロンの馬車	1907-08年	油彩・画布	100.3×81.2	

○ 常設展示室 1

平成30年 4月21日～6月17日

守一から野間仁根へ

作家名	作品名	制作年	材質・形状	寸法(cm)	備考
熊谷守一	桃	昭和16年(1941)	油彩・板	23.8×32.9	野間仁根旧蔵
野間仁根	虫と猫	昭和13年(1938)	油彩・画布	61.0×73.0	
野間仁根	庭のテーブル	昭和2年(1927)	油彩・画布	94.0×116.8	
野間仁根	肖像	昭和3年(1928)	油彩・画布	116.7×91.0	
野間仁根	夜の床	昭和3年(1928)	油彩・画布	195.0×130.5	
野間仁根	ぜ・ふるむうん	昭和4年(1929)	油彩・画布	205.0×153.0	
野間仁根	夏の夜の戯れ	昭和7年(1932)	油彩・画布	204.7×150.0	
野間仁根	画室	昭和8年(1933)	油彩・画布	162.0×130.3	
野間仁根	魔法の森	昭和9年(1934)	油彩・画布	130.5×194.0	
野間仁根	静物	大正13年(1924)	油彩・画布	112.2×145.3	
野間仁根	昆虫	昭和29年(1954)	油彩・画布	61.0×73.0	
野間仁根	田舎の家族	昭和26年(1951)	油彩・画布	90.8×116.5	
野間仁根	迷宮物語	昭和20年(1945)	油彩・画布	130.2×161.9	
野間仁根	星座アンドロメダ	昭和30年(1955)	油彩・画布	116.3×91.0	
野間仁根	来島水道	昭和40年(1965)	油彩・画布	97.5×130.0	
野間仁根	来島水道仲渡島附近	昭和42年(1967)	油彩・画布	72.7×91.0	
野間仁根	森の樂人	昭和54年(1979)	油彩・画布	72.7×90.9	
野間仁根	仁右衛門島(釣魚)	昭和38年(1963)	鉛筆・紙	37.8×52.4	
野間仁根	長野市信濃美術館	昭和43年(1968)	鉛筆・紙	37.8×53.7	
野間仁根	中出島外海	昭和37年(1962)	コンテ・紙	52.6×37.8	
野間仁根	葡萄と栗鼠		紙本着色・軸	34.3×55.0	

平成30年 9月8日～10月14日

文学と美術

作家名	作品名	制作年	材質・形状	寸法(cm)	備考
天野方壺	西園雅集図	明治15年(1882)	絹本着色・軸	149.2×56.0	
松林桂月	暗香浮動図	昭和28年(1953)	絹本墨画淡彩・軸	68.8×86.0	
池田遙邨	まっすぐな道でさみしい山頭火	昭和63年(1988)	紙本着色・額	90.2×64.5	
土佐光起	柿本人麻呂像	江戸時代前期	絹本着色・軸	40.8×80.6	
	十二類絵巻	江戸時代中期	紙本着色・卷子		寄託作品
物外不遷	鬼白画賛	江戸時代後期	紙本墨画・軸	116.5×25.0	
物外不遷	柳白画賛	江戸時代後期	紙本墨画・軸	91.4×25.4	
川端龍子	荒海	昭和28年(1953)	絹本着色・額	131.0×72.0	
遠藤広実	吉野・龍田図	安政3年(1856)	絹本着色・軸	各95.5×30.2	
	中国故事かるた	江戸時代後期	紙本着色 (100点組)	各7.5×4.2	
遠藤広実	拾得図	江戸時代後期	紙本墨画淡彩・軸	128.5×43.0	

長谷川竹友	寒山拾得		絹本着色・軸	114.0×40.5	
狩野種次	廿四孝図貼交屏風	江戸時代	紙本墨画淡彩・六曲屏風一雙		寄託作品
	大織冠図屏風	江戸時代	紙本着色・六曲屏風一雙		寄託作品
安田靉彦	古事記	昭和21年(1946)	紙本着色・軸	44.0×59.5	
杉浦非水ほか	装丁本				

平成31年1月4日～2月11日
愛媛県指定有形文化財《弘法大師像》修理完了記念特別公開

指 定	作 品 名	制 作 年	材 質・形 状	所 蔵
愛媛県指定有形文化財	弘法大師像	鎌倉時代	絹本着色・軸	愛媛・太山寺蔵
	『弘法大師行状記』	天保5年(1834)刊	版本	愛媛県歴史文化博物館蔵
	『四国徧禮道指南増補大成』	江戸時代	版本	愛媛県歴史文化博物館蔵
	『中国四国名所旧跡図』	江戸時代	紙本着色	愛媛県歴史文化博物館蔵
	『四国霊場豫洲太山寺全図』	明治30年(1897)	木版・紙	愛媛県歴史文化博物館蔵
	納経帳	寛政10年(1798)	紙本墨書	愛媛県歴史文化博物館蔵
	納経帳	明治40年(1907)	紙本墨書	愛媛県歴史文化博物館蔵
	遍路宿井筒屋関係資料	江戸～明治時代		愛媛県歴史文化博物館蔵
	四国徧礼絵図(細田周英)	宝暦13年(1744)	木版・紙	愛媛県歴史文化博物館蔵
	[四国へんろ絵図]	江戸時代	木版・紙	愛媛県歴史文化博物館蔵
	四国遍路道中図	大正6年(1917)	木版・紙	愛媛県歴史文化博物館蔵
	『四国霊蹟写真大観』	昭和9年(1934)	写真集	愛媛県歴史文化博物館蔵

平成31年1月4日～4月14日
水面・水流－日本絵画における水の表現

作 家 名	作 品 名	制 作 年	材 質・形 状	寸 法(cm)	備 考
山元春挙	春の海	昭和3年(1928)	絹本着色・六曲屏風一雙	162.5×357.2	
前田青邨	鯉 三題	昭和25年(1950)	紙本墨画・額三面	(各)75.0×89.8	
浜田観	流映	昭和32年(1957)	紙本着色・額	110.0×129.1	
高橋周桑	水路		紙本着色・額		寄託作品
佐藤太清	昏	昭和49年(1974)	紙本着色・額	155.0×221.0	
池田遙邨	堰	昭和54年(1979)	紙本着色・額	162.0×112.0	
矢野鉄山	朝の海	昭和52年(1982)	紙本墨画金彩・額	115.0×180.0	
中島健太	匿名の地平線—ver.blue—	平成27年(2015)	紙本着色・額		寄託作品
岩田壮平	花の形	平成29年(2017)	絹本着色・六曲屏風一隻		寄託作品
岩田壮平	六々魚	平成30年(2018)	絹本着色・六曲屏風一隻		寄託作品
天野方壺	四季花画帖	明治13年(1880)	絹本着色・画帖	(各)21.6×19.2	2月13日～4月14日展示
天野方壺	画帖		絹本着色・画帖		2月13日～4月14日展示 ／寄託作品
武田耕雪	面河溪図	昭和2年(1927)	絹本着色・画帖	28.4×42.0	2月13日～4月14日展示
武田耕雪	溪流図屏風		絹本着色・二曲屏風一隻		2月13日～4月14日展示 ／寄託作品

○ 常設展示室2
平成30年9月8日～10月14日
コレクション・収集の愉しみ

作 家 名	作 品 名	制 作 年	材 質・形 状	寸 法(cm)	備 考
	[ベルコレクション]				真鍋博旧蔵
	[自転車]				真鍋博旧蔵
真鍋 博	原画『自転車讃歌』より	昭和48年(1973)			
	[杉浦非水コレクション]				杉浦非水旧蔵
藤田嗣治	自画像	昭和4年(1929)	墨・絹	46.0×59.5	杉浦非水旧蔵
藤田嗣治	犬	大正12年(1923)	鉛筆・紙	23.7×26.7	杉浦非水旧蔵
松山省三	プランタンの卓	大正2年(1913)	油彩・板	33.5×22.8	杉浦非水旧蔵

遠藤広実	源氏物語図	弘化元-2年(1844-45)	絹本着色・軸双幅	各90.0×32.0	下村観山旧蔵
熊谷守一	桃	昭和16年(1941)	油彩・板	23.8×32.9	野間仁根旧蔵
柳瀬正夢	早朝の甲斐駒	昭和11年(1936)	油彩・画布	31.0×40.0	洲之内徹旧蔵
柳瀬正夢	Kの像	昭和9年(1934)	油彩・画布	45.6×38.2	小林勇旧蔵
柳瀬正夢	人形(お使い)	1930年代	油彩・板	18.0×13.0	小林勇旧蔵
柳瀬正夢	魚		油彩・板	9.5×8.0	小林勇旧蔵
畦地梅太郎	山のぬくもり	昭和53年(1978)	多色木版・紙	19.6×21.2	
畦地梅太郎	代々木の街	昭和4年(1929)頃	多色木版・紙	31.0×43.0	
畦地梅太郎	宇和島城(鶴島城)『創作版画 伊予風景』より	昭和11年(1936)頃	多色木版・紙	26.5×36.0	
畦地梅太郎	石鎚霊峰 『創作版画 伊予風景』より	昭和11年(1936)頃	多色木版・紙	27.5×36.0	
畦地梅太郎	伊予観自在寺	昭和13年(1938)頃	多色木版・紙	22.5×29.4	
畦地梅太郎	白い像	昭和38年(1953)	多色木版・紙	70.0×44.9	
畦地梅太郎	棧橋 『八幡浜風景』より	昭和13年(1938)	多色木版・紙	14.9×22.3	
畦地梅太郎	新町(大通) 『八幡浜風景』より	昭和13年(1938)	多色木版・紙	15.0×23.0	
相笠昌義	舞妓図		油彩・画布	61.0×91.0	寺田コレクション
吉岡正人	夢待人	平成5年(1993)	油彩・画布	55.0×35.0	寺田コレクション
吉岡正人	浅き夢	平成5年(1993)	テンペラ、油彩・画布	50.0×91.0	寺田コレクション
智内兄助	春挽糸	昭和62年(1987)	鉛筆、油性インク、布、和紙・板	164.0×182.0	寺田コレクション
落田洋子	眠る砂	平成11年(1999)	油彩・画布	51.0×44.0	寺田コレクション
落田洋子	像の朝	平成11年(1999)	油彩・画布	53.0×53.0	寺田コレクション
落田洋子	月の水	平成11年(1999)	油彩・画布	53.0×53.0	寺田コレクション

平成30年9月8日～10月14日

武智光春コレクション 福田平八郎 秋の風物

作家名	作品名	制作年	材質・形状	寸法(cm)	備考
福田平八郎	茄子	昭和29年	紙本着色	37.0×51.6	
福田平八郎	清秋	昭和38年	紙本着色	36.0×53.0	
福田平八郎	林檎	昭和41年	紙本着色	44.7×43.1	
福田平八郎	爽秋	昭和42年	紙本着色	36.5×32.5	
福田平八郎	鯉	昭和43年	紙本着色	48.3×60.3	

平成30年9月8日～10月14日

海外の美術：生物の性差

作家名	作品名	制作年	材質・形状	寸法(cm)	備考
オンシップ・ザッキン	恋人達 または、2つのトルソの親密性	1957-59年 (1998年鑄造)	ブロンズ(光沢仕上げ)	126.0×64.0 ×33.0	
マックス・ペヒシュタイン	水浴する人々	1911年頃	木版、水彩・紙	20.5×23.5	
マックス・ペヒシュタイン	祭日の焼肉を射る	1911年	木版、水彩・紙	24.1×29.5	
ジョルジュ・マンザナ=ピサロ	孔雀		ポショワール・紙	33.4×50.5	
アルフォンス・ミュシャ	『ロレンザッチオ』のポスター	1896年	リトグラフ・紙	206.8×76.5	
アルフォンス・ミュシャ	『メディア』のポスター	1898年	リトグラフ・紙	207.4×77.1	
アルフォンス・ミュシャ	『ハムレット』のポスター	1899年	リトグラフ・紙	206.4×76.2	

平成31年1月4日～4月14日

手のアト

作家名	作品名	制作年	材質・形状	寸法(cm)	備考
村上華岳	雪解の庭	大正7年(1918)	絹本着色・軸	43.6×50.8	
物外不僊	人物画賛	江戸時代後期	紙本墨画墨書・軸	94.0×29.5	
河東碧梧桐	俳句 絵馬を見て…		紙本墨書・軸	134.5×32.0	
吉田蔵沢	風竹	江戸時代中期	紙本墨画・軸	133.0×54.5	
吉田蔵沢	墨竹図屏風	江戸時代中期	紙本墨画・六曲屏風一双	各図134.0× 51.5	
柳瀬正夢	川と橋	大正10年(1921)	油彩・板	24.0×33.0	
柳瀬正夢	山と家	大正5年(1916)	油彩・板	23.9×33.2	
野間仁根	瀬戸内海		油彩・画布	24.2×33.4	
メダルド・ロッソ	門番の女	1883年	石膏・蜜蝋	39.0×34.0×19.0	
馬越舛太郎	風景	昭和38年	油彩・画布	33.3×45.5	

里見勝蔵	和服の女	昭和5年(1930)	油彩・画布	65.5×53.2	
李禹煥	突きより	昭和48年(1973)	紙・パネル	70.0×60.0	
李禹煥	刻みより	昭和47年(1972)	木板・パネル	72.5×59.0×3.8	
中西夏之	たとえば波打ち際にてⅡ	昭和60年(1985)	油彩・画布	277.0×162.0	
古茂田公雄	炭坑夫(出坑)原版	昭和15-16年(1940-41)	ガラス・スクラッチング銅版	61.0×72.5	
古茂田公雄	炭坑夫(出坑)	昭和15-16年(1940-41)	スクラッチング・紙	54.8×72.7	
古茂田公雄	落ち武者	昭和22-24年(1947-49)	スクラッチング・紙	30.5×25.0	
畦地梅太郎	版木				個人蔵
畦地梅太郎	畑の中の家	大正15年(1926)	鉛凸版・紙	21.6×29.4	
畦地梅太郎	雪をかぶった木	昭和4年(1929)頃	多色木版・紙	14.0×19.1	
畦地梅太郎	早春夜 『版』第3号より	昭和3年(1928)	多色木版・紙	11.4×15.5	
畦地梅太郎	九州の海岸		エッチング・紙	9.0×12.0	
畦地梅太郎	山小屋の冬	昭和55年(1980)	多色木版・紙	38.9×29.0	
畦地梅太郎	ぬくもり	昭和50年(1975)	多色木版・紙	40.8×30.0	
菊沢尋吉	ビーナス	昭和58年(1983)	木版・紙	78.0×52.7	
菊沢尋吉	海をいだく	昭和58年(1983)	木版・紙	55.0×91.0	
菊沢尋吉	海一空間	昭和41年(1966)	木版・紙	82.5×44.0	

平成31年1月4日～4月14日
武智光春コレクション 福田平八郎—冬の風物

作家名	作品名	制作年	材質・形状	寸法(cm)	備考
福田平八郎	雪庭	昭和30年(1955)	紙本着色	40.7×52.4	
福田平八郎	松竹梅	昭和41年(1966)	紙本着色	45.2×66.4	
福田平八郎	白梅目白	昭和43年(1968)	紙本着色	29.3×39.3	
福田平八郎	春霞	昭和45年(1970)	紙本着色	34.5×45.6	
福田平八郎	春に匂ふ	昭和45年(1970)	紙本着色	36.5×43.5	

平成31年1月4日～4月14日
海外の美術：水を巡る旅

作家名	作品名	制作年	材質・形状	寸法(cm)
ジャン＝バティスト＝カミーユ＝コロー	ヴイル＝ダヴレー 白樺のある池	1855-60年頃	油彩・画布	49.0×73.0
ポール＝セザンヌ	水の反映	1888-90年頃	油彩・画布	65.0×92.0
マックス＝ペヒシュタイン	水浴する人々	1911年頃	木版、水彩・紙	20.5×23.5
マックス＝ペヒシュタイン	祭日の焼肉を射る	1911年	木版、水彩・紙	24.1×29.5
レオ＝スベンブ	日の照る河	1974年	油彩・画布	100.0×111.2
ウジェーヌ＝ルイ＝ブーダン	プレスト、停泊地	1872年	油彩・画布	55.2×89.5
ギュスターヴ＝クールベ	波	1869年	油彩・画布	49.0×73.0

○ 常設展示室3

平成30年2月3日～4月15日
線と面と空間と—やさしい世界の描き方

作家名	作品名	制作年	材質・形状	寸法(cm)	備考
山口華楊	飛んで来た目白	昭和56年(1981)	紙本淡彩・額	24.5×35.0	
野間仁根	はまゆう	昭和38年(1963)頃	コンテ・紙	72.3×45.3	
野間仁根	浜木綿	昭和38年(1963)	油彩・画布	72.5×53.0	
古茂田公雄	マフラーの少女	昭和14-15年(1939-40)	スクラッチング・印画紙	25.9×22.0	
井上正夫	藤図		紙本着色・額	31.7×33.5	
田窪恭治	ドローイング3	平成6年(1994)	顔料・紙	70.3×103.0	
吉田勝彦	小さな波止場	昭和60年(1985)	ビュラン・紙	29.5×36.0	
吉田勝彦	死の森(木下闇) 銅版画集『森』より	昭和63年(1988)	エッチング・紙	37.4×51.0	
上田勇一	ドライブラワー	平成20年(2008)	シルバーポイント・板	30.0×72.8	
真鍋武	連鎖 — そこにあるもの —	平成19-22年(2007-2010)	鉛筆、インク、墨、水彩・ファイルホルダー／鉄		
難波田龍起	コンポジション(青)A	昭和42年(1967)	油彩・画布	116.3×81.3	
木下恵介	陽炎-水影-2	平成7年(1995)	エッチング、アクアチント、スピットバイト、リトグラフ、凹凸版刷り・紙	91.3×62.9	

木下恵介	CALM-3	平成7年(1995)	エッチング、アクアチント、スピット バイト、凹凸版刷り・紙	91.8×62.8	
木下恵介	CALM-5	平成7年(1995)	エッチング、アクアチント、スピット バイト、凹凸版刷り・紙	91.3×63.0	
木下恵介	Marks-Lines-5.0.3	平成11年(1999)	リフトグラウンド、アクアチント、凹凸 刷り・紙	91.0×63.0	
オノサトシノ ブ	SILK-76	昭和51年(1976)	シルクスクリーン・紙	52.0×58.0	寺田コレク ション
山田正亮	Work F.140	平成4年(1992)	油彩・画布	259.0×388.0	
荒川修作	Beneath Untitled	昭和60-61年 (1985-86)	油彩、アクリル・画布、彩色された 額	217.0×156.0	
山口勝弘	ヴェイリーヌ 空中の花	昭和30年(1955)	合成樹脂絵具・紙・木版	59.0×50.0×10.0	
井川惺亮	Peinture(絵画)	平成13年(2001)	アクリル・紙(3点)	各約30.0×380.0	

平成30年4月21日～6月24日
小さきもの 庭の宇宙

作家名	作品名	制作年	材質・形状	寸法(cm)	備考
靨島伸彦	Me-4	平成13年(2001)	アクリル、顔料・画布	33.5×33.5	寺田コレク ション
靨島伸彦	Birds	平成13年(2001)	アクリル、顔料・画布	31.8×41.0	寺田コレク ション
靨島伸彦	In darkness	平成15年(2003)	アクリル、顔料・画布	33.0×24.0	寺田コレク ション
畦地梅太郎	てっせん	昭和26年(1951)	木版・紙	32.0×23.9	
畦地梅太郎	くろゆり	昭和29年(1954)	木版・紙	35.7×25.8	
松本秀一	百合の蕾 (版画集「光が生まれる刻に」より)	平成4年(1992)	メゾチント・紙	9.5×26.5	
松本秀一	蠨螂I(版画集「光が生まれる刻に」より)	平成5年(1993)	メゾチント・紙	13.3×22.0	
松本秀一	蠨螂II(版画集「光が生まれる刻に」より)	平成6年(1994)	メゾチント・紙	14.6×25.4	
榎崎洙雀	白猫		絹本着色・軸	58.0×66.0	
川上拙以	菊	昭和51年(1976)	絹本着色・軸	42.0×50.5	
下村為山	為山俳画帳	明治25-26年 (1892-93)頃	紙本墨画・画帖	31.2×45.0 (画帖)	
杉浦非水	雨	昭和40年(1965)	絹本着色・額	43.0×51.0	
橋本興家	昼寝	昭和61年(1986)	木版・紙	53.7×42.3	
真鍋博	蝶	昭和31年(1956)	水彩・紙	27.1×39.0	
真鍋博	昆虫	昭和31年(1956)	油彩・画布	33.3×45.5	
近藤英樹	blooming/ボウシ	平成22年(2010)	リトグラフ・紙	各69.0×92.0	
石崎重利	牡丹	昭和12年(1937)	木版・紙	31.5×41.6	

平成30年4月21日～6月24日
武智光春コレクション 福田平八郎—初夏の風物

作家名	作品名	制作年	材質・形状	寸法(cm)	備考
福田平八郎	鮎(静物)	昭和36年(1961)	紙本着色・額	40.7×59.0	
福田平八郎	花菖蒲	昭和38年(1963)	紙本着色・額	45.6×36.5	
福田平八郎	筍	昭和40年(1965)	紙本着色・額	46.0×37.1	
福田平八郎	初夏	昭和40年(1965)	紙本着色・額	38.0×46.0	
福田平八郎	竹鷄	昭和41年(1966)	紙本着色・額	27.8×37.0	
福田平八郎	雉	昭和44年(1969)	紙本着色・額	75.7×44.0	

平成30年4月21日～6月24日
海外の美術：生と死

作家名	作品名	制作年	材質・形状	寸法(cm)
ヴァシリー・カンディンスキー	生き生きとした白	1934年	油彩・画布	60.0×73.0
ピエール・ボナール	アンドレ・ボナール嬢の肖像 画家の妹	1890年	油彩・画布	188.0×80.0
アルフォンス・ミュシャ	『メディア』のポスター	1898年	リトグラフ・紙	207.4×77.1
アルフォンス・ミュシャ	『ハムレット』のポスター	1899年	リトグラフ・紙	206.4×76.2

平成30年9月8日～10月14日

俳優・井上正夫の書画

作家名	作品名	制作年	材質・形状	寸法(cm)
井上正夫	自画像		紙本着色・額	28.4×42.5
井上正夫	筆図		紙本着色・額	24.0×33.8
井上正夫	案山子図		紙本淡彩・額	29.7×75.7
井上正夫	人物図(見よふと…)		紙本淡彩・額	24.3×33.6
井上正夫	川上音二郎図	昭和13年(1938)	紙本淡彩・額	27.2×24.3
井上正夫	役者図		紙本淡彩・額	33.0×24.0
井上正夫	猛者待機之図		紙本淡彩・額	25.0×35.3
井上正夫	猛者待機之図		紙本淡彩・額	24.5×45.0
井上正夫	奴図		紙本着色・額	45.0×24.5
井上正夫	藤娘図		紙本着色・額	45.0×24.5
井上正夫	燭台図		紙本淡彩・額	34.2×45.8
井上正夫	日々是好日		紙本着色・額	31.0×42.5
井上正夫	甚七老人の勇姿		紙本着色・額	26.5×23.5
井上正夫	ぶんぶく茶釜図	昭和24年(1949)	紙本淡彩・額	24.8×44.8
井上正夫	西瓜畑図	昭和16年(1941)	紙本淡彩・軸	29.5×40.5
井上正夫	鱈図		紙本着色・軸	18.3×51.0
井上正夫	溪流釣図		紙本淡彩・額	26.5×23.5
井上正夫	木瓜図	昭和11年(1936)	紙本着色・額	24.5×34.4
井上正夫	葱図	昭和15年(1940)	紙本淡彩・額	23.7×33.5
井上正夫	蔬菜図		紙本着色・額	24.5×45.0
井上正夫	鉢図		紙本着色・額	22.1×30.5
井上正夫	果実図		紙本淡彩・額	24.8×34.5
井上正夫	果実図		紙本着色・額	22.1×30.5
井上正夫	芍薬図		紙本着色・額	24.8×34.5
井上正夫	寒梅図		紙本淡彩・額	45.0×55.0
井上正夫	鹿図		紙本着色・額	21.5×43.0
井上正夫	柿図	昭和15年(1940)	紙本着色・額	22.5×50.0
井上正夫	山水図		紙本着色・額	18.5×52.5
井上正夫	凹窓山水図		紙本着色・額	24.8×34.5
井上正夫	富士之図	昭和初期	紙本着色・額	50.0×114.0

2 企画展示・共催展示・特別展示

企画展示一覧

場所	展覧会名	会期
新館	開館20周年記念・没後40年 熊谷守一 生きるよろこび	平成30年4月14日(土)～6月17日(日)
	坊っちゃん展 祖父江慎・梅佳代・浅田政志・三沢厚彦	平成30年6月30日(土)～9月2日(日)
	巨匠が愛した美の世界 川端康成と東山魁夷	平成30年9月1日(土)～10月21日(日)
	石本藤雄展 マリメッコの花から陶の実へ	平成30年10月27日(土)～12月16日(日)
	印象派への旅 海運王の夢 バレル・コレクション	平成30年12月19日(水)～平成31年3月24日(日)

共催展示一覧

場所	展覧会名	会期
新館	MINIATURE LIFE展 田中達也 見立ての世界	平成31年3月16日(土)～4月7日(日)

特別展示一覧

場所	展覧会名	会期
新館	開館20周年コレクション特別展Ⅰ 生誕100年 古茂田守介 イキル、カク	平成30年10月20日(土)～12月24日(月・振休)
	開館20周年コレクション特別展Ⅱ コレクションが語る20年 これまで、そしてこれから	平成30年10月30日(火)～12月3日(月)

開館 20 周年記念・没後 40 年 熊谷守一 生きるよろこび展

- 会 期：**平成 30 年 4 月 14 日（土）— 6 月 17 日（日）（56 日間）
主 催：「熊谷守一展」実行委員会（愛媛県、愛媛新聞社）、日本経済新聞社
愛媛展特別協賛：大一ガス株式会社
協 賛：大日本印刷
出品協力：愛知県美術館、岐阜県美術館、熊谷守一つけち記念館、天童市美術館
特別協力：柳ヶ瀬画廊
後 援：松山市、松山市教育委員会、愛媛県市町教育委員会連合会、（公財）愛媛県教育会、愛媛県教育研究協議会、愛媛県小中学校長会、愛媛県 P T A 連合会、愛媛県老人福祉施設協議会、愛媛県美術会、愛媛美術教育連盟、愛媛県文化協会、（公財）愛媛県文化振興財団、南海放送、テレビ愛媛、愛媛朝日テレビ、あいテレビ、愛媛 CATV、FM 愛媛
会 場：愛媛県美術館 企画展示室 1・2、常設展示室 2

趣 旨

熊谷守一（1880-1977）は、「モリカズ様式」と呼ばれる、あかるい色面とはっきりとした輪郭線から成る独自の画風で知られる画家である。とりわけ身近な動植物をモチーフとして描いた作品により、現在も老若男女を問わず多くのファンを獲得している。

熊谷は、現在の岐阜県中津川市付知町に生まれた。1897年に上京し、東京美術学校（現・東京藝術大学）で、黒田清輝らに学び、同校を卒業後、1909年に第3回文展で自画像《蠟燭》を描いて褒章を受けるが、翌年に帰郷し、しばらく制作から距離をおく。1915年に再び上京した熊谷は、二科会を拠点に活動するようになった。しかし、亡き父の負債と極端な寡作ゆえに生活は困窮し、やがて三人の子どもを失うことになる。戦中戦後から徐々に「モリカズ様式」を髣髴させる赤い輪郭線や色づかいが見られるようになり、画家仲間やコレクターの助けによって生活も画業も安定していった。病気で外出が困難になってからは、より身近な動植物に目を向け、97歳で亡くなるまで制作を続けた。

本展は、東京会場（東京国立近代美術館）に続き、西日本では愛媛でのみ開催された。また、180点を超える熊谷作品が一堂に会する、四国初の機会ともなった。最新の研究成果を踏まえて開催される本展により、類いまれな眼をもつ熊谷がその手により表現した唯一無二の世界に深く触れる機会となった。

観覧者数：13,254名

関連行事

記念講演会

- 日 時：**4月14日（土） 14：00～15：00
講 師：蔵屋美香（本展企画者、東京国立近代美術館企画課長）
場 所：愛媛県美術館 講堂
参加人数：120名

学芸員とトコトンみる会

- 日 時：**[みんな向き] 4月28日（土）、6月9日（土）
[こども向き] 5月5日（土・祝） 各日14：00～15：00
講 師：喜安嶺（当館学芸員）
場 所：愛媛県美術館 企画展示室、常設展示室 2
参加人数：延76名

土曜講座「モリカズと生きる」

日 時：①「熊谷守一、97歳」5月26日（土） 14：00～15：00
②「《桃》にみる：熊谷守一と野間仁根」6月16日（土） 14：00～15：00

講 師：喜安嶺（当館学芸員）

場 所：愛媛県美術館 ハイビジョンギャラリー

参加人数：延79名

ワークショップ「たいけんモリのまなざし」

日 時：4月28日（土）、29（日・祝）、30日（月・振休）、
5月3日（木・祝）、4日（金）、5日（土・祝）
各日14：00～15：30

講 師：石崎三佳子、田代亜矢子（当館専門学芸員）

協 力：ぺんてる株式会社

場 所：愛媛県美術館 特別展示室

参加人数：延199名

モリ [森] のお茶会

日 時：4月28日（土）、29（日・祝）、30日（月・振休）、
5月3日（木・祝）、4日（金）、5日（土・祝）、6日（日）
各日10：00～15：00

担 当：表千家同門会愛媛県支部、茶道裏千家淡交会松山支部

場 所：愛媛県美術館 南館地階前庭

参加人数：延1,964名

対話型鑑賞プログラム「モリをみる、話す、考える」

※詳細は教育普及事業報告を参照。

没後40年

熊谷守一

生きるよろこび

開館20周年記念
展覧会特設サイト
<http://morigazai2017.cahm.jp/>



KUMAGAI MORIKAZU
THE JOY OF LIFE

2018年4月14日①
—6月17日②

開館時間＝9時40分～18時 入場は17時30分まで
休館日＝4月14日、23日、5月1日、11日、21日、29日、31日、6月1日、15日、21日、29日、31日

主催＝熊谷守一実行委員会（愛媛県、愛媛新聞社）、
日本経済新聞社
協賛＝大日本印刷
愛媛県特別協賛＝六〇一
公益協賛＝愛媛県美術館、愛媛県美術館
熊谷守一ついで記念館、天来寺美術館
特別協力＝松山商工会議所
後援＝松山市、松山青年会議所、
愛媛県青年会議所連合会、〔公財〕愛媛県教育会、
愛媛県教育研究協議会、愛媛県小中学校長会、
愛媛県庁外展協会、愛媛県成人協会の協賛会、
愛媛県美術館、愛媛県教育委員会、愛媛県文化協会、
〔公財〕愛媛県文化振興財団、熊谷放送、テレビ愛媛、
あいテレビ、愛媛朝日テレビ、愛媛CATV、FM愛媛



 愛媛県美術館

〒790-0007 愛媛県松山市城之内
Tel. 089-802-0010 Fax. 089-802-0811
<http://www.ehime-art.jp/>

出品目録

※東京展のみ出品の作品は欠番。

※展示期間は前期：4月14日- 5月13日／後期：5月15日- 6月17日

No.	作品名	制作年	技法	寸法 (縦×横/cm)	所蔵者	展示期間
1	腰かけた女	1903年	油彩・キャンバス	43.0×33.7	岐阜県美術館	
2	自画像	1904年	油彩・キャンバス	60.8×45.7	東京藝術大学	
3	半裸婦	1904年	油彩・板	32.0×23.0	東京国立近代美術館	
4	横向裸婦	1904年	油彩・板	33.0×23.0	天童市美術館 村山コレクション	
5	婦人半身像	1905年	油彩・キャンバス	45.6×33.3	岐阜県美術館	
6	轢死	1908年	油彩・キャンバス	88.0×106.0	岐阜県美術館	
7	蠟燭(ローソク)	1909年	油彩・キャンバス	60.7×45.5	岐阜県美術館	
8	ランプ	1910年頃	油彩・キャンバス	45.5×33.5	個人蔵	
9	父の像	1910-15年	油彩・キャンバス	44.0×37.0	岐阜市	
11	母の像	1905年頃	油彩・キャンバス	45.5×33.3	岐阜県美術館	
12	赤城の雪	1916年	油彩・キャンバス	24.5×33.8	岐阜県美術館	
14	ポプラ並木	1919年	油彩・板	24.0×18.8	天童市美術館 村山コレクション	
15	松林	1920-30年	油彩・キャンバス	53.2×45.0	公益財団法人 熊谷守一つけち記念館	
16	向日葵と女	1924年	油彩・板	31.8×23.7	公益財団法人 熊谷守一つけち記念館	
17	松	1925年	油彩・板	30.5×22.0	東京国立近代美術館	
20	線裸	1927年	油彩・板	23.2×32.8	愛知県美術館 木村定三コレクション	
21	ひまわり	1928年	油彩・キャンバス	45.7×38.0	個人蔵	
22	松林	1928年	油彩・キャンバス	45.2×38.0	岐阜県美術館	
24	裸婦	1929年	油彩・板	33.0×23.6	個人蔵	
25	裸婦	1929年	油彩・板	23.7×33.1	公益財団法人 熊谷守一つけち記念館	
26	横の裸	1930年	油彩・板	24.7×33.0	岐阜県美術館寄託	
27	裸婦	1930年頃	油彩・板	33.4×24.3	岐阜県美術館	
28	裸婦	1930-40年	油彩・板	33.0×23.5	個人蔵	
29	裸婦	1930-40年	油彩・板	24.3×33.1	公益財団法人 熊谷守一つけち記念館寄託	
30	夜	1931年	油彩・キャンバス	32.5×40.8	茨城県近代美術館	
31	裸婦	1931年	油彩・板	33.3×24.2	(有)美幸	
32	チュウリップ	1934年	油彩・板	23.8×32.9	公益財団法人 熊谷守一つけち記念館	
33	アトリエ	1935年	油彩・板	33.8×24.3	公益財団法人 熊谷守一つけち記念館	
34	海岸風景	1935年	油彩・板	24.0×33.0	天童市美術館寄託 村山コレクション	
35	風景	1935年	油彩・板	23.8×33.0	公益財団法人 熊谷守一つけち記念館	
36	裸婦	1935年	油彩・板	32.6×23.8	東京藝術大学	
37	山形風景	1936年	油彩・板	23.6×33.1	公益財団法人 熊谷守一つけち記念館	
38	夜の裸	1936年	油彩・板	23.5×33.0	岐阜県美術館寄託	
39	鳥	1938年	油彩・キャンバス	31.9×40.8	愛知県美術館	
40	裸婦	1938年	油彩・板	33.4×24.2	岐阜県美術館	
41	桑畑	1939年	油彩・板	31.6×40.8	岐阜県美術館	
42	溪流	1939年	油彩・板	23.4×33.0	岐阜県美術館	
43	式根島	1939年頃	油彩・キャンバス	38.1×45.7	公益財団法人 熊谷守一つけち記念館	
44	麦畑	1939年	油彩・板	31.4×40.9	愛知県美術館 木村定三コレクション	
45	安良里港	1940年	油彩・板	37.9×45.5	天童市美術館 村山コレクション	
46	高原	1940年	油彩・板	23.8×33.1	愛知県美術館 木村定三コレクション	
47	高原ノ道	1940年	油彩・板	23.9×33.1	愛知県美術館 木村定三コレクション	
48	谷ヶ岳	1940年	油彩・板	23.8×33.0	茨城県近代美術館	
49	湯檜曾の朝	1940年	油彩・板	33.0×24.0	愛知県美術館 木村定三コレクション	
50	船津	1940-41年	油彩・板	24.0×33.2	愛知県美術館 木村定三コレクション	
52	風景	1940-50年	油彩・キャンバス	50.0×60.5	ポーラ美術館	
53	漆樹紅葉	1942年	油彩・板	37.0×45.2	個人蔵	
54	谷合ノ朝	1942年	油彩・板	33.0×23.7	愛知県美術館 木村定三コレクション	

55	裸	1943年	油彩・キャンバス	65.5×45.3	埼玉県立近代美術館
56	秋	1945年	油彩・板	23.8×33.1	名古屋市美術館
57	海	1947年	油彩・板	23.9×32.6	個人蔵
58	大巖寺の鶉の森	1947年	油彩・キャンバス	33.0×21.0	天童市美術館 村山コレクション
59	熱海	1948年	油彩・板	24.3×33.4	天童市美術館寄託
60	甲斐駒	1948年	油彩・板	23.8×33.4	個人蔵
61	椿	1948年	油彩・板	33.3×23.6	公益財団法人 熊谷守一つけち記念館寄託
62	駒の湯道	1949年	油彩・板	41.0×31.8	公益財団法人 熊谷守一つけち記念館
63	伸餅	1949年	油彩・キャンバス	37.9×45.5	愛知県美術館 木村定三コレクション
64	わさび畑	1949年	油彩・板	33.4×24.3	個人蔵
65	後向裸婦	1950年	油彩・板	33.8×45.4	岐阜県美術館
66	海	1950年頃	油彩・板	12.5×17.5	公益財団法人 熊谷守一つけち記念館
67	瓜畑	1950年	油彩・キャンバス	24.3×33.2	個人蔵
68	笛吹く児	1950年	油彩・板	41.0×31.8	メナード美術館
69	萬の像	1950年	油彩・板	45.8×38.0	岐阜県美術館
70	湖畔山羊	1950年頃	油彩・板	24.0×33.0	公益財団法人 熊谷守一つけち記念館
71	太海(ふとみ)	1950年頃	油彩・板	24.3×33.4	岐阜県美術館
72	朝日	1951年	油彩・板	33.5×24.3	公益財団法人 熊谷守一つけち記念館
73	小牛	1951年	油彩・板	23.8×33.3	愛知県美術館 木村定三コレクション
74	蓼科牧	1951年	油彩・板	23.9×33.5	愛知県美術館 木村定三コレクション
75	仁右衛門島	1951年	油彩・板	24.0×33.4	公益財団法人 熊谷守一つけち記念館
77	はま浪太(なぶと)	1951年	油彩・板	23.7×33.3	岐阜県美術館
78	引潮	1951年	油彩・板	23.5×33.1	愛知県美術館 木村定三コレクション
79	冬の池	1951年	油彩・板	24.3×33.4	公益財団法人 熊谷守一つけち記念館
80	上ヶ潮	1952年	油彩・板	23.9×33.0	愛知県美術館 木村定三コレクション
81	磯	1952年	油彩・板	23.6×33.2	個人蔵
82	鬼百合	1952年	油彩・板	21.7×26.9	公益財団法人 熊谷守一つけち記念館
83	落葉松	1952年	油彩・板	33.5×23.5	公益財団法人 熊谷守一つけち記念館
84	小牛	1952年	油彩・板	23.8×33.4	愛知県美術館 木村定三コレクション
85	仔猫	1952年	油彩・板	23.5×32.7	個人蔵
86	日蔭澤	1952年	油彩・板	33.4×23.9	愛知県美術館 木村定三コレクション
87	御嶽	1953年	油彩・板	31.6×40.8	公益財団法人 熊谷守一つけち記念館
88	木曾御嶽	1953年	油彩・板	24.5×33.5	岐阜県美術館寄託
89	風景	1953年	油彩・板	24.0×33.2	東京藝術大学
90	裸婦	1953年	油彩・板	24.0×33.1	公益財団法人 熊谷守一つけち記念館
91	牛	1954年	油彩・板	23.8×33.2	公益財団法人 熊谷守一つけち記念館
92	御嶽	1954年	油彩・板	24.2×33.3	岐阜県美術館
93	漁村	1954年	油彩・板	33.2×23.9	愛知県美術館 木村定三コレクション
94	土饅頭	1954年	油彩・キャンバス	37.9×45.5	愛知県美術館 木村定三コレクション
95	母鶏	1954年	油彩・板	24.0×33.2	岐阜県美術館
96	ハルシヤ菊	1954年	油彩・板	31.3×41.0	愛知県美術館 木村定三コレクション
97	朝の日輪	1955年	油彩・板	24.0×33.3	愛知県美術館 木村定三コレクション
98	牛	1955年	油彩・板	23.8×33.2	個人蔵
99	草人	1955年	油彩・板	31.0×40.0	天童市美術館寄託
100	西日	1955年	油彩・板	24.0×33.2	愛知県美術館 木村定三コレクション
101	野良仔猫	1955年	油彩・板	23.7×33.2	個人蔵
102	牛	1956年	油彩・板	24.1×33.4	メナード美術館
103	金峯山	1956年	油彩・キャンバス	53.0×45.5	個人蔵
104	水仙	1956年	油彩・板	33.3×24.0	愛知県美術館 木村定三コレクション
105	水仙	1956年	油彩・板	33.4×24.0	愛知県美術館 木村定三コレクション
106	焚火	1956年	油彩・板	30.5×40.7	愛知県美術館 木村定三コレクション
107	松並木	1956年	油彩・板	33.3×24.0	岐阜県美術館

108	ヤキバナカエリ	1956年	油彩・キャンバス	50.0×60.5	岐阜県美術館	
109	青柿	1957年	油彩・板	24.2×33.0	メナード美術館	
110	石亀	1957年	油彩・キャンバス	53.0×40.9	愛知県美術館 木村定三コレクション	
111	馬	1957年	油彩・板	24.2×33.3	岐阜県美術館	
112	海の図	1957年	油彩・板	31.3×40.5	愛知県美術館 木村定三コレクション	
113	烏	1957年	油彩・キャンバス	24.0×33.2	公益財団法人 熊谷守一つけち記念館	
114	玩具	1957年	油彩・板	24.3×33.4	個人蔵	
115	砂浴	1957年	油彩・板	24.3×33.4	公益財団法人 熊谷守一つけち記念館	
117	とのさま蛙	1957年	油彩・板	24.2×33.3	個人蔵	
119	石亀	1958年	油彩・板	24.2×33.4	個人蔵	
120	海の図	1958年	油彩・板	23.9×33.3	公益財団法人 熊谷守一つけち記念館	
121	かたばみにいぬのふぐり	1958年	油彩・板	24.2×33.4	公益財団法人 熊谷守一つけち記念館寄託	
123	白仔猫	1958年	油彩・キャンバス	31.8×41.0	愛知県美術館 木村定三コレクション	
124	稚魚	1958年	油彩・板	24.0×33.2	天童市美術館	
125	茶の花	1958年	油彩・板	24.3×33.4	個人蔵	
126	裸	1958年	油彩・板	33.2×24.1	個人蔵	
127	豆に蟻	1958年	油彩・板	24.3×33.4	個人蔵	
128	雨水	1959年	油彩・板	24.0×33.3	愛知県美術館 木村定三コレクション	
129	雨水	1959年	油彩・板	24.1×33.4	愛知県美術館 木村定三コレクション	
130	鬼百合に揚羽蝶	1959年	油彩・紙 (キャンバスに貼付)	45.8×35.4	東京国立近代美術館	
132	黄菊	1959年	油彩・板	24.1×33.3	ポーラ美術館	
133	げんげに虻	1959年	油彩・板	24.3×33.3	佐助文庫準備室	
134	シヂミ蝶	1959年	油彩・板	24.1×33.6	個人蔵	
135	たまご	1959年	油彩・板	31.8×41.0	愛知県美術館 木村定三コレクション	
136	梅雨(露)	1959年	油彩・キャンバス	32.0×41.2	天童市美術館寄託	
138	はだか立像	1959年	油彩・キャンバス	61.0×46.0	公益財団法人 熊谷守一つけち記念館	
139	彼岸花	1959年	油彩・板	33.2×24.0	公益財団法人 熊谷守一つけち記念館	
140	三毛猫	1959年	油彩・板	33.2×23.9	愛知県美術館 木村定三コレクション	
141	雪	1959年	油彩・板	23.8×32.8	公益財団法人 熊谷守一つけち記念館	
144	柴たく男	1960年	油彩・板	23.8×33.0	埼玉県立近代美術館	
145	水仙	1960年	油彩・板	32.9×23.6	ポーラ美術館	
146	壘	1960年	油彩・板	24.3×33.1	個人蔵	
147	稚魚群遊	1960年	油彩・板	24.3×33.3	天童市美術館	
148	箱の上の裸女	1960年	油彩・板	33.4×24.3	天童市美術館寄託	
149	山椿	1960年	油彩・板	33.0×23.7	名古屋市美術館	
150	鯉魚群遊図	1960年	油彩・板	24.3×33.4	公益財団法人 熊谷守一つけち記念館	
151	赤蜻蛉	1961年	油彩・板	33.2×24.1	個人蔵	
153	雨滴	1961年	油彩・板	24.3×33.4	愛知県美術館 木村定三コレクション	
154	きのこ	1961年	油彩・板	24.3×33.4	個人蔵	
155	群鶏	1961年	油彩・板	31.0×40.0	メナード美術館	
156	池水	1961年	油彩・板	24.0×33.2	愛知県美術館 木村定三コレクション	
157	童子遊魚の図	1961年	油彩・板	24.3×33.4	個人蔵	
158	茄子と仔猫	1961年	油彩・板	23.8×33.0	個人蔵	
159	枯葉	1961年	油彩・キャンバス	41.4×32.2	ポーラ美術館	
160	野火	1961年	油彩・板	31.6×40.5	愛知県美術館 木村定三コレクション	
161	松虫草	1961年	油彩・板	33.4×24.3	公益財団法人 熊谷守一つけち記念館	
162	山道	1961年	油彩・板	24.3×33.4	公益財団法人 熊谷守一つけち記念館	
163	夜の月	1961年	油彩・板	33.0×23.6	個人蔵	
164	開田村	1962年	油彩・板	23.8×33.0	公益財団法人 熊谷守一つけち記念館	
165	くろ猫	1962年	油彩・板	24.1×33.2	個人蔵	
167	暈の裸婦	1962年	油彩・キャンバス	39.5×52.0	東京国立近代美術館	
168	地蜘蛛	1963年	油彩・板	24.2×33.2	メナード美術館	

169	少女	1963年	油彩・板	40.6×31.3	個人蔵	
170	少女	1963年	油彩・板	33.4×24.3	愛知県美術館 木村定三コレクション	
171	白猫	1963年	油彩・板	32.0×22.5	個人蔵	
172	猫	1963年	油彩・キャンバス	41.0×32.0	愛知県美術館 木村定三コレクション	
173	猫	1963年	油彩・キャンバス	41.0×32.0	愛知県美術館 木村定三コレクション	
174	朝日	1964年	油彩・板	40.9×31.8	個人蔵	
175	あかんぼを	1965年	油彩・板	33.0×24.0	個人蔵	
176	うさぎ	1965年	油彩・紙	35.3×49.5	天童市美術館 村山コレクション	
177	瓜	1965年	油彩・板	31.8×41.0	愛知県美術館 木村定三コレクション	
178	瓜	1965年	油彩・板	15.6×22.2	ポーラ美術館	
179	土塊	1965年	油彩・板	24.3×33.3	個人蔵	
181	はぜ紅葉	1965年	油彩・板	31.8×39.3	佐助文庫準備室	
182	若葉	1965年	油彩・板	23.3×32.5	個人蔵	
183	木小屋	1966年	油彩・板	24.0×33.0	公益財団法人 熊谷守一つけち記念館	
184	黒つぐみ	1966年	油彩・板	33.0×24.0	個人蔵	
185	宵月	1966年	油彩・板	33.2×24.0	佐助文庫準備室	
188	櫻	1968年	油彩・板	33.0×24.0	個人蔵	
189	薔薇	1968年	油彩・板	18.7×25.4	個人蔵	
190	朝のはちまり	1969年	油彩・板	24.3×33.4	岐阜県美術館	
192	蟻	1970年	油彩・板	24.0×33.0	個人蔵	
194	夕映	1970年	油彩・板	24.3×33.4	岐阜県美術館	
195	揚羽蝶に百日草	1971年	油彩・板	33.4×24.3	個人蔵	
196	長寿花	1971年	油彩・板	24.3×33.3	個人蔵	
197	朝日	1972年	油彩・板	33.4×24.3	公益財団法人 熊谷守一つけち記念館	
198	熊蜂	1972年	油彩・板	22.7×15.8	個人蔵	
200	夏水仙に蝶	年代不詳	油彩・板	33.4×24.3	個人蔵	
201	長谷川利行作 《熊谷守一像》	年代不詳	油彩・板	23.9×14.1	公益財団法人 熊谷守一つけち記念館寄託	
J1	蝦蟆に蟻	1938年	紙本墨画淡彩	44.3×59.4	愛知県美術館 木村定三コレクション	後期
J2	蒲公英に蝦蟆	1938年	紙本墨画淡彩	42.2×58.1	愛知県美術館 木村定三コレクション	前期
J3	烏	1940年	紙本墨画淡彩	35.2×45.7	愛知県美術館 木村定三コレクション	前期
J4	観世音菩薩	1940年	紙本墨画淡彩	135.4×34.6	愛知県美術館 木村定三コレクション	前期
J5	仔猫	1940年	紙本墨画淡彩	40.6×56.9	愛知県美術館 木村定三コレクション	前期
J6	不動明王	1940年	紙本墨画淡彩	128.4×34.9	愛知県美術館 木村定三コレクション	後期
J7	枯木に鶉	1949年	紙本墨画淡彩	129.9×33.2	愛知県美術館 木村定三コレクション	後期
J8	野良猫	1962年	紙本墨画淡彩	40.6×58.6	愛知県美術館 木村定三コレクション	後期
C1	心月輪(しんがちりん)	1940年	紙本墨書	32.3×63.3	愛知県美術館 木村定三コレクション	前期
C2	無	1940年	紙本墨書	113.7×31.3	愛知県美術館 木村定三コレクション	前期
C3	蒼蠅	1941年	紙本墨書	29.8×63.2	愛知県美術館 木村定三コレクション	後期
C4	からす	1950年	紙本墨書	31.1×58.5	愛知県美術館 木村定三コレクション	前期
C5	すずめ	1950年	紙本墨書	31.3×58.1	愛知県美術館 木村定三コレクション	後期
C6	ほとけさま	1950年	紙本墨書	63.0×31.6	愛知県美術館 木村定三コレクション	前期
C7	かみさま	1953年	紙本墨書	31.6×60.2	愛知県美術館 木村定三コレクション	後期
S1	裸	1952年	ブロンズ	9.1×18.7×10.4	愛知県美術館 木村定三コレクション	
S2	はだか	1952年	ブロンズ	30.0×26.7×23.3	愛知県美術館 木村定三コレクション	
S3	臥裸婦	1955年	ブロンズ	8.7×23.0×12.7	愛知県美術館 木村定三コレクション	
D1	スケッチ帳「一号」から	1901年	鉛筆、水彩・紙	18.2×10.5	岐阜県美術館	前期
D2	スケッチ帳「一号」から	1901年	鉛筆、水彩・紙	10.8×8.7	岐阜県美術館	後期
D4	スケッチ帳「一号」から	1901年	鉛筆・紙	10.5×36.4	岐阜県美術館	前期
D6	スケッチ帳「二号」から	1901年	鉛筆、水彩・紙	10.6×14.9	岐阜県美術館	前期
D7	スケッチ帳「二号」から	1901年	鉛筆、水彩・紙	10.6×14.9	岐阜県美術館	前期
D8	スケッチ帳「三号」から	1902年	鉛筆、水彩・紙	10.5×18.0	岐阜県美術館	前期
D9	スケッチ帳「三号」から 夕暗	1902年	鉛筆、水彩・紙	18.0×10.5	岐阜県美術館	後期

D10	スケッチ帳「三号」から 泳ぎ手 島に漕ぎ手	1902年	鉛筆、水彩・紙	10.5×18.0	岐阜県美術館	後期
D12	スケッチ帳「四号(七号)」から	1903年	鉛筆・紙、見開き	10.6×36.2	岐阜県美術館	前期
D15	スケッチ帳「六号」から チフメネーフ(チフメネク) 自四十二哩	1906年	鉛筆、水彩・紙	10.5×36.0	岐阜県美術館	後期
D17	スケッチ帳「七号」から	1908年	鉛筆・紙	10.7×35.6	岐阜県美術館	後期
D18	スケッチ集「馬」から 熊の湯道	1943年	鉛筆・紙	19.7×15.0	岐阜県美術館	前期
D20	熊谷萬病中図	1947年	鉛筆、オイルパステル・紙	25.5×36.2	岐阜県美術館	後期
D23	スケッチ集から 後向裸婦	1950年	鉛筆、トレース紙	24.0×33.5	岐阜県美術館	前期
D24	スケッチ集から	1950年	鉛筆・トレース紙	41.3×31.6	岐阜県美術館	前期
D25	スケッチ集から [笛吹く児]	1950年	鉛筆、水彩・紙	41.3×31.6	岐阜県美術館	後期
D26	素描集より[自画像]	1950年代	コンテ・紙	40.0×30.0	東京藝術大学	前期
D27	スケッチ集から はま浪太 (なぶと)	1951年	鉛筆・トレース紙	23.8×33.3	岐阜県美術館	後期
D28	スケッチ集から 引潮	1951年	鉛筆・トレース紙	25.3×35.3	岐阜県美術館	前期
D31	スケッチ帳「十八号」から オンタケ	1953年	鉛筆・紙	17.8×24.0	岐阜県美術館	前期
D32	スケッチ帳から ヤキバノカ エリのためのデッサン	1948-55年 頃	鉛筆・紙	50.0×32.5	岐阜県美術館	前期
D33	スケッチ帳から ヤキバノカ エリのためのデッサン	1948-55年 頃	鉛筆・紙	50.0×32.5	岐阜県美術館	前期
D34	スケッチ帳から ヤキバノカ エリのためのデッサン	1948-55年 頃	鉛筆・紙	50.0×32.5	岐阜県美術館	前期
D35	スケッチ帳から 松並木	1956年	鉛筆・トレース紙	33.0×24.2	岐阜県美術館	前期
D36	スケッチ集から 雨	1957-59年	鉛筆・紙	23.6×35.4	岐阜県美術館	前期
D38	スケッチ帳「大九号」から	1958-59年	鉛筆、赤鉛筆・紙	35.5×24.5	岐阜県美術館	後期
D40	スケッチ集から	1958-59年	鉛筆、赤鉛筆・紙	35.6×24.4	岐阜県美術館	前期
D42	スケッチ帳「二十三号」から 稚魚	1959年	鉛筆・紙	23.2×35.5	岐阜県美術館	後期
D43	スケッチ帳から 少女	1963年	鉛筆、赤鉛筆・ トレース紙	36.0×43.4	岐阜県美術館	前期
D44	スケッチ集から 少女	1963年	鉛筆、赤鉛筆・ トレース紙	33.2×29.4	岐阜県美術館	後期
D45	スケッチ集「馬」から 山道	制作年不詳	鉛筆・紙、マット装	15.3×20.7	岐阜県美術館	前期
D46	素描集より [海辺の4人の裸婦]	制作年不詳	コンテ・紙	30.0×40.0	東京藝術大学	後期
D47	日輪	制作年不詳	鉛筆・紙	18.0×21.0	公益財団法人 熊谷守一つけち記念館寄託	前期
M1	日記帳 I	1902年			岐阜県歴史資料館	頁替え
M2	日記帳 VI	1908-09年			岐阜県歴史資料館	頁替え
M3	日記帳 VII	1910年			岐阜県歴史資料館	頁替え
M4	資料(道具類)				岐阜県美術館	
M5	資料(道具類)カンテラ				岐阜県美術館	
M6	資料(道具類)				岐阜県美術館	
M7	資料(道具類)				岐阜県美術館	
M8	資料(道具類)				岐阜県美術館	
M9	資料(道具類)				岐阜県美術館	
M10	楽譜「赤城」関連	1920年		38.2×27.8	岐阜県歴史資料館	
M11	第9回二科美術展覧会出品 「草人」絵葉書	1921年			島田安彦コレクション	
M12	書簡 熊谷守一、 信時潔発 大江秀子宛	1922年			岐阜県歴史資料館	
M13	「MK」雑記帳	制作年不詳 (1925-26 年頃か)			岐阜県歴史資料館	頁替え

坊っちゃん展

—祖父江慎・梅佳代・浅田政志・三沢厚彦—

- 会 期：**平成30年6月30日（土）— 9月2日（日）（56日間）
主 催：「坊っちゃん展」実行委員会（愛媛県、テレビ愛媛）
共 催：愛媛新聞社
後 援：松山市、松山市教育委員会、愛媛県市町教育委員会連合会、（公財）愛媛県教育会、愛媛県教育研究協議会、愛媛県小中学校長会、愛媛県PTA連合会、愛媛県美術会、愛媛美術教育連盟、伊予鉄グループ、学校法人河原学園、学校法人松山ビジネスカレッジ、（公財）松山観光コンベンション協会、道後温泉旅館協同組合、道後商店街振興組合、NHK松山放送局、南海放送、あいテレビ、愛媛朝日テレビ、愛媛CATV、FM愛媛、えひめリビング新聞社

アートディレクション：祖父江慎

特別協力：道後オンセナート実行委員会

協 力：岩波書店、コズフィッシュ、西村画廊、pdash

特別協賛：大一ガス株式会社、株式会社ミズカミ

協 賛：株式会社愛媛銀行、株式会社カシマ、株式会社写真弘社、株式会社トータルアートサービス HIGUCHI

企画協力：内田真由美

会 場：愛媛県美術館 常設展示室1・2

趣 旨

道後温泉を中心に展開するアート・イベント「道後オンセナート2018」の参加作家の内、祖父江慎、梅佳代、浅田政志、三沢厚彦の4名が、夏目漱石の小説『坊っちゃん』をテーマにした作品を発表した。特に『坊っちゃん』を20年間にわたり研究し、関連書籍や資料の収集を続けてきた祖父江慎は、自身のコレクションを紹介するほか独自の視点で作品世界を演出し、本展全体のアートディレクションを務めた。写真家の梅佳代は、市内の中学校の野球部男子生徒を「坊っちゃんたち」として生き活きととらえ、同じく写真家の浅田政志は、ユーモアを交えた視点で『坊っちゃん』に登場する名シーンやアイテムを撮り下ろした。また彫刻家の三沢厚彦は、漱石が『坊っちゃん』と同時期に執筆していた『吾輩ハ猫デアル』の主人公の猫や、漱石をモチーフに制作を手がけた。これらに合わせて漱石・子規関連資料や、その他『坊っちゃん』にまつわる多岐にわたる資料も合わせ、これまでにない「坊っちゃんワールド」を演出した。

観覧者数：5,960名

関連行事

オープニング記念 ゆる〜くフロアレクチャー

日 時：6月30日（土） 14：00～（約1時間）

案 内 人：祖父江慎、浅田政志

場 所：展示室

参加人数：80名

鷺太郎と行く！道後で「坊っちゃん」撮影会

夏目漱石や正岡子規ゆかりの場所を散策しながら思い出の1枚を撮影します。

日 時：7月1日（日） 13：00～17：00

講 師：浅田政志

対 象：高校生以上 15名

参 加 費：200円（※要本展観覧券）

参加人数：15名

学芸員によるフロアレクチャー

日 時：7月14日（土） 14：00～（約1時間）
 講 師：主任学芸員 杉山はるか
 参加人数：35名

土曜講座「坊っちゃん展」ができるまで

日 時：7月21日（土） 14：00～（約1時間）
 講 師：主任学芸員 杉山はるか
 場 所：美術館ハイビジョンギャラリー
 参加人数：22名

一日講座「紙粘土で猫をつくろう」

※詳細は普及事業報告を参照

一日講座「たんけん はっけん 坊っちゃん展」

※詳細は普及事業報告を参照

黒田映李、木藤たかおプロデュース

平成30年7月豪雨被災地支援 チャリティー in 愛媛県美術館

日 時：7月24日（火） 11：00～、16：00～
 ピアノ：垣生悠比子、白石芽衣
 ミニトーク：黒田映李、木藤たかお、佐藤栄作（愛媛大学教育学部教授）
 協 力：田村浩（調律）
 場 所：美術館エントランスホール
 参加人数：延110名

講演会 『坊っちゃん』－漱石と松山－

日 時：8月11日（土） 11：00～、14：00～（各約1時間）
 講 師：武内哲志（松山坊っちゃん会会長）
 場 所：美術館研修室
 参加人数：延40名

スペシャルフロアレクチャー①

日 時：8月18日（土） 14：00～（約1時間）
 講 師：主任学芸員 杉山はるか
 ゲスト：佐藤栄作（愛媛大学教育学部教授）
 場 所：展示室
 参加人数：30名

黒田映李、木藤たかおプロデュース

平成30年7月豪雨被災地支援 チャリティー in 愛媛県美術館vol.2

日 時：8月22日（水） 11：00～
 総合司会：木藤たかお
 ピアノ：尾海あかり、垣生悠比子
 絵本の読み聞かせ：高橋ユミ子
 ヴァイオリン：長坂拓己
 チェロ：中条誠一
 協 力：田村浩（調律）
 場 所：美術館エントランスホール
 参加人数：60名

スペシャルフロアレクチャー②

日時：8月25日（土） 14：00～（約1時間）

講師：主任学芸員 杉山はるか

ゲスト：白川密成（栄福寺住職）

場所：展示室

参加人数：22名

梅佳代 坊っちゃん 展
浅田政志 三沢厚彦

明治 18 年

2018年 6月30日(土) - 9月2日(日) 休館日: 月曜日
開館時間 9:40-18:00(入場は17:30まで)

愛媛県美術館

〒790-0007 愛媛県松山市堀之内 Tel. 089-932-0010 <http://www.ehime-art.jp/>
お問い合わせ: 坊っちゃん展実行委員会事務局 (テレビ愛媛事業部内)
Tel. 089-933-0322 (9:30-17:00 土日・祝日除く)

道後オコサート 2018 道後温泉(松山市)で開催中!! 2018年6月28日

「坊っちゃん展」出品リスト

前期：6月30日（土）～7月29日（日） 後期：7月31日（火）～9月2日（日）

	作家名	作品名	発行元	制作年	技法／素材	寸法(cm)	所蔵者・画像提供	備考※
1	—	夏目漱石肖像写真		1912(大正元)年	写真／紙	26.3×19.5	祖父江慎	
2	梅佳代	「坊っちゃんたち」		2017(平成29)年	cタイププリント 他			
3	浅田政志	「坊っちゃんアイ2018」		2018(平成30)年	インクジェットプリント			
4	浅田政志	「道後の猫」		2018(平成30)年	インクジェットプリント			
5	祖父江慎	「坊っちゃん本」		2018(平成30)年	印刷／紙／書籍 他			詳細リスト 別途添付
6	三沢厚彦	Cat 2018-01		2018(平成30)年	楠、油彩	49.0×22.0×43.5		
7	三沢厚彦	Drawing-漱石の肖像		2018(平成30)年	アクリル、キャンバス	53.0×41.4		
8	三沢厚彦	Painting-白鷺		2018(平成30)年	油彩、キャンバス	41.3×32.0		
9	三沢厚彦	Painting-椿		2018(平成30)年	油彩、キャンバス	45.5×38.0		
10	三沢厚彦	Painting-漱石の肖像		2018(平成30)年	油彩、キャンバス	53.0×45.8		
11	三沢厚彦	漱石肖像		2018(平成30)年	紙粘土、アクリル	20.0×15.5×14.0		
12	三沢厚彦	Painting-緑の中のさび猫		2018(平成30)年	アクリル、キャンバス	45.5×33.5		
13	三沢厚彦	Painting-夜のさび猫		2018(平成30)年	アクリル、キャンバス	53.0×45.5		
14	三沢厚彦	Painting-青空のさび猫		2018(平成30)年	油彩、キャンバス	45.5×38.0		
15	三沢厚彦	Painting-ターナー島		2018(平成30)年	油彩、キャンバス	80.5×100.0		
16	三沢厚彦	Painting-ベガサス		2018(平成30)年	油彩、パネル	104.5×73.0		
17	三沢厚彦	Drawing-さび猫1		2018(平成30)年	アクリル、キャンバス	53.0×45.5		
18	三沢厚彦	Drawing-さび猫2		2018(平成30)年	アクリル、キャンバス	45.4×53.0		
19	三沢厚彦	Painting-白背景のさび猫		2018(平成30)年	油彩、キャンバス	53.0×41.5		
20	三沢厚彦	Cat 2013-03		2013(平成25)年	樟、油彩	75.0×17.0×63.0		
21	三沢厚彦	Cat 2002-02		2002(平成14)年	樟、油彩	23.5×19.0×91.0	高橋コレクション	
22	三沢厚彦	Cat 2014-02		2014(平成26)年	樟、油彩	26.8×24.0×64.0		
23	三沢厚彦	Cat 2006-04		2006(平成18)年	樟、油彩	35.0×17.0×28.0	個人	

浅田政志「坊っちゃんアイ2018」コラボレーション展示資料

	作家名	作品名	発行元	制作年	技法／素材	寸法(cm)	所蔵者・画像提供
24	—	壱門札	日本銀行	1916(大正5)年頃	印刷／紙／紙幣(2枚)	各8.5×14.6	祖父江慎
25	—	一門銀貨	日本銀行	1906(明治39)年他	銀、銅／硬貨(3枚)	各直径3.8	祖父江慎
26	—	伊予鉄道株式会社上等乗車券(複製)	伊予鉄道	原本:1899(明治32)年	印刷／紙／切符	5.9×8.8	伊予鉄グループ
27	—	三津驛から松山驛ゆき 下等 金参銭五厘 明治21年10月28日付	松山市観光課	1950(昭和25)年以降	印刷／紙／切符	3.0×5.8	松山市道後温泉事務所
28	—	「夏目漱石先生著 坊っちゃんの旅館山城屋は…きどや」マッチ箱	きどや	昭和初期	印刷／紙	3.7×5.5×1.0	岩波書店(鎌倉幸光 旧蔵)
29	夏目漱石	横地石太郎宛年賀状		1900(明治33)年	墨／紙／葉書	14.0×9.0	愛媛県立松山東高等学校
30	—	『帝国文学』第十一卷第一号	帝国文学会	1905(明治38)年	印刷／紙／冊子	22.0×15.8×1.0	祖父江 慎
31	—	『帝国文学』第十一卷第九号	帝国文学会	1905(明治38)年	印刷／紙／冊子	22.0×15.1×0.6	祖父江 慎
32	—	『帝国文学』第十二卷第十二号	帝国文学会	1906(明治39)年	印刷／紙／冊子	22.3×15.0×0.5	祖父江 慎
33	—	『帝国文学』第十三卷第九号	帝国文学会	1907(明治40)年	印刷／紙／冊子	22.1×15.3×0.6	祖父江 慎
34	—	一銭銅貨	日本銀行	1901(明治34)年	銅、錫、亜鉛／硬貨	直径2.8	祖父江 慎
35	—	半銭銅貨	日本銀行	1883(明治16)年	銅、錫、亜鉛／硬貨	直径2.2	祖父江 慎
36	—	「漱石の坊っちゃん団子」ラベル	つぼや菓子舗	昭和初期	印刷／紙	18.8×8.0	岩波書店(鎌倉幸光 旧蔵)
37	—	又新殿拝観券 大人券	温泉課	明治32年以降	印刷／紙(2枚)	5.3×8.3	松山市道後温泉事務所
38	—	神之湯 養生湯 階下共通券 道後温泉浴券	道後湯之町役場温泉事務所	明治時代	印刷／紙	6.4×5.0	松山市道後温泉事務所
39	—	霊之湯 神之湯一室 養生湯 二階共通券 道後温泉浴券	道後湯之町役場温泉事務所	明治32年以降	印刷／紙	6.5×5.2	松山市道後温泉事務所
40	—	霊之湯 神之湯一室 養生湯 三階共通券 道後温泉浴券	道後湯之町役場温泉事務所	明治32年以降	印刷／紙	6.5×3.2	松山市道後温泉事務所
41	—	道後温泉 特別室入浴割引証 第一回愛媛県重要物産共進会協賛会	道後湯之町役場温泉事務所	明治32年	印刷／紙	10.0×7.0	松山市道後温泉事務所
42	—	バッタ		2017(平成29)年	フィギュア12匹		祖父江 慎
43	J.M.W.ターナー	"Liber Studiorum"	G.Newnes	1902(明治35)年以前	印刷／紙／書籍	22.3×30.4×2.7	東京藝術大学付属図書館
44	夏目漱石旧蔵	J.M.W. Turner "Liber Studiorum"	G.Newnes	1902(明治35)年以前	印刷／紙(表紙複製)		東北大学付属図書館「漱石文庫」
45	—	『ゴルキイ』	民友社	1902(明治35)年	印刷／紙／書籍	18.8×12.8×1.2	祖父江 慎
46	—	海南新聞記事 「師範中学両校生徒の衝突」	海南新聞社	1895(明治28)年12月4日	印刷／紙／新聞(複製)(4面2段目掲載)		愛媛新聞社

47	—	第六字和島丸		1901-20 (明治34-大正9)年	写真／紙(複製)		宇和島運輸
48	—	日比谷公園 東京市街鉄道1形		1904(明治37)年頃	写真／紙(複製)		東京都交通局

祖父江慎「坊っちゃん本」

	作家名	作品名	制作年	技法／素材	寸法(cm)	所蔵者・ 画像提供	備考※
49	祖父江慎	坊っちゃんの顔100年	2018(平成30)年	—	—		
50	祖父江慎	漱石の手書き原稿 原寸大 全部見せ 坊っちゃん (『夏目漱石直筆全原稿 坊っちゃん 付別冊』より)	2018(平成30)年	原稿用紙	—	祖父江慎	
51	祖父江慎、 梅佳代、浅 田政志、三 沢厚彦	『坊っちゃん』朗読	2018(平成30)年	音声	—		会場内4 か所で4人 の朗読を 別に再生

※「坊っちゃん本」は上段と下段で構成されており、それぞれ分けて記載。

上段

※所蔵者は記載以外全て祖父江慎

	シリーズ名	タイトル	著者・編集者 ・装丁	出版社	出版情報	印刷所	所蔵者・ 画像提供
52		ホトギス第9巻第7号		ほととぎす	1906(明治39)年初版		
53		鶉籠		春陽堂	1907(明治40)年1月1日初版	帝国印刷	岩波書店
54		鶉籠		春陽堂	1917(大正6)年11月15日初版	秀英舎	
55	—	鶉籠		春陽堂	1924(大正13)年2月25日5刷 (初版:1924[大正13]年2月5日)	日本印刷	
56	—	鶉籠		春陽堂	1965(昭和40)年1月1日初版	帝國印刷	
57		合本鶉籠、美人草		春陽堂	1913(大正2)年12月10日初版		
58		坊っちゃん		春陽堂	1914(大正3)年11月18日初版	博文館印刷 所	
59		合本鶉籠、美人草		春陽堂	1924(大正13)年2月5日25刷 (初版:1917[大正6]年11月15日)	日東印刷	
60		坊っちゃん		春陽堂	1924(大正13)年2月10日83刷 (初版:1914[大正3]年11月15日 82版:1923(大正12)年12月5日)	日東印刷	
61		漱石全集第二巻		岩波書店	1917(大正6)年12月9日初版	東京築地活 版製造所	
62		和英對譚坊っちゃん		春陽堂	1922(大正11)年6月15日初版	東洋印刷	
63		縮刷鶉籠		春陽堂	1917(大正6)年11月15日初版	秀英舎	
64		合本鶉籠、美人草		春陽堂	1924(大正13)年4月5日85刷 (初版:1913[大正2]年12月10日)	日東印刷	
65		坊っちゃん		春陽堂	1919(大正8)年10月17日42版 (初版:1914[大正3]年11月18日)		
66		坊っちゃん		春陽堂	1927(昭和2)年3月20日145刷 (初版:1913[大正2]年11月15日)	日東印刷	
67	現代日本文学全集 第十九篇	夏目漱石集		改造社	1927(昭和2)年6月5日初版	秀英舎印刷	
68	明治大正文学全集	第二十七巻 第四回配本		春陽堂	1927(昭和2)年9月15日初版	日東印刷	
69		漱石全集第二巻 漱石短篇小説集上巻		岩波書店	1928(昭和3)年8月5日初版	凸版印刷	
70	改造文庫 第二部 第四十篇	坊っちゃん		改造社	1929(昭和4)年2月3日初版	日清印刷	
71	岩波文庫	坊っちゃん		岩波書店	1929(昭和4)年7月5日初版	凸版印刷	
72	春陽堂文庫	三 坊っちゃん		春陽堂	1931(昭和6)年10月5日初版	東陽印刷所	
73	春陽堂文庫	坊っちゃん		春陽堂	1939(昭和14)年6月20日48刷 (初版:1931[昭和6]年10月5日)	東陽印刷所	
74	岩波文庫	坊っちゃん		岩波書店	1935(昭和10)年1月30日10刷 (初版:1929[昭和4]年7月5日)	精興社	
75	漱石全集	第二巻		岩波書店	1936(昭和11)年初版	精興社	
76	新潮社文庫	坊っちゃん		新潮社	1940(昭和15)年12月15日84刷 (初版:1937[昭和12]年4月25日)	富士印刷	
77	新潮文庫	坊っちゃん		新潮社	1942(昭和17)年3月5日15刷 (初版:1937[昭和12]年4月25日)	富士印刷	
78	岩波文庫	坊っちゃん		岩波書店	1938(昭和13)年6月15日16刷 (初版:1938[昭和13]年6月15日)	精興社	
79	岩波文庫	坊っちゃん		岩波書店	1941(昭和16)年4月10日20刷 (初版:1929[昭和4]年7月5日)	精興社	
80	三代名作全集	夏目漱石集		河出書房	1941(昭和16)年初版	福神印刷	

81	岩波文庫	坊っちゃん		岩波書店	1942(昭和17)年12月15日22刷 (初版:1929[昭和4]年7月5日 改訂:1942(昭和4)年12月15日)	精興社	
82	岩波文庫	坊っちゃん		岩波書店	1950(昭和25)年4月20日23刷 (初版:1929[昭和4]年7月5日 改訂:1929(昭和4)年7月5日)	大日本法令印刷	
83	昭和文学全集別冊	夏目漱石集		角川書店	1953(昭和28)年11月25日初版	東日本印刷	
84	日本文庫 1	坊っちゃん		日本社	1946(昭和21)年4月25日初版	大日本印刷	
85	夏目漱石全集 第五卷	坊っちゃん・野分	夏目伸六編	明治文学刊行会	1946(昭和21)年7月25日 (第二回配本)初版	大日本印刷	
86	日本文学選	坊っちゃん		光文社	1946(昭和21)年12月20日初版	亜細亜社	
87	(B6判) 漱石全集(4)	坊っちゃん 草枕		岩波書店	1947(昭和22)年1月5日初版	文壽堂印刷	
88		坊っちゃん		壮文社	1946(昭和21)年5月30日初版		
89		坊っちゃん		壮文社	1947(昭和22)年8月30日初版	壮文社印刷所	
90		坊っちゃん		有明書房	1947(昭和22)年9月25日初版	松本合同印刷所	
91	日本名作選	坊っちゃん		文園社	1947(昭和22)年10月1日初版		
92	夏目漱石名作選	坊っちゃん 草枕		文園社	1950(昭和25)年5月15日初版	八木原印刷所	
93	漱石全集	漱石全集第二卷 坊っちゃん他七篇		岩波書店	1947(昭和22)年11月5日初版	文壽堂印刷	
94		坊っちゃん・二百十日		青磁社	1948(昭和23)年6月29日初版		
95		坊っちゃん		鈴書房	1948(昭和23)年8月20日初版	大河内印刷所	
96		坊っちゃん		東華堂	1950(昭和25)年2月10日初版	新日本印刷	
97	世界名作文学選書	坊っちゃん		永隆	1950(昭和25)年5月28日初版	新日本印刷	
98		坊っちゃん		文学クラブ社	1950(昭和25)年6月10日初版		
99		夏目漱石集 上巻		新潮社	1950(昭和25)年7月30日初版	二光印刷	
100	日本名作選	坊っちゃん	松本春吉編	創人社	1950(昭和25)年10月10日初版	八木原印刷所	
101	學生文庫	坊っちゃん		酣燈社	1951(昭和26)年9月15日再版 (初版:1954[昭和29]年1月5日)	大日本印刷	
102	角川文庫	坊っちゃん・文鳥		角川書店	1951(昭和26)年9月30日初版	中央製本印刷	
103	創元文庫	坊っちゃん		創元社	1951(昭和26)年9月30日初版		
104	岩波文庫	坊っちゃん		岩波書店	1952(昭和27)年6月10日33刷 (初版:1929[昭和4]年7月5日)	大日本法令印刷	
105	現代文豪名作全集	夏目漱石集	中村眞一郎編	河出書房	1953(昭和28)年5月10日初版	永井印刷工業印刷	
106	新潮文庫	坊っちゃん		新潮社	1953(昭和28)年3月15日10刷 (初版:1929[昭和25]年1月31日)	二光印刷	
107	夏目漱石全集(第三回配本)	第一巻		創藝社	1953(昭和28)年9月30日初版	杜陵印刷	
108	岩波文庫	坊っちゃん		岩波書店	1953(昭和28)年5月15日35刷 (初版:1929[昭和4]年7月5日 改訂34刷:1953(昭和28)年2月25日)	大日本法令印刷	
109	岩波文庫	坊っちゃん		岩波書店	1954(昭和29)年7月15日38刷 (初版:1929[昭和4]年7月5日 改訂34刷:1953(昭和28)年2月25日)	大日本法令印刷	
110	五代名作選集	坊っちゃん	日昭館編集部編	國民出版社	1954(昭和29)年1月25日初版		
111		画譜 坊っちゃん		隆星閣	1954(昭和29)年7月30日初版	錦明印刷	
112	現代日本文学全集11	夏目漱石集		筑摩書房	1954(昭和29)年12月5日初版	精興社	
113	夏目漱石小説全集	夏目漱石小説全集 第二巻		日文社	1955(昭和30)年5月1日初版		
114		創藝新書 坊っちゃん		創藝社	1955(昭和30)年6月30日初版		岩波書店
115	ポケットブックコレクション	坊っちゃん		小山書店	1955(昭和30)年10月30日初版	単式印刷	
116	日本国民文学全集	第二二巻 漱石名作集		河出書房	1955(昭和30)年11月20日初版	図書印刷	
117	少年少女日本文学選集①	夏目漱石名作集	亀井勝一郎編	あかね書房	1955(昭和30)年6月30日	小泉印刷	
118	—	夏目漱石名作集 亀井勝一郎編	亀井勝一郎編	あかね書房	1960(昭和35)年7月15日初版	小泉印刷	
119		夏目漱石作品集 第三巻		創元社	1950(昭和25)年10月25日初版	共同印刷	
120	河出文庫特装版	坊っちゃん		河出書房	1956(昭和31)年2月10日12刷	杜陵印刷	
121	(新書判・新輯決定版) 漱石全集	漱石全集 坊っちゃん 外七篇		岩波書店	1956(昭和31)年初版	精興社	
122	角川文庫	坊っちゃん		角川書店	1956(昭和31)年5月20日7刷 (初版:1955[昭和30]年1月30日)	中光印刷	
123	新日本少年少女文学全集 ②	夏目漱石集		ポプラ社	1957(昭和32)年11月12日初版	新興印刷製本	
124	新潮文庫	坊っちゃん		新潮社	1957(昭和32)年12月5日23刷 (初版:1950[昭和25]年1月31日)	光邦印刷	
125	新潮文庫	坊っちゃん		新潮社	1957(昭和32)年9月25日26刷 (初版:1950[昭和25]年1月31日)	三晃印刷	

126	新潮社文庫	坊っちゃん		新潮社	1965(昭和40)年10月15日52刷 (初版:1950[昭和25]年1月31日)	東洋印刷	
127		坊っちゃん		明星社	1958(昭和33)年5月20日初版		
128	世界名作全集(151)	坊っちゃん	福田清人編	大日本雄弁会 講談社	1958(昭和33)年7月10日初版	大日本印刷	
129	日本文学全集	9 夏目漱石集 一	伊藤整編	新潮社	1963(昭和38)年4月25日11刷 (初版:1959[昭和34]年9月30日)	大日本印刷	
130	日本文学全集	9 夏目漱石集(一)	伊藤整編	新潮社	1959(昭和34)年9月30日初版	大日本印刷	
131	日本文学全集 5	夏目漱石		新潮社	1970(昭和45)年10月10日4刷 (初版:1969[昭和44]年10月30日)	金羊社	
132		漱石全集 第一巻	伊藤整、 吉田精一編	角川書店	1970(昭和45)年4月1日10刷 (初版:1960[昭和35]年8月25日)	中光印刷	
133	日本現代文学全集	23 夏目漱石集(一)		講談社	1961(昭和36)年3月18日初版	大日本印刷	
134	世界名作全集	28 坊っちゃん 草枕 三四郎 こゝろ		筑摩書房	1961(昭和36)年3月15日初版		
135	世界名作全集	68 坊っちゃん 三四郎 それから		平凡社	1961(昭和36)年8月30日初版	東洋印刷	
136	少年少女日本文学全集	第2巻 夏目漱石・ 中勘助・高浜虚子集		講談社	1961(昭和36)年12月20日初版	凸版印刷	
137	日本文学全集	19 夏目漱石集		河出書房	1962(昭和37)年2月10日初版	暁印刷	
138	中学生文学全集	夏目漱石集	吉田精一、 飛田多喜雄編	新紀元社	1963(昭和38)年1月5日再版 (初版:1962[昭和37]年2月17日)		
139		夏目漱石選集 第三巻 坊っちゃん 行人		創人社	1963(昭和38)年11月10日初版	精文堂印刷 所	
140	現代文学大系	13 夏目漱石集(一)		筑摩書房	1964(昭和39)年2月10日初版	精興社	
141	日本の文学	12 夏目漱石(一)		中央公論社	1964(昭和39)年12月5日初版	三晃印刷	
142		夏目漱石全集(一) 第一巻		春陽堂	1965(昭和40)年1月20日初版	中野印刷	
143		坊っちゃん・草枕		春陽堂	1965(昭和40)年2月20日初版	中野印刷	
144	日本文学全集10	夏目漱石集		河出書房	1965(昭和40)年8月3日初版	凸版印刷	
145	漱石全集(1)	第二巻 短編小説集		岩波書店	1966(昭和41)年1月18日初版	精興社	
146	旺文社文庫	坊っちゃん 別製		旺文社	1966(昭和41)年4月1日初版	日清印刷	
147	旺文社文庫	坊っちゃん・草枕 (他) 私の経過した学生時代		旺文社	1966(昭和41)年4月20日	文弘社	
148	旺文社文庫	坊っちゃん・草枕 (他) 私の経過した学生時代 特装版		旺文社	1967(昭和42)年10月1日	慶昌堂印刷	
149	中一名作文庫	中一名作文庫坊っちゃん 中一時代4月号第5付録		旺文社	1974(昭和49)年2月8日		
150	旺文社文庫	坊っちゃん・草枕 他一編		旺文社	1977(昭和52)年55刷 (初版:1965[昭和40]年7月10日)	日新印刷	
151	角川文庫	坊っちゃん		角川書店	1966(昭和41)年4月30日51刷 (初版:1955[昭和30]年1月30日)	中光印刷	
152	角川文庫	坊っちゃん		角川書店	1958(昭和33)年6月10日16刷 (初版:1955[昭和30]年1月30日)	中光印刷	
153	現代日本文学館	4 夏目漱石 1		文藝春秋	1966(昭和41)年3月1日初版	凸版印刷	
154	日本青春文学名作選 2	坊っちゃん 願 友情	学習研究社書 籍編集部編	学習研究社	1966(昭和41)年8月10日46刷 (初版:1962[昭和37]年9月1日)	図書印刷	
155		夏目漱石全集第二巻		筑摩書房	1966(昭和41)年3月5日再版 (初版:1965[昭和40]年12月15日)	多田印刷	
156		夏目漱石全集第二巻		筑摩書房	1979(昭和54)年1月20日11刷 (初版:1971[昭和46]年5月5日)	多田印刷	
157		夏目漱石作品集 第三巻		昭和出版社	1973(昭和48)年6月20日		
158		夏目漱石全集 第一巻		朋文堂新社	1966(昭和41)年12月20日初版		
159	日本文学全集	15 夏目漱石集(一)		集英社	1966(昭和41)年12月12日初版	大日本印刷	
160	カラー版日本文学全集	8 夏目漱石(一)	解説:佐伯彰一	河出書房	1967(昭和42)年4月25日初版	中央精版印刷	
161	岩波文庫	坊っちゃん		岩波書店	1967(昭和42)年3月16日50刷 (初版:1929[昭和4]年7月5日 改訂50冊:1967(昭和42)年3月16日)	法令印刷	
162	岩波文庫	坊っちゃん		岩波書店	1971(昭和49)年7月30日57刷 (初版:1929[昭和4]年7月5日 改訂50冊:1967(昭和42)年3月16日)	法令印刷	
163	岩波文庫	坊っちゃん		岩波書店	1977(昭和52)年9月30日60刷 (初版:1929[昭和4]年7月5日 改訂 50冊:1967(昭和42)年3月16日)	法令印刷	
164	岩波文庫	坊っちゃん		岩波書店	1980(昭和55)年8月20日63刷 (初版:1929[昭和4]年7月5日 改訂50冊:1967(昭和42)年3月16日)	法令印刷	

165	岩波文庫	坊っちゃん		岩波書店	1985(昭和60)年5月16日68刷 (初版:1929[昭和4]年7月5日 改訂50刷:1967(昭和42年)年3月16日)	法令印刷	
166	日本文学全集	6 夏目漱石 坊っちゃん 我輩は猫である	装幀:原弘	河出書房	1967(昭和42)年6月20日初版	中央精版印刷	
167	アイドル・ブックス・1	坊っちゃん		ポプラ社	1967(昭和42)年8月20日	新興印刷製本	
168	新潮文庫(草10C)	坊っちゃん		新潮社	1968(昭和43)年4月20日55刷 (初版:1950[昭和25]年1月31日)	二光印刷	
169	新潮文庫(草10C)	坊っちゃん		新潮社	1973(昭和48)年2月20日64刷 (初版:1950[昭和25]年1月30日 55改訂版:1968(昭和43)年4月20日)	二光印刷	
170	新潮社文庫(草10C)	坊っちゃん		新潮社	1978(昭和53)年10月31日79刷 (初版:1950[昭和25]年1月31日)	二光印刷	
171	新潮社文庫(草10C)	坊っちゃん		新潮社	1979(昭和54)年10月20日82刷 (初版:1950[昭和25]年1月1日)	二光印刷	
172	生誕百年記念 夏目漱石全集 第一巻		解説:荒正人	日本メールオーダー (日本ブッククラブ)	1968(昭和43)年4月10日2刷 (初版:1966[昭和41]年12月9日)	大日本印刷	
173	新学社文庫 1	坊っちゃん		新学社	1978(昭和53)年6月1日重版 (初版:1968[昭和43]年6月15日)	天理時報社 印刷	
174	カラー版 日本の文学 1	坊っちゃん		集英社	1968(昭和43)年7月25日初版	大日本印刷	
175	現代教養文庫164	坊っちゃん		社会思想社	1968(昭和43)年10月30日7刷 (初版:1965[昭和40]年4月30日)	文弘社印刷	
176	現代日本文学大系	17 夏目漱石集(一)		筑摩書房	1968(昭和43)年10月25日初版	精興社	
177	豪華版 日本現代文学全集	9 夏目漱石(一)	伊藤整、龜井 勝一郎、中村 光夫、平野謙、 山本健吉編	講談社	1969(昭和44)年1月30日初版	大日本印刷	
178	中学生名作文庫	坊っちゃん	樋口弘幸編	学習研究社	1969(昭和44)年4月1日初版	図書印刷	
179	中学生名作文庫	坊っちゃん	樋口弘幸編	学習研究社	1970(昭和45)年5月1日 (初版:1969[昭和44]年4月1日)	図書印刷	
180	現代日本の文学 4	夏目漱石集	足立巻一、奥 野健男、尾崎秀 樹、北杜夫編	学習研究社	1969(昭和44)年10月15日2刷 (初版:1969[昭和44]年9月1日)	大日本印刷	
181	新潮日本文学	3 夏目漱石集		新潮社	1969(昭和44)年4月12日初版	大日本印刷	
182	日本近代文学体系 (全60巻)	第25巻 夏目漱石集II		角川書店	1969(昭和44)年10月20日初版	中光印刷	
183	あかつき名作館= 日本文学シリーズ1	坊っちゃん・我輩は猫である 他3篇 夏目漱石集	飛田多喜雄編	暁教育図書	1970(昭和45)年6月15日初版		
184	-	漱石文学全集 第二巻		集英社	1970(昭和45)年8月30日	大日本印刷	
185	明治図書中学生文庫 1	坊っちゃん・文鳥		明治図書出版	1970(昭和45)年7月1日2刷		
186	日本文学全集	夏目漱石 一		筑摩書房	1970(昭和45)年11月1日初版	多田印刷	
187	潮文庫	坊っちゃん・草枕		潮出版社	1970(昭和45)年9月20日初版	凸版印刷	
188	中学生の本棚 13	坊っちゃん	尾沢栄三編	学習研究社	1970(昭和45)年10月1日30刷 (初版:1970[昭和45]年3月1日)	信毎書籍印刷	
189	少年少女現代日本文学全集・1	夏目漱石名作集		偕成社	1971(昭和46)年3月25日初版	新興印刷製本	
190	明治文学全集	55 夏目漱石集		筑摩書房	1971(昭和46)年6月30日初版		
191	正進社名作文庫	坊っちゃん		正進社	1971(昭和46)年7月1日2刷 (初版:1970[昭和45]年7月1日)	日本製版	
192	講談社文庫	坊っちゃん		講談社	1971(昭和46)年10月15日初版	豊国オフセット	
193	講談社文庫	坊っちゃん		講談社	1977(昭和52)年2月25日11刷 (初版:1971[昭和46]年10月15日)	豊国オフセット	
194	講談社文庫	坊っちゃん		講談社	1990(平成02)年12月25日29刷 (初版:1971[昭和46]年10月15日)	豊国オフセット	
195	ジュニア版 日本文学名作選4	坊っちゃん		偕成社	1971(昭和46)年11刷	新陽印刷(有)	
196	日本文学全集	5 夏目漱石		新潮社	1971(昭和46)年7月20日初版	金羊社	
197	少年少女日本の文学 2	夏目漱石 坊っちゃん		あかね書房	1972(昭和47)年12月5日11刷	新興印刷製本	
198	夏目漱石全集	第一巻 坊っちゃん他	江藤 淳、 吉田精一編	角川書店	1973(昭和48)年9月15日初版	中光印刷	
199	ジュニア版・日本の文学1	坊っちゃん		集英社	1973(昭和48)年	大日本印刷	
200	アイドル・ブックス・1	坊っちゃん		ポプラ社	1986(昭和61)年11月30日57刷 (初版:1971[昭和46]年4月5日)	須藤印刷	
201	世界の名作図書館 28	坊っちゃん 東海道中膝栗毛 狂言物語		講談社	1974(昭和49)年1月20日8刷 (初版:1967[昭和42]年6月10日)	図書印刷	
202	少年少女 世界文学全集 22	坊っちゃん 杜子春	夏目漱石、芥 川龍之介著 石井和夫編	学習研究社	1975(昭和50)年12月1日32刷 (初版:1975[昭和50]年12月1日)	恒陽社/ 中央精版印刷	
203	少年少女 世界の名作 日本編4	坊っちゃん ほか	相賀徹夫編	小学館	1975(昭和50)年1月25日初版	大日本印刷	

204	岩波版ほるぶ図書館文庫	坊っちゃん		岩波書店	1975(昭和50)年9月1日初版	法令印刷
205	少年少女日本文学全集	第2巻 坊っちゃん 銀の匙 沢子の嘘 哀しき少年	夏目漱石、中勘助、高浜虚子、上野弥生子著	講談社	1977(昭和52)年2月10日初版	凸版印刷
206	夏目漱石全集	第1巻 坊っちゃん、評伝(一)		日本メール・オーダー	1977(昭和52)年	小宮山印刷
207	世界の名著6	坊っちゃん		ポプラ社	1977(昭和52)年11月30日21刷(初版:1967[昭和42]年7月10日)	新興印刷製本
208		漱石名作選集 第二巻		ノーベル書房	1978(昭和53)年6月12日初版	凸版印刷
209		坊っちゃん		びじゅぶつく・ほしの	1979(昭和54)年3月 150部限定第38番刷(初版:1979[昭和54]年3月)	
210	近代日本文学	12 夏目漱石集(一)		筑摩書房	1979(昭和54)年11月30日初刷	精興社
211	旺文社文庫	坊っちゃん 他一編		旺文社	1979(昭和54)年9月20日改版発行刷(初版:1965[昭和40]年7月10日)	日之出印刷/中村印刷所
212	ポプラ社文庫	坊っちゃん		ポプラ社	1980(昭和55)年7月7刷(初版:1978[昭和53]年9月)	富士美術印刷
213	日本の名作文庫	坊っちゃん		ポプラ社	2003(平成15)年6月86刷(初版:1978[昭和53]年9月)	富士美術印刷
214	新潮文庫(草10C)	坊っちゃん		新潮社	1980(昭和55)年10月20日84刷(初版:1950[昭和25]年1月31日)	錦明印刷
215	ジュニア版・日本の文学1	坊っちゃん		金の星社	1980(昭和55)年4月	共栄印刷所
216	ジュニア版名作ライブラリー①	坊っちゃん	石井和夫編	学習研究社	1981(昭和56)年8月20日4刷(初版:1981[昭和56]年5月15日)	金羊社/太洋社
217	日本の文学 1	坊っちゃん		金の星社	1996(平成08)年7月35刷(初版:1973[昭和48]年4月)	三浦企画印刷
218	近代文学名作選	坊っちゃん		創隆社	1981(昭和56)年2月15日2刷(初版:1978[昭和53]年10月29日)	福田印刷
219	近代文学名作選	坊っちゃん		創隆社	1990(平成02)年4月26日3刷(初版:1978[昭和53]年10月29日)	森印刷
220		坊っちゃん 画譜		飯塚書房	1981(昭和56)年6月1日初版	榮泰印刷
221	フォア文庫	坊っちゃん		金の星社	1981(昭和56)年11月9刷(初版:1979[昭和54]年11月)	平河工業社/東京美術印刷
222	フォア文庫	坊っちゃん		金の星社	2005(平成17)年5月48刷(初版:1979[昭和54]年11月)	平河工業社/広研印刷
223	春陽堂少年少女文庫 世界の名作・日本の名作	1 坊っちゃん		春陽堂	19872(昭和57)年1月10日6刷(初版:1976[昭和51]年10月8日)	城北印刷製本センター
224	文芸文庫 日本近代・現代文学 2	坊っちゃん		勉誠社	1982(昭和57)年10月15日初版	東洋印刷
225		漱石文学全集 第二巻	伊藤整、荒正人編 装幀:津田青楓	集英社	1982(昭和57)年11月10日初版	大日本印刷
226	少年少女日本文学館	第二巻 坊っちゃん		講談社	1985(昭和60)年11月13日6刷(初版:1985[昭和60]年10月18日)	廣済堂
227	全小説全一冊	ザ・漱石		第三書館	1985(昭和60)年2月1日5刷(初版:1985[昭和60]年2月1日)	
228	全小説全一冊	増補 ザ・漱石		第三書館	1999(平成11)年6月1日初版(増補版)	
229	ちくま文庫	坊っちゃん	装幀:安野光雅	筑摩書房	1986(昭和61)年6月24日初版	三松堂印刷
230	ちくま文庫	夏目漱石全集2 倫敦塔 幻影の盾 坊っちゃん 他	装幀:安野光雅	筑摩書房	1987(昭和62)年10月27日初版	三松堂印刷
231	角川文庫	坊っちゃん	装幀:杉浦康平	角川書店	1986(昭和61)年8月30日改版45版刷(初版:1955[昭和30]年1月30日 51版:1966(昭和41)年4月30日)	新陽印刷(有)
232	—	井上ひさし選 児童文学名作全集1	日本ペンクラブ編 装丁:菊地信義	福武書店	1987(昭和62)年1月30日初版	大日本印刷
233	角川文庫	坊っちゃん	装幀:杉浦康平	角川書店	1997(平成09)年5月25日改版82版刷(初版:1955[昭和30]年1月30日)	新興印刷製本
234	角川文庫	坊っちゃん		角川書店	1998(平成10)年5月30日改版85版刷(初版:1955[昭和30]年1月30日 51版:1966(昭和41)年4月30日)	新興印刷製本
235	角川文庫	坊っちゃん		角川書店	2003(平成15)年5月25日改版92版刷(初版:1955[昭和30]年1月30日 51版:1966(昭和41)年4月30日)	新興印刷製本
236	角川文庫	坊っちゃん	装幀:杉浦康平	角川書店	1988(昭和63)年6月10日改版55版刷(初版:1955[昭和30]年1月20日 51版:1966(昭和41)年4月30日)	新興印刷製本
237	角川文庫	坊っちゃん	装幀:杉浦康平	角川書店	1995(平成7)年5月30日改版80版(初版:1955[昭和30]年1月20日)	新興印刷

238	中学生・高校生 必読名作シリーズ	坊っちゃん		旺文社	1988(昭和63)年3月1日初版	日之出印刷	
239	中学生・高校生 必読名作シリーズ	坊っちゃん		旺文社	1988(昭和63)年3月1日初版	日之出印刷	
240	中学生・高校生 必読名作シリーズ	坊っちゃん	新井政義編	旺文社	1989(昭和64)年重版刷 (初版:1988[昭和63]年3月1日)	日之出印刷	
241	岩波文庫	坊っちゃん		岩波書店	1989(平成01)年5月16日77刷 (初版:1939[昭和4]年7月5日 改訂77刷:1989(平成元)年5月16日)	法令印刷	
242	岩波文庫	坊っちゃん		岩波書店	2013(平成25)年2月5日114刷 (初版:1929[昭和4]年7月5日 改訂77刷:1989(平成元)年5月16日)	法令印刷	
243	岩波文庫	坊っちゃん		岩波書店	2013(平成25)年9月25日115刷 (初版:1929[昭和4]年7月5日 改訂77刷:1989(平成元)年5月16日)	法令印刷	
244	くれよん文庫	坊っちゃん		春陽堂書店	1989(平成01)年5月30日初版	城北印刷製 本センター	
245	漱石文学作品集 3	坊っちゃん		岩波書店	1990(平成02)年11月19日初版	法令印刷	
246	ちくま日本文学全集	夏目漱石		筑摩書房	1992(平成04)年1月20日初版	三松堂印刷	
247	子ども書房	坊っちゃん		子ども書房	1993(平成05)年12月25日初版	平河工業社	
248	漱石全集(第2回配本 全 28巻・別巻)	第二巻 倫敦塔ほか・ 坊っちゃん		岩波書店	1994(平成06)年1月10日初版	精興社	
249		定本 漱石全集 第二巻		岩波書店	2017(平成29)年1月11日初版	精興社	
250	文春文庫	こころ 坊っちゃん		文藝春秋	1996(平成08)年3月10日初版	凸版印刷	
251	集英社文庫	坊っちゃん		集英社	1998(平成10)年6月10日16刷 (初版:1991[平成3]年2月25日)	図書印刷	
252	集英社文庫	坊っちゃん		集英社	2011(平成23)年6月6日33刷 (初版:1991[平成3]年2月25日)	図書印刷	
253	集英社文庫	坊っちゃん		集英社	2013(平成25)年1月20日34刷 (初版:1991[平成3]年2月25日)	図書印刷	
254	少年少女名作シリーズ	坊っちゃん 上巻	中室雅幸編	中央出版	1998(平成10)年10月1日初版	エイエヌオフ セット	
255	少年少女名作シリーズ	坊っちゃん 下巻	中室雅幸編	中央出版	1998(平成10)年10月1日初版	エイエヌオフ セット	
256	六書校合定本	坊っちゃん		朝日書林	1999(平成11)年2月4日初版	東京書籍印刷	
257	偕成社文庫	坊っちゃん		偕成社	1998(平成10)年10月25刷 (初版:1998[平成10]年11月)	新興印刷製本	
258	小型工芸本	平成版 坊っちゃん	石毛恵美編	リンドバーグ	1999(平成11)年1月1日初版	精興社	
259	大活字文庫	16 坊っちゃん 1 (2分冊)	装幀:森 華代	大活字	2000(平成12)年8月25日初版	デジタルパブリッ シングサービス	
260	大活字文庫	16 坊っちゃん 2 (2分冊)	装幀:森 華代	大活字	2000(平成12)年8月25日初版	デジタルパブリッ シングサービス	
261	漱石雑誌小説復刻全集	第三巻 坊っちゃん	解説:山下浩・ 渡部江里子	ゆまに書房	2001(平成13)年1月24日初版	モリモト印刷	
262	岩波少年文庫 554	坊っちゃん		岩波書店	2003(平成15)年4月4日2刷 (初版:2002[平成14]年5月17日)	法令印刷	
263	新潮社文庫(な-1-3)	坊っちゃん		新潮社	2003(平成15)年5月30日117刷 (初版:1950[昭和25]年1月31日 116刷改版:2003(平成15)年4月25日)	錦明印刷	
264	新潮社文庫(な-1-3)	坊っちゃん		新潮社	1992(平成04)年5月30日101刷 (初版:1950[昭和25]年1月31日)	錦明印刷	
265	新潮社文庫(な-1-3)	坊っちゃん	装幀: 杉浦康平	新潮社	1995(平成07)年5月30日105刷 (初版:1950[昭和25]年1月31日)	錦明印刷	
266	ワイド版岩波文庫 235	坊っちゃん		岩波書店	2003(平成15)年12月16日初版	法令印刷	
267		坊っちゃん		日本文学館	2003(平成15)年4月15日初版	デジタルパブリッ シングサービス	
268	週刊デル・ブラド ミニブックコレクション	坊っちゃん		デル・ブラド	2003(平成15)年初版		
269	全小説全一冊	現代表記版 ザ・漱石		第三書館	2004(平成16)年11月10日初版		
270	角川文庫	坊っちゃん	装幀: 杉浦康平	角川書店	2004(平成16)年5月25日改版初版 (初版:1955[昭和30]年1月20日)	旭印刷	
271	角川文庫	坊っちゃん	装幀: 杉浦康平	角川書店	2011(平成23)年5月30日改版13版 刷(初版:1955[昭和30]年1月20日 改版:2004(平成16)年6月25日)	旭印刷	
272	角川文庫	坊っちゃん	装幀: 杉浦康平	角川書店	2010(平成22)年5月15日改版12版 刷(初版:1955[昭和30]年1月20日 改版:2004(平成16)年6月25日)	旭印刷	
273	—	斉藤孝の音読破I坊っちゃん	斎藤孝編	小学館	2004(平成16)年7月1日初版	三晃印刷	
274	ダイソー文学シリーズ①	夏目漱石I		大創出版	2004(平成16)年初版		
275	デカ文字文庫	坊っちゃん		舵社	2005(平成17)年8月10日初版	大日本印刷	

276	フロンティア文庫 1	坊っちゃん		フロンティアニセソ	2005(平成17)年2月28日3刷	プリントワン	
277	フロンティア文庫 1	坊っちゃん		フロンティアニセソ	2005(平成17)年2月28日2刷	プリントワン	
278	ポプラポケット文庫375-1	坊っちゃん		ポプラ社	2005(平成17)年10月初版	図書印刷	
279	グレスレス 眼鏡無用	大活字版 ザ・漱石(上巻)		第三書館	2006(平成18)年4月10日初版		
280	—	翻刻 坊っちゃん	愛媛新聞メディアセンター編	愛媛新聞社	2006(平成18)年10月6日初版	セキ	
281	角川文庫	坊っちゃん	装幀: 杉浦康平	角川書店	2007(平成19)年5月20日改版8版刷 (初版:1955[昭和30]年1月20日 改版:2004(平成16)年6月25日)	旭印刷	
282	角川文庫	坊っちゃん		角川書店	2015(平成27)年8月30日改版23版 刷(初版:1955[昭和30]年1月20日 改版:2004(平成16)年6月25日)	旭印刷	
283	別冊宝島 名作クラシックノベル	夏目漱石	西袋豊・河上 晋・花本智奈 美編	宝島社	2008(平成20)年12月22日初版	Estrage Technology Co., Ltd.	
284	ケータイ名作文学	坊っちゃん		ゴマブックス	2008(平成20)年9月10日初版	中央精版印刷	
285	SDP Bunko	坊っちゃん		SDP	2009(平成21)年1月25日初版	図書印刷	
286	ぶんか社文庫	坊っちゃん	装幀:三枝教之	ぶんか社	2009(平成21)年7月1日初版	萩原印刷	
287	名作旅訳文庫	坊っちゃん	スタンド・アンド・ ファイト編	JTBパブリッ シング	2010(平成22)年1月1日初版	大日本印刷	
288	21世紀版少年少女 日本文学館2	坊っちゃん		講談社	2009(平成21)年2月23日初版	廣済堂	
289	まんが日本の文学	坊っちゃん		金の星社	2011(平成23)年3月初版	三晃印刷	
290	集英社みらい文庫	坊っちゃん	絵優	集英社	2011(平成23)年5月7日初版	凸版印刷	
291	フロンティア文庫	知識の常備薬001 坊っちゃん		フロンティアニセソ	2011(平成23)年10月1日初版	プリントワン	
292	宝島社文庫	読んでおきたいベスト集! 夏目漱石	別冊宝島編集 部編	宝島社	2011(平成23)年7月21日初版	廣済堂	
293	すくりーん文庫	坊っちゃん		スクリーン	2011(平成23)年5月20日 (初版:1999[平成11]年9月3日)	スクリーン	
294	新潮社文庫(な-1-3)	坊っちゃん		新潮社	2012(平成24)年5月10日145刷 (初版:1950[昭和25]年1月31日 144刷改版:1950(平成24)年2月10日)	錦明印刷	
295	新潮社文庫(な-1-3)	坊っちゃん		新潮社	2012(平成24)年6月10日146刷 (初版:1950[昭和25]年1月31日)	錦明印刷	
296	新潮社文庫(な-1-3)	坊っちゃん		新潮社	2013(平成25)年8月20日148刷	錦明印刷	
297	新潮社文庫(な-1-3)	坊っちゃん		新潮社	2014(平成26)年3月25日149刷 (初版:1929[昭和25]年1月31日)	錦明印刷	
298	新潮社文庫(な-1-3)	坊っちゃん		新潮社	2009(平成21)年5月25日139刷 (初版:1950[昭和25]年1月31日)	錦明印刷	
299	新潮文庫	坊っちゃん		新潮社	2016(平成28)年5月30日156刷 (初版:1929[昭和25]年1月31日 144刷改版:2012(平成24)年2月10日)	錦明印刷	
300	現代語で読む名作シリーズ④	現代語で読む 坊っちゃん	小宮山民人編	理論社	2012(平成24)年11月初版	図書印刷	
301	海王社文庫	坊っちゃん 朗読CD付		海王社	2012(平成24)年11月10日初版	図書印刷	
302		坊っちゃん		Jiahu Books	2013年		
303	小学館文庫	坊っちゃん		小学館	2013(平成25)年1月9日初版	中央精版印刷	
304	角川つばさ文庫	坊っちゃん		角川書店	2013(平成25)年5月15日初版	暁印刷	
305	エルパカ文庫byASAHI	文字が大きい 坊っちゃん		朝日新聞出版	2014(平成26)年6月30日初版	大日本印刷	
306	ネクストパブリッシング	坊っちゃん		青空文庫POD シニア版	2015(平成27)年12月31日初版 (Ver.1.0 PDF版)		
307		坊っちゃん	挿絵:桜井忠温	愛媛新聞社	2015(平成27)年2月14日		
308		坊っちゃん		ゴマブックス	2016(平成28)年7月20日初版		
309		大活字シリーズ 坊っちゃん		ゴマブックス	2016(平成28)年7月20日初版		
310		字が大きくハッキリ見える シニアの目にやさしい 坊っちゃん		ゴマブックス	2016(平成28)年7月30日初版		
311		Botchan	Yasotaro Morri訳	Gutenberg Book	2005年9月初版		
312	小学館ジュニア文庫	世界名作シリーズ 坊っちゃん	竹中はる美編 絵:日本アニメーション	小学館	2017(平成29)年3月27日初版	中央精版印刷	
313	RAKU名作文学セレクション	坊っちゃん 第1-5巻		楽クリエイティング	2017(平成29)年5月1日初版		
314		坊っちゃん		クレーク・アンド・ リバー社	2017(平成29)年3月5日初版		
315	漱石+祖父江慎 道後館新聞	独特文字組み 坊っちゃん		道後館	2017(平成29)年9月1日試作版第0号	愛媛新聞社	
316	祖父江慎「松山坊っちゃん」 ポストカード	坊っちゃん		ニューアートデ ィュージョン	2018(平成30年)8月	凸版印刷	

下段

	シリーズ名	タイトル	著者・編集者 ・装丁	出版社	出版情報	印刷所
317		鶉籠		春陽堂	1907(明治40)年1月1日初版	帝国印刷
318	名所復刻 漱石文学館	鶉籠 春陽堂版		日本近代文学館	1975(昭和50)年11月15日初版	
319	特選 名著復刻全集 近代文学館	鶉籠 春陽堂版		日本近代文学館	1976(昭和51)年7月1日第7刷	
320		合本籠虞、美人草		春陽堂	1914(大正4)年5月10日14刷 (初版:1913[大正2]年12月10日)	
321		漱石全集第二巻		岩波書店	1920(大正9)年1月25日初版	東京築地活版製造所
322	—	漱石全集 第二巻		漱石全集刊行會	1924(大正13)年10月5日初版	三秀舎
323	現代日本文学全集19	夏目漱石集	装幀:杉浦非水	改造社	1927(昭和2)年6月5日初版	
324		漱石全集 第二巻 短編小説集 上巻		岩波全集刊行會	1928(昭和3)年8月5日初版	凸版印刷
325	改造文庫 第二部 第四十篇	坊っちゃん		改造社	1929(昭和4)年4月10日100刷 (初版:1929[昭和4]年2月3日)	日清印刷
326	改造文庫 第二部 第四十篇	坊っちゃん		改造社	1929(昭和4)年2月3日初版	日清印刷
327	改造文庫 第二部 第四十篇	坊っちゃん		改造社	1930(昭和5)年9月10日140刷 (初版:1929[昭和4]年2月3日)	福山印刷製本所印刷
328	改造文庫 第二部 第四十篇	坊っちゃん		改造社	1931(昭和6)年4月28日160刷 (初版:1929[昭和4]年2月3日)	福山印刷製本所印刷
329		夏目漱石集 中巻		新潮社	1950(昭和25)年8月31日初版	二光印刷
330		夏目漱石集 下巻		新潮社	1950(昭和25)年9月30日初版	二光印刷
331	普及版第一回配本	夏目漱石全集・第一巻		創藝社	1954(昭和29)年10月31日初版	朝日印刷
332	五代名作選集	坊っちゃん		國民出版社	1954(昭和29)年1月25日初版	
333	名作物語文庫	坊っちゃん物語	吉田與志雄著	大日本雄弁会 講談社	1955(昭和30)年初版	常磐印刷所
334	新日本少年全集2 田中豊太郎 山本和夫 馬場正男編	② 夏目漱石集		ポプラ社	1964(昭和39)年5月10日初版	新興印刷製本
335	世界名作文庫・131	坊っちゃん わが輩は猫である	浅野晃著	偕成社	1957(昭和32)年10月20日5刷 (初版:1956[昭和31]年2月10日)	進行舎印刷所
336	日本文学全集 5	夏目漱石		新潮社	1976(昭和51)年7月10日11刷 (初版:1976[昭和51]年7月10日)	金羊社
337	漱石全集(全16冊)	第一巻 坊っちゃん他	伊藤整、 吉田精一編	角川書店	1960(昭和35)年8月25日初版	中光印刷
338	筑摩現代文学体系	12 夏目漱石集(一)		筑摩書房	1981(昭和56)年12月15日初版	東京連合印刷
339	日本の名作・世界の名作	坊っちゃん	石森延男、 山本和夫編	盛光社	1968(昭和43)年8月20日	加藤印刷
340	少年少女世界名作全集7	坊っちゃん		鶴書房		大盛印刷
341	こども名作全集	8 坊っちゃん		日本メール・オー ダー	1974(昭和49)年8月10日9刷 (初版:1972[昭和47]年1月25日)	小宮山印刷
342		夏目漱石全集 第二巻		春陽堂書店	1965(昭和40)年4月15日初版	中野印刷
343		夏目漱石全集 第三巻		春陽堂書店	1965(昭和40)年8月31日初版	中野印刷
344	少年少女世界名作全集32	坊っちゃん		講談社	1960(昭和35)年10月12日初版	大日本印刷
345	漱石全集	漱石全集 第二巻		岩波書店	1984(昭和59)年11月22日3刷 (初版:1965[昭和40]年12月9日)	精興社
346	中一文庫	坊っちゃん	文:河合三郎	旺文社	1966(昭和41)年4月1日初版(付録)	
347	アイドル・ブックス・1	坊っちゃん		ポプラ社	1974(昭和49)年2月25日6刷 (初版:1971[昭和46]年4月5日)	中光印刷
348	日本文学全集(全88巻)	15 夏目漱石集(一)	伊藤整、井上靖、 中野好夫、丹羽 文雄、平野謙編 解説:荒正人	集英社	1975(昭和50)年6月20日5刷 (初版:1972[昭和47]年2月8日)	大日本印刷
349	新学社文庫 1	坊っちゃん		新学社	1969(昭和44)年6月15日2刷 (初版:1968[昭和43]年6月15日)	天理時報社印刷
350	新学社文庫 1	坊っちゃん		新学社	1972(昭和47)年4月1日4刷 (初版:1968[昭和43]年6月15日)	天理時報社印刷
351	新学社文庫特装版 1	坊っちゃん		新学社	1968(昭和43)年	天理時報社印刷
352	新学社文庫特装版 1	坊っちゃん		新学社	1968(昭和43)年	大日本印刷
353		坊っちゃん		新学社	1982(昭和57)年6月1日重版刷	
354	新学社文庫 1	坊っちゃん		新学社	1986(昭和61)年6月1日重版刷 (初版:1968[昭和43]年6月15日)	天理時報社印刷
355	新学社文庫 1	坊っちゃん		新学社	1988(昭和63)年6月1日重版刷 (初版:1968[昭和43]年6月15日)	天理時報社印刷
356	新学社文庫 1	坊っちゃん		新学社	1990(平成02)年6月1日重版刷 (初版:1968[昭和43]年6月15日)	天理時報社印刷
357	日本の名作 世界の名作 9	坊っちゃん	石森延男、 山本和夫編	盛光社	1968(昭和43)年8月20日	加藤印刷

358	日本現代文学全集	23 夏目漱石集(一)	装帧: 蟹江征治	講談社	1980(昭和55)年5月26日改訂版1刷 (初版:1961[昭和36]年3月20日)	凸版印刷
359	少年少女 世界の名作・7	坊っちゃん わが輩は猫である	浅野晃著	偕成社	1969(昭和44)年9月20日	若葉印刷所
360	明治図書中学生文庫 1	坊っちゃん・文鳥		明治図書出版	1984(昭和59)年5月10日10刷 (初版:1970[昭和45]年6月1日)	
361	明治図書中学生文庫 1	坊っちゃん・文鳥		明治図書出版	1987(昭和62)年6月15日13刷 (初版:1970[昭和45]年6月1日)	
362	明治図書中学生文庫 1	坊っちゃん・文鳥		明治図書出版	1996(平成08)年6月15日15刷 (初版:1970[昭和45]年6月1日)	
363	名著とその人	坊っちゃんと夏目漱石	長谷川泉編	さ・えら書房	1970(昭和45)年6月10日初版	須藤印刷
364	—	夏目漱石直筆原稿 坊っちゃん 付別冊		番町書房	1970(昭和45)年4月15日 1563/2000冊	日本写真印刷
365	ホーム・スクール版/ 日本の名作文学	1 坊っちゃん		偕成社	1969(昭和44)年8月15日	新陽印刷(有)
366	ジュニア版日本文学名作 選4	坊っちゃん		偕成社	1975(昭和50)年7月38刷 (初版:1964[昭和39]年10月)	新陽印刷(有)
367	少年少女世界の名作・7	坊っちゃん わが輩は猫である		偕成社	1972(昭和47)年	若葉印刷所
368	少年少女講談社文庫	坊っちゃん	福田清人編	講談社	1975(昭和50)年10刷 (初版:1972[昭和47]年7月12日)	豊国オフセット/凸版印刷
369	少年少女世界名作 ライブラリー 14	坊っちゃん ほか	宮明正紀、亀岡邦 生、伊藤たつ子、 松本久美子編	教育図書出版 山田書院	1973(昭和48)年	凸版印刷
370	ポニーカセット文庫シリーズ エリート	坊っちゃん		ポニー	1987(昭和62)年 (初版:1987[昭和62]年)	
371	マイコーチカセット名作 ライブラリー①	坊っちゃん		学習研究社	1987(昭和62)年11月1日 (初版:1987[昭和62]年11月1日)	
372	カセット読本	～坊っちゃん・総集編～		サウンド東京		
373	英語できく世界の名作5	坊っちゃん		日本放送出版 協会	1990(平成02)年 (初版:1990[平成2]年)	
374	NHK教育 ビデオ文学館8	坊っちゃん 前編		NHKサービスセ ンター 講談社		
375	NHK教育 ビデオ文学館9	坊っちゃん 後編		NHKサービスセ ンター 講談社		
376	新潮カセットブック	夏目漱石 坊っちゃん 上巻		新潮社	1994(平成06)年12月10日 (初版:1994[平成6]年12月10日)	錦明印刷
377	新潮カセットブック	夏目漱石 坊っちゃん 下巻		新潮社	1994(平成06)年12月10日 (初版:1994[平成6]年12月10日)	錦明印刷
378	サウンド文学館 パルナス	ステレオドラマ 坊っちゃん		学習研究社	1995(平成07)年 (初版:1995[平成7]年)	
379	新潮CD	夏目漱石 坊っちゃん 上巻		新潮社	1997(平成09)年	
380	新潮CD	夏目漱石 坊っちゃん 下巻		新潮社	1997(平成09)年	
381	新潮CD	坊っちゃん(上)		新潮社	1997(平成09)年10月20日 (初版:1997[平成9]年10月20日)	錦明印刷
382	新潮CD	坊っちゃん(下)		新潮社	1997(平成09)年10月20日 (初版:1997[平成9]年10月20日)	錦明印刷
383	The CD Club	夏目漱石 坊っちゃん		新潮社	1998(平成10)年	
384		文学 音のカタログ		新潮社	1999(平成11)年 (初版:1999[平成11]年)	
385	カセット文庫シリーズ	坊っちゃん(総集編)		エフ・アイ・シー		
386	朗読日本文学体系3 近代 文学編 日本文学の巨星	夏目漱石「坊っちゃん」		新潮社	2001(平成13)年 (初版:2001[平成13]年)	
387	名作を聴く	近代小説集2		キング・レコード	2006(平成18)年9月6日初版	
388	青い鳥文庫(新装版)	坊っちゃん	福田清人編	講談社	2007(平成19)年10月31日初版	図書印刷
389		聞いて楽しむ日本の名作	ユーキャン編	ユーキャン	2008(平成20)年 (初版:2008[平成20]年)	
390	Vol.77	坊っちゃん		Pan Rolling/ digigi		
391	アイ文庫	坊っちゃん		KOTONOHA		
392	耳で聴く本 オーディオブックCD	坊っちゃん		Pan Rolling/ digigi		
393	10歳までに読みたい 日本名作	坊っちゃん	絵:城咲綾	学研プラス	2017(平成29)年12月26日初版	廣済堂
394	みんなで朗読シリーズ Vol.2	坊っちゃん 上巻	演出・監督:勝 新太郎	みんなで朗読シ リーズ製作委員会	2017(平成29)年	
395	耳で聴く本 オーディオブック Vol.87	坊っちゃん		Pan Rolling/ digigi		

『坊っちゃん』資料編

清と菓子

	作家名	作品名	発行元	制作年	技法／素材	寸法(cm)	所蔵者
396		本家笹船包装紙	高橋孫左衛門商店		印刷／紙(3種)	18.4×25.7他	高橋孫左衛門商店
397		本家笹船包装紙	高橋孫左衛門商店		印刷／紙	18.5×21.2	祖父江 慎
398		元祖紅梅焼しおり型ラベル	梅林堂総本舗		印刷／紙	8.5×6.0	祖父江 慎

伊予鉄道

	作家名	作品名	発行元	制作年	技法／素材	寸法(cm)	所蔵者
399		伊豫道後温泉場真景及古跡名所		1895(明治28)年	印刷／紙	38.4×53.6	愛媛県歴史文化博物館
400		「伊予鉄道図面」(愛媛県行政資料『鉄軌策道』より)	伊予鉄道	1886-88(明治19-21)年	印刷／紙／冊子	23.7×16.0	愛媛県立図書館
401		発車時間表／料金表(愛媛県行政資料『鉄軌策道』より)	伊予鉄道	1892(明治25)年	印刷／紙	30.7×25.0	愛媛県立図書館
402		道後鉄道時刻表(愛媛県行政資料『鉄軌策道』より)	道後鉄道	1895(明治28)年7月	印刷／紙／冊子	21.2×32.8	愛媛県立図書館
403		伊予鉄道一号機関車		1888(明治21)年	写真／紙(複製)		画像提供:松山市立子規記念博物館

きどや

	作家名	作品名	発行元	制作年	技法／素材	寸法(cm)	所蔵者
404		「城戸シゲヤ 岱洲館」(上田利十郎編『商工技芸愛媛魁』)	川崎源太郎	1886(明治19)年	印刷／紙／和綴じ本	8.0×17.5	坂の上の雲ミュージアム
405		伊予松山きどや旅館貴賓室		1907-18(明治40-大正7)年頃	印刷／紙／葉書	24.2×9.0	愛媛県歴史文化博物館 寄託(灘口コレクション)
406		海南新聞記事「広報(四月十日夏目金之助 教員委嘱の記事)」(明治28年4月11日)	海南新聞社	1895(明治28)年	印刷／紙／新聞(複製)		愛媛新聞社

愛媛県尋常中学校

	作家名	作品名	発行元	制作年	技法／素材	寸法(cm)	所蔵者
407		愛媛県立松山中学校職員生徒(卒業記念写真)		1896(明治29)年	写真／紙／額	35.5×43.2	愛媛県立松山東高等学校
408	夏目漱石	欠勤願い(明治29年4月6日付)		1896(明治29)年	墨／紙	本紙:16.0×48.0封筒:18.0×7.0	愛媛県立松山東高等学校
409		愛媛県立尋常中学校		1897(明治30)年頃	写真／紙／額	20.5×26.0	愛媛県立松山東高等学校
410		愛媛県立松山中学校運動場		1900(明治33)年11月	写真／紙／額	20.0×30.0	愛媛県立松山東高等学校
411		愛媛県立松山中学校			写真／紙／額	20.5×26.0	愛媛県立松山東高等学校
412		愛媛県立松山中学校		1903(明治36)年	写真／紙／額	20.5×26.0	愛媛県立松山東高等学校
413		愛媛県立松山中学校		明治末期	写真／紙／額	20.5×26.0	愛媛県立松山東高等学校

つぼや菓子舗

	作家名	作品名	発行元	制作年	技法／素材	寸法(cm)	所蔵者
414		つぼや説明書き	つぼや菓子舗	昭和初期	印刷／紙／葉書	15.0×10.0	つぼや菓子舗
415		漱石の坊ちゃん絵葉書(団子・道後温泉)		昭和初期	印刷／紙／絵葉書(2枚)	各14.0×9.0	つぼや菓子舗
416		「元祖 坊っちゃん団子 道後温泉 つぼや菓子舗」カード	つぼや菓子舗	昭和初期	印刷／紙	12.5×8.0	岩波書店(鎌倉幸光 旧蔵)
417		「夏目漱石先生の食った 道後名物 坊っちゃん団子」カード	つぼや菓子舗	昭和初期	印刷／紙	10.6×6.8	岩波書店(鎌倉幸光 旧蔵)
418		「道後名物 漱石の坊っちゃん団子 つぼや菓子舗」包装紙	つぼや菓子舗	昭和初期	印刷／紙	35.0×51.5	岩波書店(鎌倉幸光 旧蔵)
419		「道後名物 漱石の坊っちゃん団子 つぼや菓子舗」包装紙	つぼや菓子舗	昭和初期	印刷／紙	27.0×19.3(四つ折)	岩波書店(鎌倉幸光 旧蔵)
420		「漱石の坊ちゃん団子」ラベル付き包装材	つぼや菓子舗	昭和初期	ラベル、経木	28.8×21.0	岩波書店(鎌倉幸光 旧蔵)
421	好川恒方	水月焼き 坊っちゃん団子の湯呑 他	つぼや菓子舗	昭和初期	陶器、木	急須:16.0×13.0×11.0 急須敷き:14.5×14.5×2.8 菓子皿:14.5×12.3×3.5 湯呑(茶)(3個):各7.5×7.5×6.8 湯呑(白):7.5×7.5×6.1	つぼや菓子舗

道後温泉本館

	作家名	作品名	発行元	制作年	技法／素材	寸法(cm)	所蔵者
422	伊佐庭震庵	一行書 勝		1900 (明治33)年	絹本墨書／軸	98.0×82.0	愛媛県美術館
423	高浜虚子	『伊予の湯』原稿			墨／紙／冊子 (2冊の内1冊)	27.2×19.7	愛媛県美術館
424	九代了入	樂焼 茶碗		江戸後期	陶器	12.5×12.5×8.0	松山市道後温泉事務所
425	八代中村宗哲	コマ銘々皿		明治時代	漆器(5点組)	各13.5×13.5×2.5	松山市道後温泉事務所
426		道後温泉入浴料広告下書		1894(明治27)年4月	墨／紙	19.3×19.4	松山市道後温泉事務所
427		道後温泉入浴料広告		1894(明治27)年4月	墨／紙	27.6×56.4	松山市道後温泉事務所
428		道後温泉浴券 二之湯 明治廿二年六月限		1889(明治22)年	印刷／紙	7.0×7.0	松山市道後温泉事務所
429		道後温泉浴券 三之湯 明治廿二年六月限		1889(明治22)年	印刷／紙	7.0×7.0	松山市道後温泉事務所
430		優待券 野本タネ殿	道後湯之町役場温泉事務所		墨書・焼印／木	6.7×4.5×0.7	松山市道後温泉事務所
431		一之湯 ユモト通鑑	道後湯之町役場温泉事務所		焼印／木	9.0×6.0×0.6	松山市道後温泉事務所
432		二之湯 ユモト通鑑	道後湯之町役場温泉事務所		焼印／木	9.0×5.8×0.6	松山市道後温泉事務所
433		三之湯 ユモト通鑑	道後湯之町役場温泉事務所		焼印／木	9.0×6.0×0.7	松山市道後温泉事務所
434		二之湯 ユモト通鑑	道後湯之町役場温泉事務所		焼印／木	8.8×5.6×0.7	松山市道後温泉事務所
435		通鑑 松山憲兵分隊用	道後湯之町役場温泉事務所		墨書・焼印／木	6.7×4.5×0.7	松山市道後温泉事務所
436		通関	道後湯之町役場温泉事務所		墨書・焼印／木	6.7×4.5×0.7	松山市道後温泉事務所
437		道後湯之町町民入浴心得	道後湯之町長 中川鼎實	1915年(大正4)年8月	印刷／紙	27.0×46.2	松山市道後温泉事務所 寄託(古茂田幹 蔵)
438		愛媛県松山市附近道後湯ノ町ノ道後温泉場撮影		1894-97 (明治27-30)年頃	写真／紙	6.5×10.6	坂の上の雲ミュージアム
439		[明治36年 松山市道後、松山城、三津浜写真]より 道後温泉本館		1903(明治36)年頃	写真／紙	11.0×17.0	愛媛県立図書館
440		愛媛 道後湯の町(温泉旅舎)	長野電波技術研究所附属図書館	1894-1897 (明治27-30)年頃	印刷／紙／葉書	14.8×10.0	松山市道後温泉事務所 寄託(古茂田幹 蔵)
441		[道後温泉本館]	神泉堂	1906(明治39)年頃	印刷／紙／葉書	14.1×9.0	松山市道後温泉事務所 寄託(古茂田幹 蔵)
442		伊予道後温泉養生湯第三室 及ヒ札売場	神泉堂	1913(大正2)年頃	印刷／紙／葉書	14.0×9.0	松山市道後温泉事務所 寄託(古茂田幹 蔵)
443		伊予道後温泉神の湯		1917(大正6)年頃	印刷／紙／葉書	14.1×9.0	松山市道後温泉事務所 寄託(古茂田幹 蔵)
444		伊予道後温泉第六室及札売場		1923(大正12)年以前	印刷／紙／葉書	14.0×9.0	松山市道後温泉事務所 寄託(古茂田幹 蔵)
445		伊予道後温泉男入浴場		明治・大正期	印刷／紙／葉書	14.2×9.0	松山市道後温泉事務所 寄託(古茂田幹 蔵)
446		伊予道後温泉場二階		明治・大正期	印刷／紙／葉書	14.3×9.0	松山市道後温泉事務所 寄託(古茂田幹 蔵)
447		伊予道後温泉皇族御室		明治・大正期	印刷／紙／葉書	14.2×9.1	松山市道後温泉事務所 寄託(古茂田幹 蔵)
448		道後名所	Kaigaken kyukai	明治・大正期	印刷／紙／葉書	13.7×8.1	松山市道後温泉事務所 寄託(古茂田幹 蔵)
449		赤色板ガラス		1894(明治27)年頃	ガラス	25.8×20.3×0.2	松山市道後温泉事務所
450		金赤復元板ガラス		明治後期から昭和初期	ガラス	20.1×18.1×0.3	松山市道後温泉事務所
451		緑色プレス板ガラス		1894(明治27)年頃	ガラス	20.1×18.2×0.4	松山市道後温泉事務所

愛媛県尋常師範学校

	作家名	作品名	発行元	制作年	技法／素材	寸法(cm)	所蔵者
452		愛媛県松山市愛媛県尋常師範学校正面撮影		1894-97 (明治27-30)年頃	写真／紙	6.5×10.6	坂の上の雲ミュージアム
453		愛媛県松山市愛媛県尋常師範学校斜側面撮影		1894-97 (明治27-30)年頃	写真／紙	6.5×10.6	坂の上の雲ミュージアム
454		愛媛県松山市歩兵廿二連隊濠内練兵場ヨリ愛媛県尋常師範学校ヲ望ム		1894-97 (明治27-30)年頃	写真／紙	6.5×10.6	坂の上の雲ミュージアム
455		愛媛県立師範学校		1907-18 (明治40-大正7)年頃	印刷／紙／葉書	24.2×9.0	愛媛県歴史文化博物館 寄託(灘口コレクション)

海南新聞

	作家名	作品名	発行元	制作年	技法／素材	寸法(cm)	所蔵者
456		海南新聞(明治39年1月合本)	海南新聞社	1906(明治39)年	印刷／紙／新聞	55.3×40.0	愛媛県立図書館

かど半旅館

	作家名	作品名	発行元	制作年	技法／素材	寸法(cm)	所蔵者
457	河東碧梧桐	かど半旅館			紙本墨書	34.4×138.0	かど半本舗
458		「かど半旅館」パンフレット	かど半旅館	1965(昭和40)年頃	印刷／紙	19.1×18.7	個人

東京市街鉄道

	作家名	作品名	発行元	制作年	技法／素材	寸法(cm)	所蔵者
459		市区改正東京全図 各電車及鉄道案内	東京文陽堂、 いろは書房	1907(明治40)年	印刷／紙	外袋:26.8×13.5 本紙:54.9×78.0	個人

『坊っちゃん』原作作品関連資料、『漱石全集』、道後・松山観光案内 舞台・テレビ・映画の『坊っちゃん』

	シリーズ名	作品名	発行元	制作年	技法／素材	寸法(cm)	所蔵者・ 画像提供	備考
460		「誌上舞臺中継・有楽座五月公演 坊ちゃん」		1927(昭和2)年頃	印刷／紙	22.0×14.6	岩波書店(鎌倉幸光 旧蔵)	
461		「急告!夏目の坊っちゃん来る。山本嘉次郎監督 坊っちゃん」	P.C.L.	1935(昭和10)年	印刷／紙	19.5×26.5	祖父江 慎	後期
462		「坊っちゃん 山本嘉次郎監督 七日封切」ポスター		1935(昭和10)年	印刷／紙	78.8×26.9	岩波書店(鎌倉幸光 旧蔵)	
463		「坊っちゃん 未完成交響楽 28日ヨリ 本郷座」ポスター	本郷座	1935(昭和10)年	印刷／紙	54.2×38.3	岩波書店(鎌倉幸光 旧蔵)	
464		「夏目漱石原作、山本嘉次郎監督 坊っちゃん」ポスター	P.C.L.映画製作所	1935(昭和10)年	印刷／紙	109.5×79.2	岩波書店(鎌倉幸光 旧蔵)	
465	日本映画傑作全集	山本嘉次郎監督 坊っちゃん VHS	東宝		印刷／紙、ビデオテープ	20.1×11.8×3.0	祖父江 慎	
466		新派「坊っちゃん」上演写真帖	—	1935(昭和10)年	アルバム	22.5×19.6×2.7	岩波書店(鎌倉幸光 旧蔵)	
467		代表的三大名作の上演 全派総動員 昭和十年七月興行	歌舞伎座	1935(昭和10)年	印刷／紙		岩波書店(鎌倉幸光 旧蔵)	前期
468		「坊っちゃん」映画台本	—	1935(昭和10)年	アルバム	30.5×24.3×5.0	岩波書店(鎌倉幸光 旧蔵)	
469		「代表的三大名作の上演 第一 己が罪 第二 二筋道 第三 坊っちゃん」マッチラベル	歌舞伎座	1935(昭和10)年	印刷／紙	5.7×3.7×0.8	岩波書店(鎌倉幸光 旧蔵)	
470		「高級喫茶 坊ちゃん」マッチラベル	高級喫茶 坊ちゃん	昭和初期	印刷／紙	4.8×5.5×1.0	岩波書店(鎌倉幸光 旧蔵)	
471		「古川ロッパ主演 坊ちゃん」マッチラベル	有楽座	昭和初期	印刷／紙	5.7×3.7×1.0	岩波書店(鎌倉幸光 旧蔵)	
472		「P.C.L.オールトーカー 坊っちゃん 二月一日封切」(「敷島倶楽部 週報 No.95」)	共英社	1935(昭和10)年1月27日	印刷／紙	15.5×11.8	祖父江 慎	後期
473		「7日ヨリ昭シネ 坊っちゃん 電話新撰組」ポスター		1935(昭和10)年頃	印刷／紙	78.8×26.4	岩波書店(鎌倉幸光 旧蔵)	
474		「坊っちゃん 夏目漱石原作 山本嘉次郎演出 名作の再登場!! 28日公開/都會の雷鳴 エドワード・G・ロビンソン主演」ポスター		1937(昭和12)年以降	印刷／紙	28.2×33.3	岩波書店(鎌倉幸光 旧蔵)	
475		「宝塚の舞台にかけてみたい 名作品 坊ちゃん」			印刷／紙	33.5×25.2	岩波書店(鎌倉幸光 旧蔵)	
476		『日の出』五月号 新連載長編 新編坊っちゃん 尾崎士郎	新潮社	1938(昭和13)年	印刷／紙	22.0×14.5	岩波書店(鎌倉幸光 旧蔵)	前期
477		「(丸山誠治監督)夏目漱石の坊っちゃん NEWS」	松竹	1953(昭和28)年	印刷／紙	26.4×18.4	祖父江 慎	後期
478		「丸山誠治監督 坊っちゃん」パンフレット	京橋出版	1953(昭和28)年	印刷／紙／冊子	25.0×18.0	祖父江 慎	後期
479		「新鮮な感覚最高の作品」東宝映画ポスター	東宝	1953(昭和28)年	印刷／紙	24.4×48.0	祖父江 慎	後期
480	8ミリ映画 日本文学名作シリーズ	丸山誠治監督 坊っちゃん	東宝		印刷／紙、レコード	21.5×21.5×1.5	祖父江 慎	前期
481		番匠義彰監督 坊っちゃん(台本)	松竹	1958(昭和33)年	印刷／紙／冊子	24.5×17.5×2.0	祖父江 慎	前期

482		「番匠義彰監督 坊っちゃん」フィルム	松竹	1958(昭和33)年	フィルム・紙	24.0×17.5×0.3	祖父江 慎	後期
483		夏目漱石の「坊っちゃん」原作・夏目漱石 監督・番匠義彰 堂々1日より公開	松竹	1958(昭和33)年	印刷／紙	35.3×51.5	祖父江 慎	
484		完璧の適役を得て贈る松竹大 型総天然色痛快喜劇! 夏目漱 石の「坊っちゃん」 監督・番匠 義彰 ポスター	松竹	1958(昭和33)年	印刷／紙	72.5×51.5	祖父江 慎	
485		「漱石もびっくり こいつは面白 い坂本九の爆笑感激の大活躍! 坊っちゃん」パンフレット	日映	1966(昭和41)年	印刷／紙／冊子	25.6×18.0	祖父江 慎	後期
486		漱石もびっくりする痛快爆笑大 作! 「坊っちゃん」市村泰一監督 ポスター	松竹	1966(昭和41)年	印刷／紙	51.4×145.0	祖父江 慎	
487		監督・市村泰一 原作・夏目漱 石 総天然色 「坊っちゃん」 ポスター	松竹	1966(昭和41)年	印刷／紙	39.5×51.1	祖父江 慎	
488		(カラー作品)監督 市村泰一 「坊っちゃん」 ポスター	松竹	1966(昭和41)年	印刷／紙	72.7×51.1	祖父江 慎	
489		総天然色 漱石もびっくりする 痛快爆笑大作! 「坊っちゃん」 監督 市村泰一 リーフレット	松竹	1966(昭和41)年	印刷／紙	51.4×72.6	祖父江 慎	
490	松竹ホーム ビデオ	「市村泰一監督 坊っちゃん」 ビデオ	松竹		印刷／紙、ビデオテープ	20.0×12.0×3.0	祖父江 慎	後期
491	舟木一夫 デビュー 五周年記念 明治座公演 主題歌	「舟木一夫 オレは坊っちゃん」 レコード		1968(昭和43)年	印刷／紙、レコード	18.0×18.8	祖父江 慎	後期
492		「坊っちゃん 夏目漱石作 野 尻知史脚色／演出 劇団東京 小劇場 新春公演」ポスター	劇団東京小 劇場	1968(昭和43)年	印刷／紙	76.5×53.5	岩波書店(鎌 倉幸光 旧蔵)	
493		「坊っちゃん 夏目漱石作 野 尻知史脚色／演出 劇団東京 小劇場 新春公演」パンフレット	劇団東京小 劇場	1968(昭和43)年	印刷／紙	25.7×18.2	岩波書店(鎌 倉幸光 旧蔵)	
494		「坊っちゃん 夏目漱石作 野 尻知史脚色／演出 劇団東京 小劇場 新春公演」チラシ	劇団東京小 劇場	1968(昭和43)年	印刷／紙	20.4×13.7	岩波書店(鎌 倉幸光 旧蔵)	
495		連続テレビ映画 坊っちゃん 第一～第三回 準備稿(台本)	松竹テレビ部・ 日本テレビ	1970(昭和45)年	印刷／紙／冊子	各24.6×17.5× 0.5	祖父江 慎	前期
496		連続テレビ映画 坊っちゃん 第一～第六回決定稿(台本)	松竹テレビ部・ 日本テレビ	1970(昭和45)年	印刷／紙／冊子	各24.6×17.5× 0.6	祖父江 慎	前期
497		前田陽一監督 坊っちゃん 改討稿 (台本)	松竹・文学座	1977(昭和52)年	印刷／紙／冊子	24.6×17.5× 0.6	祖父江 慎	前期
498		前田陽一監督 坊っちゃん 準備稿 (台本)	松竹・文学座	1977(昭和52)年	印刷／紙／冊子	24.6×17.5× 0.9	祖父江 慎	前期
499		「松竹タイムス 解説 坊っちゃん」	松竹	1977(昭和52)年	印刷／紙	31.0×22.0	祖父江 慎	後期
500		「正義漢坊っちゃん痛快青春作 前田陽一監督 坊っちゃん」 ポスター	松竹・文学座	1977(昭和52)年	印刷／紙	72.5×25.5	祖父江 慎	後期
501		「坊っちゃん音頭 ありかどう音頭(振 りつき) 唄:井口達也、天沼文子	日本コロムビア	1977(昭和52)年	印刷／紙、レコード	18.0×18.8	祖父江 慎	後期
502		「坊っちゃん」前田陽一監督 ポスター	松竹、 文学座	1977(昭和52)年	印刷／紙	72.7×51.4	祖父江 慎	
503		「坊っちゃん」、「男はつらいよ」 映画パンフレット	松竹映画	1977(昭和52)年	印刷／紙	29.8×21.0	松山市道後温 泉事務所 寄 託(古茂田幹 蔵)、祖父江慎	
504		松竹映画 「坊っちゃん」 台本	松竹映画	1977(昭和52)年	印刷／紙	24.6×17.5× 0.6	松山市道後温 泉事務所 / 祖父江慎	前期
505		「前田陽一監督 坊っちゃん」 ビデオ	松竹		印刷／紙、ビデオテープ	19.0×10.8× 2.6	祖父江 慎	後期
506	87年夏休み 特別企画 近藤真彦	坊っちゃん 二幕十場	大阪新歌舞 伎座	1987(昭和62)年8月	印刷／紙／冊子	24.5×17.5× 0.6	祖父江 慎	後期
507		「87/夏休み特別企画 近藤真彦」パンフレット	大阪新歌舞 伎座	1987(昭和62)年8月3日	印刷／紙／冊子	25.6×18.2× 0.4	祖父江 慎	後期
508		「坊っちゃん 近藤真彦 テレフォンカード 50」(袋)	NTT	1987(昭和62)年	テレフォンカード	8.5×5.3	祖父江 慎	後期
509		「坊っちゃん 近藤真彦 テレフォンカード 50」(下駄)	NTT	1987(昭和62)年	テレフォンカード	8.5×5.3	祖父江 慎	後期

510	正月ドラマ 坊っちゃん NHKテレビ放送 (台本)	NHK	1994(平成6)年1月	印刷/紙/冊子	24.5×17.2× 1.2	祖父江 慎	前期
511	坊っちゃんちゃん 台本 決定稿	TBS	1996(平成8)年	印刷/紙/冊子	24.5×17.5×0.8	祖父江 慎	前期
512	第52回特別企画展 「坊っちゃん百年展」 ポスター	松山市立子規記念博物館	2006(平成18)年	印刷/紙	84.0×59.4	祖父江 慎	
513	「正直者でなにが悪い? 1月3日(日)夜9時! 夏日漱石 没後100年 新春ドラマスペシャル 坊っちゃん」広告(12・13面)フジテレビ	リビング多摩	2015(平成27)年12月26日	印刷/紙	40.2×54.4	祖父江 慎	後期
514	「正直者でなにが悪い? 1月3日(日)夜9時! 夏日漱石 没後100年 新春ドラマスペシャル 坊っちゃん」広告見開き フジテレビ		2015(平成27)年	印刷/紙 (雑誌切り抜き)	各27.1×20.1	祖父江 慎	後期
515	「映光スライド 坊っちゃん 1・2」	映光スライド		印刷/紙/冊子	各18.0×13.0	祖父江 慎	後期

桜井忠温と『坊っちゃん』

	作家名	作品名	発行元	制作年	技法/素材	寸法(cm)	所蔵者・ 画像提供
516	桜井忠温	「坊っちゃん」挿絵 原画 (愛媛新聞連載挿絵)		1962(昭和37)年	墨/紙(60点組)	各約13.0×18.0	愛媛県立松山東高等学校
517	桜井忠温	「坊っちゃん」挿絵 習作		1962(昭和37)年頃	墨、着色/紙(10点)	各約13.0×18.0	松山市立子規記念博物館
518		「坊っちゃん」愛媛新聞連載記事		1962(昭和37)年	印刷/紙/新聞		愛媛県立松山東高等学校
519	桜井忠温	折本「坊っちゃん」			紙本着色/折本	外箱:32.5×24.0 32.2×76.5×3.2	松山市立子規記念博物館
520		坊っちゃん絵葉書 (桜井忠温画)	狸のれん	昭和中頃	印刷/紙/葉書 (6枚組)	各14.8×10.0 外袋:16.5×10.5 狸のれん土産物袋:18.8×13.3	つばや菓子舗
521		『松山坊っちゃん会会報』 1号～26号	松山坊っちゃん会	2005-18 (平成17-30)年	印刷/紙/冊子 (1～26号)	各29.7×21.0	松山坊っちゃん会

伊予・道後観光案内

	作家名	作品名	発行元	制作年	技法/素材	寸法(cm)	所蔵者・ 画像提供	備考
522		「遊覧地 松山と道後」三つ折パンフレット	松山観光協會	1937(昭和12)年頃	印刷/紙	18.8×9.0	岩波書店(鎌倉幸光 旧蔵)	
523		「松山と道後湯之町 附三津濱・高濱」地図		1937(昭和12)年頃	印刷/紙	49.7×67.5	岩波書店(鎌倉幸光 旧蔵)	
524		「新版 松山市及道後地図」	関印刷所	1937(昭和12)年 6月20日	印刷/紙	54.7×78.8 外袋:19.0×14.0	岩波書店(鎌倉幸光 旧蔵)	
525		「松山名勝と道後温泉を輯めて三十二枚組」包装紙			印刷/紙	14.5×9.0	岩波書店(鎌倉幸光 旧蔵)	
526		松山附近繪はかき	松山商工會議所内松山観光協會	1933(昭和8)年 2月1日?	印刷/紙(20枚組)	各14.2×9.0 外袋:14.2×9.0	岩波書店(鎌倉幸光 旧蔵)	
527		最も美しき道後名勝絵葉書十六枚組	大正製薬	1931-1935 (昭和6-10)年頃	印刷/紙 (16枚組中12枚)	外袋:14.9×10.0 各14.0×8.9	松山市道後温泉事務所 寄託 (古茂田幹 蔵)	
528		皇太子殿下下行啓記念	愛媛県	1922(大正11)年11月	印刷/紙(3枚組)	外袋:19.0×9.8 各14.0×9.0	松山市道後温泉事務所 寄託 (古茂田幹 蔵)	
529		松山名勝と道後温泉を輯めて三十二枚組	Kaigaken kyukai	昭和初期	印刷/紙(32枚組中30枚)	外袋:14.9×10.4 各13.6×8.8	松山市道後温泉事務所 寄託 (古茂田幹 蔵)	
530		道後温泉入浴案内	道後湯之町温泉事務所	1919(大正8)年4月17日(初版:1914[大正3]年11月7日)	印刷/紙	14.0×10.3 (全体:27.6×52.4)	松山市道後温泉事務所 寄託 (古茂田幹 蔵)	
531		養生湯専用 温泉入浴回数券式拾回分	道後温泉事務所		印刷/紙	5.2×12.4	松山市道後温泉事務所 寄託 (古茂田幹 蔵)	
532		道後温泉 御入浴割引券	伊予鉄道電気株式会社社員家族運動会		印刷/紙	7.9×3.0	松山市道後温泉事務所 寄託 (古茂田幹 蔵)	
533		愛媛の観光 (愛媛県観光協会)	愛媛県観光協会		印刷/紙	19.1×9.1	松山市道後温泉事務所 寄託 (古茂田幹 蔵)	
534		愛媛の観光	愛媛県観光協会		印刷/紙	17.5×10.0	松山市道後温泉事務所 寄託 (古茂田幹 蔵)	

535	道後温泉 HOT SPRINGS DOGO		昭和中期	印刷／紙	17.5×9.0	松山市道後温泉事務所 寄託 (古茂田幹 蔵)	
536	松山道後 名所図絵	伊予鉄道電気株式会社	1927(昭和2)年	印刷／紙	19.0×11.5	松山市道後温泉事務所 寄託 (古茂田幹 蔵)	
537	道後温泉誌	道後温泉事務局	1913年(大正2)年 6月30日	印刷／紙	19.2×13.0	松山市道後温泉事務所 寄託 (古茂田幹 蔵)	
538	伊予の湯おもかげ	道後温泉道後観光協会	1938年(昭和13)年 9月15日	印刷／紙	18.7×13.0	松山市道後温泉事務所 寄託 (古茂田幹 蔵)	
539	温泉 第10巻第7号	社団法人日本温泉協会	1939(昭和14)年 7月1日	印刷／紙	22.0×14.8× 0.8	松山市道後温泉事務所 寄託 (古茂田幹 蔵)	
540	「漱石の坊ちやん」 スタンプ絵葉書		1937(昭和12)年頃	スタンプ／紙(8枚組)	各14.0×9.0	岩波書店(鎌倉幸光 旧蔵)	
541	「漱石の坊ちやん」 スタンプ絵葉書		1937(昭和12)年頃	スタンプ／経木・紙 (3枚組)	各14.5×9.0	岩波書店(鎌倉幸光 旧蔵)	
542	[明治末期 松山・三津・宇和島 写真帖 四十枚]		明治後期	写真／紙／冊子	20.5×15.9× 3.4	愛媛県立図書館	
543	高浜風景		1903(明治36)年頃	写真／紙	11.0×17.0	愛媛県立図書館	[明治36年 松山市 道後、松山城、三津浜 写真]より
544	松山城		1903(明治36)年頃	写真／紙	11.0×17.0		
545	道後公園山腹		1903(明治36)年頃	写真／紙	11.0×17.0		
546	道後公園より道後温泉本館および遠景		1903(明治36)年頃	写真／紙	11.0×17.0		
547	道後公園入口		1903(明治36)年頃	写真／紙	11.0×17.0		
548	道後温泉・松山城		1908(明治41)年	印刷／紙／葉書	24.2×9.0	愛媛県歴史文化博物館 寄託(瀧口コレクション)	
549	伊予高浜ノ景		1906(明治39)年	印刷／紙／葉書	24.2×9.0	愛媛県歴史文化博物館 寄託(瀧口コレクション)	
550	伊予三津浜波止場ノ実景		1900-07(明治33- 40)年頃	印刷／紙／葉書	24.2×9.0	愛媛県歴史文化博物館 寄託(瀧口コレクション)	
551	高浜船客待合所		1900-07(明治33- 40)年頃	印刷／紙／葉書	24.2×9.0	愛媛県歴史文化博物館 寄託(瀧口コレクション)	
552	伊予高浜四十島と小富士		1917(大正6)年	印刷／紙／葉書	24.2×9.0	愛媛県歴史文化博物館 寄託(瀧口コレクション)	
553	伊予高浜四十島(其一)		1907-18 (明治40-大正7)年頃	印刷／紙／葉書	24.2×9.0	愛媛県歴史文化博物館 寄託(瀧口コレクション)	
554	伊予高浜四十島		1907-18 (明治40-大正7)年頃	印刷／紙／葉書	24.2×9.0	愛媛県歴史文化博物館 寄託(瀧口コレクション)	
555	伊予道後湯之町全景(其二)		1907-18 (明治40-大正7)年頃	印刷／紙／葉書	24.2×9.0	愛媛県歴史文化博物館 寄託(瀧口コレクション)	
556	伊予道後湯之町本通り		1907-18 (明治40-大正7)年頃	印刷／紙／葉書	24.2×9.0	愛媛県歴史文化博物館 寄託(瀧口コレクション)	
557	伊予高浜四十嶋の景		1907-18 (明治40-大正7)年頃	印刷／紙／葉書	24.2×9.0	愛媛県歴史文化博物館 寄託(瀧口コレクション)	
558	伊予高浜四十島		1930(昭和5)年	印刷／紙／葉書	24.2×9.0	愛媛県歴史文化博物館 寄託(瀧口コレクション)	
559	伊予鉄道貳拾年記念絵葉書 高浜港		1908(明治41)年	印刷／紙／葉書	24.2×9.0	愛媛県歴史文化博物館 寄託(相原隣二郎旧蔵)	
560	伊予鉄道貳拾年記念絵葉書 松山駅		1908(明治41)年	印刷／紙／葉書	24.2×9.0	愛媛県歴史文化博物館 寄託(相原隣二郎旧蔵)	
561	高浜開港記念 (伊予鉄道発行)		1906(明治39)年	印刷／紙／葉書	24.2×9.0	愛媛県歴史文化博物館 寄託(相原隣二郎旧蔵)	
562	高浜開港記念 (伊予鉄道発行)		1906(明治39)年	印刷／紙／葉書	24.2×9.0	愛媛県歴史文化博物館 寄託(相原隣二郎旧蔵)	

563	愛媛県松山市附近高浜延齢館撮影	1894-97 (明治27-30)年頃	写真/紙	各6.5×10.6 (13点組)※ 道後温泉本館 (1枚)、愛媛 県尋常師範 学校(3枚)含 む	坂の上の雲 ミュージアム	[明治期 の松山の 写真]
564	愛媛県松山市伊予鉄道線路立 花鉄橋					
565	愛媛県松山市立花橋撮影					
566	愛媛県松山市立花鉄橋					
567	愛媛県松山市新立橋撮影					
568	愛媛県松山市新立金刀比羅宮 ヨリ市外ヲ望ム其一					
569	愛媛県松山市新立金刀比羅宮 ヨリ市外ヲ望ム其二					
570	愛媛県松山市三番町中央ヨリ 西ヲ望ム					
571	愛媛県松山市附近道後公園					

『漱石全集』

	作家名	作品名	発行元	制作年	技法/素材	寸法(cm)	所蔵者・ 画像提供
572		「決定版 漱石全集 豫約募集 メ切迫る!!」ポスター	岩波書店内漱 石全集刊行會	1936(昭和11)年	印刷/紙	92.3×60.5	岩波書店 (鎌倉幸光 旧蔵)
573		「決定版 文豪没後廿年記念 漱石全集」ポスター	岩波書店内漱 石全集刊行會	1936(昭和11)年	印刷/紙	92.5×62.5	岩波書店 (鎌倉幸光 旧蔵)
574		「決定版 漱石全集 新輯新装 文豪没後廿年記念」ポスター	岩波書店内漱 石全集刊行會	1936(昭和11)年	印刷/紙	94.5×30.2	岩波書店 (鎌倉幸光 旧蔵)
575		漱石全集 豫約募集 規定及内容見本	岩波書店内漱 石全集刊行會	1917(大正6)年9月	印刷/紙/冊子	22.4×15.5	祖父江 慎
576		漱石全集 第二回豫約募集 規定及内容見本	岩波書店内漱 石全集刊行會	1919(大正8)年9月	印刷/紙/冊子	22.4×15.3	祖父江 慎
577		漱石遺墨集 豫約募集	春陽堂	1922(大正11)年	印刷/紙/冊子	22.1×14.9	祖父江 慎
578		漱石全集 第三回豫約募集 規定及内容見本	岩波書店内漱 石全集刊行會	1924(大正13)年3月	印刷/紙/冊子	22.4×15.0	祖父江 慎
579		春陽堂図書月報	春陽堂	1924(大正13)年12月	印刷/紙/冊子	22.2×15.4	祖父江 慎
580		岩波書店出版図書目録	岩波書店	1925(大正14)年6月	印刷/紙/冊子	22.8×15.3	祖父江 慎
581		漱石全集正誤表	岩波書店内漱 石全集刊行會	1925(大正14)年12月	印刷/紙/冊子	22.2×15.1	祖父江 慎
582		普及版漱石全集 規定及内容見本	岩波書店内漱 石全集刊行會	1928(昭和3)年	印刷/紙/冊子	22.5×15.2	祖父江 慎
583		岩波書店出版図書目録	岩波書店	1930(昭和5)年9月	印刷/紙/冊子	22.5×15.3	祖父江 慎
584		決定版漱石全集 全十九巻 豫約募集	岩波書店内漱 石全集刊行會	1935(昭和10)年	印刷/紙/冊子	22.4×15.2	祖父江 慎
585		夏目漱石全集 創藝社版全十巻 内容見本	創藝社	1953(昭和28)年	印刷/紙	21.0×14.9	祖父江 慎
586		注解夏目漱石全集 創藝社版 全10巻 吉田精一監修	筑摩書房	1965(昭和40)年	印刷/紙/冊子	21.1×15.0	祖父江 慎
587		歿後五十年生誕百年記念出版 漱石全集 全十六巻	岩波書店	1965(昭和40)年11月	印刷/紙/冊子	25.9×18.4	祖父江 慎
588		漱石文学全集 集英社版全十巻 別巻一	集英社	1970(昭和45)年	印刷/紙/冊子	26.5×18.9	祖父江 慎
589		名著復刻 漱石文学館	日本近代文学館	1975(昭和50)年8月	印刷/紙/冊子	30.0×21.2	祖父江 慎
590		漱石全集 全三十五巻	岩波書店	1978(昭和53)年10月	印刷/紙	21.2×10.2	祖父江 慎
591		漱石全集 全三十五巻 完結!定価据置セット販売	岩波書店	1980(昭和55)年6月	印刷/紙	18.2×13.0	祖父江 慎
592		漱石文学全集 集英社版全十巻 普及版	集英社	1982(昭和57)年頃	印刷/紙/冊子	25.7×18.3	祖父江 慎
593		漱石文学全集 集英社版全十巻 9月28日刊行	集英社	1982(昭和57)年頃	印刷/紙/冊子	26.2×18.9	祖父江 慎
594		吾輩ハ猫デアル	日本近代文学館	1984(昭和59)年	印刷/紙/冊子	29.9×21.1	祖父江 慎
595		吾輩ハ猫デアル ポスター	日本近代文学館	1984(昭和59)年	印刷/紙	59.3×41.7	祖父江 慎
596		漱石全集 全十八巻	岩波書店	1984(昭和59)年9月	印刷/紙/冊子	29.8×21.0	祖父江 慎
597		夏目漱石著[復刻版] 袖珍本 ころ 道草 明暗	岩波書店	1983(昭和58)年11月	印刷/紙	18.3×8.8	祖父江 慎
598		創業九十年記念復刊 夏目漱石[特 装袖珍本] ころ 道草 明暗	岩波書店	2003(平成15)年8月	印刷/紙	18.4×10.9	祖父江 慎
599		漱石文学作品集 全16冊	岩波書店	1990(平成2)年10月	印刷/紙/冊子	25.8×18.3	祖父江 慎
600		漱石全集 全二十八巻 別巻一	岩波書店	1993(平成5)年8月	印刷/紙/冊子	25.9×18.3	祖父江 慎
601		漱石全集 全二十八巻 別巻一	岩波書店	1993(平成5)年8月	印刷/紙	25.9×18.3	祖父江 慎
602		漱石全集 全二十八巻 別巻 一 [二次刊行]	岩波書店	2002(平成14)年2月	印刷/紙/冊子	25.8×18.3	祖父江 慎
603		定本 漱石全集 全28巻 別巻1	岩波書店	2016(平成28)年9月	印刷/紙/冊子	21.1×15.0	祖父江 慎

海外の『坊っちゃん』

※所蔵者は備考に記載以外全て祖父江慎

	翻訳者名	シリーズ名	書籍タイトル	出版社	出版情報	寸法(cm)	印刷所	備考
604	アレキサンデル・スパン訳		『獨譯坊っちゃん』	共同出版社	1925(大正14)年 3月15日	20.0×13.7×3.0		岩波書店蔵
605			"Botchan"	Sociedad Latino- Americana Tokyo	1969年	21.5×15.5×2.0		岩波書店蔵
606			『ローマ字坊っちゃん BOTTYAN』	岩波書店	1928(昭和3)年7月25日 2刷(初版:1922 [大正11]年12月5日)	16.0×11.6×1.5		
607	Hélène Morita訳		"BOTCHAN"	LE SERPENT A PLUME ÉDITIONS	1993年11月	17.7×11.2×1.0	SINGAPORE NATIONAL PRINTERS	
608	Hélène Morita訳		"Botchan"	MOTIFS	2007年6月	17.0×11.0×1.5	BUSSIÈRE	
609	José Pazó Espinosa訳		"Botchan"	IMPEDIMENTA	2008年2月	20.0×13.3×1.7	Kadmon	
610	Jürgen Berndt, Shinohara Seiei訳		"Der Tor Aus Tokio"	Angkor Verlag	2010年	22.7×16.0×1.2		
611	Mariko Erdoğan, Hüseyin Özkaya訳		"KÜÇÜK BEY"	Oğlak Yayıncılık ve Reklamcılık Ltd. Şti.	2003年	18.0×11.3×1.1		
612	Fernando Rodríguez- Izquierdo訳		"BOTCHAN"	現代企画室	1997年9月25日	21.0×15.0×1.5	Sanbi Printing Co. Ltd.	
613			"BIZ"(ヘブライ語版)	Astrolog	2000年	20.9×13.5×1.3		
614	イエ・ミヤルウイン訳		『坊っちゃん』 (ミャンマー語版)	マウン・トゥアング 出版社	2014年 4刷	20.5×13.2×1.0		新宿区 立漱石 山房記 念館蔵
615	イエ・ミヤルウイン訳		『坊っちゃん』 (ミャンマー語版)	ミヤ・ナンダ出版社	2006年	20.5×12.9×0.8		新宿区 立漱石 山房記 念館蔵
616	堀口俊一訳		『英和对訳 BOTCHAN』(高校 コース3月号第2付録)	学習研究社	1962年3月1日	14.5×10.3×0.7	大日本印刷	
617	アラン・ターニー訳	講談社英語文庫	『坊っちゃん BOTCHAN』	講談社インターナ ショナル	1999年6月10日 22刷 (初版:1985年3月20日)	14.6×10.8×1.0	豊国印刷	
618	ジョエル・コーン訳		『坊っちゃんBotchan』	日本文学出版交流 センター	2014年9月3日 初版	18.8×13.1×1.8	平河工業社	
619	Glenn Anderson 訳	Modern Japanese Classics	"Botchan"	One Peace Books, Inc.	2013年 初版	17.8×12.8×1.0		
620	Alan Turney訳		"BOTCHAN"	講談社インターナ ショナル	1980年 3刷 (初版:1978年)	13.2×11.2×1.3		
621	アラン・ターニー訳		『英文版坊っちゃん BOTCHAN』	講談社インターナ ショナル	2002年7月10日 22刷 (初版:1978年1月15日)	18.2×11.5×1.3	平河工業社	
622	Umeji Sasaki訳		"Botchan"	Charles E. Tuttle Publishing	1998年 37刷 (初版:1968年)	18.2×11.2×1.4		
623	J.Cohn訳	Penguin Classics	"Botchan"	Penguin Books	2012年	19.6×12.9×1.0		
624	Umeji Sasaki訳		"BOTCHAN"	Tuttle Publishing	2013年	20.3×12.9×1.4		
625	ジョエル・コーン訳		『(英文訳)新訳 坊っちゃん Botchan』	講談社インターナ ショナル	2005年3月25日 初版	19.6×14.0×1.8	大日本印刷	
626	Umeji Sasaki訳		"BOTCHAN"	Charles E. Tuttle Company	1971年 9刷 (初版:1968年)	18.8×13.2×1.9		
627	Yasotaro Morri訳		"Botchan (Master Darling)"	Biblio Bazaar	2009年12月18日 初版	25.2×18.5×1.5		
628	Yasotaro Morri訳		"Botchan (Master Darling)"	Dodo Press	2009年11月18日	23.0×15.3×0.8		
629	Yasotaro Morri訳		"Botchan (Master Darling)"	Popular Classics Publishing	2012年	24.9×18.9×0.7		
630			『도련님』	아이세움 아이세움	2007年5月1日 2刷 (初版:2006年6月10日)	20.6×15.0×1.2		
631			『도련님』	신세계 북스 新 世界ブックス	2007年1月20日 初版	19.5×13.5×2.4		
632		BEST SELLER WORLD BOOK 04	『도련님』	소담출판사 ソダム出版社	2003年11月25日 初版	20.0×15.1×1.2		
633		Classic Letter Book	『도련님』	인디북 indebook	2010年4月5日 2版5刷 (初版:2002年7月19日)	18.9×13.2×1.5		
634	Yasotaro Morri訳		"BOTCHAN"		2012年	12.7×15.3×0.9		

635	Jiro Taniguchi著		"Ai Tempi di Bocchan Vol.10 Gli Ultimi Giorni di Sōseki"	Coconico Press	2002年2月20日	21.0×15.0×1.5		
636	Alan Turney訳		"BOTCHAN"	講談社インターナショナル	1972年 初版	19.3×12.1×2.1		
637	Alan Turney訳		"BOTCHAN"	Peter Owen	1973年 初版	19.2×12.6×1.5		
638	Yasotaro Morri訳		"BOTCHAN"			22.8×15.4×0.8		後期
639	包襄、包罗 訳	世界中篇名著精选	『哥儿』	北岳文艺出版社	1994年6月 初版	18.5×13.5×0.5		
640	刘振瀛、吴树文 訳	日本文学丛书	『哥儿』	上海訳文出版社	1987年10月 初版	20.0×14.0×1.4	上海訳文印刷所	
641	陳徳文 訳	上海文芸出版社	『哥儿』	自由之丘文創事業/遠足文化事業股分有限公司	2014年1月 初版	21.0×14.5×0.9		
642	劉振瀛 訳	NEO READING 25	『少爺』		2016年1月 2刷 (初版:2015年6月)	20.0×14.1×1.8		
643	林少华 訳		『哥儿』	中国宇航出版社	2009年1月 2刷 (初版:2008年5月)	21.0×12.5×1.5		
644	毛利八十太郎訳		『英譯 坊っちゃん BOTCHAN』	誠文堂	1926[大正15]年6月15日 20刷 (初版:1918[大正7]年11月28日)	19.5×13.5×1.5	早稲田印刷	

漫画の『坊っちゃん』

※所蔵者は、全て祖父江慎

	著者名	編集者	シリーズ名	書籍タイトル	出版社	出版情報	寸法(cm)	印刷所	備考
645	近藤浩一路著			『漫画坊っちゃん』	新潮社	1926(大正15)年6月11日 3版 (改版:1925[大正14]年7月5日)	15.5×11.1×1.5	富士印刷	
646	藤斥夫著			「漫画となつた名小説坊っちゃん」(『日本少年』7月号)	實業之日本社	1926(大正15)年7月1日	22.0×15.0×1.5	日清印刷	
647			現代漫画大観2	『文藝名作漫画』	中央美術社	1928(昭和3)年4月1日	19.0×13.8×2.0	酒井印刷所	
648	石井滴水画			「坊っちゃん」(『光の家』十二月號)	産業組合中央会	1930(昭和5)年12月1日	22.0×15.0×1.0	日清印刷	
649	近藤浩一路畫		新潮文庫第十四編	『漫画坊っちゃん』	新潮社	1933(昭和8)年4月10日 初版	16.3×11.3×0.8	富士印刷	
650	昭十郎画			「坊っちゃん」(『名作挿絵全集』第二卷)	平凡社	1935(昭和10)年8月2日	22.8×15.0×1.7	共同印刷	
651	近藤浩一路畫		新潮文庫第十四編	『漫画坊っちゃん』	新潮社	1938(昭和13)年9月20日 27刷 (初版:1933[昭和8]年4月10日)	16.3×11.3×1.0	富士印刷	
652	中川一政著			「坊っちゃん」(『苦楽』創刊號)	苦楽社	1946(昭和21)年11月1日	21.0×15.0×1.0	文壽堂 富岡工場	
653	案画: 謝花凡太郎		ナカムラマンガシリーズ	『坊っちゃん』	中村書店	1954(昭和29)年1月5日 初版	21.0×15.5×1.8	協和オフセット印刷	
654	氷川九郎著			『坊っちゃん』	図書出版 金園社	1957(昭和32)年11月30日	21.2×15.7×1.7	文園堂印刷所	
655	水島新司画		日の丸文庫 少年少女日本文学名作漫画選1	『坊っちゃん』	光伸書房	1965(昭和40)年10月15日 初版	20.5×15.5×2.3	奥村印刷	
656	構成・え:若月てつ		まんが名作	「坊っちゃん」(中一時代4月号第3付録)	旺文社	1969(昭和44)年4月1日	14.7×10.2×0.5		
657	宮脇紀雄著、中山正美画		あなたにおくる世界の名作①	「坊っちゃん」(『こどもの光』6月号)	家の光協会	1969(昭和44)年5月31日	25.6×18.2×1.5	大日本印刷	
658	岡本一平著		名著復刻全集 近代文学館刊行記念	『漱石名作漫画』	日本近代文学館	1973(昭和48)年	11.5×8.0×0.8	東京連合印刷	
659	キャラクター原画: モンキー・パンチ		名作アニメ図書館・1	『坊っちゃん』1巻	株式会社双葉社	1980(昭和55)年11月20日	22.5×15.5×1.8	大日本製本	
660	キャラクター原画: モンキー・パンチ		名作アニメ図書館・2	『坊っちゃん』2巻	株式会社双葉社	1980(昭和55)年12月5日	22.5×15.5×2.0	大日本製本	
661	モンキー・パンチ 著			「坊っちゃん」(月刊マンガ少年7月号)	朝日ソノラマ	1980(昭和55)年7月1日			
662	古城武司著		コミック・ブック	『坊っちゃん』	講談社	1984(昭和59)年2月10日 初版	18.1×12.9×1.6	廣済堂印刷	
663	岡本一平作画	日本近代文学館編	名作復刻漱石小説文学館刊行記念	『漫画「坊っちゃん」 「草枕」』	ほるぷ出版	1984(昭和59)年9月25日 初版	10.5×7.5×0.8		
664	漫画:高梨鉄平		旺文社名作まんがシリーズ	『坊っちゃん』	旺文社	1985(昭和60)年	19.0×13.2×1.8	大日本製本	
665			名作アニメシリーズ	『坊っちゃん』	新潮社	1986(昭和61)年12月20日 初版	15.0×11.7×1.1	大日本印刷	後期

666	構成:辻真先、 作画:一峰大二		コミグラフィック 日本の文学5	『坊っちゃん』	暁教育図書	1987(昭和62)年10月20日 初版	25.5×19.5×1.0	凸版印刷	
667	絵と文:鞍懸吉人			『戯作 イラスト 坊っ ちゃん』	岩崎美術社	1989(平成1)年5月10日 初版	255×185×10	日経印刷	
668	プレスページ/ 竹村喜夫著			『坊っちゃん』	山西金陵堂	2000(平成12)年1月12日 5刷 (初版:1989[昭和 64]年7月20日)	18.1×12.8×0.8	西村謄写堂	
669		日本ア ニメー ション	アニメ 日本の名作	『坊っちゃん』	金の星社	2004(平成16)年4月10刷 (初版:1996[平成8]年11月)	21.5×15.3×1.4	熊谷印刷	
670	漫画:高梨鉄平		コミック世界 名作シリーズ	まんがトムソーヤ文庫 『坊っちゃん』	ほるぷ出版	2004年1月31日 6刷 (初版:1996年4月3日)	21.5×15.3×2.0	共同印刷	
671	Jiro Taniguchi 著			"Ai Tempi di Bocchan Vol.10 Gli Ultimi Giorni di Sōseki"	Coconico Press	2006年	21.0×15.0×1.5		
672	江川達也著		ガンボコミックス	『坊っちゃん BOCCHAN』 2巻	デジマ	2007(平成19)年12月22日 初版	18.3×13.0×1.5	凸版印刷	
673	江川達也著			『坊っちゃん』 (['コミックガンボ』No.09)	デジマ	2007(平成19)年3月13日	25.5×17.5×1.2		
674	作画:登龍太		文芸まんがシ リーズ 新装版	『坊っちゃん』	ぎょうせい	2010(平成22)年4月1日 初版	18.5×12.8×1.6		
675	漫画:大倉かおり		コミック版	『坊っちゃん』	ホーム社	2010(平成22)年7月6日 初版	15.0×10.5×1.0	凸版印刷	後期
676	漫画:清水綾		まんが日本の文学	『坊っちゃん』	金の星社	2011(平成23)年3月	18.6×13.5×1.8	三晃印刷	
677	増山和恵著、月 館蛭人(マンガ)			英語圏版 マンガ 『坊っちゃん』	ゆまに書房	2011(平成23)年9月25日 初版	25.5×18.5×1.5	シナノ	
678	マンガ:大谷慎治		マンガジュニア 名作シリーズ	『坊っちゃん』	学研教育出版	2012(平成24)年3月8日 初版	21.6×15.5×2.5	共同印刷	
679	大和田秀樹著			『坊っちゃん♥』	日本文芸社	2016(平成28)年3月28日 初版	18.5×12.5×1.3	暁印刷	
680	Team バンミカス著		まんがで読破	『坊っちゃん』	イースト・プレス	2016(平成28)年8月25日 初版	15.0×10.5×1.0	中央精版 印刷	後期

子規と漱石 坊っちゃんの背景
序 子規と新聞「日本」

	作家名	作品名	発行元	制作年	技法等	寸法(cm)	所蔵先
681	正岡子規	陸羯南宛 明治24年10月21日付書簡		1891(明治24)年	紙本墨書/卷子	18.0×147.5	愛媛県美術館 (坪内コレクション)
682	—	「日本」6209号(明治39年10月30日)	日本新聞社	1906(明治39)年	印刷/紙/新聞	55.3×40.4	祖父江 慎
683	—	「小日本」合本(上巻)	日本新聞社	1894(明治27)年	印刷/紙/新聞	47.4×34.8	松山市立子規記念博物館

漱石と松山

	作家名	作品名	制作年	技法/素材	寸法(cm)	所蔵者・画像提供	備考※
684	—	愛媛県尋常中学校嘱託教員辞令 (明治28年4月10日付)	1895(明治28)年	墨/紙	22.9×30.9	神奈川近代文学館	後期(※前期 は複製展示)
685	正岡子規	子規選句稿「承露盤」	1895(明治28)年	紙本墨書/軸	23.5×30.5	松山市立子規記念博物館	前期
686	夏目漱石	句「送子規 御立やるか御立ちやれ 新酒菊の花」	1895(明治28)年	紙本墨書/短冊 /軸	36.1×6.1	松山市立子規記念博物館	後期
687	正岡子規	句「留別 おもひ出の月見も過てわか れけり」	1895(明治28)年	紙本墨書/短冊	36.0×6.0	松山市立子規記念博物館	前期
688	正岡子規	拓本「柿くへば鐘が鳴るなり法隆寺」		紙本拓本/軸	135.5×33.5	愛媛県美術館 寄託 (阿部里雪コレクション)	
689	夏目漱石	子規宛 明治28年11月3日付書簡	1895(明治28)年	墨/紙/軸	17.8×116.0	神奈川近代文学館	前期(※後期 は複製展示)
690	正岡子規	白猪唐岬二瀑 歌と句	1981(明治24)年 8月頃	紙本墨書/軸	28.2×44.8	愛媛県美術館	
691	—	伊予河ノ内白猪瀑	1900-07(明治 33-40)年頃	印刷/紙/葉書	24.2×9.0	愛媛県歴史文化博物館 寄託(灘口コレクション)	
692	—	伊予河ノ内唐岬瀑	1907-18(明治 40-大正7)年頃	印刷/紙/葉書	24.2×9.1	愛媛県歴史文化博物館 寄託(灘口コレクション)	
693	夏目漱石	子規評 俳句稿 (明治28年12月18日付)	1895(明治28)年	紙本墨書/卷子	17.9×137.5	松山市立子規記念博物館	後期

ホトギスから坊っちゃん

	作家名	作品名	発行元	制作年	技法/素材	寸法(cm)	所蔵者・画像提供	備考※
694	正岡子規	原稿 「ほととぎす発行処を東京へ遷す事」		1898(明治31)年	墨/紙(5枚組) /卷子	各19.7×31.4	松山市立子規記念博物館	前期 ※柳原極堂と高浜虚子による回想法と合わせて表装
695		『ほととぎす』 第1~20号 (復刻版)	日本近代文学館	1972(昭和47)年 原本:1897-98 (明治30-31)年	印刷/紙/冊子	各23.8×16.5	祖父江 慎	
696	夏目漱石	高浜虚子宛 明治39年3月23日付書簡		1906(明治39)年	墨/紙	本紙:18.2×97.5 封筒:31.2×8.3	虚子記念文学館	
697		『ホトギス』 第9巻第7号	ほととぎす発行所	1906(明治39)年4月	印刷/紙/冊子	22.3×15.2×1.4	祖父江 慎	
698		『ホトギス』 第9巻第10号	ほととぎす発行所	1906(明治39)年7月	印刷/紙/冊子	22.3×15.2×0.5	祖父江 慎	
699		『ホトギス』 第9巻第11号	ほととぎす発行所	1906(明治39)年8月	印刷/紙/冊子	22.3×15.2×0.4	祖父江 慎	
700	—	『ホトギス』 第10巻第1号	ほととぎす発行所	1906(明治39)年10月	印刷/紙/冊子	22.3×15.2×0.3	祖父江 慎	
701		『ホトギス』(復刻版) 第2巻第1号~ 第10巻第12号	日本近代文学館	1972(昭和47)年	印刷/紙/冊子	各22.2×15.2	祖父江 慎	
702		『Hototogisu.』(『ホトギス』 合本)			印刷/紙/冊子 合本	22.2×15.5×6.5	祖父江 慎	
703	夏目漱石	高浜虚子宛 明治39年4月1日付書簡		1906(明治39)年	墨/紙	本紙:18.2×193.8 封筒:21.0×8.5	虚子記念文学館	
704	夏目漱石	村上霽月宛 明治39年4月12日付書簡		1906(明治39)年	墨/紙/卷子	本紙:18.2×52.2 封筒:21.8×17.0 (両面)	村上半久郎	
705	—	端溪双螭硯 (夏目漱石 旧蔵)			硯	9.9×8.3×2.5	神奈川近代文学館	前期
706	夏目漱石	竹図		1916(大正5)年	紙本墨画/軸	132.3×32.1	岩波書店	
707	吉田蔵澤	墨竹		1797(寛政9)年	紙本墨画/軸	99.0×26.5	愛媛県美術館	
708	夏目漱石	句 「蔵澤の竹を得てより露の庵」		1910(明治43)年	紙本墨書/短冊 /軸	36.0×6.0	愛媛県美術館	
709	正岡子規	床の間写生図		1902(明治35)年	紙本着色/貼交 屏風	38.1×26.9	今治市河野美術館	
710	正岡子規	草花図		1902(明治35)年	紙本着色/軸	61.0×30.0	松山市立子規記念博物館	後期

『吾輩ハ猫デアル』

	作家名	作品名	発行元	制作年	技法/素材	寸法(cm)	所蔵者・画像提供	備考※
711	夏目漱石	松根東洋城宛 明治41年9月14日付葉書		1908(明治41)年	墨/葉書	14.1×8.9	新宿区立漱石山房記念館	後期(※前期は複製展示)
712		「吾輩は猫である 夏目漱石原作 山本嘉次郎監督」ポスター	P.C.L.映画製作所	1936(昭和11)年	印刷/紙	77.3×52.5	岩波書店(鎌倉幸光 旧蔵)	
713		「吾輩は猫である 夏目漱石著 新装版 特價一円」ポスター	岩波書店		印刷/紙	107.7×37.2	岩波書店(鎌倉幸光 旧蔵)	
714		「吾輩は猫である 十三日封切」ポスター	敷島倶楽部	1936(昭和11)年	印刷/紙	76.5×53.5	岩波書店(鎌倉幸光 旧蔵)	
715	夏目漱石	あかざと黒猫図		1914(大正3)年	紙本墨書/軸	131.1×32.3	神奈川近代文学館	6/30~7/8 (※左記以外は複製展示)
716	祖父江 慎	あかざと黒猫図		2016(平成28)年	印刷/紙/軸	130.0×42.0		
717	津田青楓	漱石と猫の図		1932(昭和7)年	紙本淡彩/軸	127.8×33.6	愛媛県美術館	
718	夏目漱石	『吾輩ハ猫デアル』(上・下)	大倉書店	初版:1911(明治44)年 第64版:1920(大正9)年	印刷/紙/書籍	各15.0×9.2×2.5	祖父江 慎	
719	夏目漱石	新選 名著 復刻全集 近代文学館 『吾輩ハ猫デアル(上編・中編・下編)』大倉書店・服部書店版	日本近代文学館	1977(昭和52)年	印刷/紙/書籍	各22.7×16.2×2.0	祖父江 慎	
720	祖父江 慎	「無理本」『吾輩ハ猫デアル』(上・中・下)		2016(平成28)年	印刷/紙/書籍 試作	各16.0×9.5×2.8	祖父江 慎	

	漱石関連 お土産の 「猫」		昭和初期	着色／竹・木・紙・ 土・貝・くすみ・銀 杏・布・鈴・モール・ 紐		岩波書店(鎌 倉幸光旧蔵)	※作品名の 内[]内は収 集した鎌倉幸 光氏による箱 書き
721	[江の島 黒猫]	江之島物産 貝細工卸問屋 貝廣本店			6.0×6.5×5.5		
722	趣味之竹人形[萩市 猫]	山内萩東堂(萩市)			10.0×3.0×4.0		
723	黒猫[修善寺 黒猫 (竹尾 銀杏)]	松根土産物店 (伊豆修善寺温 泉中央)			4.5×3.5×2.5		
724	[我輩は幸福である 私も だわ]				5.0×5.2×4.0		
725	漱石が生んだくすみ猫 [花巻温泉 くすみ猫]	長寿庵	1933(昭和8)年頃		3.5×6.0×5.0		30銭
726	[黒猫 神田平和堂?]				9.0×6.0×4.0		
727	[本箱ツキ 黒猫]	上方屋銀座本店			7.0×3.0×4.5 箱:7.5×4.7×3.7		55銭
728	[竹細工(香入れ)黒猫 道後 坊ちやんだんご]				12.5×4.0×7.0		
729	[宝猫]				4.5×4.0×3.0		30円
730	竹ふしの人形 [竹ふし人形 黒猫]				8.5×4.8×2.3		
731	[漱石全集 巻一 猫穴森]	穴守稲荷			7.0×5.0×3.7		
732	漱石猫 [漱石全集 巻一 猫]	長寿庵			10.5×6.0×4.5		
733	[黒猫]				7.0×4.0×2.4		
734	本ト猫 [本と猫(容器仕立て)]				5.0×4.0×5.0		
735	[銀猫 漱石全集 我輩猫]				8.0×2.0×4.0		
736	[由比ヶ浜 貝猫]				5.5×7.2×5.0		
737	[貝猫]				4.0×7.0×5.0		
738	[巻一卷二 ペン猫]				7.2×3.5×2.2		25銭
739	[坊っちゃん 荷物]	博多人形内田商 店			5.0×7.5×5.5		
740	[修善寺 黒猫]				10.5×3.8×5.5		
741	[吾輩猫]				5.0×2.8×3.5		
742	[青木屋 I am a cat.] "Polly"	銀座土産青木屋 趣味の竹細工 (京橋)			7.0×5.0×2.5		
743	[HAPPY 黒猫]				8.6×3.5×5.5		
744	[HAPPY 尾立猫]				9.5×4.0×5.5		
745	[江ノ島 本猫]				3.0×2.0×2.5		
746	ブック猫 [道後 ブック猫]	今治屋雑貨部 道後名産美術竹 細工			7.5×2.0×4.0		
747	[山口市 黒猫]	山口農美生産組合			9.0×3.5×3.7		
748	[銀座 青木屋 黒猫]				9.0×3.8×5.5		
749	[猫 黒 竹台]				5.0×3.0×4.5		
750	[HAPPY 黒猫]				11.0×4.0×5.5		
751	[銀猫]				9.0×4.0×2.5		
752	[黒猫 赤本]				9.0×3.5×5.5		
753	[焼物 丸立猫]				5.0×4.0×4.0		
754	[銀座上方屋 黒猫 竹 半輪]				2.3×2.3×3.0/3.5 ×3.0×2.3		
755	[鎌倉 貝猫]	鎌倉商店			4.0×7.5×5.0		
756	漱石 式 [竹輪猫]				4.0×4.5×4.0		40銭
757	[猫]				11.0×4.0×5.5		
758	[蚊やり]				10.0×13.0×11.0		
759	[本箱猫]				4.0×1.5×1.8 箱:4.5×2.4×2.6		
760	[本箱猫]				4.0×1.0×1.8 箱:4.3×2.4×2.7		

『ころ』

	作家名	作品名	発行元	制作年	技法／素材	寸法(cm)	所蔵者・ 画像提供	備考※
761		朝日新聞連載記事 『心 先生の遺書』	朝日新聞社	1914(大正3)年	印刷／紙／新聞	各約11.0×40.5	祖父江 慎	
762	夏目漱石	『ころ』 装幀画稿(扉一)		1914(大正3)年	彩色／紙	11.9×7.4	岩波書店	
763	夏目漱石	『ころ』 装幀画稿(扉二)		1914(大正3)年	彩色／紙	12.0×7.4	岩波書店	
764	夏目漱石	『ころ』	岩波書店	1914(大正3)年	印刷／紙／書籍	22.8×15.3×3.8	岩波書店	
765	夏目漱石	『ころ』(初版復刻版)	岩波書店	第1刷:平成13 (2001)年 第2刷:平成26 (2014)年	印刷／紙／書籍	22.9×15.6×3.5	祖父江 慎	
766	祖父江慎	漱石 『心』	岩波書店	2014(平成27)年	印刷／紙／書籍	17.9×11.5×2.3	祖父江 慎	
767	祖父江慎	10倍本 『心』		2016(平成28)年	印刷／遮光ス ウェード／書籍	167.5×124.0	祖父江 慎	
768		漱石肖像写真入り旧千円 札3号券	大蔵省印刷局	1984(昭和59)年	印刷／紙／紙幣	7.6×15.0	松山市立子規 記念博物館	
769		日本記念切手 文化人シ リーズ 夏目漱石 8円	日本郵便	1950(昭和55)年4月 10日	印刷／紙／切手	17.4×13.6	祖父江 慎	後期

巨匠が愛した美の世界 川端康成と東山魁夷

- 会期：**平成30年9月1日（土）— 10月21日（日）（44日間）
- 主催：**「川端康成と東山魁夷展」実行委員会（愛媛県、愛媛新聞社）、公益財団法人川端康成記念会
- 共催：**愛媛朝日テレビ
- 後援：**松山市、松山市教育委員会、愛媛県市町教育委員会連合会、（公財）愛媛県教育会、愛媛県教育研究協議会、愛媛県小中学校長会、愛媛県PTA連合会、愛媛県美術会、愛媛美術教育連盟、愛媛県文化協会、（公財）愛媛県文化振興財団、（一社）愛媛県観光物産協会、愛媛経済同友会、愛媛県商工会議所連合会、愛媛県公民館連合会、（公財）松山観光コンベンション協会、連合愛媛、井上正夫会、南海放送、テレビ愛媛、あいテレビ、愛媛CATV、FM愛媛
- 監修：**川端香男里（公益財団法人川端康成記念会理事長）、平山三男（同評議員）、斉藤進（東山家秘書）
- 企画：**水原園博（公益財団法人川端康成記念会東京事務所代表）
- 会場：**愛媛県美術館 企画展示室1・2

趣 旨

日本人初のノーベル文学賞受賞作家・川端康成（1899-1972）は、優れた美術品コレクターとしても知られる。そのコレクションは、国宝に指定される浦上玉堂《凍雲飾雪図》と池大雅・与謝蕪村《十便十宜図》をはじめ、古美術から古賀春江・草間彌生などの近現代美術、さらに西洋美術にまで至る幅広いものである。また、戦後を代表する日本画家・東山魁夷（1908-1999）とは深い交流があり、川端コレクションには東山作品も多く含まれている。そして川端同様に、東山もさまざまな美術品を収集した。本展では、川端・東山それぞれが収集した美術品を紹介しその審美眼を探るとともに、数々の東山作品も一堂に展示することで、二人の巨匠の交流の軌跡をたどり、追求した美の世界に迫った。

さらに、近年川端邸で新たに発見された、名作『伊豆の踊子』のモデルとなった初恋の人・伊藤初代への手紙や、夏目漱石・太宰治など文豪の書も公開するとともに、川端・東山と愛媛のゆかりを示す作品・資料も展示した。また川端が脚本を手がけた日本初のアヴァンギャルド映画『狂つた一頁』（1926年、監督：衣笠貞之助）の主演をつとめた本県砥部町出身の俳優・井上正夫（1881-1950）や川端が敬愛した俳人・高浜虚子（1874-1959）との関わりや、東山が瀬戸内を題材に制作した作品なども紹介した。

観覧者数：11,312名

関連行事

オープニング・フロアレクチャー

日 時：9月1日（土） 14：00～15：00
講 師：水原園博（本展企画者、公益財団法人川端康成記念会東京事務所代表）
場 所：愛媛県美術館 企画展示室
参加人数：45名

講演会Ⅰ「高浜虚子と正岡子規」

日 時：9月24日（月・祝） 14：00～15：30
講 師：西松陽介（松山市立子規記念博物館学芸員）
場 所：愛媛県美術館 講堂
参加人数：30名

講演会Ⅱ「近代の演劇史と井上正夫の周辺」

日 時：9月30日（日） 14：00～15：30
講 師：宮本直美（砥部町教育委員会学芸員）
場 所：愛媛県美術館 講堂
参加人数：15名

出品目録

第1章 文豪・川端康成

1 川端の人となり

No	作者名	作品名	制作年	材質技法/頁数	寸法 (縦×横/cm)	所蔵	備考
1	川端康成	自画像	大正5年(1916)	紙本墨画/1面	23.4×31.9	公益財団法人川端康成記念会	
2	川端康成	日記	大正3年(1914)5月	紙本墨書/1冊		公益財団法人川端康成記念会	
3	伊藤初代	川端康成宛書簡		10通		公益財団法人川端康成記念会	
4	川端康成	伊藤初代宛書簡(未投函)		1通		公益財団法人川端康成記念会	
5		伊藤初代写真		3枚		個人蔵	
6	著 川端康成/ 装幀 吉田謙吉	『感情装飾』(金星社)	昭和元年(1926)	書籍		公益財団法人川端康成記念会	
7	著 川端康成/ 装幀 吉田謙吉	『浅草紅団』(先進社)	昭和5年(1930)	書籍		公益財団法人川端康成記念会	
8	著 川端康成/ 装幀 吉田謙吉	『伊豆の踊子』(金星社)	昭和2年(1927)	書籍		公益財団法人川端康成記念会	
9	木村莊八	『伊豆の踊子』挿絵原画	昭和元年(1926)	紙・インク/1面	11.5×14.8	公益財団法人川端康成記念会	
10	著 川端康成/ 装幀 芹沢銈介	初版『雪国』(創元社)	昭和10年(1935)	書籍		公益財団法人川端康成記念会	
11	著 川端康成/ 装幀 岡鹿之助	限定版定本『雪国』 (牧羊社)	昭和46年(1971)	書籍		公益財団法人川端康成記念会	
12		文化勲章	昭和36年(1961)受章	七宝		公益財団法人川端康成記念会	
13	エリック・リンドバーク	ノーベル文学賞メダル	昭和43年(1968)受賞	金	径6.5	公益財団法人川端康成記念会	
14	ケルステン・ティ ニ・ミウラ	ノーベル文学賞賞状	昭和43年(1968)受賞	皮・羊皮紙	36.5×49.0 (見開き)	公益財団法人川端康成記念会	
15		愛用の文房具 (筆・水滴・筆架)				公益財団法人川端康成記念会	
16		カメラ コンタックスI型				公益財団法人川端康成記念会	
17		川端撮影の写真				公益財団法人川端康成記念会	
18	高田博厚	川端康成胸像	昭和43年(1968)	ブロンズ/1体	高37.2	公益財団法人川端康成記念会	
19	ピエール＝ウ ジェーヌ・クレラン	雪の中の詩人	1969年	リトグラフ/1面	44.7×31.7	公益財団法人川端康成記念会	
20	川端康成	以文会友	昭和46年(1971)	紙本墨書/1幅	50.7×114.7	公益財団法人川端康成記念会	
21	川端康成	美しい日本	昭和46年(1971)	紙本墨書/1幅	50.7×37.0	公益財団法人川端康成記念会	

2 川端文学と美術家たち — 装幀・挿絵など

No	作者名	作品名	制作年	材質技法/頁数	寸法 (縦×横/cm)	所蔵	備考
22	著 川端康成/ 装幀 芹沢銈介	『川端康成集』(改造社)	昭和9年(1934)	書籍		公益財団法人川端康成記念会	
23	著 川端康成/ 装幀 芹沢銈介	『女性開眼』(創元社)	昭和12年(1937)	書籍		公益財団法人川端康成記念会	
24	著 川端康成/ 装幀 芹沢銈介	『川端康成選集一』 (改造社)	昭和13-14年 (1938-39)	書籍		公益財団法人川端康成記念会	
25	著 川端康成/ 装幀 芹沢銈介	『愛する人達』(新潮社)	昭和16年(1941)	書籍		公益財団法人川端康成記念会	
26	著 川端康成/ 装幀 芹沢銈介	『温泉宿』(実業之日本社)	昭和21年(1946)	書籍		公益財団法人川端康成記念会	
27	高井貞二	抒情歌	昭和12年(1937)	紙・インク・淡彩 /1面	29.8×23.5	公益財団法人川端康成記念会	
28	安田靉彦	『川端康成全集』 表紙画画帖		紙本彩色/1帖	各7.7×11.8	公益財団法人川端康成記念会	
29	著 川端康成/ 装幀 安田靉彦	『川端康成全集』 (新潮社)	昭和23年(1948)	書籍		公益財団法人川端康成記念会	
30	川端康成	『千羽鶴』原稿	昭和24年(1949)	紙・インク		公益財団法人川端康成記念会	
31	小林古径	『千羽鶴』装幀原画	昭和27年(1952)	紙本彩色ほか /2幅	各23.0× 31.0	公益財団法人川端康成記念会	双鶴図(箱)、 四鶴飛翔図 (表見返)の2点
32	著 川端康成/ 装幀 小林古径	『千羽鶴』(筑摩書房)	昭和27年(1952)	書籍		公益財団法人川端康成記念会	
33	杉山寧	志野(『千羽鶴』挿絵原画)	昭和27年(1952)	紙本彩色/1幅	17.3×22.9	公益財団法人川端康成記念会	
34	岡鹿之助	『舞姫』装幀原画	昭和26年(1951)	紙・鉛筆・インク /1面	22.4×17.4	公益財団法人川端康成記念会	
35	山本丘人	『山の音』装幀原画	昭和29年(1954)	紙本彩色・墨書 /1面	25.9×38.6	公益財団法人川端康成記念会	
36	著 川端康成/ 装幀 山本丘人	『山の音』(筑摩書房)	昭和29年(1954)	書籍		公益財団法人川端康成記念会	

37	著 川端康成／ 装幀 三岸節子	『水晶幻想』 (京都印書館)	昭和22年(1967)	書籍		個人蔵
38	著 川端康成／ 装幀 加山又造	『美しさと哀しみと』 (新潮社)	昭和40年(1965)	書籍		個人蔵
40	著 川端康成／ 挿絵 東郷青児	『川端康成作品選』(中央 公論社)「眠れる美女」挿絵	昭和43年(1968)	書籍		公益財団法人川端康成記念会
41	川端康成	「美の存在と発見・続」原稿	昭和44年(1969)	インク・紙		公益財団法人川端康成記念会
42	平山郁夫	ハワイ絵日記	昭和44年(1969)	紙本墨画淡彩 ／1帖	各26.9×34.8	公益財団法人川端康成記念会

3 文学者たちとの交流 — 近年発見の川端コレクションから

No.	作者名	作品名	制作年	材質技法／員数	寸法 (縦×横／cm)	所蔵	備考
43	菊池寛	川端康成宛書簡		紙本墨書	25.5×36.5	公益財団法人川端康成記念会	
44	芥川龍之介	室生犀星宛書簡	大正10-12年(1921-23)	紙本墨書／1面	18.0×59.5	公益財団法人川端康成記念会	
45	室生犀星	色紙	昭和4年(1929)	紙本墨書／2枚	各30.0×39.0	公益財団法人川端康成記念会	
46	徳田秋声	古き伝統と新しき生命	昭和9年(1934)	紙本墨書／1幅	112.0×29.5	公益財団法人川端康成記念会	
47	横光利一	川端康成宛書簡		紙本墨書		公益財団法人川端康成記念会	
48	横光利一	蟻臺上に飢えて月高し		紙本墨書／1幅	51.0×25.5	公益財団法人川端康成記念会	
49	林芙美子	川端康成宛書簡		はかき		公益財団法人川端康成記念会	
50	林芙美子	硯冷えて	昭和22-23年 (1947-48)頃	紙本墨書／1幅	43.5×30.5	公益財団法人川端康成記念会	
51	岡本かの子	川端康成宛書簡	昭和8年(1933)ほか	紙本墨書		公益財団法人川端康成記念会	
52	太宰治	川端康成宛書簡	昭和11年(1936)	紙本墨書／1巻	22.0×490.0	公益財団法人川端康成記念会	
53	谷崎潤一郎	川端康成宛書簡	昭和26年(1951)	紙本墨書		公益財団法人川端康成記念会	
54	坂口安吾	川端康成宛書簡	昭和26年(1951)5月 26・27日付	2通		公益財団法人川端康成記念会	
55	三島由紀夫	川端康成宛書簡(複製)			17.0×26.5	公益財団法人川端康成記念会	
56	永井荷風	川端康成宛書簡	昭和20年(1945)11月 29日付	1通		公益財団法人川端康成記念会	
57	永井荷風	築地草	大正4年(1915)	紙本墨書彩色 ／1帖	各18.0×12.0	公益財団法人川端康成記念会	
58	島木健作	川端秀子宛書簡		紙本墨書／1幅	22.6×61.2	公益財団法人川端康成記念会	
59	島崎藤村	若菜集より 草まくら		紙本墨書／1幅	53.5×41.5	公益財団法人川端康成記念会	
60	瀬戸内寂聴(晴美)	川端康成宛書簡	昭和33年(1958)3月11日付	紙本墨書		公益財団法人川端康成記念会	

第2章 川端康成コレクション — 知識も理屈もなく、私はただ見てゐる。

No.	作者名	作品名	制作年	材質技法／員数	寸法 (縦×横／cm)	所蔵	備考
61	オーギュスト・ロダン	女の手		ブロンズ／1体	高12.1	公益財団法人川端康成記念会	
62	オーギュスト・ロダン	ヴィクトル・ユゴー		ブロンズ／1体	高12.6	公益財団法人川端康成記念会	
63	オーギュスト・ロダン	ヴィクトル・ユゴー(石膏原型)		石膏／1体	高12.6	公益財団法人川端康成記念会	
64	オーギュスト・ルノ ワール	女性像	1886年	紙・鉛筆／1面	24.0×29.6	公益財団法人川端康成記念会	
65	パブロ・ピカソ	ヴェールの女	1923年	紙・パステル／1面	24.8×16.3	公益財団法人川端康成記念会	
66		土偶 女子	縄文時代後期 (紀元前2-1世紀)	素焼／1体	高13.0×幅 12.5	公益財団法人川端康成記念会	
67		聖徳太子立像	鎌倉時代 (13-14世紀)	木造彩色玉眼 ／1軀	高68.6	公益財団法人川端康成記念会	
68	池大雅	十便図【国宝】	江戸時代・明和8年 (1771)	紙本墨画淡彩 ／1帖	各17.7×17.7	公益財団法人川端康成記念会	場面替えしながら 全期間展示
69	与謝蕪村	十宜図【国宝】	江戸時代・明和8年 (1771)	紙本墨画淡彩 ／1帖	各17.7×17.7	公益財団法人川端康成記念会	場面替えしながら 全期間展示
70	池大雅	芳野山図	江戸時代(18世紀)	紙本墨画淡彩 ／1幅	148.0×56.8	公益財団法人川端康成記念会	
71	池大雅	般若心経書巖中観音図	江戸時代(18世紀)	紙本墨画墨書 ／1面	132.0×29.0	公益財団法人川端康成記念会	
72	池大雅	扇面	江戸時代(18世紀)	紙本墨画淡彩 ／1面	幅48.5	公益財団法人川端康成記念会	
73	与謝蕪村	文台	江戸時代・天明2年 (1782)	木(桐)／1脚	高12.0×幅59.0 ×奥行33.0	公益財団法人川端康成記念会	
74	浦上玉堂	凍雲篩雪図【国宝】	江戸時代(19世紀初)	紙本墨画淡彩 ／1幅	133.5×56.2	公益財団法人川端康成記念会	9/1~3,10/ 10~21展示 それ以外の期 間は複製展示
75	小林一茶	俳画「うつくしや」	江戸時代(19世紀初)	紙本墨画墨書 ／1幅	96.5×28.9	公益財団法人川端康成記念会	

76	良寛	恸塵	江戸時代(19世紀)	紙本墨書/1幅	28.5×51.5	公益財団法人川端康成記念会
77		三島水指	朝鮮・李朝時代(17世紀)	磁器/1口	各26.5×19.0	公益財団法人川端康成記念会
78		白磁香炉	朝鮮・李朝時代(18-19世紀)	磁器/1合	高17.0×径13.0	公益財団法人川端康成記念会
79		蓮池花鳥図	朝鮮・李朝時代(19世紀)	紙本彩色/3幅	各64.7×39.9	公益財団法人川端康成記念会
80	黒田辰秋	拭漆柄手箱	昭和43年(1968)	木製漆塗/1合	高13.0×幅11.0×奥行25.0	公益財団法人川端康成記念会
81	黒田辰秋	拭漆柄肉池	昭和43年(1968)	木製漆塗/1合	高6.0×幅10.0×奥行10.0	公益財団法人川端康成記念会
82	黒田辰秋	拭漆紙刀	昭和40年(1965)	木製漆塗/1振	長49.0	公益財団法人川端康成記念会
83	黒田辰秋	拭漆栗栴円盆	昭和40年(1965)	木製漆塗/1口	高8.5×幅82.8×奥行48.2	公益財団法人川端康成記念会
84	黒田辰秋	赤楽茶碗		陶器/1口	高9.7×径12.7	公益財団法人川端康成記念会
85	黒田辰秋	乾漆梅花盆		木製漆塗/1口	高9.7×径12.7	公益財団法人川端康成記念会
86	黒田辰秋	耀貝螺鈿茶器	昭和45年(1970)	木製漆塗螺鈿裝飾/1合	高7.0×蓋径6.5	公益財団法人川端康成記念会
87	黒田辰秋	朱漆六稜棗	昭和40年代	木製朱漆/1合	高7.0×蓋径6.5	公益財団法人川端康成記念会
88	黒田辰秋	梅茶杓	昭和40年代	木製朱漆/1本	幅1.0×長20.2	公益財団法人川端康成記念会
89	黒田辰秋	茶杓入れ	昭和40年代	木製/1本		公益財団法人川端康成記念会
90	古賀春江	煙火	昭和2年(1927)	キャンバス・油彩/1面	91.0×61.0	公益財団法人川端康成記念会
91	古賀春江	孔雀	昭和7年(1932)	紙・鉛筆・水彩/1面	38.6×50.0	公益財団法人川端康成記念会
92	古賀春江	海の幻想(ハトのいる画)	昭和2年(1927)	紙・墨/1面	24.3×30.3	公益財団法人川端康成記念会
93	古賀春江	牛と少女	昭和4年(1929)	紙・墨/1面	30.0×28.0	公益財団法人川端康成記念会
94	古賀春江	公園のエピソード	昭和8年(1933)	紙・水彩/1面	32.5×23.8	公益財団法人川端康成記念会
95	古賀春江	朗らかな春	昭和5年(1928)	紙・インク・水彩/1面	29.3×38.5	公益財団法人川端康成記念会
96	古賀春江	そこに在る	昭和8年(1933)	紙・水彩/1面	23.8×3.0	公益財団法人川端康成記念会
97	高田力蔵	萬年山遠望 飯田高原より	昭和28年(1953)	キャンバス・油彩/1面	44.5×52.0	公益財団法人川端康成記念会
98	高田力蔵	三月の越後湯沢	昭和38年(1963)	キャンバス・油彩/1面	39.0×52.0	公益財団法人川端康成記念会
99	岸田劉生	村娘		紙本彩色/1面	20.0×13.2	公益財団法人川端康成記念会
100	岸田劉生	麗子喜笑図	大正11年(1922)	紙本墨画淡彩/1面	38.0×25.0	公益財団法人川端康成記念会
101	熊谷守一	蟻	昭和43年(1968)	紙本彩色/1面	28.0×31.2	公益財団法人川端康成記念会
102	中沢弘光	舞妓		キャンバス・油彩/1面	41.0×31.5	公益財団法人川端康成記念会
103	猪熊弦一郎	女(仮題)		紙・クレパス/1面	50.0×27.0	公益財団法人川端康成記念会
104	岩崎勝平	雲	昭和6年(1931)	板・油彩/1面	24.3×33.4	公益財団法人川端康成記念会
105	岩崎勝平	大川端	昭和25年(1950)	紙・鉛筆・淡彩/1面	27.5×39.5	公益財団法人川端康成記念会
106	草間彌生	雑草	昭和28年(1953)	紙・グワッシュ・インク/1面	27.7×20.5	公益財団法人川端康成記念会
107	草間彌生	不知火	昭和30年(1955)	紙・パステル・グワッシュ・インク/1面	72.5×60.5	公益財団法人川端康成記念会
108	村上肥出夫	キャナル・グランデ	昭和46年(1971)	キャンバス・油彩/1面	38.0×45.5	公益財団法人川端康成記念会
109	ベル・串田	センチメンタル・ジャーニー 神と共に		キャンバス・油彩/1面	59.0×39.0	公益財団法人川端康成記念会

第3章 川端康成と東山魁夷

1 響きあう魂 — 交友の軌跡

No.	作者名	作品名	制作年	材質技法/頁数	寸法 (縦×横/cm)	所蔵	備考
110	著 川端康成/ 装幀 東山魁夷	『虹いくたび』(河出書房)	昭和30年(1955)	書籍		個人蔵	
111	著 川端康成/ 装幀 東山魁夷	『日も月も』(河出書房)	昭和30年(1955)	書籍		東山家	
112	東山魁夷	ドイツ語版『千羽鶴』 (フィッシャー社)	1955年	書籍		東山家	
113	東山魁夷	川端康成宛書簡 昭和30年(1955)4月16日付	昭和30年(1955)	紙本墨書		公益財団法人川端康成記念会	
114	東山魁夷	お濠端(連作「東京十二景」のうち)	昭和34年(1959)	紙本淡彩/1面	45.5×34.3	公益財団法人川端康成記念会	

115	東山魁夷	風	昭和31年(1956)頃	紙本彩色/1面	30.3×36.4	公益財団法人川端康成記念会	
116	東山魁夷	滝	昭和29年(1954)頃	紙本彩色/1面	44.5×26.5	公益財団法人川端康成記念会	
117	東山魁夷	冬の花	昭和37年(1962)	紙本彩色/1面	26.8×34.6	公益財団法人川端康成記念会	川端の第21回文化勲章祝いに贈呈
118	東山魁夷	ストックホルム・グランドホテルより	昭和37年(1962)頃	紙本彩色/1面	21.8×34.7	公益財団法人川端康成記念会	
119	東山魁夷	フレデリク城を望む	昭和38年(1963)頃	紙本彩色/1面	33.5×44.8	個人蔵	
120	東山魁夷	リトグラフィ装画集『北歐紀行 古き町にて』	昭和39年(1964)	リトグラフ		東山家	
121	川端康成	東山魁夷宛書簡 昭和39年(1964)12月14日付	昭和39年(1964)	紙本墨書		公益財団法人川端康成記念会	
122	東山魁夷	朝日新聞日曜PR版掲載「隣人」「白馬」	昭和37-39年(1962-64)	リトグラフ		東山家	
123	東山魁夷	月影(習作)	昭和41年(1966)	紙本彩色/1面	36.8×53.9	公益財団法人川端康成記念会	
124	東山魁夷	静宵(習作)	昭和42年(1967)	紙本彩色/1面	26.5×40.5	公益財団法人川端康成記念会	
125	東山魁夷	山湖静(習作)	昭和42年(1967)	紙本彩色/1面	22.5×34.2	個人蔵	
126	川端康成(書)、東山魁夷(画)	秋の野に	昭和43年(1968)	紙本墨書、紙本金銀彩・金銀箔/2曲1双	168.0×168.0	公益財団法人川端康成記念会	
127	東山魁夷	川端康成宛書簡 昭和43年(1968)10月25日付	昭和43年(1968)	紙本墨書		公益財団法人川端康成記念会	ノーベル文学賞受賞のお祝い
128	東山魁夷	北山初雪	昭和43年(1968)	紙本彩色/1面	89.0×130.0	公益財団法人川端康成記念会	
129	東山魁夷	北山杉 秋	昭和37年(1962)	紙本彩色/1面	26.0×37.0	東山家	
130	東山魁夷	北山杉 冬	昭和37年(1962)	紙本彩色/1面	26.5×36.0	東山家	
131	東山魁夷	晩鐘	昭和46年(1971)	紙本彩色/1面	33.6×46.6	公益財団法人川端康成記念会	
132	東山魁夷	碧い湖	昭和45年(1970)	リトグラフ/1面	39.0×57.0	公益財団法人川端康成記念会	
133	東山魁夷	裏窓	昭和44年(1969)	紙本彩色/1面	37.2×25.2	公益財団法人川端康成記念会	
134	東山魁夷	マリアの壁	昭和46年(1971)	紙本彩色/1面	67.5×91.5	公益財団法人川端康成記念会	
135	川端康成	心	昭和43年(1968)	紙本墨書/1幅	29.6×31.0	東山家	東山に贈呈
136	川端康成	山上林下人	昭和43年(1968)	紙本墨書/1幅	66.0×53.0	東山家	東山に贈呈
137	川端康成	風景常新	昭和43年(1968)	紙本墨書/1幅	68.0×71.0	東山家	東山に贈呈
138	東山魁夷	『片腕』装幀原画	昭和40年(1965)	紙本彩色/1面	14.4×15.1	公益財団法人川端康成記念会	
139	著 川端康成/装幀 東山魁夷	『片腕』(新潮社)	昭和40年(1965)	書籍		公益財団法人川端康成記念会	
140	東山魁夷	雪降る(『川端康成作品選』装幀原画)	昭和43年(1968)	紙本彩色/1面	26.5×39.0	公益財団法人川端康成記念会	
141	東山魁夷	『川端康成作品選』(中央公論社)	昭和43年(1968)	書籍		公益財団法人川端康成記念会	
142	装幀 東山魁夷	「新潮」増刊号 川端康成読本(新潮社)	昭和47年(1972)	書籍		個人蔵	
143	題字 川端康成/装幀 東山魁夷	『古都』(牧羊社)	昭和48年(1973)	書籍		東山家	
144	東山魁夷	光悦垣(『古都』表紙原画)	昭和48年(1973)	絹本墨画金泥/1面	32.6×54.5	東山家	
145	東山魁夷	京の春(『古都』挿絵原画)	昭和48年(1973)	紙本彩色/1面	21.2×15.0	東山家	
146	東山魁夷	京の秋(『古都』挿絵原画)	昭和48年(1973)	紙本彩色/1面	15.3×15.3	東山家	
147	著 川端康成/装幀 東山魁夷	『たんぽぽ』(新潮社)	昭和47年(1972)	書籍		個人蔵	
148	著 川端康成/装幀 東山魁夷	『天授の子』(新潮社)	昭和50年(1975)	書籍		個人蔵	
149	著 川端康成/装幀 東山魁夷	『川端康成全集』(新潮社)	昭和55年(1980)	書籍		公益財団法人川端康成記念会	

2 美をめぐる対話 — 二人のコレクションから

No.	作者名	作品名	制作年	材質技法/貝数	寸法 (縦×横/cm)	所蔵	備考
150		埴輪 乙女頭部	古墳時代(5-6世紀)	素焼/1体	高17.0×幅12.5	公益財団法人川端康成記念会	
151	川端康成	東山魁夷宛書簡 昭和43年(1968)6月7日付	昭和43年(1968)	紙本墨書		東山家	埴輪入手を伝える
152		根来硯台・猿面硯	室町時代(14-16世紀)	1組	硯台:29.0×19.6×4.6/硯:16.2×11.4×4.4	東山家	川端旧蔵
153		根来台付盆	桃山時代(16世紀後半)	木製漆塗/1個	高5.2×径20.7	東山家	円得院旧蔵
154		懸仏 十一面観音菩薩頭部	鎌倉時代(13世紀)	銅/1軀	高9.8	公益財団法人川端康成記念会	
155		天平写経	奈良時代(8世紀)	紙本墨書/1幅	16.1×8.0	東山家	唐招提寺旧蔵

156		舍利会香炉	鎌倉時代(13世紀)	木製彩色/1個	長31.0×高6.0	東山家	唐招提寺旧蔵
157		伝 中尊寺経	平安時代後期(11-12世紀)	紺紙本金泥書/1巻	27.6×1035.0	東山家	
158		鹿曼荼羅図	鎌倉時代(12-14世紀)	絹本彩色/1幅	68.0×31.0	東山家	
159	明恵成弁	夢記断簡	鎌倉時代(13世紀前半)	紙本墨書/1幅	29.1×21.4	公益財団法人川端康成記念会	
160	伝 俵屋宗達	伊勢物語図色紙	江戸時代前期(17世紀)	紙本彩色/1幅	52.8×30.0	東山家	益田孝旧蔵
161	尾形光琳	松図	江戸時代(17世紀後半-18世紀前半)	紙本墨画/1幅	79.0×19.0	公益財団法人川端康成記念会	
162	伝 俵屋宗達	源氏物語図屏風断簡	江戸時代前期(17世紀)	紙本彩色/1幅	45.5×56.5	東山家	本願寺・団琢磨・安井曾太郎旧蔵、安田靉彦蔵
163	北村季吟	源氏物語湖月抄本	江戸時代・延宝元年(1673)成立	木版	各26.5×19.0	公益財団法人川端康成記念会	
164		石碑断片	エジプト・プトレマイオス王朝時代(紀元前3世紀頃)	石/1体	37.0×77.0×5.5	東山家	
165		黒像式レキュトス	ギリシャ(紀元前6世紀)	陶器/1口	高17.0×径6.5	東山家	
166		梨型細瓶	ローマ(1-2世紀)	ガラス/1個	高13.0×径5.5	東山家	
167		緑耳付瓶	ローマ(2-3世紀)	ガラス/1個	高9.5×径6.5	東山家	
168		片手付瓶	ローマ	ガラス/1個	高9.2×径5.5	東山家	
169		青釉碗	ペルシャ(13世紀頃)	陶器/1口	高6.0×径13.8	東山家	
170		緑彩黒絵鳥文瓶	ペルシャ・カーシャーン(13世紀頃)	陶器/1口	高16.5×径6.0	東山家	
171		仏頭	アフガニスタン・ハッタ(3-5世紀)	塑像/1体	高14.0	公益財団法人川端康成記念会	
172		仏頭	パキスタン・タキシーラ(2-3世紀)	塑像/1体	高10.5	東山家	
173		仏頭	パキスタン・ガンダーラ(2-3世紀)	塑像/1体	高10.5	東山家	
174		仏坐像	パキスタン・マルダン(3世紀)	石像(片岩)/1躯	高22.0	東山家	
175		埴輪 鳥	古墳時代(5-6世紀末)	素焼/2体		公益財団法人川端康成記念会	
176	金農(冬心)	墨梅図	中国・清時代 乾隆25年(1760)	紙本墨画/1幅	96.0×99.3	公益財団法人川端康成記念会	
177	長路	蔬菜図	中国・元時代(13-14世紀)	絹本着色/1幅	27.0×24.5	東山家	
178	石濤	清湘老人山水画冊	中国・清時代 康熙30年(1691)	紙本墨画淡彩/1帖(全12図)	各24.5×45.5	東山家	
179		饗養文銅器	中国・殷時代(紀元前14-11世紀)	青銅/1口	高29.5×径15.5	東山家	
180		官人立像	中国・漢時代(紀元前3-3世紀)	陶器/2躯	男子像:高17.0、女子像:高16.5	東山家	
181		加彩馬頭	中国・漢時代(紀元前3-3世紀)	陶器/1躯	高16.0	東山家	
182		青龍文中皿(正徳官窯)	中国・明時代(14-17世紀)	磁器/1口	径17.8	東山家	
183		高麗劍把頭	朝鮮・新羅時代(6世紀)	銅製鍍金/1個	径6.5	東山家	
184		亀甲文香合	室町時代(14-16世紀)	木製漆塗蒔絵/1個	6.5×6.5×3.0	東山家	金森宗和箱書
185		芥子蒔絵碁笥	江戸時代(19世紀)	木製梨地蒔絵/1対	高9.0×径12.0	公益財団法人川端康成記念会	
186	伝 本阿弥光悦	黒茶碗	桃山-江戸時代(16世紀後半-17世紀前半)	陶器/1口	高5.2×径20.7	東山家	大谷尊由(西本願寺法主)箱書
187	伝 尾形乾山	松の絵茶入	江戸時代中期(18世紀)	陶器/1口	高12.0×径8.5	東山家	安田靉彦箱書
188		茶入 銘「村時雨」		陶器/1口	高8.0×径7.3	東山家	松平不昧書付
189		霰団扇松梅図瓢釜	江戸時代前期(17世紀)	鑄鉄/1口	高10.3×胴径14.8	東山家	
190	楽弘入	赤楽梅の絵茶碗		陶器/1口	高6.7×径4.5	東山家	
191	荒川豊蔵	志野梅の絵茶碗		陶器/1口	高7.5×径12.5	東山家	
192	加藤唐九郎	瀬戸黒茶碗		陶器/1口	高9.0×径13.2	東山家	
193	楠部彌弌	伊羅保茶碗		陶器/1口	高6.0×径14.5	東山家	
194	楠部彌弌	彩埴 山帰来香炉	昭和39年(1964)	陶器/1口	高8.5×径6.5	東山家	
195	楠部彌弌	均窯茶碗	昭和38年(1963)	陶器/1口	高8.2×径11.5	東山家	
196	富本憲吉	色絵灰皿		陶器/1口	高3.7×幅8.9×奥行6.5	公益財団法人川端康成記念会	
197	北大路魯山人	赤絵牡丹筒向付		陶器/2口	各高8.9×径7.5	公益財団法人川端康成記念会	
198	北大路魯山人	黄瀬戸盃		陶器/5口	各高2.5×径6.0	公益財団法人川端康成記念会	

199	北大路魯山人	菓子鉢		陶器/1口	高9.5×径15.0	東山家	
200	北大路魯山人	六方皿		陶器/1口	高7.9×径27.8	東山家	
201	北大路魯山人	秋草文吊行灯		鉄製/1個	高26.6×幅25.2 ×奥行25.2	東山家	
202	板谷波山	青磁香炉		磁器/1口	高10.0×径8.0	東山家	
203	岡部嶺男	粉青瓷砧形花入		磁器/1口	高24.2×径17.2	東山家	
204	岡部嶺男	鼠志野茶碗		陶器/1口	高8.5×径11.3	東山家	
205	岡部嶺男	黄瀬戸水指	昭和40年(1965)	陶器/1口	高14.0×径17.5	東山家	
206	岡部嶺男	灰釉練上瓶子	昭和37年(1962)	陶器/1口	高38.5×径22.0	東山家	
207	蓮田脩吾郎	朱銅壺	昭和38年(1963)	銅/1口	高19.0×幅16.2 ×奥行17.2	東山家	
208	エミール・ガレ	色硝子花実文彫水指・ 水盃		ガラス/1組	水差:高12.5 /水盃:高5.3	東山家	
209	エミール・ガレ	茶入		ガラス/1口	高5.5×径7.5	東山家	
210	村上華岳	十一面観音菩薩図	大正3年(1914)頃	紙本淡彩/1幅	117.0×48.0	東山家	
211	近藤千尋	十一面観世音	昭和43年(1968)	紙本彩色/1幅	37.3×31.5	公益財団法人川端康成記念会	
212	岸田劉生	童女像	大正12年(1923)	キャンバス・油 彩/1面		東山家	
213	長谷川利行	赤い道		キャンバス・油 彩/1面	31.5×21.0	東山家	
214	長谷川利行	街はずれ		紙・水彩/1面	13.5×21.0	東山家	
215	長谷川利行	裸女	昭和15年(1940)	キャンバス・油 彩/1面	27.0×20.5	東山家	
216	梅原龍三郎	桃	昭和7年(1932)	キャンバス・油 彩/1面	12.1×34.0	公益財団法人川端康成記念会	
217	安井曾太郎	早春風景	大正3年(1914)頃	キャンバス・油 彩/1面	24.5×20.0	東山家	
218	オディロン・ルドン	光の横顔	1886年	リトグラフ/1面	33.5×23.5	東山家	
219	アンドレ・ ブラジリエ	雪の上の騎手達		キャンバス・油 彩/1面	49.3×64.5	東山家	
220	ベルナルド・ カトラン	ベニス風景	1981年	キャンバス・油 彩/1面	37.0×66.0	東山家	

第4章 川端・東山と愛媛とのゆかり

No.	作者名	作品名	制作年	材質技法/頁数	寸法 (縦×横/cm)	所蔵	備考
221	監督 衣笠貞之助	映画「狂つた一頁」 (抜粋版・10分)	大正15年(1926)	映像		国立映画アーカイブ	
222	川端康成	「狂つた一頁」シナリオ (『映画時代』創刊号)	大正15年(1926)	雑誌		個人蔵	
223		映画「狂つた一頁」/十字 路」パンフレット、チラシ(岩 波ホール エキブ・ド・シネ マ 第5回ロードショー)	昭和50年(1975)			個人蔵	
224	夏目漱石	五言絶句	大正3年(1914)	紙本墨書/1幅	137.0×51.5	公益財団法人川端康成記念会	
225	夏目漱石	森園月宛書簡	大正3年(1914)	紙本墨書/1巻	17.5×94.5	公益財団法人川端康成記念会	
226	田辺至(画)、 高浜虚子(書)	高浜虚子像、虚子句	昭和時代	紙本墨画淡彩 /1幅	42.0×32.5	公益財団法人川端康成記念会	
227	川端康成(書)	急須(高浜虚子句)	昭和時代	陶器/1合	高9.0	公益財団法人川端康成記念会	
228	高浜虚子	『虹』(苦楽社)	昭和22年(1947)	書籍		愛媛県立図書館	
229	東山魁夷	波響く	昭和60年(1985)	紙本着色/ 1面	52.5×100.0	愛媛県美術館	愛媛県県民 文化会館(ひ めぎんホー ル)緞帳原画
230	東山魁夷	潮音	昭和41年(1966)	紙本彩色/ 1面	29.2×50.0	東山家	島根県戸田 小浜
231	東山魁夷	山峡	昭和48年(1973)	紙本彩色/ 1面	36.0×51.0	東山家	唐招提寺障 壁画制作のた めのスケッチ
232	東山魁夷	雨後	昭和51年(1976)	紙本墨画淡彩 /1面	31.5×44.5	東山家	唐招提寺障 壁画制作のた めのスケッチ
233	東山魁夷	雲去来	昭和51年(1976)	紙本彩色/ 1面	36.0×51.3	東山家	唐招提寺障 壁画制作のた めのスケッチ
234	東山魁夷	望郷	昭和48年(1973)頃	紙本彩色/1面	29.5×41.5	東山家	瀬戸内海
235		椅子(スウェーデン製)		木製布貼/1脚		公益財団法人川端康成記念会	ノーベル文学 賞賞金で購入

石本藤雄展 ーマリメッコの花から陶の実へー

会 期：平成30年10月27日（土）ー 12月16日（日）（44日間）
主 催：「石本藤雄展」実行委員会（愛媛県、南海放送）、砥部町
後 援：フィンランド大使館、フィンランドセンター、松山市、松山市教育委員会、愛媛県市町教育委員会連合会、（公財）愛媛県教育会、愛媛県教育研究協議会、愛媛県小中学校長会、愛媛県PTA連合会、愛媛県美術会、愛媛美術教育連盟、（一社）愛媛県観光物産協会、（公財）松山観光コンベンション協会、道後温泉旅館協同組合、道後商店街振興組合、伊予鉄グループ、愛媛新聞社、朝日新聞松山総局、読売新聞松山支局、毎日新聞松山支局、産経新聞社、愛媛CATV、RNC西日本放送、JRT 四国放送、RKC 高知放送

特別協力：マリメッコ

協 力：城北運送、茶玻璃、MUSTAKIVI

特別協賛：大久保運送

協 賛：アイ・エヌ・エフ

会場デザイン：NINO inc

グラフィックデザイン：テツシンデザイン

企画協力：スパイラル／株式会社ワコールアートセンター

会 場：愛媛県美術館 常設展示室3、特別展示室1・2・3

第2会場：砥部町文化会館エントランスホール

趣 旨

愛媛県砥部町出身の石本藤雄は、フィンランドの森や湿地、そして湖が生み出す豊かな自然、また生まれ育った愛媛県砥部町で親しんだ障子山や田畑や蓮池など数々の風景がデザインの源となり、意欲的に新しい表現を生み出してきた。本展はフィンランドを代表するライフスタイルブランド「マリメッコ」のデザイナーとして、また同じく同国を代表する老舗陶器メーカー「アラビア」のアート部門に所属する陶芸家としての石本の活躍を、愛媛県美術館と砥部町文化会館の2会場で紹介した。

愛媛県美術館では、新作陶器と館のコレクションとを石本本人の選定により組み合わせることにより新しい空間を創出し、またマリメッコデザイナー時代に制作された多数のファブリックや、そのデザインの基となった原画を併せたインスタレーションとして紹介した。砥部町文化会館では、故郷の自然風景を題材にした新作陶器とともに、マリメッコのデザイナー時代の仕事を紹介し、また今回復刻された「onni（訳：幸せ）」も展示公開した。

観覧者数：14,513名

関連行事

石本藤雄展プレスツアー

日 時：10月26日（金） 11：00～（約1時間）

講 師：石本藤雄 聞き手：主任学芸員 杉山はるか

場 所：展示室

参加人数：50名

※プレス関係者対象

オープニング記念 作家によるフロアレクチャー

日 時：10月27日（土） 11：00～（約1時間）

講 師：石本藤雄 聞き手：主任学芸員 杉山はるか

場 所：展示室

参加人数：120名

石本藤雄 砥部トーク

日 時：10月28日（日） 11：00～（約1時間）
 講 師：石本藤雄
 対 談 者：上田文雄（砥部町副町長） 聞き手：主任学芸員 杉山はるか
 場 所：砥部町文化会館エントランスホール
 参加人数：50名

石本藤雄絵付けワークショップ

日 時：10月30日（火） 10：50～12：40
 講 師：石本藤雄
 場 所：松山南高校砥部分校
 参加人数：25名
 ※松山南高校砥部分校生徒対象

学芸員によるフロアレクチャー

日 時：11月10日（土） 14：00～（約1時間）
 講 師：主任学芸員 杉山はるか
 場 所：展示室
 参加人数：30名

土曜講座「石本藤雄の風景ーマリメッコから現在へー」

日 時：11月17日（土） 14：00～（約1時間）
 講 師：主任学芸員 杉山はるか
 場 所：美術館ハイビジョンギャラリー
 参加人数：18名

連続講座 「壁掛けミカン」

※詳細は普及事業報告を参照

同時開催

道後温泉 茶玻璃、Mustakiviにおいてそれぞれ関連展示を実施



石本藤雄展出品リスト

※石本作品の所蔵先は記載以外は全て作家蔵

※マリメッコ作品の作家名は全て石本藤雄

※マリメッコ作品の制作年は、テキスタイルに記載されている年数を表しており、年代によって発表年とデザインされた年に分かれている。

マリメッコ

番号	作家名	作品名	制作年	素材・技法	備考
1	石本藤雄	オンニ(Onni/幸せ)	1975年 (2019年 復刻版)	プリント/綿	白地、緑地に白、赤地、黄色地に白、白黒
2		スヴィ(Suvi/夏)	1976年 (2019年 復刻版)	プリント/麻	薄い褐色地、濃い褐色地
3		コレクション「シュダントルヴィ(Sydäntalvi/真冬)」 :ウオマ(Uoma/河床)	1986年	プリント/綿	F147(青銀)、F148(金)
4		ケサスタ・ケサアン1(Kesästä kesään (1)/夏から夏へ1)	1991年	プリント/麻	F348(ポジ)、F349(ネガ)
5		ケサスタ・ケサアン2(Kesästä kesään (2)/夏から夏へ2)	1991年	プリント/麻	F350(ポジ)、F351(ネガ)
6		ケサスタ・ケサアン4(Kesästä kesään (4)/夏から夏へ4)	1991年	プリント/麻	F352(ネガ)
7		ヤマ(Jama/山)	1977年	プリント/綿	F017、白黒
8		スモウ(Sumo/相撲)	1977年	プリント/綿	F375(カラー)
9		スデンマリヤ(Sudenmarja/オオカミのイチゴ)	1993年	プリント/麻綿	F218 (2レピート天地白地)
10		ウコンハツツ(Ukonhattu/トリカブト)	1993年	プリント/綿	F213(オレンジ)
11		コレクション「マイセマ(Maisema/風景)」 :リヌンペサ(Linnunpesä/鳥の巣)	1982年	プリント/綿	F077(赤・グリッド)
12		コレクション「マイセマ(Maisema/風景)」 :マイセマ	1982年	プリント/綿	F066(アイスグリーン)、 F067(ラベンダー)
13		コレクション「シニタイヴァス(Sinitaivas/青空)」 :イルマ(Ilma/天気)	1985年	プリント/綿	F138(オレンジ-緑)
14		コレクション「イソカルフ(Isokarhu/北斗七星)」 :カルフサーリ(Karhusaari/[島の名前])	1983年	プリント/綿	F100(赤)
15		ツーリスパー(Tuulispää/一吹の風)	2004年	プリント/綿	F334(黄緑)
16		コレクション「シニタイヴァス(Sinitaivas/青空)」 :ヘッレ(Helle/炎天)	1985年	プリント/綿	F133(ピンク)
17		レポ(Lepo/休息)	1991年	プリント/綿 ※F185 不明 F194:ローン	F182(紺地)、F183(茶地)、 F184(洗い緑地)、F185(白地×薄青)、 F186(緑)、F187(ベージュ)、 F188(朱赤)、F189(濃い赤)、 F190(青地緑)、F192(黒地×白)、 F194(白地×黒グレー)
18		クッカケト(Kukkaketo/休息)	1976年 (2019年 復刻版)	プリント/綿	水色地
19		フルミオ(Hurmio/夢中)	1999年	プリント/綿	F279(青花)
20		セラanne(Selänne/水上から見た遠景)	2003年	プリント/綿	F343(赤)、F345(青)
21		ケサント(Kesanto/放牧地(休耕地))	1988年	プリント/綿	
22		イリス・ヤポニカ(Iris Japonica/シャガ)	2004年	プリント/麻	F323(水色)
23		ラフデ(Lähde/泉)	1999年	プリント/麻	F286(グリーン・ピンク)
24		ヴィレ(Vire/幡がなびく)	1997年	プリント/麻	F378 (2レピート 青テープ)
25		コレクション「イソカルフ(Isokarhu/北斗七星)」 :オストヤッキ(Ostjakki/[フィン族のひとつ])	1983年	プリント/綿	F116
26		ルウスマヤ(Ruusumaja/バラの館)	1995年	プリント/麻	F225(花柄 渋金)
27		リナンプイスト(Linnanpuisto/城の庭園)	1989年	プリント/綿	F177(木柄)
28		パラティッシ(Paratiisi/楽園)	1996年	プリント/綿	F251(薄青緑)

29		スヴィスヌンタイ (Suvisunnuntai / 夏の日曜日)	1998年	プリント / 綿	F248 (青地)
30		クウマ (Kuuma / 暑)	1978年	プリント / 綿	
31		ナウル (Nauru / 笑い)	1982年	プリント / 綿	
32		シイメス (Siimes / 木陰)	1995年	プリント / 綿	F357 (緑)
33		セブン・フラワー (Seven Flowers)	1978年	プリント / 綿	F007
34		イロ (Ilo / よろこび)	1981年	プリント / 綿	F367 (花柄)
35		サラスツス (Sarastus / 夜明け)	1980年	プリント / 綿	F045
36		プウタルハクツト (Puutarhakutsut / ガーデンパーティー)	1989年	プリント / 綿	F174 (白地 花柄)
37		ヴィッリ ヤ ヴァパー (Villi ja vapaa / おてんば)	2003年	プリント / 綿	
38		パユ (Paju / 柳)	1988年	プリント / 綿	F163 (銀箔押し)
39		コレクション「イソカルフ (Isokarhu / 北斗七星)」 : ヤアヴオレット (Jäävuoret / 氷山)	1983年	プリント / 綿	F096 (赤地)
40		ユフラ (Juhla / 祭)	1998年	プリント / 綿	キャンバス
41		サラヴァ (Salava / [柳の一種])	1988年	プリント / ローン	F161 (白地)
42		スウデンコレント (Sudenkorento / トンボ)	2002年	プリント / 綿	F302 (黒地)
43		クイスカウス (Kuiskaus / ささやき)	1981年	プリント / 綿	F060 (黒)
44		コスキ (Koski / 溪流)	1986年	プリント / 綿	
45		ロンポロ (Lompolo / ラップランドの小さな湖)	1983年	プリント / 綿	
46		レフムス (Lehmus / 菩提樹)	1997年	プリント / 麻	F220 (緑葉)
47		クヤ (Kuja / 路地)	1976年	プリント / 綿	
48		ライネヘフティヴァ (Lainehtiva / うねり)	1988年	プリント / 綿	F157 (草)
49		タイガ (Taiga / 草原)	1978年	プリント / 綿 / 麻 F209: 紗, F210: 綿	F209, F210 (白地)
50		デザイン原画等資料	1973~ 2012年	マーカー、クレヨン、水彩、 シルクスクリーン、マープ リング、デジタルプリント、 カラーコピー / トレーシ ングペーパー、紙、布、 OHPフィルム 他	70点
51		マリメッコ25周年記念ポスター	1976年	印刷 / 紙	
52		「蝶々夫人」公演ポスター	1980年	印刷 / 紙	
53		カイ・フランク賞受賞記念個展ポスター	1994年	印刷 / 紙	
54		個展「On the Road」ポスター	2001年	印刷 / 紙	
55		石本藤雄オリジナルスツール	2018年	布 / アルテックスツール	21点
56	takeshibuya	石本藤雄展メイキングムービー	2018年	4分10秒	

愛媛県美術館コレクションと石本藤雄作品との「取り合わせ」

番号	作家名	作品名	制作年	素材・技法	備考
57	石本藤雄	[オオイヌノフグリ]	2018年	陶器 / レリーフ (組作品)	

冬瓜

番号	作家名	作品名	制作年	素材・技法	備考
58	石本藤雄	[冬瓜]	2015年 / 2017年	陶器 / 立体 (17点)	
59	三輪田米山	福祿寿	1897年	紙本墨書 / 軸 (三幅対)	
60	土田麦僊	柳蔭	1921年	絹本着色 / 六曲屏風一雙 (右隻)	
61	石本藤雄	[柳]	2018年	陶器 / 角皿 (3点)	
62	石本藤雄	[冬瓜]	2017年	陶器 / レリーフ (2点)	
63	石本藤雄	[オオイヌノフグリ]	2017年	陶器 / レリーフ	
64	石本藤雄	[円盤]	2018年	陶器 / 丸皿 (2点組)	

モダンアート

番号	作家名	作品名	制作年	素材・技法	備考
65	斎藤義重	work	1961年	油彩／合板	
66	菅井汲	EiYU	1968年	油彩／画布	
67	白髪一雄	屋島の戦い	1967年	油彩／画布	
68	石本藤雄	[冬景色より]	2008年	陶器／立体	個人蔵
69	石本藤雄	[色皿]	2017年／ 2018年	陶器／楕円皿(4点)	

海・波

番号	作家名	作品名	制作年	素材・技法	備考
70	石崎重利	幟立つ瀬戸	1928年	木版／紙	
71	野間仁根	来島水道仲渡島附近	1967年	油彩／画布	
72	石本藤雄	[海]	1999年／ 2018年	陶器／レリーフ(4点)	

山

番号	作家名	作品名	制作年	素材・技法	備考
73	横山大観	曳船	1905年	絹本着色／軸	
74	石本藤雄	[山]	2018年	陶器／立体(3点組)	
75	石本藤雄	[山]	1999年	陶器／立体(2点)	個人蔵
76	石本藤雄	[紅白花]	2017年	陶器／レリーフ	

俳句・梅

番号	作家名	作品名	制作年	素材・技法	備考
77	正岡子規	梅花図	明治時代 中期頃	紙本水彩／軸	
78	石本藤雄	[梅]	2017年	陶器／レリーフ(4点)	
79	河東碧梧桐	俳句「温泉巡りして戻りし部屋の桃の活けてある」	大正時代	紙本墨書／軸	
80	物外不遷	人物画賛	江戸時代 後期	紙本墨画墨書／軸	
81	池田遙邨	蚊帳の中までまん丸い月昇る山頭火	1988年	紙本着色／額	
82	種田山頭火	俳句「ほろほろとして木の葉ふる」		紙本墨書／軸	寄託作品
83	石本藤雄	[赤い実]	2017年	陶器／レリーフ	
84	石本藤雄	[ぶどう]	2017年	陶器／レリーフ	

蓮

番号	作家名	作品名	制作年	素材・技法	備考
85	天野方壺	蓮池図	明治時代 中期頃	紙本墨画墨書／軸	
86	石本藤雄	ラフデ(Lähde／泉)	1999年	プリント／麻	F289(茶・金)

野菜・果物

番号	作家名	作品名	制作年	素材・技法	備考
87	石本藤雄	[ヤマモモ]	2018年	陶器／角皿	
88	石本藤雄	[みかん]	2018年	陶器／角皿(5点)	
89	石本藤雄	[青い実]	2017年	陶器／角皿	
90	石本藤雄	[瓜]	2017年	陶器／角皿	
91	石本藤雄	[花]	2017年	陶器／角皿	
92	石本藤雄	[南天]	2017年	陶器／角皿	

93	石本藤雄	[白瓜]	製陶2015年／着彩2017年	陶器／角皿	
94	石本藤雄	[色皿(5色)]	2017年	陶器／角皿	
95	石本藤雄	[ヤマモモ]	2017年	陶器／角皿	
96	石本藤雄	[梅]	2017年	陶器／角皿	
97	石本藤雄	[かぼちゃ]	2016年	陶器／角皿(2点)	
98	石本藤雄	[ストライプ]	2017年	陶器／角皿	
99	石本藤雄	[ぶどう]	2017年	陶器／丸皿	
100	石本藤雄	[赤い実]	2017年	陶器／丸皿	
101	石本藤雄	[ヤマモモ]	2017年	陶器／丸皿	
102	福田平八郎	南瓜天津桃	1957年	紙本着色／額	武智コレクション
103	福田平八郎	無花果	1966年	紙本着色／額	武智コレクション
104	黒光茂樹	秋茄子	1975年	紙本着色／額	

木

番号	作家名	作品名	制作年	素材・技法	備考
105	土田次枝	フィレンツェ郊外	1970年	油彩／画布	
106	石本藤雄	[南天]	2018年	陶器／丸皿(2点)	
107	石本藤雄	セラanne(Selänne／水上から見た遠景)	2003年	プリント／綿	F344(黒・ベージュ)
108	ポール・セザンヌ	水の反映	c. 1888-90年	油彩／画布	
109	石本藤雄	[Nietos(吹きだまり)より]	1996年	陶器／角皿	個人蔵
110	石本藤雄	[オリーブ]	2018年	陶器／レリーフ(2点)	
111	柳瀬正夢	木と降る光	1914年	油彩／板	

第2会場：砥部町文化会館

番号	作家名	作品名	制作年	素材・技法	備考
112	石本藤雄	オンニ(Onni／幸せ)	1975年(2019年復刻版)	プリント／綿	白地
113	石本藤雄	スヴィ(Suvi／夏)	1976年(2019年復刻版)	プリント／麻	薄い褐色地、濃い褐色地
114	石本藤雄	クッカケト(Kukkaketo／休息)	1976年(2019年復刻版)	プリント／綿	水色地
115	石本藤雄	[冬瓜]	2015年／2017年	陶器／立体(3点)	
116	石本藤雄	[ひょうたん]	2017年	陶器／丸皿(2点)	
117	石本藤雄	[オレンジ]	2017年	陶器／角皿	
118	石本藤雄	[みかん]	2017年	陶器／角皿	
119	石本藤雄	[びわ]	2017年	陶器／角皿	

印象派への旅 海運王の夢 バレル・コレクション

- 会期：**平成30年12月19日（水）— 平成31年3月24日（日）（80日間）
- 主催：**バレル・コレクション展愛媛展実行委員会（愛媛県、あいテレビ）、毎日新聞社
- 共催：**愛媛新聞社
- 協賛：**大日本印刷、三浦工業、三福ホールディングス、愛媛銀行、愛媛県司法書士会、Dクリニック、村田葬儀社
- 協力：**日本航空
- 後援：**プリティッシュ・カウンシル、松山市、松山市教育委員会、愛媛県市町教育委員会連合会、（公財）愛媛県教育会、愛媛県教育研究協議会、愛媛県小中学校長会、愛媛県PTA連合会、愛媛県美術会、愛媛美術教育連盟、愛媛県文化協会、（公財）愛媛県文化振興財団、（一社）愛媛県観光物産協会、愛媛県公民館連合会、（公財）愛媛県老人クラブ連合会、（公財）松山観光コンベンション協会、愛媛県商工会議所連合会、愛媛県商工会連合会、道後温泉旅館協同組合、愛媛ホテル協会、愛媛県商店街振興組合連合会、連合愛媛、伊予鉄グループ、朝日新聞松山総局、読売新聞松山支局、産経新聞社、南海放送、テレビ愛媛、愛媛朝日テレビ、愛媛CATV、FM愛媛、えひめリビング新聞社
- 会場：**愛媛県美術館 企画展示室1・2

趣 旨

英国スコットランドの海港都市グラスゴーが誇るバレル・コレクションから、イギリス、フランス、オランダの画家の優品73点を日本初公開。加えて、同市のケルヴィングローヴ美術博物館所蔵品より、写実主義、印象派、ポスト印象派の画家の秀作7点を紹介（うち日本初公開3点）。「序」「身の回りの情景」「戸外に目を向けて」「川から港、そして外洋へ」に分けて展示した。

観覧者数：33,049名

関連行事

ショート・レクチャー

日 時：12月21日（金）

10：30～10：50、13：30～13：50、14：00～14：20、14：30～14：50、15：00～15：20

12月23日（日）、24日（月・祝）、1月23日（水）、24日（木）

各日10：30～10：50、13：00～13：20、13：30～13：50、14：00～14：20、

14：30～14：50、15：00～15：20

1月22日（火）

10：30～10：50、13：00～13：20、14：00～14：20、14：30～14：50、15：00～15：20

場 所：愛媛県美術館 講堂 ※12月24日第2回のみ企画展示室

講 師：武田信孝（当館専門学芸員）

参加人数：延154人

コンサート

・新春ミュージアムコンサート ソプラノ・ピアノコンサート ～印象派の奏で～

日 時：1月2日（水）、3日（木）

各日12：00～

場 所：愛媛県美術館 エントランスホール

出 演：原田まゆみ、大空佳穂里

参加人数：延220名

- ・新春ミュージアムコンサート 『花菱会』 箏コンサート
 日 時：1月2日（水）、3日（木）
 各日14：00～
 場 所：愛媛県美術館 エントランスホール
 出 演：1月2日 前谷雅貴、内島雅千穂、永田優月
 1月3日 山下歩山、前谷雅貴、鈴木智歩、武田紗也加、高田琴音
 参加人数：延180名
- ・音で感じる印象派への旅 PIANO DUO CONCERT
 日 時：2月10日（日） 14：00～
 場 所：愛媛県美術館 エントランスホール
 出 演：垣生悠比子（ピアノ）、白石芽衣（ピアノ）
 参加人数：250名
- ・音で感じる印象派への旅 Valentine's Day Concerts
 日 時：2月11日（月・祝） 10：30～、13：00～
 場 所：愛媛県美術館 エントランスホール
 出 演：岡部江美（フルート）、森田隆宏（ピアノ）、愛媛県立松山中央高等学校吹奏楽部
 参加人数：延500名
- ・天皇陛下御在位三十年記念慶祝事業 前谷雅貴 箏コンサート
 日 時：2月24日（日） 13：00～
 場 所：愛媛県美術館 エントランスホール
 出 演：前谷雅貴、山下歩山
 参加人数：160名
- ・印象派への旅 ～自然の色彩を感じて～ 亀岡玲花ピアノコンサート
 日 時：3月17日（日） 11：00～、14：00～
 場 所：愛媛県美術館 エントランスホール
 出 演：亀岡玲花
 参加人数：延400名

団体のための講座

- ・第1回
 日 時：1月25日（金） 14：10～14：40
 場 所：愛媛県美術館 講堂
 対 象：NHK文化センター高松教室「美術館・博物館めぐり（金）」参加者
 講 師：武田信孝（当館専門学芸員）
 参加人数：34名
- ・第2回
 日 時：1月27日（日） 14：30～14：50
 場 所：愛媛県美術館 講堂
 対 象：NHK文化センター高松教室「美術館・博物館めぐり（日）」参加者
 講 師：武田信孝（当館専門学芸員）
 参加人数：25名
- ・第3回
 日 時：1月31日（木） 15：40～16：10
 場 所：愛媛県美術館 研修室
 対 象：愛媛県立松山南高等学校砥部分校の生徒及び教員
 講 師：武田信孝（当館専門学芸員）
 参加人数：51名

・第4回

日 時：2月3日（日） 14：30～14：50
 場 所：愛媛県美術館 ハイビジョンギャラリー
 対 象：NHK文化センター福山教室「美術館めぐりA」参加者
 講 師：武田信孝（当館専門学芸員）
 参加人数：30名

・第5回

日 時：2月6日（水） 14：10～14：30
 場 所：愛媛県美術館 ハイビジョンギャラリー
 対 象：NHK文化センター福山教室「美術館めぐりB」参加者
 講 師：武田信孝（当館専門学芸員）
 参加人数：39名

・第6回

日 時：2月7日（木） 12：45～13：10
 場 所：愛媛県美術館 ハイビジョンギャラリー
 対 象：NHK文化センター広島教室「美術館・博物館めぐりA」参加者
 講 師：武田信孝（当館専門学芸員）
 参加人数：19名

・第7回

日 時：2月20日（水） 13：10～13：25
 場 所：愛媛県美術館 ハイビジョンギャラリー
 対 象：NHK文化センター広島教室「美術館・博物館めぐりB」参加者
 講 師：武田信孝（当館専門学芸員）
 参加人数：34名

一日講座「海運王に俺はなる!～身近な材料で『船』をつくろう!～」

日 時：2月2日（土）、16日（土）
 各日13：30～15：30
 場 所：愛媛県美術館 県民アトリエ2
 講 師：檜垣正（当館教育専門員）
 参加人数：延30人

土曜講座「企画展プレビュー」

日 時：2月2日（土）、16日（土）
 各日14：00～15：00
 場 所：愛媛県美術館 講堂
 講 師：武田信孝（当館専門学芸員）
 参加人数：延62人

対話型鑑賞プログラム

日 時：2月3日（日）、10日（日）、11日（月・祝）、17日（日）、24日（日）
 各日11：00～11：30
 場 所：愛媛県美術館 県民アトリエ2
 講 師：当館作品ガイドボランティア
 参加人数：延104人

出品目録

序

作家名	作品名	制作年	所蔵先
フィンセント・ファン・ゴッホ	アレクサンダー・リードの肖像	1887年	ケルヴィングローヴ美術博物館

第1章 身の回りの情景
1-1 室内の情景

作家名	作品名	制作年	所蔵先
カミーユ・コロー	耳飾り	1850-55年頃	バレル・コレクション
アンリ・ファンタン＝ラトゥール	入浴する女性	1879年頃	バレル・コレクション
オノレ・ドミエ	三人の男と一人の女	1853年	バレル・コレクション
ヨハネス・ボスボーム	食卓の家族		バレル・コレクション
フランソワ・ボンヴァン	スピネットを弾く女性	1862年	バレル・コレクション
テオデュール・リボー	楽器を奏でる人	1862年	バレル・コレクション
テオデュール・リボー	勉強熱心な使用人	1871年頃	バレル・コレクション
テオデュール・リボー	会計士	1878年頃	バレル・コレクション
ヤーコブ・マリス	若き芸術家	1878年頃	バレル・コレクション
ヤーコブ・マリス	孔雀の羽根を持つ少女	1879年頃	バレル・コレクション
ヤーコブ・マリス	姉妹		バレル・コレクション
フランソワ・ボンヴァン	愛犬「ミス」	1863年	バレル・コレクション

1-2 静物

作家名	作品名	制作年	所蔵先
アントワーン・ヴァン・ブレン	静物	1865年頃	バレル・コレクション
フランソワ・ボンヴァン	水差し、チーズ、玉ねぎ、魚、ナイフのある静物	1854年	バレル・コレクション
フランソワ・ボンヴァン	狩りの獲物のある静物	1874年	バレル・コレクション
フランソワ・ボンヴァン	コップ、洋ナシ、ナイフのある静物	1884年	バレル・コレクション
ルイ＝ギュスターヴ・リカール	静物——洋ナシと皿		バレル・コレクション
ギュスターヴ・クールベ	リンゴ、洋ナシ、オレンジ	1871-72年頃	ケルヴィングローヴ美術博物館
アンリ・ファンタン＝ラトゥール	桃	1875年	バレル・コレクション
アンリ・ファンタン＝ラトゥール	桃	1884年	バレル・コレクション
ポール・セザンヌ	倒れた果物かご	1877年頃	ケルヴィングローヴ美術博物館
ピエール・オーギュスト・ルノワール	静物——コーヒーカップとミカン	1908年	ケルヴィングローヴ美術博物館
サミュエル・ジョン・ペプロー	コーヒーとリキユール	1898年頃	バレル・コレクション
ギュスターヴ・クールベ	アイリスとカーネーション	1863年頃	バレル・コレクション
エドゥアール・マネ	シャンパングラスのバラ	1882年	バレル・コレクション
アンリ・ファンタン＝ラトゥール	春の花	1878年	バレル・コレクション
サミュエル・ジョン・ペプロー	バラ	1900-05年頃	バレル・コレクション

第2章 戸外に目を向けて
2-1 街中で

作家名	作品名	制作年	所蔵先
エドガー・ドガ	リハーサル	1874年頃	バレル・コレクション
オノレ・ドミエ	よき仕事仲間	1860-62年頃	バレル・コレクション
テオデュール・リボー	調理人たち	1862年	バレル・コレクション
ウジェーヌ・ブーダン	ブリュッセル、旧魚市場	1871年	バレル・コレクション
アーサー・メルヴィル	グランヴィルの市場	1878年	バレル・コレクション
アーサー・メルヴィル	ホワイトホース・インの目印	1888年	バレル・コレクション
ジョゼフ・クロホル	二輪馬車	1894-1900年頃	バレル・コレクション
アドルフ・エルヴィエ	風車	1851年	バレル・コレクション

2-2 郊外へ

作家名	作品名	制作年	所蔵先
アドルフ・エルヴィエ	鶏のいる村の道(バルビゾン?)		バレル・コレクション
アドルフ・エルヴィエ	教会		バレル・コレクション
アルフレッド・シスレー	村の通り、モレ=シュル=ロワンにて	1894年頃	ケルヴィングローヴ美術博物館
アンリル・シダネル	雪	1901年	バレル・コレクション
カミーユ・コロー	フォンテーヌブローの農家	1865-73年頃	バレル・コレクション
カミーユ・コロー	森	1860-74年頃	バレル・コレクション
オノレドーミエ	ヘラクレス	1853年	バレル・コレクション
ジャン=フランソワ・ミレー	干し草を刈る人	1852年頃	バレル・コレクション
ジャン=フランソワ・ミレー	羊毛をすく人	1848年頃	バレル・コレクション
アドルフ・モンティセリ	庭で遊ぶ子どもたち	1867年頃	バレル・コレクション
アドルフ・モンティセリ	初めてのブドウの収穫	1868年頃	バレル・コレクション
ピエール・オーギュスト・ルノワール	画家の庭	1903年頃	ケルヴィングローヴ美術博物館
マティス・マリス	蝶	1874年	バレル・コレクション
ヤーコプ・マリス	ペットの山羊	1871年	バレル・コレクション
エドガー・ドガ	木につながれた馬	1873-80年頃	バレル・コレクション
アレクシ・ベリニオン	白馬		バレル・コレクション
アントン・モーヴ	荷馬車による薪運び		バレル・コレクション
シャルル=フランソワ・ドービニー	牛のいる風景	1863年頃	バレル・コレクション
アントン・モーヴ	牧草地の乳牛		バレル・コレクション
ジョゼフ・クロホール	フォックスハウンド——呼び鈴のある門	1886年	バレル・コレクション
ジョゼフ・クロホール	杭につながれた馬、タンジールにて	1888年	バレル・コレクション
ジョゼフ・クロホール	山腹の山羊、タンジールにて		バレル・コレクション
ジョルジュ・ミシュル	嵐雲	1843年頃	バレル・コレクション
ポール・セザンヌ	エトワール山稜とピロン・デュ・ロワ峰	1878-79年	ケルヴィングローヴ美術博物館

第3章 川から港、そして外洋へ

3-1 川辺の風景

作家名	作品名	制作年	所蔵先
シャルル=フランソワ・ドービニー	ガイヤール城	1870-74年頃	バレル・コレクション
シャルル=フランソワ・ドービニー	オワーズ川の岸辺	1872年	バレル・コレクション
ウジェーヌ・ブーダン	トゥーク川の橋のたもとの洗濯女	1883-87年頃	バレル・コレクション
ウジェーヌ・ブーダン	トゥーク川土手の洗濯女	1888-95年頃	バレル・コレクション
カミーユ・ピサロ	水浴する女	1895年頃	バレル・コレクション
ウジェーヌ・ブーダン	ブリュッセルの船着場	1871年	バレル・コレクション

3-2 外洋への旅

作家名	作品名	制作年	所蔵先
ヤーコプ・マリス	ドルドレヒトの思い出	1884年頃	バレル・コレクション
ヤーコプ・マリス	アムステルダム		バレル・コレクション
ヤーコプ・マリス	オランダの町		バレル・コレクション
ヨハネス・ボスボーム	オランダの漁村		バレル・コレクション
ヨハネス・ボスボーム	スヘーフェニンゲン		バレル・コレクション
ウィリアム・マクタガート	満潮	1873年	バレル・コレクション
ウィリアム・マクタガート	海からの便り	1887年	バレル・コレクション
ベルナルト・ブロンメルス	浅瀬を歩く	1901年	バレル・コレクション
ギスターヴ・クールベ	マドモワゼル・オーブ・ドゥ・ラ・オールド	1865年	バレル・コレクション
ウジェーヌ・ブーダン	トゥルーヴィルの海岸の皇后ウジェニー	1863年	バレル・コレクション
カミーユ・コロー	船舶(ル・アーヴルまたはオンフルール)	1830-40年頃	バレル・コレクション
ウジェーヌ・ブーダン	トゥルーヴィル、干潮時の埠頭	1885-90年頃	バレル・コレクション
ウジェーヌ・ブーダン	ドーヴィル、波止場	1891年	バレル・コレクション
アンリル・シダネル	月明かりの入り江	1928年	バレル・コレクション

MINIATURE LIFE 展 田中達也 見立ての世界

会 期：平成31年3月16日（土）— 4月7日（日）（23日間）
 主 催：「MINIATURE LIFE 展」実行委員会（愛媛県、EBC プロダクション）
 共 催：愛媛新聞社、テレビ愛媛
 特別協賛：四国明治株式会社
 後 援：愛媛県教育委員会、松山市、松山市教育委員会、南海放送、あいテレビ、愛媛朝日テレビ
 企画製作：NHK サービスセンター、株式会社 CoCo
 企画協力：株式会社 MINIATURE LIFE、サンライズプロモーション東京
 会 場：愛媛県美術館 特別展示室1・2・3、常設展示室3

趣 旨

日常を取り巻くものとミニチュア人形の組み合わせで、小さな不思議世界を創り出す田中達也（1981年熊本生まれ）。NHKの連続テレビ小説「ひよっこ」のタイトルバックで知られるほか、海外にもファンが多く、ミニチュア写真を掲載しているSNSフォロワー数は160万人を超える。

本展では、代表作、約100点のミニチュア写真を選びすぐって紹介し、あわせて実物のミニチュア作品も展示した。毎日インターネット上で公開、日めくりカレンダーのように更新していることからその名が付いた「ミニチュアカレンダー」は、2011年4月から1日も休むことなく続けられ、こびとの視線と独自の発想力でミニチュア写真を投稿しているインスタグラムが人気となっている。作品の高いクオリティと独自の世界観は、国内だけでなく海外からも多くの反響がある。

観覧者数：23,021名（平成30年度内の観覧者数：14,365名）

関連行事


ギャラリートーク&サイン会

日 時：3月16日（土） 11:00～/14:00～
 3月17日（日） 11:00～
 講 師：田中達也（出品作家）
 場 所：愛媛県美術館 展示室

世界は小さく広がっている。

MINIATURE LIFE 展

～田中達也 見立ての世界～



【観覧料（税込）】
 一般 1,000円（900円） 大学生・65歳以上 900円（800円）
 中学生 600円（500円） 小学生以下無料 ※（1）内は送料別
 ※当日午後入館、観覧以上の場合は当日料金から引く。小学生・高校生・中学生は身分証明書を持参ください。
 ※観覧料：3月18日（日）、3月25日（日）、4月2日（日）
 ※観覧券は観覧当日の朝まで受付終了となります。観覧券も観覧料と同様です。
 ※観覧券も観覧料と同様です。
 愛媛県美術館 〒790-0007 愛媛県松山市幸徳之内 TEL: 089-932-0010
 EBCプロダクション 〒891-8333 愛媛県松山市丸之内 TEL: 089-933-8011（平日9:30～17:30）
 NHKサービスセンター 〒100-0005 東京都千代田区千代田 TEL: 03-3569-1111（平日9:00～17:00）
 愛媛新聞社 〒790-0801 愛媛県松山市番町 TEL: 089-932-2279 http://www.ehime-art.jp/

開館 20 周年コレクション特別展 I 生誕 100 年 古茂田守介 イキル、カク

会 期：平成 30 年 10 月 20 日（土）— 12 月 24 日（月・振休）（57 日間）

主 催：愛媛県美術館

会 場：愛媛県美術館 常設展示室 1・2

趣 旨

古茂田守介は1918年に愛媛県道後村祝谷（現松山市）に生まれた。同じく画家を志していた兄の公雄（1910-1986）に導かれて19歳で上京し、猪熊絃一郎や脇田和らの指導を受けながら独自の絵画世界を展開していった。抽象画が主流となる中で、量感のある具象表現を追求した守介は、数多くの魅力的なデッサンを描いたことでも知られる。また、版画家、駒井哲郎との出会いをきっかけとして手がけた版画作品には、守介の描く線の魅力が如何なく発揮されている。幼少期から喘息と付き合いながら制作を続けた守介だが、1960年に上京時から慣れ親しんだ目黒の地で、42歳の若さで亡くなった。描くことに苦しみ、それ以上に描く喜びを知る守介の周囲には常に人がいたという。何よりも家族の存在は、その芸術を語る上で欠かすことができない。

守介が生まれて100年目となる2018年、当館はようやく成人の年（開館20周年）を迎えた。この記念の年に、愛媛の地に誕生した守介とその制作の軌跡を紹介した。

観覧者数：15,336名

関連行事

ガクゲイインズが語る

日 時：12月22日（土） 14：00～15：30

講 師：米屋久美子

（ミウラート・ヴィレッジ学芸員）、
中島小巻（町立久万美術館学芸員）、
藤原敏子（今治市玉川近代美術館学芸員）、
喜安嶺（当館学芸員）

ゲ ス ト：古茂田杏子（古茂田守介長女、銅版画家）

場 所：愛媛県美術館 常設展示室 1・2

参加人数：59名

モリスケみるんみるんツアー

日 時：10月20日（土）、27日（土）、

12月1日（土）

各日14：00～15：00

講 師：喜安嶺（当館学芸員）

場 所：愛媛県美術館 常設展示室 1・2

参加人数：延52名

土曜講座「古茂田家の守介さん」

日 時：①「弟・守介と兄・公雄」

11月24日（土） 14：00～15：00

②「守介と妻・美津子と娘・杏子と」

12月15日（土） 14：00～15：00

講 師：喜安嶺（当館学芸員）

場 所：愛媛県美術館 ハイビジョンギャラリー

参加人数：延39名



出品目録

1 守介ヒトをカク

No	作家名	作品名	制作年	材質／形状	寸法 (縦×横/cm)	所蔵先 (※記載がないものは当館蔵)
1	古茂田守介	自画像		インク／紙	36.5×24.0	
2	古茂田守介	人物	1937(昭和12)年	油彩／画布	53.3×45.5	
3	古茂田守介	妻	1944(昭和19)年	油彩／画布	45.5×37.5	社会医療法人 同心会 西条中央病院
4	古茂田守介	少女像	1947(昭和22)年	油彩／画布	45.5×37.9	
5	古茂田守介	少女	1947(昭和22)年	油彩／画布	53.0×40.9	
6	古茂田守介	顔	1948(昭和23)年	油彩／画布	45.5×37.7	
7	古茂田守介	婦人	1946-47年頃	油彩／板	15.8×22.7	西条市立東予郷土館
8	古茂田守介	赤いベレー帽の少女	1949(昭和24)年	油彩／画布		個人蔵
9	古茂田守介	杏子像	1948(昭和23)年	油彩／画布	41.5×32.2	ふるさと画苑 近藤泰コレクション
10	古茂田守介	ピエロ		油彩／画布	27.3×24.1	個人蔵(町立久万美術館寄託)
11	古茂田守介	子供寝姿	1948(昭和23)年頃か	インク／紙	18.7×25.7	町立久万美術館
12	古茂田守介	自画像		油彩／画布	45.0×37.7	ミウラート・ヴィレッジ(三浦美術館)寄託
	古茂田守介	ヴァイオリン	1947(昭和22)年	油彩／画布	45.5×53.0	ミウラート・ヴィレッジ(三浦美術館)寄託
13	古茂田守介	裸婦(1)	1941(昭和16)年	インク／紙	36.0×26.4	
14	古茂田守介	裸婦(2)	1941(昭和16)年	インク／紙	35.5×24.1	
15	古茂田守介	裸婦		水彩・ペン／紙	16.0×11.0	今治市玉川近代美術館
16	古茂田守介	裸婦	1953年頃か	水彩・鉛筆／ スケッチブック	30.3×24.6	町立久万美術館
17	古茂田守介	裸婦(3)	1946(昭和21)年	コンテ／紙	24.1×34.6	
18	古茂田守介	座す女	1946(昭和21)年	インク・木炭／紙	28.7×21.1	
19	古茂田守介	バレリーナ	1948(昭和23)年	コンテ・水彩／紙	31.9×24.7	
20	古茂田守介	バレリーナ	1946(昭和21)年	油彩／画布	72.2×52.6	
21	古茂田守介	踊り子達	1948(昭和23)年	油彩／画布	103.0×183.5	
22	古茂田守介	画架と裸婦	1951(昭和26)年頃	油彩／画布	45.5×38.0	
23	古茂田守介	室内の裸婦	1954(昭和29)年頃	インク・墨／紙	32.0×23.5	町立久万美術館
24	古茂田守介	裸婦	1953(昭和28)年以降	インク・墨・水彩／紙	19.8×27.5	町立久万美術館
25	古茂田守介	裸婦二人	1957-58 (昭和32-33)年頃か	インク・墨／紙	34.6×27.5	町立久万美術館
26	古茂田守介	裸婦(6)	1956(昭和31)年	コンテ／紙	26.0×18.0	
27	古茂田守介	裸婦		鉛筆／紙	29.0×21.5	個人蔵
28	古茂田守介	裸婦		彩色、パステル／紙	25.5×19.5	個人蔵
29	古茂田守介	習作	1956-57 (昭和31-32)年か	インク／紙	19.5×27.4	町立久万美術館
30	古茂田守介	裸婦	1956-57 (昭和31-32)年か	インク／紙	27.0×19.9	町立久万美術館
31	古茂田守介	椅子に掛ける裸婦	1956-57 (昭和31-32)年か	インク／紙	27.2×19.8	町立久万美術館
32	古茂田守介	二人裸婦	1957(昭和32)年	インク・コンテ・墨／紙	37.6×28.0	町立久万美術館
33	古茂田守介	裸婦二人	制作年不詳	コンテ、墨、ペン／紙	23.0×22.0	今治市玉川近代美術館
34	古茂田守介	子供(人物)	1957-58 (昭和32-33)年頃か	インク・コンテ・墨／紙	18.6×14.8	町立久万美術館
35	古茂田守介	人物		パステル・水彩／紙	32.7×23.2	
36	古茂田守介	裸婦		鉛筆／紙	34.5×23.5	個人蔵
37	古茂田守介	裸婦		コンテ・パステル／紙	32.7×24.2	
38	古茂田守介	裸婦		鉛筆／紙	26.5×17.5	個人蔵
39	古茂田守介	裸婦		インク／紙	35.2×28.2	
40	古茂田守介	裸婦二人		インク／紙	31.8×22.7	
41	古茂田守介	裸婦	1941(昭和16)年	コンテ、ペン／紙	39.0×30.0	今治市玉川近代美術館

2 守介セイブツをカク

No.	作家名	作品名	制作年	材質／形状	寸法 (縦×横/cm)	所蔵先 (※記載がないものは当館蔵)
42	古茂田守介	椅子と壺	1948(昭和23)年	油彩／画布	33.6×24.3	
43	古茂田守介	静物		インク、ペン／紙	17.0×18.0	今治市玉川近代美術館
44	古茂田守介	葉三枚	1957(昭和32)年か	インク・墨・水彩／紙	26.5×36.0	町立久万美術館
45	古茂田守介	静物	1958(昭和33)年以前	油彩／画布	61.0×41.5	
46	古茂田守介	静物		インク・コンテ・木炭／紙	18.6×26.1	
47	古茂田守介	壺二つ	1957-58 (昭和32-33)年頃か	インク・コンテ・墨／紙	18.6×25.4	町立久万美術館
48	古茂田守介	静物	1957(昭和32)年	油彩／画布	45.4×45.4	
49	古茂田守介	静物		油彩／画布	40.2×91.2	
50	古茂田守介	静物(2)	1955(昭和30)年	油彩／画布	50.0×60.6	
51	古茂田守介	静物(1)	1955(昭和30)年	油彩／画布	65.5×91.2	
52	古茂田守介	横長の静物	1954(昭和29)年頃	油彩／画布	28.9×88.2	社会医療法人 同心会 西条中央病院
53	古茂田守介	静物	1954(昭和29)年	油彩／画布	37.9×45.5	
54	古茂田守介	三つの壺	1955(昭和30)年	油彩／画布	72.5×60.9	
55	古茂田守介	赤い壺	1958(昭和33)年	油彩／ キャンバスボード	37.2×45.4	
56	古茂田守介	黄色い葉と緑の壺	1956(昭和31)年	油彩・画布	45.3×53.0	町立久万美術館
57	古茂田守介	枯れた向日葵	1952(昭和27)年	油彩／画布	33.3×45.5	
58	古茂田守介	ピワ	1959(昭和34)年	油彩／画布	72.2×60.5	
59	古茂田守介	壺とピワ	1956(昭和31)年以前	油彩／画布	53.0×72.2	ふるさと画苑 近藤泰コレクション
60	古茂田守介	犬の頭と壺など	1952(昭和27)年	油彩／画布	45.5×53.1	今治市玉川近代美術館
61	古茂田守介	干魚と壺	1957(昭和32)年	油彩／画布	45.5×53.2	
62	古茂田守介	干魚	1959(昭和34)年	インク／紙	18.2×16.8	
63	古茂田守介	干魚	1959(昭和34)年	コンテ・パステル／紙	17.5×26.2	
64	古茂田守介	静物	1959(昭和34)年	油彩／画布	38.3×45.5	
65	古茂田守介	カレイ	1957(昭和32)年	油彩／画布	37.5×53.5	今治市玉川近代美術館
66	古茂田守介	貝殻	1958-59 (昭和33-34)年頃	インク・コンテ・墨／ 洋紙	27.3×19.8	町立久万美術館
67	古茂田守介	貝(さざえ)	1959(昭和34)年頃	インク・墨・水彩／洋紙	27.7×37.0	町立久万美術館
68	古茂田守介	さざえ		コンテ・水彩／紙	26.3×36.7	
69	古茂田守介	貝がら	1959(昭和34)年	油彩／パネル	32.0×41.0	
70	古茂田守介	メロンとあけびの実	1957(昭和32)年	油彩／画布	45.7×53.3	町立久万美術館
71	古茂田守介	柿		鉛筆／紙	24.7×34.1	
72	古茂田守介	柿		油彩／画布	38.0×45.5	
73	古茂田守介	柿の静物	1959(昭和34)年	油彩・画布	33.3×45.5	個人蔵(愛媛県美術館寄託)
74	古茂田守介	魚	1958(昭和33)年頃	コンテ／紙	30.7×40.2	
75	古茂田守介	魚(かわはぎ)	1959(昭和34)年	エッチング／洋紙	17.0×14.0	町立久万美術館
76	古茂田守介	椅子の子供		モノタイプ／紙	34.3×23.7	
77	古茂田守介	月と古い樹	1958-59 (昭和33-34)年	エッチング／紙	20.0×16.0	町立久万美術館
78	古茂田守介	月と古い樹	1958-59 (昭和33-34)年	エッチング／紙	17.5×14.0	町立久万美術館
79	古茂田守介	貝殻(さざえ)	1959(昭和34)年	ドライポイント／紙	13.0×12.0	町立久万美術館
80	古茂田守介	無題	1959(昭和34)年	エッチング／紙	13.0×12.0	町立久万美術館
81	古茂田守介	無題	1957(昭和32)年頃か	インク・墨／紙	27.8×19.7	町立久万美術館
82	古茂田守介	無題	1957-58 (昭和32-33)年頃か	インク・墨・コンテ／紙	27.0×23.1	町立久万美術館
83	古茂田守介	無題	1958(昭和33)年頃か	インク・水彩・コンテ／紙	23.0×28.9	町立久万美術館
84	古茂田守介	無題(多くの球)	1958-59 (昭和33-34)年頃か	インク・墨／ スケッチブック	24.1×29.1	町立久万美術館

3 守介フウケイをカク

No.	作家名	作品名	制作年	材質／形状	寸法 (縦×横/cm)	所蔵先 (※記載がないものは当館蔵)
85	古茂田守介	丘の焼跡	1946(昭和21)年	油彩／画布	45.3×52.6	
86	古茂田守介	風景	1946(昭和21)年	油彩／画布	45.6×37.8	
87	古茂田守介	街の風景	1946(昭和21)年	油彩／画布	53.0×45.3	町立久万美術館
		裸婦	1946(昭和21)年	油彩／画布	53.0×45.3	町立久万美術館
88	古茂田守介	芦ノ湖	1959(昭和34)年	パステル、グワッシュ ／紙	18.0×25.0	今治市玉川近代美術館
89	古茂田守介	湖風景(芦ノ湖)	1959(昭和34)年	クレヨン／紙	27.0×19.0	町立久万美術館
90	古茂田守介	箱根風景	1959(昭和34)年	インク・水彩・鉛筆・ クレヨン／紙	24.0×22.0	町立久万美術館
91	古茂田守介	箱根風景	1959(昭和34)年	インク・墨・水彩／紙	27.0×38.0	町立久万美術館
92	古茂田守介	芦ノ湖	1960(昭和35)年	油彩／画布	41.0×53.0	町立久万美術館
93	古茂田守介	風景	1959(昭和34)年	クレパス・鉛筆／紙	25.3×38.2	
94	古茂田守介	箱根風景	1959(昭和34)年	パステル／紙	17.6×25.8	
95	古茂田守介	箱根風景	1959(昭和34)年	パステル／紙	18.4×26.3	

4 守介のカゾクもカク

No.	作家名	作品名	制作年	材質／形状	寸法 (縦×横/cm)	所蔵先 (※記載がないものは当館蔵)
96	古茂田公雄	少女	1940(昭和15)年	スクラッチング／印 画紙	31.0×23.5	
97	古茂田公雄	静物	1939-40 (昭和14-15)年	スクラッチング・着色 ／印画紙	22.0×26.5	
98	古茂田公雄	バレリーナ	1952(昭和27)年	油彩／画布	45.5×38.0	
99	古茂田公雄	カボチャ	1975(昭和50)年	油彩／画布	33.3×45.5	
100	古茂田公雄	岩渦巻	1955(昭和30)年	油彩／画布	60.6×72.7	
101	古茂田公雄	柿	制作年不詳	鉛筆／紙	19.9×27.5	
102	古茂田美津子	サーカスのテント	1970(昭和45)年	油彩／画布	132.0×132.0	
103	古茂田美津子	裸婦(正面)	1987(昭和62)年	油彩／画布	45.5×37.9	個人蔵(愛媛県美術館寄託)
104	古茂田美津子	赤い水道塔	1971(昭和46)年	油彩／画布	45.5×53.0	個人蔵(愛媛県美術館寄託)
105	古茂田杏子	かくれんぼ	1993(平成5)年	銅版画	19.5×29.0	個人蔵(愛媛県美術館寄託)
106	古茂田杏子	乗りかかった船	2004(平成16)年	銅版画	20.0×20.0	個人蔵(愛媛県美術館寄託)
107	古茂田杏子	愛合い傘	2008(平成20)年	銅版画	24.0×18.0	個人蔵(愛媛県美術館寄託)

5 守介の装幀

No.	作家名	作者／書籍名	発行年月	出版社	寸法 (縦×横/cm)	所蔵先 (※記載がないものは当館蔵)
108	装幀・挿絵	フランシス・ホジソン・バー ネット著 吉田甲子太郎訳 岩波少年文庫73 『小公子』	1968年	岩波書店		個人蔵
109	カバー表紙	宮本百合子『廣場』	1956(昭和31)年	河出書房		個人蔵
110	カバー表紙	井上靖『黄色い鞆』	1952(昭和27)年10月	小説朝日社		個人蔵
111	カバー表紙	井上靖『雷雨』	1950(昭和25)年12月	新潮社		個人蔵
112	カバー表紙	堀田善衛『祖国喪失』	1952(昭和27)年5月	文芸春秋新社		個人蔵
113	カバー表紙	福島安雄『ポスト炎上』	1957(昭和32)年11月	機械社		個人蔵

開館 20 周年コレクション特別展Ⅱ コレクションが語る 20 年 これまで、そしてこれから

会 期：平成 30 年 10 月 30 日（土）— 12 月 3 日（月）（31 日間）
主 催：愛媛県美術館
会 場：愛媛県美術館 企画展示室 1・2

趣 旨

愛媛県美術館は、平成30年（2018）度に開館20周年の大きな節目を迎えた。本展では、これまでの20年間の歴史を、その間に収集されたコレクションで振り返った。

郷土作家を中心として収集された当館のコレクションは総数約12,000点を数えるが、収集の経緯にはそれぞれ多様なエピソードがある。「Ⅰ 前身「愛媛県立美術館」—コレクションのはじまり」「Ⅱ 誕生「愛媛県美術館」—開館前後の収集」「Ⅲ 20年のあゆみ（1）—2大コレクション：杉浦非水と真鍋博」「Ⅳ 20年のあゆみ（2）—出身・ゆかり作家の顕彰」「Ⅴ 20年のあゆみ（3）—愛媛県美術館で生まれた作品たち」という5つの章に分け、それぞれの視点で、コレクションの特徴を紹介した。さまざまな作品を通して、愛媛県美術館がこれまで歩んできた道のりと、これからの行く末を考える機会としていただいた。

観覧者数：23,578名

出品目録

I 前身「愛媛県立美術館」一コレクションのはじまり

No	作家名	作品名	制作年	材質・形状	法量 (縦×横/cm)	備考
No. 1	山本雲溪	猿之図	嘉永4年(1851)	紙本淡彩・軸	120.8×52.5	S47(1972)寄贈
No. 2	富岡鉄斎	鮮魚図	明治43年(1910)	紙本淡彩・軸	136.7×47.3	S48(1973)寄贈
No. 3	武田耕雪	面河溪図	昭和4年(1929)	紙本着色	178.5×92.0	S49(1974)管理換
No. 4	矢野鉄山	孤琴涓潔	昭和4年(1929)	紙本墨画淡彩	233.2×214.2	S59(1984)購入
No. 5	下村為山	月下宿鳥図	昭和11年(1936)	紙本墨画淡彩・軸	69.5×91.0	S52(1977)管理替
No. 6	正岡子規	喫茶去	明治28年(1895)	紙本墨書	32.0×75.5	S56(1981)購入
No. 7	村上三島	知命者不怨天	昭和52年(1977)	紙本墨書	226.0×52.0	S52(1977)寄贈
No. 8	中野和高	少女像	昭和34年(1959)	油彩・画布	116.7×80.2	S62(1987)寄贈
No. 9	野間仁根	画室	昭和8年(1933)	油彩・画布	162.0×130.3	S55(1980)購入
No. 10	中川八郎	東横堀	明治42年(1909)	水彩・紙	44.5×33.3	H3(1991)購入
No. 11	中川八郎	裾野残雪	大正9年(1920)	油彩・画布	60.6×80.3	S59(1984)購入
No. 12	畦地梅太郎	風景(小名木川附近)	昭和5年(1930)	多色木版・紙	37.5×43.0	S48(1973)寄贈
No. 13	畦地梅太郎	白い像	昭和33年(1958)	多色木版・紙	70.0×44.9	S56(1981)購入
No. 14	安藤義茂	乙女	昭和20年(1945)	水彩・紙	28.0×22.7	H5(1993)購入
No. 15	難波田龍起	コンポジション(青)A	昭和42年(1967)	油彩・画布	116.7×81.3	H2(1990)購入
No. 16	猪熊弦一郎	LANDSCAPE L.O.	昭和47年(1972)	アクリル・画布	127.5×102.0	H3(1991)購入
No. 17	小清水漸	舟・赤い	昭和61年(1986)	檜・水銀朱・水・白大理石・塩地	75.0×150.0×147.0	H4(1992)購入

II 誕生「愛媛県美術館」一開館前後の収集

No	作家名	作品名	制作年	材質・形状	法量 (縦×横/cm)	備考
No. 18	松本山雪	製茶風俗図屏風	江戸時代前期	紙本墨画淡彩・六曲屏風一双	各161.0×360.0	H11(1999)購入
No. 19	梶田半古	鶴越	明治25年(1892)	絹本着色・軸	143.0×69.0	H9(1997)購入
No. 20	竹内栖鳳	花の山	明治38年(1905)頃	絹本着色・軸	150.5×71.0	H10(1998)購入
No. 21	横山大観	曳船	明治38年(1905)	絹本着色・軸	118.7×50.2	H10(1998)購入
No. 22	菱田春草	放鶴	明治33年(1900)	絹本着色・軸	109.5×51.0	H9(1997)購入
No. 23	安田靉彦	守屋大連	明治41年(1908)	絹本着色・軸	153.0×57.0	H9(1997)購入
No. 24	都路華香	舞子浜図	明治36年(1903)頃	絹本墨画・四曲屏風一隻	170.0×261.0	H9(1997)購入
No. 25	大智勝観	閑庭	大正13年(1924)	絹本着色・二曲屏風一双	各175.0×164.0	H13(2001)購入
No. 26	矢野橋村	柳蔭書堂図	大正8年(1919)	絹本墨画淡彩・軸	117.0×93.3	H8(1996)購入
No. 27	速水御舟	ベルラジオの裏街	昭和6年(1931)	絹本着色	69.5×31.5	H9(1997)購入
No. 28	坂本繁二郎	ブルターニュ	大正12年(1923)	油彩・画布	45.9×54.8	H9(1997)購入
No. 29	岸田劉生	千家元磨像	大正2年(1913)	油彩・画布	40.9×27.5	H10(1998)購入
No. 30	安井曾太郎	樹蔭	大正8年(1919)	油彩・画布	129.8×161.0	H10(1998)購入
No. 31	吉田博	藤花漂う春の宵図	明治時代後期	水彩・紙	50.5×33.9	H11(1999)購入
No. 32	大下藤次郎	笑花園	明治35年(1902)	水彩・紙	34.1×51.0	H11(1999)購入
No. 33	北川民次	ロバ	昭和3年(1928)	油彩・画布	99.0×89.0	H9(1997)購入
No. 34	海老原喜之助	幸せな雪の村	昭和5年(1930)	油彩・画布	72.0×100.0	H8(1996)購入
No. 35	元永定正	作品(62-01)	昭和37年(1962)	油彩・アクリル、小石・画布	182.0×92.0	H9(1997)購入
No. 36	李 禹煥	刻みより	昭和47年(1972)	木	72.5×59.0	H9(1997)購入
No. 37	鬚嘸	Rainbow Rain	昭和52年(1977)	アクリル・画布	194.0×259.0	H10(1998)購入

No. 38	中西夏之	作品-たとえば波打ち際にてXIII	昭和60年(1985)	油彩、木炭・画布	277.0×162.0	H10(1998)購入
No. 39	伊藤五百亀	あした(且)	昭和44年(1969) ／平成9年(1997) 鋳造	ブロンズ	213.0×70.0× 46.0	H8(1996)購入

Ⅲ 20年のあゆみ (1) —2大コレクション：杉浦非水と真鍋博

No.	作家名	作品名	制作年	材質・形状	法量 (縦×横/cm)	備考
No. 40	杉浦非水	三越呉服店 春の新柄陳列会	大正3年(1914)	リトグラフ・紙	105.6×76.4	H25(2013)寄贈
No. 41	杉浦非水	三越呉服店 新館落成	大正3年(1914)	リトグラフ・紙	106.5×77.0	H25(2013)寄贈
No. 42	杉浦非水	新宿三越 十月十日開店	昭和5年(1930)	オフセット・紙	108.2×76.5	H16(2004)購入
No. 43	杉浦非水	東洋唯一の地下鉄 上野浅草間開通	昭和2年(1927)	オフセット・紙	91.4×62.0	H16(2004)購入
No. 44	杉浦非水	ヤマサ醤油	1920年代	リトグラフ、オフセット・紙	43.9×77.0	H16(2004)購入
No. 45	杉浦非水	巖谷季雄著『子宝』	明治42年(1909)	石版・紙(書籍)	29.0×24.3×3.0	H26(2014)購入
No. 46	杉浦非水	スケッチ		鉛筆、水彩ほか・紙		H16(2004)寄贈
No. 47	真鍋博	都会主義者	昭和30年(1955)	油彩・画布	91.3×183.5	H15(2003)寄贈
No. 48	真鍋博	動物園	昭和34年(1959)	墨・紙	14.5×21.5	H15(2003)寄贈
No. 49	真鍋博	星をたべた馬	昭和40年(1965)	ポスターカラー・紙	26.0×37.5	H15(2003)寄贈
No. 50	真鍋博	ミステリマガジン 1967年11月号	昭和42年(1967)	ポスターカラー・紙	21.0×21.2	H15(2003)寄贈
No. 51	真鍋博	アンドロイドは電気羊の夢を見るか?	昭和44年(1969)	ポスターカラー、写真・紙	26.7×18.0	H15(2003)寄贈
No. 52	真鍋博	2001年の日本 (病院・国際通信)	昭和44年(1969)	ポスターカラー、墨、カラー ジュ・紙	23.7×20.8ほか	H15(2003)寄贈
No. 53	真鍋博	大気は走り、地球は巡る	昭和46年(1971)	インク、ポスターカラーほか・紙	38.5×31.3	H15(2003)寄贈
No. 54	真鍋博	にぎやかな未来	昭和53年(1978)	墨、ポスターカラー・紙	20.8×44.0	H15(2003)寄贈
No. 55	真鍋博	アニメーション				H15(2003)寄贈
No. 56		真鍋博コレクションから				H15(2003)寄贈

Ⅳ 20年のあゆみ (2) —出身・ゆかりの作家の顕彰

No.	作家名	作品名	制作年	材質・形状	法量 (縦×横/cm)	備考
No. 57	吉田蔵澤	墨竹図屏風	江戸時代中期	紙本墨画 ・六曲屏風一雙押絵貼	各図134.0×51.5	H27(2015)寄贈
No. 58	加藤文麗	唐子布袋図	江戸時代中期	絹本着色・軸	43.3×63.6	H22(2010)購入
No. 59	遠藤広実	貴人観画図	江戸時代後期	絹本着色・軸	97.8×35.7	H22(2010)購入
No. 60	沖冠岳	百狸々図	明治時代初期	紙本着色・軸	130.1×50.7	H22(2010)購入
No. 61	長谷川竹友	印度パンジャブの里	大正8年(1919)	絹本着色・軸	150.7×50.5	H26(2014)購入
No. 62	天野方壺	風雨之図		絹本墨画淡彩・軸	129.0×56.0	S62(1987)購入
No. 63	天野方壺	花果図	明治19年(1886)	紙本着色・軸	133.0×52.5	H22(2010)購入
No. 64	三好応岸	宇和島・江戸図屏風	明治時代前期	紙本着色・六曲屏風一雙	各95.0×262.0	H25(2013)購入
No. 65	柳瀬正夢	自画像	大正9年(1920)頃	油彩・板	27.8×21.7	H14(2002)購入
No. 66	柳瀬正夢	山と家	大正6年(1917)	油彩・板	23.9×33.2	H14(2002)購入
No. 67	柳瀬正夢	崖と草	大正10年(1921)	油彩・板	24.0×33.0	H14(2002)購入
No. 68	柳瀬正夢	底の復報	大正11年(1922)	油彩・板	23.7×23.7	H14(2002)購入
No. 69	柳瀬正夢	老農夫	昭和12年(1937)	油彩・画布	45.5×38.0	H10(1998)購入
No. 70	大宮昇	毛をかられた羊	昭和29年(1954)	ドライポイント・紙	26.3×33.3	H26(2014)寄贈
No. 71	大宮昇	はるかなる世の海の歌	昭和46年(1971)	モノタイプ・紙	57.5×83.0	H26(2014)寄贈
No. 72	木和村創爾郎	潮来初夏	昭和28年(1953)	多色木版・紙	76.0×80.0	S51(1976)寄贈

No 73	木和村創爾郎	不忍池・数寄屋橋畔	昭和13年(1938)	紙本着色 ・二曲屏風一隻押絵貼	各図163.0×68.2	H27(2015) 寄贈
No 74	智内兄助	巡花	昭和61年(1986)	アクリル・和紙	91.0×91.0	H18(2006) 寄贈
No 75	伊東正次	老椿図-鹿島小野家の椿から イメージして-	平成19年(2007)	顔料、箔、ペン・和紙	145.0×227.0	H23(2011) 購入
No 76	坪内晃幸	作品	昭和46年(1971)	インク、合成樹脂エナメル・ 画布	53.3×45.5	H21(2009) 購入
No 77	三輪田俊助	ひらかれた壁	昭和39年(1964)	油彩・画布	80.6×100.0	H28(2016) 購入
No 78	田窪恭治	黄昏の娘たち(83-3)	昭和58年(1983)	木・金箔・蜜蝋	225.0×45.0× 30.0	H18(2006) 購入
No 79	芥川永	遠くの声	昭和53年(1978)	ブロンズ	76.0×30.0×28.0	H16(2004) 寄贈
No 80	石山直司	BURNING SNOW	平成19年(2007)	エッチング、アクアチント・紙	93.5×65.0	H21(2009) 購入
No 81	白岡順	新居浜、愛媛 1971年11月	昭和46年(1971)	ゼラチンシルバープリント	16.6×24.6	H22(2010) 購入
No 82	佐々木知子	シリーズ 「embroidered scenery」より	平成21年(2009)	タイプCプリント	33.0×43.0	H22(2010) 購入
No 83	大竹伸朗	芥子／音影Ⅱ	平成20年(2008)	油彩、墨、ボールペンほか	125.0×105.0×8.0	H22(2010) 購入

V 20年のあゆみ (3) —美術館で生まれた作品たち

No	作家名	作品名	制作年	材質・形状	法量 (縦×横/cm)	備考
No 84	清水美三子	春舞う	平成11年(1999)	リトグラフ、紙	42.5×27.0	H17(2005) 寄贈
No 85	工藤省二	(魚)	平成18年(2006)	陶板染付	31.0×85.0	H17(2005) 寄贈
No 86	大竹敦人	乳化庭／三本の楠から	平成18年(2006)	写真・硝子球	各直径40.0	H18(2006) 寄贈
No 87	井出創太郎	piacer d'amor bush〈蘭塔婆〉 -銅の山 時の便り-	平成19年(2007)	エッチング緑青刷り・石膏	190.0×140.0× 30.0	H19(2007) 寄贈

III 作品の収集事業及び保存管理

1 収集方針（愛媛県美術館収集方針）

趣旨

古代から瀬戸内海交通の要所として栄え、これまで多くの文人・画家の輩出や来訪があった愛媛の地は、瀬戸内海の島々や石鎚山などの豊かな自然と温暖な気候に恵まれ、温厚できめ細かな県民性を育んだ。このような歴史と風土から生まれた愛媛の伝統的な文化を受け継ぎながら、豊かで個性的な愛媛の芸術文化を創造するため、愛媛ならではの特色ある収集を行う。

収集分野

日本画、洋画、版画、デザイン、書ほかの平面作品、彫塑、工芸ほかの立体作品、写真、ビデオほかの映像作品等を含む。

基本方針

- (1) 国内外の優れた作品の鑑賞を通して、県民の審美眼や美意識の涵養を図るため、美術史上重要な作家及びその動向を知る上で欠くことのできない作家の作品及び関連資料を収集する。
- (2) 本県出身作家及び本県ゆかりの作家を顕彰することにより、本県美術の流れを県民に理解していただくため、本県出身作家及び関連作家の作品並びに関連資料を収集する。

重点方針

- (1) 国内外の優れた作品
 - ア 19世紀以降現代にいたる美術史の流れを辿れる国内外の優れた作品を中心に収集する。さらに近代の作品をより広い視野でとらえるために18世紀以前の作品も収集の対象とする。
 - イ 今日という時代を刻印する作品を収集する。
- (2) 本県出身作家及び関連作家の作品と関連資料
 - ア 松本山雪を基点として、関連する近世絵画を収集する。
 - イ 大智勝観、矢野橋村をはじめ、関連する近代日本画を収集する。
 - ウ 中川八郎、中野和高、野間仁根らをはじめ、関連する絵画を収集する。
 - エ 日本の前衛美術における柳瀬正夢の位置を重視し、その作品及び関連する作品等を収集する。
 - オ グラフィックデザイン史に足跡を残した杉浦非水の作品及び関連する作品等を収集する。

2 取得作品の概要

寄贈作品

No.	作家名	作品名	制作年	技法・支持体	寸法 (cm)
1	今村義広	山水図屏風	江戸時代前期	紙本墨画・六曲屏風一雙押絵貼	各図132.8×52.0
2	吉田蔵澤	墨竹図	江戸時代中期	紙本墨画・軸	131.6×47.2
3	沖冠岳	四季花鳥図屏風	明治時代初期	紙本着色・六曲屏風一雙	各165.0×362.0
4	高橋周桑	松	昭和29年(1954)	紙本着色・額	111.0×143.5
5	渋谷秋泉	勿来関図		絹本着色・軸	113.7×41.0
6	渋谷秋泉	山水図		絹本墨画・額	32.1×104.5
7	穠月明	月影溪流	1980年代	紙本墨画・額	110.0×42.0
8	穠月明	寒松・牡丹図	1980年代	紙本墨画・額	72.0×52.0
9	穠月明	月光	1980年代	紙本墨画淡彩・軸	53.0×30.0
10	穠月明	行水猫	1980年代	紙本墨画淡彩・軸	35.0×50.0
11	穠月明	山水四景図屏風	1980年代	紙本墨画・二曲屏風一隻	65.0×190.0(屏風)
12	穠月明	仔犬	1980年代	紙本墨画・扇面	20.0×50.0
13	穠月明	鉢中の天	1980年代	紙本墨画淡彩・まくり	38.0×48.0
14	穠月明	野の佛	1980年代	紙本墨画淡彩・額	50.0×30.0
15	渡邊祥行	石鎚冬色	平成元年(1989)	紙本着色・額	162.5×127.5
16	伊東正次	野仏図	平成28年(2016)	紙本着色・額	227.0×182.0
17	伊東正次	月下独猿図	平成29年(2017)	紙本銀地着色・額	117.5×187.0
18	吉田勝彦	予兆 (「四獣視姦思考」より)	昭和49年(1974)	メゾチント・紙	14.0×8.3
19	吉田勝彦	出現 (「四獣視姦思考」より)	昭和49年(1974)	エングレーピング・紙	12.4×10.0
20	吉田勝彦	触刺死 (「四獣視姦思考」より)	昭和49年(1974)/平成30年(2018)刷	エングレーピング・紙	9.6×13.9
21	吉田勝彦	餓鬼魂 (「四獣視姦思考」より)	昭和49年(1974)	エングレーピング・紙	直径8.8
22	吉田勝彦	男と女の顔 (「四獣視姦思考」より)	昭和49年(1974)	メゾチント・紙	20.0×14.0
23	吉田勝彦	M (「四獣視姦思考」より)	昭和49年(1974)	エングレーピング・紙	13.7×10.0
24	吉田勝彦	フィナーレ (「四獣視姦思考」より)	昭和49年(1974)	エングレーピング・紙	12.7×10.4
25	吉田勝彦	砂のサバンナ	昭和51年(1976)	エングレーピング・紙	15.5×18.0
26	吉田勝彦	レチュエリア海岸の夕暮	昭和51年(1976)	メゾチント・紙	5.0×19.9
27	吉田勝彦	プエルト・ラクルス 暁の海景	昭和51年(1976)/平成30年(2018)刷	メゾチント・紙	4.7×22.4
28	吉田勝彦	白夏夜嵐 天の雨簾	昭和52年(1977)	エングレーピング・紙	6.8×35.3
29	吉田勝彦	小さな舟着場	昭和53年(1978)	エングレーピング・紙	21.9×26.3
30	吉田勝彦	砂のサバンナ	昭和54年(1979)	カラーメゾチント、エングレーピング・紙	15.5×17.8
31	吉田勝彦	黄昏の山岳都市	昭和54年(1979)	メゾチント・紙	17.3×23.7
32	吉田勝彦	C採石場の夜	昭和54年(1979)	エングレーピング・紙	10.0×16.5
33	吉田勝彦	志賀直哉 『暗夜行路』	昭和54年(1979)	エッチング、カラーメゾチント、ドライポイント紙	16.9×11.8
34	吉田勝彦	セゴビア晩秋 (『La Habitación de mi corazón』より)	昭和55年(1980)	メゾチント・紙	11.8×16.4
35	吉田勝彦	Carmen 4-S°, MADRID. (『La Habitación de mi corazón』より)	昭和55年(1980)	エングレーピング・紙	16.5×12.0
36	吉田勝彦	午後の一隅 (『La Habitación de mi corazón』より)	昭和55年(1980)	メゾチント、エングレーピング・紙	19.8×14.9
37	吉田勝彦	Tiempo(時) (『La Habitación de mi corazón』より)	昭和55年(1980)	エングレーピング・紙	直径18.2
38	吉田勝彦	遥かなるアンダルシア(F.G.L.に捧げる) (『La Habitación de mi corazón』より)	昭和55年(1980)	メゾチント・紙	21.0×22.9
39	吉田勝彦	イエズス会修道師Tの夜 (饒舌と寡黙の狭間で…) (『La Habitación de mi corazón』より)	昭和55年(1980)	エングレーピング・紙	16.5×19.8
40	吉田勝彦	CUMANA残照 (『La Habitación de mi corazón』より)	昭和55年(1980)	メゾチント・紙	14.5×18.1
41	吉田勝彦	カンボ・デ・クリプタナの家並 (『La Habitación de mi corazón』より)	昭和55年(1980)	メゾチント・紙	14.5×19.8
42	吉田勝彦	小さな港	昭和56年(1981)	エングレーピング・紙	15.9×21.8
43	吉田勝彦	小さな防波堤	昭和56年(1981)	メゾチント・紙	8.3×28.7
44	吉田勝彦	夏	昭和56年(1981)	メゾチント・紙	21.2×25.7

45	吉田勝彦	残り火	昭和56年(1981)	エングレービング・紙	10.3×29.5
46	吉田勝彦	汽笛(K操車区の思い出)	昭和57年(1982)	エングレービング・紙	20.7×33.6
47	吉田勝彦	ララバイ(謙介に…)	昭和57年(1982)	メゾチント・紙	21.2×25.5
48	吉田勝彦	春霞む林	昭和58年(1983)	エッチング・紙	20.1×29.8
49	吉田勝彦	或る日のE港(日の出)	昭和58年(1983)	エングレービング・紙	14.0×24.2
50	吉田勝彦	新開地F埠頭(昼下り)	昭和59年(1984)	エングレービング・紙	29.7×44.4
51	吉田勝彦	小さな測候所(未明)	昭和60年(1985)	メゾチント・紙	20.8×32.7
52	吉田勝彦	北の岬	昭和60年(1985)	アクアチント、エングレービング・紙	11.9×17.8
53	吉田勝彦	星雪夜	昭和61年(1986)	エッチング・紙	17.9×36.2
54	吉田勝彦	春雪の林道	昭和63年(1988)	エッチング・紙	29.5×45.4
55	吉田勝彦	朝影の山頂	平成元年(1989)	カラーメゾチント・紙	23.9×36.3
56	吉田勝彦	山嶺の曙	平成2年(1990)	カラーメゾチント・紙	23.8×45.2
57	吉田勝彦	林間の富士	平成3年(1991)	エッチング・紙	38.0×51.4
58	吉田勝彦	平潟港の朝焼け	平成3年(1991)	カラーメゾチント・紙	20.0×46.2
59	吉田勝彦	風間の秋	平成3年(1991)	エッチング・紙	23.3×36.2
60	吉田勝彦	春を待つ山	平成3年(1991)	エッチング・紙	24.0×45.4
61	吉田勝彦	入日	平成3年(1991)	カラーメゾチント・紙	23.9×36.1
62	吉田勝彦	薔薇11月	平成2年(1990)	カラーメゾチント・紙	36.3×23.8
63	吉田勝彦	薔薇1月	平成3年(1991)	カラーメゾチント・紙	36.3×23.9
64	吉田勝彦	薔薇2月	平成3年(1991)	カラーメゾチント・紙	36.3×23.8
65	吉田勝彦	薔薇6月	平成3年(1991)	カラーメゾチント・紙	36.1×23.8
66	吉田勝彦	薔薇8月	平成3年(1991)	カラーメゾチント・紙	36.3×23.7
67	吉田勝彦	薔薇12月	平成4年(1992)	カラーメゾチント・紙	36.4×23.8
68	吉田勝彦	薔薇7月	平成5年(1993)	カラーメゾチント・紙	36.1×23.8
69	吉田勝彦	薔薇10月	平成5年(1993)	カラーメゾチント・紙	36.2×23.9
70	吉田勝彦	薔薇13月	平成5年(1993)	メゾチント・紙	36.1×25.6
71	吉田勝彦	薔薇9月	平成2-5年(1990-93)	カラーメゾチント・紙	36.0×23.7
72	吉田勝彦	春の海	平成4年(1992)	カラーメゾチント・紙	22.6×31.8
73	吉田勝彦	宮部家の旧屋	平成5年(1993)	エッチング・紙	17.9×23.8
74	吉田勝彦	今朝の夏	平成5年(1993)	エッチング・紙	23.8×36.2
75	吉田勝彦	白陀助	平成6年(1994)	カラーメゾチント・紙	19.7×14.0
76	吉田勝彦	茜陀助	平成6年(1994)	カラーメゾチント・紙	19.7×14.2
77	吉田勝彦	夜光盃と桃佐助	平成7年(1995)	カラーメゾチント・紙	28.5×17.5
78	吉田勝彦	夜光盃とピンクの佐助	平成7年(1995)	カラーメゾチント・紙	23.0×17.3
79	吉田勝彦	樹間の秋	平成7年(1995)	エッチング・紙	29.6×36.1
80	吉田勝彦	山桜(春)	平成8年(1996)	エッチング・紙	44.9×29.8
81	吉田勝彦	山桜(夏)	平成8年(1996)	エッチング・紙	36.2×24.0
82	吉田勝彦	山桜(秋)	平成8年(1996)	エッチング・紙	45.3×34.7
83	吉田勝彦	山桜(冬)	平成8年(1996)	エッチング・紙	45.1×19.8
84	吉田勝彦	窓からの眺め	平成11年(1999)	エッチング・紙	22.5×29.7
85	吉田勝彦	牡丹	平成11年(1999)	メゾチント・紙	23.7×21.7
86	吉田勝彦	白牡丹	平成11年(1999)	カラーメゾチント・紙	22.8×29.6
87	吉田勝彦	デンファレ	平成11年(1999)	メゾチント・紙	36.1×24.1
88	吉田勝彦	伐採された山	平成11年(1999)	エッチング・紙	29.6×36.0
89	吉田勝彦	二輪の薔薇	平成12年(2000)	メゾチント・紙	16.0×10.4
90	吉田勝彦	二輪の薔薇	平成12年(2000)	カラーメゾチント・紙	15.8×10.2
91	吉田勝彦	秋日和	平成12年(2000)	カラーメゾチント・紙	7.3×11.0
92	吉田勝彦	玉の浦椿	平成13年(2001)	カラーメゾチント・紙	36.2×23.6
93	吉田勝彦	蚕豆	平成14年(2002)	カラーメゾチント・紙	21.7×8.3
94	吉田勝彦	コップとレモン	平成14年(2002)	カラーメゾチント・紙	26.0×12.1
95	吉田勝彦	食卓	平成15年(2003)	エッチング・紙	22.6×8.7
96	吉田勝彦	食卓	平成15年(2003)	エングレービング・紙	21.3×6.5
97	吉田勝彦	食卓	平成15年(2003)	ドライポイント・紙	22.7×8.7
98	吉田勝彦	食卓	平成15年(2003)	カラーメゾチント・紙	22.4×8.9

寄贈作品



1 今村義広
山水図屏風
江戸時代前期
紙本墨画・六曲屏風一雙押絵貼
各図132.8×52.0cm



2 吉田蔵澤
墨竹図
江戸時代中期
紙本墨画・軸
131.6×47.2cm



3 沖冠岳
四季花鳥図屏風
明治時代初期
紙本着色・六曲屏風一雙
各165.0×362.0cm



4 高橋周柔
松
昭和29年（1954）
紙本着色・額
111.0×143.5cm



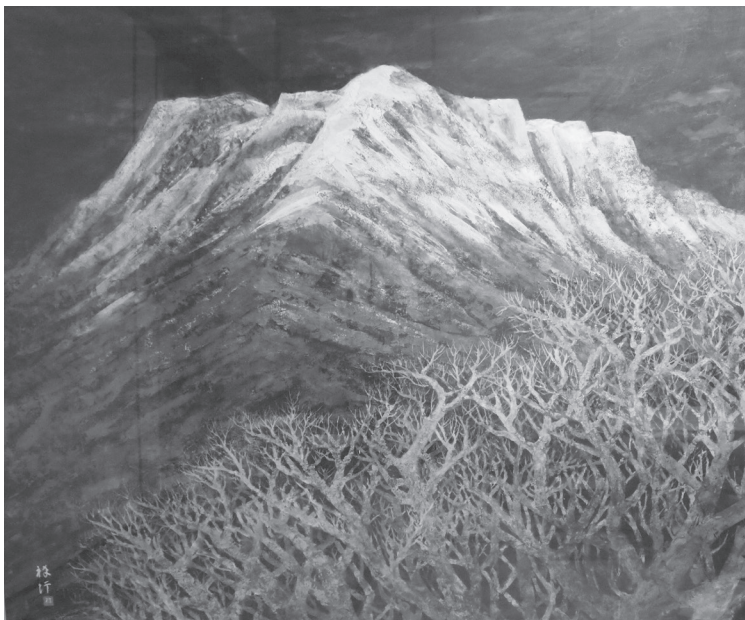
5 渋谷秋泉
勿来関図
紙本着色・軸
113.7×41.0cm



7 穂月明
月影溪流
1980年代
紙本墨画・額
110.0×42.0cm



8 穂月明
寒松・牡丹図
1980年代
紙本墨画・額
72.0×52.0cm



15 渡邊祥行
石鎚冬色
平成元年（1989）
紙本着色・額
162.5×127.5cm



16 伊東正次
野仏図
平成28年（2016）
紙本着色・額
227.0×182.0cm



38 吉田勝彦
遥かなるアンダルシア（F.G.Lに捧げる）
（『La Habitación de mi corazón』より）
昭和55年（1980）
メゾチント・紙
21.0×22.9cm



57 吉田勝彦
林間の富士
平成3年（1991）
エッチング・紙
38.0×51.4cm

3 収蔵作品数

分野	～平成20年度末	平成21年度末	平成22年度末	平成23年度末	平成24年度末	平成25年度末	平成26年度末	平成27年度末	平成28年度末	平成29年度末	平成30年度末	合計
日本画	437点		64点	10点	110点	2点	26点	6点	1点	24点	17点	697点
海外絵画	9点											9点
油彩画	549点	7点	86点	10点		13点	4点		10点	9点		688点
水彩画	113点		4点		1点	11点	2点		7点			138点
素描	223点		11点			2点						236点
版画	456点	235点	29点		16点		14点			1点	81点	751点
書	302点		5点		1点							308点
彫塑	33点	5点		2点								40点
工芸	44点		1点	1点								46点
写真	36点	1点	3点	3点								43点
立体・インスタレーション	17点	2点	10点	4点	18点	6点		3点				60点
デザイン	71点					3点	7点					81点
その他	8,542点						15点		308点			8,865点
計	10,832点	250点	213点	30点	146点	37点	68点	9点	326点	34点	98点	12,043点

III 作品の収集事業及び保存管理

4 保存・修復

(1) 収蔵庫燻蒸

内 容 : 専門業者によるブンガノンVA及びエコミュア—FTの薬剤噴霧
 期 間 : 平成30年12月3日
 場 所 : 地階 収蔵部門 収蔵前室、収蔵庫2・3 計324㎡

(2) 収蔵庫清掃

内 容 : 学芸員の当番制及び博物館実習生による清掃作業(年4回)
 場 所 : 地階 収蔵前室、収蔵庫1・2・3、撮影室、作業室

(3) 館蔵品の修復

内 容 : 専門業者による修復

No.	作家名	作品名	修復前状態	修復処置	修復場所	修復期間
1	真鍋博	MARCH	フィルムの経年劣化	フィルムクリーニング、デジタル4K化	撮影会社	平成31年2月8日～3月30日

5 所蔵品貸出状況 平成30年度

作家名	作品名	貸出先	展覧会名	貸出期間
竹内栖鳳	花の山	根津美術館、大阪歴史博物館、佐野美術館	藝の華—光村コレクションの刀装具—	H29.10.17-H30.5.24
森盲天外	聞天声慎人話	愛媛県生涯学習センター	愛媛人物博物館常設展示	H30.2.27-H31.3.1
吉田蔵澤	芭蕉霜凌図	愛媛県生涯学習センター	愛媛人物博物館常設展示	H30.2.27-H31.3.1
三輪田米山	和歌(からころも…)	愛媛県生涯学習センター	愛媛人物博物館常設展示	H30.2.27-H31.3.1
下村為山	孟冬・墨竹に琵琶の花	愛媛県生涯学習センター	愛媛人物博物館常設展示	H30.2.27-H31.3.1
下村為山	華王	愛媛県生涯学習センター	愛媛人物博物館常設展示	H30.2.27-H31.3.1
野間仁根	人物(壁)	愛媛県生涯学習センター	愛媛人物博物館常設展示	H30.2.27-H31.3.1
野間仁根	裸婦二人とカモメ	愛媛県生涯学習センター	愛媛人物博物館常設展示	H30.2.27-H31.3.1
村上三島	劉長卿 春風臺詩	愛媛県生涯学習センター	愛媛人物博物館常設展示	H30.2.27-H31.3.1
正岡子規	短歌稿	愛媛県生涯学習センター	愛媛人物博物館常設展示	H30.2.27-H31.3.1
建畠大夢	白井雨山像	愛媛県生涯学習センター	愛媛人物博物館常設展示	H30.2.27-H30.8.19/ H30.12.14-H31.3.1
土井要輔	子規坐像	愛媛県生涯学習センター	愛媛人物博物館常設展示	H30.2.27-H31.3.1
楨江山	義農作兵衛像	愛媛県生涯学習センター	愛媛人物博物館常設展示	H30.2.27-H31.3.1
佐々木二六	鐘馗	愛媛県生涯学習センター	愛媛人物博物館常設展示	H30.2.27-H31.3.1
横江嘉純	秋山大将騎馬像	愛媛県生涯学習センター	愛媛人物博物館常設展示	H30.2.27-H31.3.1
秋山好古	達磨図	愛媛県生涯学習センター	愛媛人物博物館常設展示	H30.2.27-H31.3.1
小磯良平	婦人像	兵庫県立美術館	小磯良平と吉原治良	H30.3.9-6.15
河野如風	飲巖夫家酔中作高士談	洗心書道会全国書道展(愛媛県美術館新館特別展示室)	洗心書道会全国書道展	H30.3.27-4.1
吉田博	春の瀬戸内海	香川県立東山魁夷せとうち美術館	瀬戸大橋開通30周年記念せとうち気分—多島海を描く	H30.4.7-5.27
中川八郎	寒霞溪四望眺より	香川県立東山魁夷せとうち美術館	瀬戸大橋開通30周年記念せとうち気分—多島海を描く	H30.4.7-5.27
東山魁夷	波響く	香川県立東山魁夷せとうち美術館	瀬戸大橋開通30周年記念せとうち気分—多島海を描く	H30.4.7-5.27
安田靉彦	守屋大連	島根県立古代出雲歴史博物館	古墳は語る—古代出雲誕生	H30.7.11-10.19
杉浦非水	三越呉服店 春の新柄陳列会(三越)	五百亀記念館	師弟展—五百亀を育てた多摩帝国美術学校の先人たち	H30.8.19-12.14
杉浦非水	銀座三越 四月十日開店	五百亀記念館	師弟展—五百亀を育てた多摩帝国美術学校の先人たち	H30.8.19-12.14
杉浦非水	『三越』第二十二巻第五号	五百亀記念館	師弟展—五百亀を育てた多摩帝国美術学校の先人たち	H30.8.19-12.14
杉浦非水	『みつこしタイムス』第八巻第五号	五百亀記念館	師弟展—五百亀を育てた多摩帝国美術学校の先人たち	H30.8.19-12.14
杉浦非水	柳川春葉著 『かたおもひ』一・二・三巻	五百亀記念館	師弟展—五百亀を育てた多摩帝国美術学校の先人たち	H30.8.19-12.14
杉浦非水	南満州鉄道株式会社	五百亀記念館	師弟展—五百亀を育てた多摩帝国美術学校の先人たち	H30.8.19-12.14
杉浦非水	勤業債券売だし	五百亀記念館	師弟展—五百亀を育てた多摩帝国美術学校の先人たち	H30.8.19-12.14
杉浦非水	第二十回光風会招待券	五百亀記念館	師弟展—五百亀を育てた多摩帝国美術学校の先人たち	H30.8.19-12.14
杉浦非水	第二十一回光風会招待券	五百亀記念館	師弟展—五百亀を育てた多摩帝国美術学校の先人たち	H30.8.19-12.14
杉浦非水	爽快美味慈強飲料 カルピス	五百亀記念館	師弟展—五百亀を育てた多摩帝国美術学校の先人たち	H30.8.19-12.14
杉浦非水	東洋唯一の地下鉄道 上野浅草間開通	五百亀記念館	師弟展—五百亀を育てた多摩帝国美術学校の先人たち	H30.8.19-12.14
杉浦非水	光(大毎フェアランド記念)	五百亀記念館	師弟展—五百亀を育てた多摩帝国美術学校の先人たち	H30.8.19-12.14
杉浦非水	光(染織祭記念)	五百亀記念館	師弟展—五百亀を育てた多摩帝国美術学校の先人たち	H30.8.19-12.14
杉浦非水	光(政治博覧会記念)	五百亀記念館	師弟展—五百亀を育てた多摩帝国美術学校の先人たち	H30.8.19-12.14
杉浦非水	ゴールデンバット(名古屋汎太平洋平和博覧会記念)	五百亀記念館	師弟展—五百亀を育てた多摩帝国美術学校の先人たち	H30.8.19-12.14
杉浦非水	ゴールデンバット(南国土佐大博覧会記念)	五百亀記念館	師弟展—五百亀を育てた多摩帝国美術学校の先人たち	H30.8.19-12.14

杉浦非水	『ツーリスト』第十八号	五百亀記念館	師弟展—五百亀を育てた多摩帝国美術学校の先人たち	H30.8.19-12.14
杉浦非水	『旅程と費用概算』	五百亀記念館	師弟展—五百亀を育てた多摩帝国美術学校の先人たち	H30.8.19-12.14
野村昇	七人社第十回創作図案展	五百亀記念館	師弟展—五百亀を育てた多摩帝国美術学校の先人たち	H30.8.19-12.14
青井辰雄	多摩帝国美術学校第一回図案科会展覧会	五百亀記念館	師弟展—五百亀を育てた多摩帝国美術学校の先人たち	H30.8.19-12.14
	『日録代辯』	五百亀記念館	師弟展—五百亀を育てた多摩帝国美術学校の先人たち	H30.8.19-12.14
伊藤五百亀	杉浦非水宛書簡	五百亀記念館	師弟展—五百亀を育てた多摩帝国美術学校の先人たち	H30.8.19-12.14
伊藤五百亀	はたち	五百亀記念館	師弟展—五百亀を育てた多摩帝国美術学校の先人たち	H30.8.19-12.14
伊藤五百亀	旦(あした)	五百亀記念館	師弟展—五百亀を育てた多摩帝国美術学校の先人たち	H30.8.19-12.14
建島大夢	白井雨山像	五百亀記念館	師弟展—五百亀を育てた多摩帝国美術学校の先人たち	H30.8.19-12.14
藤田嗣治	立つ裸婦	東京都美術館、京都国立近代美術館	特別展「没後50年 藤田嗣治展」	H30.7.17-12.23
中村 彝	自画像	町立久万美術館	開館30周年記念 久万美、いま	H30.9.3-11.2
ピエール・ボナール	アンドレ・ボナール嬢の肖像 画家の妹	国立新美術館	オルセー美術館特別企画 ピエール・ボナール展	H30.9.5-12.26
須田国太郎	杉	今治市玉川近代美術館	企画展「須田国太郎と独立美術協会の画家たち」	H30.9.23-11.29
中山巍	静物	今治市玉川近代美術館	企画展「須田国太郎と独立美術協会の画家たち」	H30.9.23-11.29
里見勝蔵	和服の女	今治市玉川近代美術館	企画展「須田国太郎と独立美術協会の画家たち」	H30.9.23-11.29
	短刀 銘国弘作(重要文化財、寄託作品)	ふくやま美術館、刀剣博物館	筑前左文字の名刀	H30.10.16-H31.2.27
東山魁夷	波響く	市川市東山魁夷記念館	巡礼への祈り—東山魁夷・平山郁夫—	H30.11.30-H31.2.7
平山郁夫	椿の園	市川市東山魁夷記念館	巡礼への祈り—東山魁夷・平山郁夫—	H30.11.30-H31.2.7
杉浦非水	『非水創作図案集』	東京国立近代美術館	イメージコレクター・杉浦非水展	H31.1.31-6.5
杉浦非水	『非水百花譜』	東京国立近代美術館	イメージコレクター・杉浦非水展	H31.1.31-6.5
杉浦非水	スケッチ(浅間山)	東京国立近代美術館	イメージコレクター・杉浦非水展	H31.1.31-6.5
杉浦非水	スケッチ (昭和22年8月14日12時25分位噴火)	東京国立近代美術館	イメージコレクター・杉浦非水展	H31.1.31-6.5
杉浦非水	浅間山噴火	東京国立近代美術館	イメージコレクター・杉浦非水展	H31.1.31-6.5
	アルバム[日本]	東京国立近代美術館	イメージコレクター・杉浦非水展	H31.1.31-6.5
	アルバム[フランス留学時代]	東京国立近代美術館	イメージコレクター・杉浦非水展	H31.1.31-6.5
	『外国文字集』	東京国立近代美術館	イメージコレクター・杉浦非水展	H31.1.31-6.5
	『名物控帳』	東京国立近代美術館	イメージコレクター・杉浦非水展	H31.1.31-6.5
	『日録代辯』	東京国立近代美術館	イメージコレクター・杉浦非水展	H31.1.31-6.5
	杉浦非水関連資料(顔料8点)	愛媛県総合科学博物館	周期表発見50年 元素のマトリクス 星々から生命への贈り物	H31.2.8-4.16
杉浦非水・翠子	合作色紙(ふもとが村に…)	愛媛県総合科学博物館	周期表発見50年 元素のマトリクス 星々から生命への贈り物	H31.2.8-4.16
森盲天外	美門百光妙霊千化	愛媛県生涯学習センター	愛媛人物博物館常設展示	H31.3.1-H32.3.31
吉田蔵澤	月竹図	愛媛県生涯学習センター	愛媛人物博物館常設展示	H31.3.1-H32.3.31
三輪田米山	和歌(ほととぎす…)	愛媛県生涯学習センター	愛媛人物博物館常設展示	H31.3.1-H32.3.31
下村為山	風竹図	愛媛県生涯学習センター	愛媛人物博物館常設展示	H31.3.1-H32.3.31
下村為山	孟冬・墨竹に琵琶の花	愛媛県生涯学習センター	愛媛人物博物館常設展示	H31.3.1-H32.3.31
野間仁根	田舎の家族	愛媛県生涯学習センター	愛媛人物博物館常設展示	H31.3.1-H32.3.31
野間仁根	兄弟と昆虫	愛媛県生涯学習センター	愛媛人物博物館常設展示	H31.3.1-H32.3.31
村上三島	王羲之 蘭亭叙	愛媛県生涯学習センター	愛媛人物博物館常設展示	H31.3.1-H32.3.31
正岡子規	河東碧梧桐宛書簡 (明治29年12月11日付)	愛媛県生涯学習センター	愛媛人物博物館常設展示	H31.3.1-H32.3.31
建島大夢	白井雨山像	愛媛県生涯学習センター	愛媛人物博物館常設展示	H31.3.1-H32.3.31
土井要輔	子規坐像	愛媛県生涯学習センター	愛媛人物博物館常設展示	H31.3.1-H32.3.31
横江山	義農作兵衛像	愛媛県生涯学習センター	愛媛人物博物館常設展示	H31.3.1-H32.3.31
佐々木二六	鐘馗	愛媛県生涯学習センター	愛媛人物博物館常設展示	H31.3.1-H32.3.31
横江嘉純	秋山大将騎馬像	愛媛県生涯学習センター	愛媛人物博物館常設展示	H31.3.1-H32.3.31
秋山好古	達磨図	愛媛県生涯学習センター	愛媛人物博物館常設展示	H31.3.1-H32.3.31
クロード・モネ	アンティープ岬	文化協力公施設法人 ジヴェルニー印象派美術館	モネ—オービュルタン、芸術の出会い	H31.3.11-7.18

IV 調査研究事業

下記のテーマで調査研究を行った。

八木誠一 学芸課長

テーマ：公立博物館等における友の会組織の現状と課題

内容：当館における友の会組織の改善に資するため、全国の友の会等一般県民の有志組織を持つ公立美術館等を対象に、実施母体や会費、サービス内容などの現状や課題などの聞き取り調査を継続して行い、よりよい運営のあり方について考察した。

長井健 学芸グループ担当係長

テーマ：松山藩を中心とした近世伊予各藩の御用絵師研究、伊予地方の宗教美術研究

内容：

【松山藩を中心とした近世伊予各藩の御用絵師研究】

近年、精力的に進めている近世伊予ゆかりの絵師の調査研究について、本年度も継続的に実施した。特に松山藩を中心に伊予各藩に仕えた御用絵師たちの活動実態や作品分析などの調査を行った。

【伊予地方の宗教美術研究】

将来的な企画展開催などを見越して、県内各自治体の仏教・神道美術関係の資料の分布状況や状態について調査研究を行った。

武田信孝 専門学芸員

テーマ：欧米と日本を中心とした近現代美術史、工芸デザイン史

内容：平成30年度企画展「印象派への旅 海運王の夢 バレル・コレクション」の開催にあたり、同展図録（毎日新聞社、平成30年初版発行）に作品解説17件を寄稿した。また、『毎日新聞』愛媛版（平成30年12月20日、22日、25日、平成31年1月3日、4日発行）に作品解説（エドガー・ドガ「リハーサル」、アドルフ・モンティセリ「庭で遊ぶ子どもたち」、マテイス・マリス「蝶」、ジョゼフ・クロホル「フォックスハウンド——呼び鈴のある門」、ウジェーヌ・ブーダン「ドーベル、波止場」）を寄稿した。加えて、同展関連行事として、「企画展プレビュー」と題し土曜講座の講義を2回行い、ガイド・ツアーの講師を4回務め、ショート・レクチャーの講師を34回務め、同展を観覧する団体対象の講座の講師を7回務めた。

平成31年度（令和元年度）企画展「国立トレチャコフ美術館所蔵 ロマンティック・ロシア」の開催に向けて、主要参考文献「ロシア近代絵画」を編纂し、同展図録（アートインプレッション、平成30年初版発行）に寄せた。

開館記念日にあたり、リレー講座『学芸員によるフロアレクチャー』の中で、コレクション展「海外の美術：人と交通」会場の列品解説を行った。

「第65回日本伝統工芸展」松山展（愛媛県教育委員会ほか主催）の開催にあたり、『朝日新聞』愛媛版（平成31年3月13日発行）に作品解説（村上君子《伊予絁着物「綺羅星」》）を寄稿した。

杉山はるか 主任学芸員

テーマ：夏目漱石『坊っちゃん』、県内外の現代美術に関わる調査研究

内容：

【夏目漱石『坊っちゃん』に関わる調査研究】

夏目漱石の『坊っちゃん』をテーマに祖父江慎（ブックデザイナー）、梅佳代（写真家）、浅田政志（写真家）、三沢厚彦（彫刻家）の4名が制作した作品とともに、漱石と正岡子規との交流を伝える書簡や絵画を始め、県内外の『坊っちゃん』にまつわる様々な資料を調査して可能な限り紹介した。

【県内外の現代美術調査研究】

前年度に引き続き版画家・吉田勝彦の作品調査を行い、本年度の作品収蔵につなげた。砥部町出

身でフィンランドのマリメッコでデザイナーとして活躍した石本藤雄に関して作品調査を行った。

喜安嶺 学芸員

テーマ：県ゆかりの作家を中心とした日本近代洋画研究

内 容：

【古茂田守介研究】

愛媛県松山市出身の古茂田守介の生誕百年を記念したコレクション特別展を開催するにあたり、県内所蔵先や東京の画廊等で調査を実施し、書籍装幀の仕事や個人コレクションを含めて紹介した。

二宮茂樹 普及グループ担当係長

テーマ：友の会組織の現状と課題

内 容： 友の会会員制度の周知について、学校訪問、県庁掲示板、社会教育団体等での説明等、広報手段の有効活用について研究をした。企業等へ訪問し、福利厚生面の充実の方策の一つとして愛媛県美術館友の会への入会についての説明を行った。友の会の案内のチラシ、ポスターについては従来の形式に加え新規の形式を作成し、掲示場所等効果的な周知の方法について検討し試行した。会費の増額による会員数の変動を注視すべき年度でもあるため、会員数の変動をグラフ化し、効果的な周知の方法についても検証をした。

鈴木有紀 専門学芸員

テーマ：「対話型授業」の考え方を軸とした学校教育との連携の研究

内 容：

【対話型授業を軸とした学校教育との連携の研究】

平成30年度は文化庁・地域の核事業の補助金により、次期学習指導要領の柱となる「主体的・対話的で深い学び」を視野に入れた、「対話型授業」（対話型鑑賞をベースにした他教科での授業）の普及と愛媛県内の小中学校・博物館で開発され、現場教員の声を反映した10の対話型授業事例をより具体的に紹介するテキストを作成した。

檜垣正 教育専門員

テーマ：美術館と学校との連携について

内 容： 博物館教育と学校教育の特性を踏まえ、学校団体のための基本的なプログラム（展覧会観覧やスクールトーク、創作体験等）や職場体験、出前授業等の充実を図った。出前授業では、夏季休業中に児童クラブを訪れ、造形遊びを行ったり、文化祭シーズンに中学校を訪問し、創作活動を行ったりした。また、学校における対話型鑑賞法を用いた教育活動のあり方について探った。

石崎三佳子 専門学芸員

テーマ：創作活動プログラム、技法について

内 容： 創作活動プログラムについては、講座や学校対応、出前ワークショップなどの創作活動を実施するにあたり、対象や目的に適した素材調査や作業工程を検討し、実践した。

また、版画制作等における材料の安全性を確認し、健康に配慮した制作方法や工夫について、検討し、アトリエでの利用の改善に努めた。

田代亜矢子 専門学芸員

テーマ：美術館の教育普及活動、技法について

内 容： 職場体験やインターンシップ等での受け入れに際し、美術館において自発的な学びの提供プログラム「展示室の秘密」の改善、試行を繰り返した。

また、講座や館内ワークショップにおいて、藍染めの新たな絞り方の紹介や、沈殿藍によって藍色以外の色を出す方法を紹介した。陶芸窯の活用にも努めた。

V 教育普及事業

1 普及啓発事業

(1) 連続講座

①かんたん手作り「蔵書印」

内 容 ゴム板で版（蔵書印）をつくり、紙に押印し、裏手彩色で蔵書票に仕上げた。

講 師 檜垣正教育専門員

日 時 5/20（日）・27（日）

各13：30～15：30

募集対象 中学生以上 10名

受講人数 延 8 名



②沈澱藍を使って紫を出そう

内 容 蝋と沈澱藍で描き蒸すことで変化してできるピンク紫色の染めを楽しんだ。

講 師 田代亜矢子専門学芸員

日 時 7/14（土）・15（日）

各13：30～15：30

募集対象 中学生以上 8名

受講人数 延 12 名



③企画展講座 美と文学をめぐる

内 容 川端康成の言葉より美意識、美術品収集の経緯などを考え、川端文学の装幀の展開と特色をたどった。

講 師 長井健学芸グループ担当係長

日 時 9/22（土）・29（土）

各14：00～

募集対象 一般 30名

受講人数 延 33 名



④壁掛けミカン

内 容 砥部焼の土で成形し、絵具で色を付け、壁掛けタイプのオリジナル「ミカン」を作った。

講 師 田代亜矢子専門学芸員

日 時 11/18（日）・12/9（日）

各13：30～15：00

募集対象 小学4年生以上 8名

受講人数 延 17 名



⑤コレクション講座 古茂田家の守介さん

内 容 同じく洋画家であった兄・公雄と妻・美津子そして版画家として活躍する娘・杏子の作品から守介の魅力に迫った。

講 師 喜安嶺学芸員

日 時 11/24（土）・12/15（土）

各14：00～

募集対象 一般 30名

受講人数 延 39 名

⑥ウォーターレス・リトグラフ

内 容 水を使わない手軽なリトグラフによる制作を試した。
講 師 石崎三佳子専門学芸員
日 時 1/13(日)・20(日) 各13:30~16:00
募集対象 中学生以上 8名
受講人数 延 9名



(2) 一日講座 (両日、同じ内容を実施)

①たいけんモリのまなざし

内 容 熊谷守一が関心を寄せた闇の中の光や色と色との関係を探る3つの体験を行った。
講 師 石崎三佳子専門学芸員
日 時 4/28(土)・29(日)・30(月・祝)・
5/3(木・祝)・4(金・祝)・5(土・祝)
各14:00~15:00
募集対象 制限なし
受講人数 延 201名



②粉から粘土へ

内 容 粉状の土に、少しずつ水を加え粘土を作り、できた粘土で造形遊びをした。
講 師 田代亜矢子専門学芸員
日 時 6/3(日)・10(日)
各13:30~15:00
募集対象 3歳~小学生低学年 各15名
受講人数 延 31名



③紙粘土で猫をつくろう

内 容 色つきの軽量粘土を使って思い思いの猫を作り、鑑賞し合った。
講 師 二宮茂樹普及グループ担当係長
日 時 7/22(日)・29(日)
各13:30~15:30
募集対象 小学生以上 各10名
受講人数 延 15名



④たんけん はっけん ほっちゃん展 [企画展関連]

内 容 指令書(展覧会に関するオープンエンドな発問が書かれた紙)を媒介にして、対話形式の作品鑑賞を実施した。
講 師 鈴木有紀専門学芸員・当館ガイドボランティア
日 時 8/5(日)・12(日)・19(日)・26(日)
各10:30~15:00 ※随時参加受付
募集対象 制限なし
受講人数 延 291名

⑤ストーンアート

内 容 石にその形からイメージした図案や好きなものを描いた。
講 師 二宮茂樹普及グループ担当係長
日 時 10/14(日)・28(日)
各13:30~15:00
募集対象 小学高学年以上 各10名
受講人数 延 2名



⑥木っ端deスタンプ

内 容 赤・青・黄の3色の絵の具スタンプに不定形の木っ端をつけて、ダンボールやパネルにスタンプして色々な形・色を楽しんだ。
 講 師 田代亜矢子専門学芸員
 日 時 11/4(日)・12/2(日)
 各13:30~15:00
 募集対象 幼児・小学生 各15名
 受講人数 延 46名



⑦海運王に俺はなる!~身近な材料で「船」をつくろう!~

内 容 身近にある廃材(金属や木材など)を用いてオリジナルの船をつくった。
 講 師 檜垣正教育専門員
 日 時 1/27(日)・2/10(日)
 各13:30~15:30
 募集対象 小学生親子 各7組
 受講人数 延 30名



⑧鳥を飛ばそう!

内 容 ポリシートで鳥型カイトを作り、公園で飛ばして楽しんだ。
 講 師 石崎三佳子専門学芸員
 日 時 3/3(日)・10(日)
 各13:30~15:30
 募集対象 小学生以上 各15名(組)
 受講人数 延 32名



(3) 土曜講座

内 容 学芸員の調査・研究活動の成果や日々の美術館での活動について紹介する。
 講 師 当館学芸課職員
 日 時 土曜日 各14:00~(他のイベント開催時は休止)
 参加人数 延 983名(開催回数 44回)

No.	開催日	講座名	講 師
1	4/7	「春の花」を折り紙でつくろう!	檜垣正
2	4/21	みるんみるんツアー	杉山はるか
3	4/28	学芸員とトコトンミル会(みんな向き)	喜安嶺
4	5/5	学芸員とトコトンミル会(こども向き)	喜安嶺
5	5/12	堀之内の初夏をスケッチしよう	檜垣正
6	5/19	古今東西自画像を見る	八木誠一
7	5/26	「モリカズと生きる」①熊谷守一、97歳	喜安嶺
8	6/2	北欧の旅 石本藤雄展プレ講座	杉山はるか
9	6/9	熊谷展トコトンミル会	喜安嶺
10	6/16	「モリカズと生きる」②《桃》にみる:守一と野間仁根	喜安嶺
11	6/23	「川端康成と東山魁夷」プレ講座	長井健
12	7/7	みるんみるんツアー	長井健

13	7/14	「坊っちゃん展」フロアレクチャー	杉山はるか
14	7/21	「坊っちゃん展」ができるまで	杉山はるか
15	7/28	星×真鍋シリーズⅠ 星新一×真鍋博＝本、ふたりの仕事より	喜安嶺
16	8/4	星×真鍋シリーズⅡ 真鍋博のアニメーション上映会	石崎三佳子
17	8/11	星×真鍋シリーズⅢ ブックカバーをつくろう	石崎三佳子
18	8/18	「坊っちゃん展」フロアレクチャー	杉山はるか
19	8/25	ワークショップ おひさま写真	田代亜矢子
20	9/8	みるんみるんツアー	長井健
21	9/15	学芸員によるフロアレクチャー	長井健
22	10/6	学芸員によるフロアレクチャー	長井健
23	10/13	魁夷に倣う	八木誠一
24	10/20	モリスケみるんみるんツアー	喜安嶺
25	10/27	モリスケみるんみるんツアー	喜安嶺
26	11/3	みるんみるんツアー	長井健・喜安嶺
27	11/10	石本藤雄展フロアレクチャー	杉山はるか
28	11/17	石本藤雄の風景 -マリメッコから現在へ-	杉山はるか
29	12/1	モリスケみるんみるんツアー	喜安嶺
30	12/8	ワークショップ 陶板でウインドチャイム	田代亜矢子
31	12/22	ガクゲイインズが語る	喜安嶺
32	1/5	松ぼっくりでイノシシをつくろう！	檜垣正
33	1/12	みるんみるんツアー	長井健
34	1/19	紙粘土でイノシシをつくろう！	二宮茂樹
35	1/26	こわくないっ！鑑賞道場①ディスクリプション（描写）してみよう	鈴木有紀
36	2/2	企画展プレビュー	武田信孝
37	2/9	エドゥアール・マネの《シャンパングラスのバラ》を折り紙でつくろう	檜垣正
38	2/16	企画展プレビュー	武田信孝
39	2/23	こわくないっ！鑑賞道場②目隠して作品をみてみよう(ブラインド・トーク)	鈴木有紀
40	3/2	ドガについて	八木誠一
41	3/9	おひさま写真	田代亜矢子
42	3/16	型押し一革のタグづくり	石崎三佳子
43	3/23	「手のアト」をじっとみるんみるんツアー	喜安嶺
44	3/30	こわくないっ！鑑賞道場③お気に入りの「絵」を紹介しよう	鈴木有紀

(4) コレクショントーク 鑑賞の初心者を対象にした対話による作品鑑賞

内 容 「みる・考える・話す・聴く」という思考サイクルと「どこからそう思う？」という質問を通して物事の見方・考え方の育成を目的とした鑑賞プログラム。ガイドボランティアが鑑賞のナビゲーターを務める。

講 師 当館学芸員・当館作品ガイドボランティア

日 時 水・金・日曜日 各14：00～15：00

参加人数 延 576 名 （開催回数 71回）

2 創作活動支援事業

(1) アトリエの設置

創作活動ができる場として、アトリエ1（版画全般）、アトリエ2（染織、木工、写真等）を設置し、県民に開放している。

アトリエ利用状況

（単位：開館日数以外は人）

区 分	開室日数	利用人数			計
		アトリエ1	アトリエ2	アトリエひろば	
4月	25	24	86	36	146
5月	25	27	83	46	156
6月	25	12	92	39	143
7月	24	18	81	60	159
8月	26	32	226	122	380
9月	25	21	143	67	231
10月	24	23	81	62	166
11月	26	74	92	92	258
12月	24	19	90	75	184
1月	23	24	117	106	247
2月	26	25	163	37	225
3月	26	29	177	77	283
計	299	328	1,431	819	2,578
1日平均		1.1	4.8	2.8	8.7

(2) 創作学習の支援

アトリエ等での創作活動を行うにあたって、制作方法や技法などについて相談にのり、アドバイスをを行った。また、アトリエの利用促進のため、下記の事業を開催した。

①アトリエ教室

初めてアトリエを利用する方に、利用者の要望に対応した基本的な機材の使い方や制作手順を指導するワークショップを開催した。

日 時 アトリエ1（版 画） 第1・3水曜日・土曜日

アトリエ2（多目的） 第2・4水曜日・土曜日

種 目 シルクスクリーン、ウォーターレス・リトグラフ、コラグラフ、エッチング、織り、紡ぎ、染め（インド藍・草木染め）、フェルトなど

対 応 者 檜垣正教育専門員・石崎三佳子専門学芸員・田代亜矢子専門学芸員

参加人数 延 132 名（開催回数 44回）

②アトリエひろば

いつでも気軽に創作遊びができる空間をアトリエ前に設置した。

日 時 美術館開館日・開館時間

内 容 竹琴、カリンバ、土笛などの手づくり楽器を手に取り、音を楽しむことができた。

参加人数 延 819 名

③夏休みちょこっとアート

子どもから大人まで美術館で気軽に創作体験ができる夏休みイベントを実施した。

・「不思議&楽しい！マープリングでうちわ」

日 時 8/12（日）・19（日） 各10：30～12：00

内 容 水を貼ったバットにカラフルな絵の具を浮かせ、模様をつくり、うちわに写し取り、うちわを作った。

参加人数 延 57 名



- ・「木の皮で小さなかざりもの」
日 時 8/12 (日)・19 (日) 各10:30~12:00
内 容 木の皮を使って、結んだり織ったり、はたまた組んでみたりして、ボタンやブローチを創作した。
参加人数 延 18 名
- ・「おひさま写真」
日 時 8/19 (日) 10:30~12:00
内 容 感光材を塗布したうちわの上に、モノを置き、日光に当てて感光させて、モノの形を写し取り、うちわを作った。
参加人数 延 20 名

3 美術情報関係事業

(1) 美術館情報発信

①ホームページの公開

美術館の概要、展覧会や講座の案内などを紹介している。 (<https://www.ehime-art.jp/>)

②年間予定表「みるん・するん」

みるん(展覧会スケジュール)・するん(教育普及プログラム)を掲載したイベントスケジュールを半期毎に変形6折れで、各10,000部発行した。

③美術館ニュース「Canforo (カンフォロ)」の発行 第56号(平成30年7月)、第57号(平成31年1月) をA4版、4頁で各2,000部刊行した。



【第56号】



【第57号】

④メールマガジンの配信

メールマガジン「カンフォロ」を月1回配信している。

(2) 美術情報の提供

①美術館情報図書コーナーの設置

新館1階に美術情報図書コーナーを開設、一般の利用に役立てている。
収蔵図書数 計39,408冊(閉架を含む)

②DVD上映ブース

美術情報図書コーナー内に2台のDVD上映ブースを設置し、希望者が視聴できる。
上映DVD数 計46番組

4 他機関との連携事業

(1) 館内プログラム

美術館活用を希望する団体からの研修依頼に応え、当館学芸員及び職員が講師を務めた。

①教員研修の受け入れ

	研修名	日時	対象者	人数	研修内容
1	平成30年度中学校及び県立学校キャリアアップ研修Ⅱ	8/3(金) 10:00~16:00	中学校教諭1名 高等学校教諭2名	3	対話型鑑賞、おひさま写真
	合 計			3	

②学校団体等の受け入れ

ア 職場体験の対応

	研修名	日時	対象者	人数	研修内容
1	東温市立川内中学校	8/21(火)～24(金) 9:30～15:30	中学2年生	2	美術館の仕事について、館内視察、展示室の秘密探し、作品整理、監視業務、発送作業、館内WS補助、広報補助
2	松山市立鴨川中学校	8/21(火)～24(金) 9:30～15:00	中学2年生	2	
3	松山市立湯山中学校	8/28(火)～30(木) 9:30～16:00	中学2年生	1	美術館の仕事について、館内視察、作品保存について、広報補助、監視業務補助、作品整理
4	松山市立東中学校	9/27(木)・28(金) 9:30～15:00	中学2年生	2	美術館の仕事について、館内視察、展示室の秘密探し、展覧会印刷物封入作業、作品整理補助、コレクショントーク参加、チラシ修正
5	松山市立久谷中学校	9/27(木)・28(金) 9:30～15:00	中学2年生	2	
6	松山市立余土中学校	10/17(水)～19(金) 9:30～15:00	中学2年生	2	美術館の仕事について、館内視察、展示室の秘密探し、開館記念事業の準備
7	松山東雲中学校	10/19(金) 9:30～15:00	中学2年生	2	開館記念事業の準備
8	松山市立南第二中学校	11/15(木)・16(金) 9:30～15:00	中学2年生	4	館内WS補助、美術館の仕事について、館内視察、開館記念事業の準備
9	松山市立高浜中学校	11/27(火)・28(水) 9:30～15:00	中学2年生	2	開館記念事業の片付け、美術館の仕事について、館内視察
合 計				19	

イ 体験学習の受け入れ

学校団体等の要望により、アトリエでの創作体験学習の対応をした。

※人数の()は引率者数

	学校名	日時	対象者	人数	活動内容
1	放課後等デイサービス ピーターパンたかおか	4/8(日) 11:00～14:00	小学生～ 高校生	12 (4)	ピンホール・カメラ作成・撮影
2	大阪市立咲くや この花中学校	5/16(水) 14:00～17:00	3年生	22 (2)	大きな風船で遊ぼう、対話型鑑賞
3	松山市立湯山小学校 P T A	8/24(金) 10:00～12:00	小学生	22 (2)	藍染めバッグ
4	多機能学童保育広場 すくっと	8/31(金) 10:30～15:30	小学生	43 (5)	大きな風船で遊ぼう、楽器をつくろう
5	松山ビジネスカレッジ	9/11(火) 9:40～16:00	学生	8 (1)	シルクスクリーン
6	放課後等デイサービス ピーターパンたかおか	9/17(月・祝) 10:30～14:00	小学生	14 (4)	ピンホール・カメラ撮影
7	愛媛県社会福祉協議会 高齢者大学校	9/20(木) 13:30～16:00	受講生	49	対話型鑑賞、インド藍・沈殿藍で袋を彩ろう
8	松山高等技術専門校	9/28(金) 13:30～14:20	学生	16 (6)	対話型鑑賞
9	内子町立大瀬小学校	11/2(金) 9:40～13:00	小学生	15 (2)	インド藍で袋を染める、対話型鑑賞
10	東温市立拝志小学校	11/15(木) 11:00～12:00	小学生	32	大きな風船で遊ぼう
11	東温市教育委員会 重信わんぱく広場	2/23(土) 10:10～11:40	小学生	37 (5)	大きな風船で遊ぼう
12	放課後等デイサービス ピーターパンたかおか	2/24(日) 11:15～14:30	小学生～ 高校生	17 (5)	ピンホール・カメラ作成・撮影
13	松山市立中島中学校	3/7(木) 13:00～14:50	中学生	14 (3)	藍染め
合 計				301 (38)	

ウ 展覧会観覧受入れ

展 覧 会 名	児 童 ・ 生 徒 数						合 計
	幼稚園	小学校	中学校	高等学校	大学・ 専門学校	特別支援 学校等	
1 没後40年 熊谷守一生きるよろこび		3校	6校	3校	1校		13校
		181名	342人	124人	24名		671人
2 坊 っ ち ゃ ん 展			2校				2校
			15人				15人
3 川 端 康 成 と 東 山 魁 夷		1校	1校				2校
		105人	35人				140人
4 石 本 藤 雄 展		14校	8校	3校	2校		27校
		1,199人	641人	465人	37人		2,342人
5 印 象 派 へ の 旅 海 運 王 の 夢 パ レ ル ・ コ レ ク シ ョ ン		10校	13校	4校	2校		29校
		687人	577人	70人	68人		1,402人
6 コ レ ク シ ョ ン 展		1校	1校		1校		3校
		83人	12人		90人		185人
合 計		0校	29校	31校	10校	6校	76校
		0人	2,255人	1,622人	659人	219人	4,755人

③インターンシップ研修等

	研 修 名	日 時	対 象 者	人 数	研 修 内 容
1	愛媛県 インターンシップ研修会	9/19(水)～9/21(金) 9:30～18:15	都留文科大学	1	作品整理補助、広報活動補助、館外活動準備補助、展示監視、環境整備等

(2) 館外プログラム

施設や団体等の美術に関する事業依頼に応じ、当館学芸員及び職員を派遣した。

【講義・レクチャー】

①朝の活動の時間「きたい～よ・にこにこタイム」

内 容 対話型鑑賞

日 時 4/26(木)、5/17(木)、31(木)、6/7(木)、14(木)、21日(木) 8:00～8:25

場 所 松前町立北伊予小学校

講 師 鈴木有紀専門学芸員

参加人数 1,440 名

②小野中学校職業科

内 容 ポスターやポップの制作指導

日 時 5/31(木) 13:30～15:20

場 所 松山市立小野中学校

講 師 檜垣正教育専門員

参加人数 15 名

③愛媛大学教育学部附属小学校

内 容 対話型鑑賞

日 時 6/13(水)、27(水) 13:40～15:10

場 所 愛媛大学教育学部附属小学校

講 師 鈴木有紀専門学芸員

参加人数 64 名

④第50回美術教育夏季研修会

内 容 対話型鑑賞
 日 時 7/26(木) 16:00~16:30
 場 所 松前町総合文化センター
 講 師 鈴木有紀専門学芸員
 参加人数 100名

⑤松山市教育研修センター 課題別実践研修

内 容 楽しいクロッキー指導の在り方
 日 時 8/6(月) 13:30~16:00
 場 所 松山市教育研修センター
 講 師 二宮茂樹普及グループ担当係長
 参加人数 25名

⑥伊方町図工・美術委員研修会

内 容 対話型鑑賞
 日 時 8/6(月) 9:00~12:00
 場 所 伊方町中央公民館
 講 師 鈴木有紀専門学芸員
 参加人数 10名

⑦愛媛新聞カルチャースクール特別講座「いよ食談会」

内 容 「坊っちゃん展」の紹介
 日 時 8/7(火) 11:30~13:30
 場 所 ふなや
 講 師 杉山はるか主任学芸員
 参加人数 37名

⑧図画工作研修

内 容 対話型鑑賞
 日 時 8/8(水) 13:00~16:00
 場 所 松山市立道後小学校
 講 師 鈴木有紀専門学芸員
 参加人数 30名

⑨松山市教育研修センター 課題別実践研修

内 容 写生会指導の在り方
 日 時 8/21(火) 9:30~12:00
 場 所 松山市教育研修センター
 講 師 八木誠一学芸課長
 参加人数 25名

⑩校内図画工作研修会

内 容 写生大会の指導、クロッキー指導の在り方
 日 時 8/22(水) 13:30~15:30
 場 所 松山市立北条小学校
 講 師 二宮茂樹普及グループ担当係長
 参加人数 30名

⑪朝の活動の時間「きたい～よ・にこにこタイム」

内 容 対話型鑑賞
日 時 9/13(木)、10/18(木)、25(木)、11/1(木)、29(木)、12/13(木)
8:00～8:25
場 所 松前町立北伊予小学校
講 師 鈴木有紀専門学芸員
参加人数 1,440 名

⑫愛媛の博物館講座(愛媛県生涯学習センター主催「平成30年度コミュニティカレッジ」)

内 容 企画展「川端康成と東山魁夷」の紹介
日 時 9/14(金) 14:00～16:00
場 所 愛媛県歴史文化博物館
講 師 長井健学芸グループ担当係長
参加人数 10 名

⑬ダンボクラブ成人支援部「ワンピース」SST

内 容 対話型鑑賞
日 時 9/16(日) 15:00～17:00
場 所 松山市総合福祉センター
講 師 鈴木有紀専門学芸員
参加人数 20 名

⑭校内図画工作研修会

内 容 写生大会の指導、クロッキー指導の在り方
日 時 9/18(火) 10:00～14:00
場 所 新居浜市立新居浜小学校
講 師 二宮茂樹普及グループ担当係長
参加人数 100 名

⑮とうおんアート・ラボ2018

内 容 企画展「川端康成と東山魁夷」の紹介
日 時 9/21(金) 19:00～20:30
場 所 東温アートヴィレッジセンター アトリエNEST
講 師 長井健学芸グループ担当係長
参加人数 8 名

⑯校内図画工作研修会

内 容 写生大会の指導
日 時 9/28(金) 8:40～11:00
場 所 松山市立味酒小学校
講 師 二宮茂樹普及グループ担当係長
参加人数 150 名

⑰西予市教育研究大会(図工・美術部会)

内 容 対話型鑑賞
日 時 11/6(火) 15:00～16:30
場 所 西予市立田之筋小学校
講 師 鈴木有紀専門学芸員
参加人数 22 名

⑱退職公務員連盟今治・越智支部 女性部研修・親睦会

内 容 沖冠岳と今治の絵師たち
 日 時 11/8 (木) 10:20~13:00
 場 所 今治国際ホテル
 講 師 長井健学芸グループ担当係長
 参加人数 35 名

⑲愛媛の博物館講座(愛媛県生涯学習センター主催「平成30年度コミュニティカレッジ」)

内 容 石本藤雄展、古茂田守介展の紹介
 日 時 11/15 (木) 13:20~15:20
 場 所 愛媛県美術館
 講 師 杉山はるか主任学芸員、喜安嶺学芸員
 参加人数 21 名

⑳愛媛新聞カルチャースクール特別講座「いよ食談会」

内 容 コレクション特別展「生誕100年 古茂田守介」の紹介
 日 時 11/20 (火) 11:30~13:30
 場 所 レストラン門田
 講 師 喜安嶺学芸員
 参加人数 34 名

㉑愛媛の博物館講座(愛媛県生涯学習センター主催「平成30年度コミュニティカレッジ」)

内 容 コレクション特別展「生誕100年 古茂田守介」の紹介
 日 時 12/7 (金) 14:00~16:00
 場 所 愛媛県総合科学博物館
 講 師 喜安嶺学芸員
 参加人数 15 名

㉒坂の上の雲ミュージアム連続講座「松山」

内 容 松山藩の御用絵師について
 日 時 12/22 (土) 14:00~15:30
 場 所 坂の上の雲ミュージアム
 講 師 長井健学芸グループ担当係長
 参加人数 22 名

㉓朝の活動の時間「きたい〜よ・にこにこタイム」

内 容 対話型鑑賞
 日 時 1/24 (木)、2/21 (木)、3/14 (木) 8:00~8:25
 場 所 松前町立北伊予小学校
 講 師 鈴木有紀専門学芸員
 参加人数 720 名

㉔東京国立近代美術館「イメージコレクター・杉浦非水展」ギャラリートーク

内 容 杉浦非水の目と思考—旧蔵資料から見る
 日 時 2/22 (金) 18:00~19:00
 場 所 東京国立近代美術館
 講 師 長井健学芸グループ担当係長
 参加人数 60 名

【ワークショップ】

①道後みらいクラブ

内 容 大きな風船で遊ぼう
日 時 7/25 (水) 9:30~11:30
場 所 松山市総合福祉センター
講 師 石崎三佳子専門学芸員・田代亜矢子専門学芸員
参加人数 39 名

②松山市立素鷺小学校

内 容 新聞紙で生き物をつくろう
日 時 7/26 (木) 10:00~12:00
場 所 松山市立素鷺小学校
講 師 檜垣正教育専門員・田代亜矢子専門学芸員
参加人数 21 名

③松山市立素鷺小学校

内 容 段ボール迷路で遊ぼう
日 時 7/31 (火) 10:00~12:00
場 所 松山市立素鷺小学校
講 師 田代亜矢子専門学芸員・檜垣正教育専門員
参加人数 28 名

④北条児童クラブ運営委員会

内 容 新聞紙を使って遊ぼう
日 時 8/2 (木) 10:00~11:30
場 所 松山市立北条小学校
講 師 田代亜矢子専門学芸員・檜垣正教育専門員・石崎三佳子専門学芸員
参加人数 108 名

⑤JMACS 遊友学舎

内 容 段ボール迷路で遊ぼう
日 時 8/6 (月) 9:30~11:00
場 所 遊友学舎
講 師 石崎三佳子専門学芸員・檜垣正教育専門員・田代亜矢子専門学芸員
参加人数 29 名

⑥双葉児童クラブ

内 容 大きな風船で遊ぼう
日 時 8/10 (金) 10:00~11:30
場 所 松山市立双葉小学校
講 師 檜垣正教育専門員・石崎三佳子専門学芸員・田代亜矢子専門学芸員
参加人数 77 名

⑦小野地区青少年健全育成連絡協議会

内 容 おひさま写真
日 時 8/17 (金) 8:30~12:00
場 所 松山市立小野小学校、小野公民館
講 師 田代亜矢子専門学芸員・檜垣正教育専門員・石崎三佳子専門学芸員
参加人数 100 名

⑧生石児童クラブ運営委員会

内 容 大きな風船で遊ぼう
 日 時 8/23（木） 10：00～12：00
 場 所 松山市立生石小学校
 講 師 石崎三佳子専門学芸員・檜垣正教育専門員・田代亜矢子専門学芸員
 参加人数 40 名

⑨松山市立北条南中学校文化教室

内 容 紙版画（凹版画）
 日 時 10/28（日） 9：20～12：00
 場 所 松山市立北条南中学校
 講 師 石崎三佳子専門学芸員・田代亜矢子専門学芸員
 参加人数 23 名

⑩松前町立岡田中学校

内 容 梱包アート
 日 時 11/3（土） 11：00～12：00
 場 所 松前町立岡田中学校
 講 師 石崎三佳子専門学芸員・田代亜矢子専門学芸員
 参加人数 18 名

⑪松前町立岡田中学校

内 容 対話型鑑賞
 日 時 11/3（土） 11：00～12：00
 場 所 松前町立岡田中学校
 講 師 鈴木有紀専門学芸員
 参加人数 15 名

⑫松山市立久谷中学校

内 容 クリスマスリースをつくろう
 日 時 11/3（土） 8：35～11：00
 場 所 松山市立久谷中学校
 講 師 八木誠一学芸課長
 参加人数 10 名

⑬松山市立高浜中学校PTA坊っちゃん学習

内 容 クリスマスリースをつくろう
 日 時 12/6（木） 13：20～16：00
 場 所 松山市立高浜中学校
 講 師 八木誠一学芸課長
 参加人数 15 名

⑭ふれあいフェスタ

内 容 あやつり人形をつくろう
 日 時 2/24（日） 10：00～15：30
 場 所 愛媛県生涯学習センター
 講 師 檜垣正教育専門員・田代亜矢子専門学芸員
 参加人数 75 名

(3) 大学との連携

①平成30年度 博物館実習

学芸員資格取得のための博物館実習の受け入れを行った。

実習期間 8/2 (木)～8 (水) 各9:30～18:00 ※ただし、8/7 (火) は休日。

受入大学 立命館大学文学部・同大学院文学研究科、愛媛大学法文学部・同教育学部、京都学園大学人文学部、関西学院大学文学部、長岡造形大学造形学部、東京工芸大学芸術学部

実習生 11 名

② 愛媛大学理学部「博物館資料保存論」

学芸員資格取得のための博物館学課程科目の授業を行った。

日 時 9/20 (木) 13:30～15:00

講 師 長井健学芸グループ担当係長・喜安嶺学芸員

参加人数 75 名

(4) 審査員・委員

①弓削島荘総合調査事業専門調査員

日 時 10/11 (木)、11/21 (水) 10:30～
2/11 (月) 14:00～

依 頼 先 上島町教育委員会

対 応 者 長井健専門学芸員

②京都国立近代美術館企画審査委員会委員

日 時 11/16 (金)、3/11 (月) 13:00～

依 頼 先 京都国立近代美術館

対 応 者 長井健学芸グループ担当係長

③川崎市市民ミュージアム平成30年度収集作品の評価

依 頼 先 川崎市市民ミュージアム

対 応 者 喜安嶺学芸員

5 その他

(1) 第20回愛媛県美術館開館記念イベント

にぎわいのある美術館づくりを目指し、愛媛県美術館開館記念日である11月27日を多くの方に美術館に親しんでいただく特別な日として祝し、11月25日(日)に各種事業を実施した。

①リレー講座『学芸員によるフロアレクチャー』

時 間 【洋画】11:00～ 【現代美術】11:30～ 【西洋美術】14:00～ 【日本画】14:30～

場 所 企画展示室

内 容 コレクション展会場で、学芸員が作品について美術館とともに歩んだ歴史を交えて話した。

講 師 当館学芸グループ学芸員

参加人数 135 名

②ミュージアムコンサート『北欧への誘い』／愛媛県美術館友の会協賛事業

時 間 13:00～、15:45～

場 所 エントランスホール

内 容 石本藤雄展関連イベントとしてピアノ奏者・大空佳穂里さんと声楽家・原田まゆみさんによるコンサートを実施した。

参加人数 600 名

③てづくりワークショップ

時 間 ①10:00~16:00 ②13:30~15:30
場 所 展望ロビー
内 容 ①ダンボールのお家で遊ぼう
②あやつり人形をつくろう
参加人数 ① 111 名 ② 47 名



④図録進呈

①~③の参加者を対象に過去の展覧会図録を進呈した。
配布冊数 135 冊

⑤コレクション展無料

入 場 者 591 名

(2) 平成30年度文化庁・地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業

愛媛県美術館・博物館・小中学校共働による人材育成事業「えひめ「対話型授業」アウトリーチプロジェクト」

①美術館・博物館で開発された「対話型授業」の県内小中学校出前授業活動

期 間 5月~1月まで 計34授業実施
主 催 愛媛県美術館・博物館・小中学校共働人材育成事業実行委員会
参加人数 延1,480名の児童、15名の教員・外部専門家等が参加

②東・中・南予、県内三地域での「対話型授業」コミュニティ作りのための研修会の開催

期 間 10月~11月まで計3回実施
主 催 愛媛県美術館・博物館・小中学校共働人材育成事業実行委員会
参加人数 延50名の教員・外部専門家等が参加

③「対話型授業」実践テキスト編集会義の開催

期 間 7/14(土)~3/23(土)
主 催 愛媛県美術館・博物館・小中学校共働人材育成事業実行委員会
参加人数 延40名の教員・外部専門家が参加

④「対話型授業」に掛かる「問いかけ」の比較分析・効果調査

期 間 7月~11月まで 計4回実施
場 所 愛媛大学教育学部附属小学校3年生2クラス
主 催 愛媛県美術館・博物館・小中学校共働人材育成事業実行委員会
参加人数 延256名の児童、3名の教員・外部専門家が参加

⑤「対話型授業」研究・テキストの作成・発行

愛媛県内の小中学校・博物館で開発され、現場教員の声を反映した10の対話型授業事例をより具体的に紹介するテキストを作成した。※本テキストは美術館ホームページでもPDFファイルにて一般公開している。

VI 貸館事業

1 展示施設の利用方法

県民の美術活動の推進及び創作成果の発表の場として、新館特別展示室（1～3）、講堂、研修室、南館県民ギャラリー（1～12）、を有料で貸与している。

(1) 仮受付

使用日の1年前の月の初日に仮受付を行う。ただし、研修室のみ使用日の6ヶ月前からの仮受付となる。

(2) 申請

使用日の2ヶ月前頃に、使用許可申請書の様式を利用者に発送し、使用者の申請により使用を許可する。

(3) 使用料納付

使用許可後、納入通知書を利用者に送付し、利用者は、使用前に納入する。

(4) 利用時間及び休館日

利用時間：午前9時40分～午後6時。

休館日：毎週月曜日（第1月曜日を除く）、第1月曜日の翌日及び12月29日～1月3日。

（祝日及び振替休日にあたる場合は、その翌日）

(5) 搬出入

貸館は、原則として1週間単位で実施している。（新館講堂、研修室は除く。）

搬入は使用期間内の初日に、搬出は日曜日を実施している。

(6) 使用料

別表のとおり。

(別表) 愛媛県美術館施設使用料

(平成31年3月31日現在)

区 分			使用料（1日）	
新館	特別展示室1	入場料が無料の場合	4,980円	
		入場料が有料の場合	7,960円	
	特別展示室2	入場料が無料の場合	3,500円	
		入場料が有料の場合	5,600円	
	特別展示室3	入場料が無料の場合	5,820円	
		入場料が有料の場合	9,310円	
	講堂	入場料が無料の場合	午前9時40分から正午まで	1,810円
			午後1時から午後6時まで	3,000円
			全日（午前9時40分から午後6時まで）	4,810円
		入場料が有料の場合	午前9時40分から正午まで	2,890円
			午後1時から午後6時まで	4,800円
			全日（午前9時40分から午後6時まで）	7,690円
研修室	午前9時40分から正午まで	1,990円		
	午後1時から午後6時まで	2,610円		
	全日（午前9時40分から午後6時まで）	4,600円		
南館	県民ギャラリー1		14,840円	
	県民ギャラリー2		11,650円	
	県民ギャラリー3		3,170円	
	県民ギャラリー4		4,230円	
	県民ギャラリー5		4,230円	
	県民ギャラリー6		2,110円	
	県民ギャラリー7		2,110円	
	県民ギャラリー8		6,350円	
	県民ギャラリー9		2,750円	
	県民ギャラリー10		2,850円	
	県民ギャラリー11		2,850円	
	県民ギャラリー12		3,170円	
すべての県民ギャラリー			53,490円	

2 展示施設の利用状況

新館

	展覧会名	会期	展示室	日数	内容	入場者数	観覧料
4月	第50回 洗心書道会全国書道展	3/28~4/1	特別展示室 1~3	1 (5)	書作品	317 (597)	無料
	第2回 馬越正八作品展	4/4~4/8	特別展示室 1	5	油絵・水彩画・石仏・本・陶人形	121	無料
	安藤妍雪の世界 第60回宇宙古代和字展 言霊を伴う文字は光なり!	4/11~4/19	特別展示室 1~3	8	書道	731	無料
30年4月合計				14		1,169	
6月	高岡正明のメッセージ 鎮魂と平和の祈りの陽光桜染展	6/13~6/17	特別展示室 3	5	草木染、布の展示	699	無料
	第20回 いろどりの書作展	6/20~6/24	特別展示室 1~3	5	書道団体書朋会の定期発表会	484	無料
30年6月合計				10		1,183	
7月	第17回 地域交流スマイルキッズ美術展	7/25~7/29	特別展示室 1~3	5	油絵、水彩画、日本画、書道、 版画、工作など	912	無料
30年7月合計				5		912	
8月	平成30年度手をつなぐ子らの作品展	8/1~8/6	特別展示室 1~3	6	障がいのある幼児児童生徒の作品 (絵画、版画、デザイン、書等)	736	無料
	光風会愛媛絵画展	8/11~8/17	特別展示室 1~3	6	洋画の大作発表	787	無料
	21世紀えひめの伝統工芸大賞展示会	8/29	特別展示室 1~3	1	事業応募作品の展示会	103	無料
30年8月合計				13		1,626	
9月	第48回 世界児童画展四国展	9/8~9/9	特別展示室 1~3	2	3才~15才までの日本及び世界 の児童画作品の展示	376	無料
	CCE AWARD 2018	9/14~9/15	特別展示室 1~3	2	クリエイターの成果物展示 一般公開審査	276	無料
	カルメン	9/30	特別展示室 1~3	1	日本舞踊 詩吟 演劇	94	前売り ¥3,000 当日 ¥3,500
30年9月合計				5		746	
10月	第11回 更紗染めを楽しむ会作品展 「心をやさしく決める」	10/3~10/7	特別展示室 3	5	会員が手描き染めた、 布の作品を展示	570	無料
	第47回 公募墨雲書道展	10/10~10/14	特別展示室 1~3	5	習練の成果の発表	395	無料
30年10月合計				10		965	
2月	2019松山ビジネスカレッジ クリエイティブ校卒業進級制作展	2/9~2/17	特別展示室 1~3	8	総合デザイン学科・ファッション ビューティ学科学生の作品展示	459	無料
	済生会松山乳児保育園 第6回いのちかがやく子ども美術展	2/22~2/24	特別展示室 1~3	3	子どもの絵・写真、 子どもの遊びの動画	541	無料
31年2月合計				11		1,000	
3月	第2回四国ワンピース倶楽部 はじめてかもしれない展	3/2~3/3	特別展示室 3	2	現代アートのコレクション展	154	無料
	カタチカラ2020	3/6~3/11	特別展示室 3	6	絵画、彫刻、 テキスタイル等の展覧会	887	無料
	MINIATURE LIFE展 田中達也 見立ての世界	3/16~4/7	特別展示室 1~3	14 (23)	ミニチュア作品、 ミニチュア写真の展覧会	14,365 (23,021)	区分 当日 前売 一般 1,000円 900円 大学生 65歳以上 900円 800円 高大生 600円 500円 無料：小中生以下
31年3月合計				22		15,406	
30年度合計				90		23,007	

南館

	展覧会名	会期	展示室	日数	内容	入場者数	観覧料																			
4月	第50回洗心書道会全国書道展	3/28~4/1	ギャラリー1~7	1	書作品	343	無料																			
	第16回えひめ児童版画コンクール	3/28~4/1	ギャラリー8~12	1	県内小学生の版画展	120	無料																			
	第66回春季県展(前期・後期)	4/15~4/24 4/27~5/5	ギャラリー1~12	16	アンデパンダン方式の公募展 前期:洋画・版画・写真・デザイン 後期:日本画・彫刻・工芸・書道	5,583	<table border="1"> <tr> <td>区分</td> <td>当日</td> <td>団体</td> <td>前売</td> </tr> <tr> <td>一般</td> <td>600円</td> <td>500円</td> <td>500円</td> </tr> <tr> <td>65歳以上</td> <td>400円</td> <td>300円</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>高大生</td> <td>400円</td> <td>300円</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td colspan="4">無料:小中生、身障者</td> </tr> </table>	区分	当日	団体	前売	一般	600円	500円	500円	65歳以上	400円	300円	-	高大生	400円	300円	-	無料:小中生、身障者		
区分	当日	団体	前売																							
一般	600円	500円	500円																							
65歳以上	400円	300円	-																							
高大生	400円	300円	-																							
無料:小中生、身障者																										
30年4月合計				18		6,046																				
5月	平田琴風展	5/10~5/13	ギャラリー1	4	書道の個展	840	無料																			
	第33回聿友社書作展	5/16~5/20	ギャラリー1	5	書道	427	無料																			
	現美展2018	5/16~5/20	ギャラリー2・3	5	平面・工芸	613	無料																			
	第16回四季水墨画会展	5/22~5/27	ギャラリー3	6	水墨画	473	無料																			
	第17回松山すみれ会押花作品展	5/24~5/27	ギャラリー1・2・7	4	押花額展示	660	無料																			
30年5月合計				24		3,013																				
6月	第29回愛媛独立書展	6/6~6/10	ギャラリー1~7	5	書作品展示	1,026	無料																			
	創元会愛媛支部展	6/12~6/17	ギャラリー1	6	油絵・水彩画	608	無料																			
	第32回馬の目会松山グループ日本画展	6/12~6/17	ギャラリー5・6	6	日本画	935	無料																			
	新・女流美術2018	6/20~6/24	ギャラリー2	5	日本画・洋画・工芸	476	無料																			
	建築家展	6/23~6/24	ギャラリー1	2	パネル模型展示	119	無料																			
	2018年コピスの会展	6/26~7/1	ギャラリー2	6	絵画展	746	無料																			
	松山大学書道部「南風会」書展	6/29~7/1	ギャラリー1	3	書道作品展	336	無料																			
30年6月合計				33		4,246																				
7月	門田真由美個展	7/11~7/15	ギャラリー1	5	油絵	428	無料																			
	第3回愛媛水墨画会展	7/11~7/15	ギャラリー2・7	5	水墨画作品展	640	無料																			
	第17回無名会作品展	7/11~7/15	ギャラリー3~6	5	パッチワークキルト作品展	1,217	無料																			
	第41回愛媛女流書家連盟展	7/18~7/22	ギャラリー1・2・3・6・7	5	書展	1,363	無料																			
	クロスワン展	7/16~7/22	ギャラリー5	6	絵画展	758	無料																			
	シベリア抑留関係展示会	7/25~7/29	ギャラリー8	5	写真・遺品等展示	436	無料																			
	平成30年いよぎん趣味の作品展	7/25~8/5	ギャラリー1~7	11	絵画・写真・陶芸・書道・能面・工芸	1,364	無料																			
30年7月合計				42		6,206																				
8月	第70回毎日書道展四国展	8/8~8/12	ギャラリー1~12	5	書道展	6,400	<table border="1"> <tr> <td>一般</td> <td>500円</td> </tr> <tr> <td>大学生</td> <td>300円</td> </tr> <tr> <td>高校生以下と65歳以上は無料</td> <td></td> </tr> </table>	一般	500円	大学生	300円	高校生以下と65歳以上は無料														
	一般	500円																								
	大学生	300円																								
	高校生以下と65歳以上は無料																									
	第47回書芸展	8/15~8/19	ギャラリー1~7	5	書道展	1,748	無料																			
	平和への発信~広島原爆展~	8/14~8/19	ギャラリー9・10	6	広島原爆写真・平和ポスター・ 平和読本の展示	593	無料																			
第37回書神会全国書道展覧会	8/23~8/26	ギャラリー1~12	4	書道展	681	無料																				
宮本朱美里帰郷作品展	8/28~9/2	ギャラリー8	6	絵画作品展	364	無料																				
美術館日曜教室展	8/29~9/2	ギャラリー2	5	油彩・水彩・パステル等	282	無料																				
30年8月合計				31		10,068																				

	展 覧 会 名	会 期	展示室	日数	内 容	入場者数	観 覧 料						
9月	日本水彩松山展・愛媛水彩展	9/5～9/9	ギャラリー2～7	5	水彩画展	1,184	無 料						
	松山大学写真部学外展・OB展	9/3～9/9	ギャラリー8・9・12	6	写真展	114	無 料						
	愛媛の愛刀展	9/11～9/23	ギャラリー1	12	日本刀・刀装具展	655	(一般)300円 高校生以下は無料						
	10COLOR 10YEAR卒業 10周年記念グループ展	9/11～9/17	ギャラリー5	7	イラストレーション・ 立体作品・奢侈等	286	無 料						
	年金者組合結成30周年作品展	9/17～9/23	ギャラリー6	6	書・絵画・手芸作品	176	無 料						
	ひめぶん水墨画教室水墨画展	9/12～9/16	ギャラリー2	5	水墨画展	452	無 料						
	大森達夫写真展	9/16～9/23	ギャラリー9	7	写真展	222	無 料						
	新作能面展	9/26～9/30	ギャラリー4	5	能、狂言面展示	665	無 料						
	書神会松山支部展	9/28～9/30	ギャラリー1	3	書道展	287	無 料						
	2018近美四国支部展	9/26～9/30	ギャラリー2	5	洋画・日本画・ミクストメディア	671	無 料						
	愛媛新興美術展	9/26～9/30	ギャラリー5・6	5	日本画展	563	無 料						
30年9月計				66		5,275							
10月	平成30年度県民総合文化祭 第67回秋季県展(前期) 洋画・版画・写真・デザイン	10/20～ 10/28	ギャラリー1～12	8	県民各層より美術作品を公募し 入選、入賞した作品の展示 日本画・彫刻・工芸・書道	4,863	区分	当日	団体	前売			
							一般	600円	500円	500円			
							65歳以上	400円	300円	—			
							高大生	400円	300円	—			
							無料：小中生、身障者						
30年10月合計				8		4,863							
11月	平成30年度県民総合文化祭 第67回秋季県展(後期) 日本画・彫刻・工芸・書道	11/1～11/9	ギャラリー1～12	8	県民各層より美術作品を公募し 入選、入賞した作品の展示 洋画・版画・写真・デザイン	4,281	区分	当日	団体	前売			
							一般	600円	500円	500円			
							65歳以上	400円	300円	—			
							高大生	400円	300円	—			
								無料：小中生、身障者					
	平成30年度県民総合文化祭 第32回愛媛県高等学校総合文化祭 美術・工芸・書道・写真展	11/15～ 11/18	ギャラリー1～12	4	県内の高等学校、中等教育学校 後期課程及び特別支援学校高等 部の生徒による美術・工芸、書道、 写真部門の総合的な作品展	2,243	無 料						
							秋桜会展	11/20～ 11/25	ギャラリー3	6	水墨画展示	386	無 料
							松山国際交流合同写真展	11/21～ 11/25	ギャラリー4～6	5	写真展示	490	無 料
	第42回愛光幼稚舎作品展	11/21～ 11/25	ギャラリー8～12	5	水彩画・土粘土	1,586	無 料						
	平成30年度県民総合文化祭 第15回中学生美術作品展	11/23～ 11/25	ギャラリー1・2	3	県内の中学生が制作した美術作 品を展示	612	無 料						
第39回双樹会愛媛支部展	11/28～12/2	ギャラリー2	5	絵画、陶芸展示・日本画、油彩画、 水墨画、色鉛筆画、陶芸品等 約65点	511	無 料							
第100回チャール会松山展	11/28～12/2	ギャラリー5・6	5	油絵・水墨画・色鉛筆画等の展示	228	無 料							
第25回夢永キルト作品展	11/29～12/2	ギャラリー8～12	4	パッチワーク作品展示	684	無 料							
第15回愛媛一先会かな書展	11/30～12/2	ギャラリー1	3	書道作品(主に、かな作品)	365	無 料							
30年11月合計				48		11,386							

	展 覧 会 名	会 期	展示室	日数	内 容	入場者数	観 覧 料
12月	MOA美術館松山児童作品展	12/1～12/2	ギャラリー3・4	2	幼児・児童の絵画	448	無 料
	吉敷麻里亜教室グループ展2018	12/3～12/9	ギャラリー6	6	日本画・人形・フィギュアの展示	180	無 料
	第45回松山市医師会趣味の美術展	12/5～12/9	ギャラリー1	5	書、絵画等	337	無 料
	平成30年度愛顔ひろがる えひめの障がい者アート展	12/6～ 12/16	ギャラリー8～10	10	絵画・デザイン・書・陶芸・ その他立体作品	1,334	無 料
	第35回愛媛県高等学校書道教員書作展	12/11～12/16	ギャラリー1	6	書道作品展示	521	無 料
	済美展2018	12/12～ 12/16	ギャラリー2 5～7	5	済美高校美術科3年生の卒業 制作及び1・2年生の作品展示	1,057	無 料
	済美展2018	12/12～12/16	ギャラリー3・4	5	園児作品展示・絵画、習字・制作	955	無 料
	第8回アトリエ版画グループ展	12/13～ 12/16	ギャラリー12	4	美術科生徒の作品展示(日本画、 洋画、デザイン、素描等)、幼稚園 児の作品展示	389	無 料
30年12月計				43		5,221	
1月	第46回えひめこども美術展	1/4～1/14	ギャラリー1～12	10	県内在住園児・幼児・児童生徒の 作品展(平面、立体、書写など約 1,500点展示)	5,639	無 料
	第43回書界展	1/23～1/27	ギャラリー1～12	5	書作品	2,347	無 料
	第1回愛媛県高等学校美術教員作品展	1/30～2/3	ギャラリー2・7	5	美術・工芸作品展示	963	無 料
	愛媛県高等学校文化連盟写真展	1/30～2/3	ギャラリー3～6	5	写真展示	830	無 料
	第54回愛媛県立松山南高等学校砥部 分校デザイン科卒業制作展	1/30～2/3	ギャラリー8～12	5	作品展(グラフィックデザイン、 CG、アニメーション、絵画、陶芸)	1,692	無 料
31年1月計				30		11,471	
2月	第66回愛媛県学生書道展	2/9～2/11	ギャラリー8～12	3	愛媛県下の小・中・高校生の 書作品の展示	774	無 料
	松山市中学校美術科教員展	2/16～2/17	ギャラリー6・7	2	絵画・デザイン・工芸・彫刻作品展示	152	無 料
	第57回愛媛県学生書道展	2/16～2/17	ギャラリー9～12	2	書道作品	332	無 料
	第58回愛媛日本画会展	2/20～2/24	ギャラリー3～7	5	絵画(日本画)の展示	490	無 料
	公募第35回地域を描く美術展	2/27～3/3	ギャラリー1～7	5	西条市の風物をテーマとした 絵画の展示	1,079	無 料
31年2月計				17		2,827	
3月	震災復興8年の歩み展	3/6～3/10	ギャラリー3	5	東日本大震災の被災地各地の 写真等展示	298	無 料
	第44回愛媛県美術館友の会美術展	3/6～3/10	ギャラリー 8～10・12	5	油絵 彫塑	536	無 料
	こどもたちの造形遊び教室 アトリエ若第9回軌跡展	3/8～3/10	ギャラリー4・5	3	こどもたちの造形遊びの 作品展と活動風景の紹介	297	無 料
	第24回象展	3/13～3/17	ギャラリー1	5	書道展(前衛書)	509	無 料
	第58回二科会愛媛支部・ 高知支部合同展	3/13～3/17	ギャラリー2	5	油絵・彫塑	543	無 料
	愛媛国際映画祭イベント創作体験 「えひめムービーメイカーズ」	3/17	ギャラリー 9・10・12	1	映像作りの基礎や原点を 体験できるワークショップ	150	無 料
	第51回洗心書道会全国書道展	3/20～3/24	ギャラリー1～10	5	書作品	880	無 料
	第50回記念泰申書展	3/27～3/31	ギャラリー1	5	書作品と僧侶の書	313	無 料
	第17回えひめ児童版画コンクール 「天才ちるどれん」	3/27～3/31	ギャラリー8～12	5	愛媛県内小学生の版画展	663	無 料
31年3月合計				39		4,189	
30年度合計				399		74,811	

Ⅶ 入館者の状況

本館（新館、南館）

年 月	総入館者数	常設展					企画展				
		総観覧者	有料観覧者	無料観覧者	開催日数	一日平均	総観覧者	有料観覧者	無料観覧者	開催日数	一日平均
10～29 年度合計	7,095,385	958,352	103,326	855,026	5,491	174.53	2,581,502	1,957,083	624,419	4,427	583.13
30年4月	23,021	4,556	259	4,297	26	175.23	2,662	1,869	793	15	177.47
30年5月	31,253	10,956	264	10,692	26	421.38	5,673	3,720	1,953	26	218.19
30年6月	27,580	9,543	231	9,312	26	367.04	5,176	3,102	2,074	16	323.50
30年7月	16,452	1,383	227	1,156	26	53.19	1,797	1,069	728	26	69.12
30年8月	26,515	1,475	257	1,218	27	54.63	3,403	2,085	1,318	27	126.04
30年9月	21,847	1,521	188	1,333	26	58.50	5,368	3,761	1,607	26	206.46
30年10月	29,856	4,422	173	4,249	26	170.08	7,803	4,741	3,062	22	354.68
30年11月	54,819	24,071	363	23,708	26	925.81	8,138	4,531	3,607	26	313.00
30年12月	31,054	11,633	223	11,410	24	484.71	6,544	4,413	2,131	23	284.52
31年1月	27,018	2,857	162	2,695	24	119.04	7,480	5,932	1,548	26	287.69
31年2月	27,441	3,516	104	3,412	26	135.23	8,764	6,745	2,019	24	365.17
31年3月	54,276	4,094	167	3,927	26	157.46	15,280	11,072	4,208	21	727.62
30年度 合計	371,132	80,027	2,618	77,409	309	258.99	78,088	53,040	25,048	278	280.89
総 計	7,466,517	1,038,379	105,944	932,435	5,800	179.03	2,659,590	2,010,123	649,467	4,705	565.27

年 月	施設利用人数							自主事業参加者(再掲)		備 考
	県 民 アトリエ※1	その他 (南館相談等)	県 民 ギャラリー	ハイビジョン ギャラリー 等	図 書 コーナー	その他 (講堂・研修室・特別 展示室ほか)	計	講 座	その他※2	
10～29 年度合計	342,769	212,451	1,962,679	82,045	211,735	743,852	3,555,531	21,641	14,462	
30年4月	568	1,887	4,631	0	517	8,200	15,803	178	1,841	
30年5月	587	1,535	4,428	61	585	7,428	14,624	203	2,446	
30年6月	548	1,393	3,826	67	576	6,451	12,861	128	236	
30年7月	595	1,544	5,994	33	468	4,638	13,272	72	318	
30年8月	706	1,586	10,437	15	793	8,100	21,637	399	290	
30年9月	683	1,840	5,538	33	619	6,245	14,958	83	336	
30年10月	607	2,401	4,868	0	592	9,163	17,631	92	1,850	
30年11月	740	2,831	10,448	18	545	8,028	22,610	401	1,688	
30年12月	594	1,134	6,159	0	416	4,574	12,877	127	176	
31年1月	646	1,617	8,722	44	453	5,199	16,681	80	754	
31年2月	687	1,187	4,786	122	520	7,859	15,161	113	1,422	
31年3月	764	1,988	5,020	42	718	26,370	34,902	109	558	
30年度 合計	7,725	20,943	74,857	435	6,802	102,255	213,017	1,985	11,915	0
総 計	350,494	233,394	2,037,536	82,480	218,537	846,107	3,768,548	23,626	26,377	0

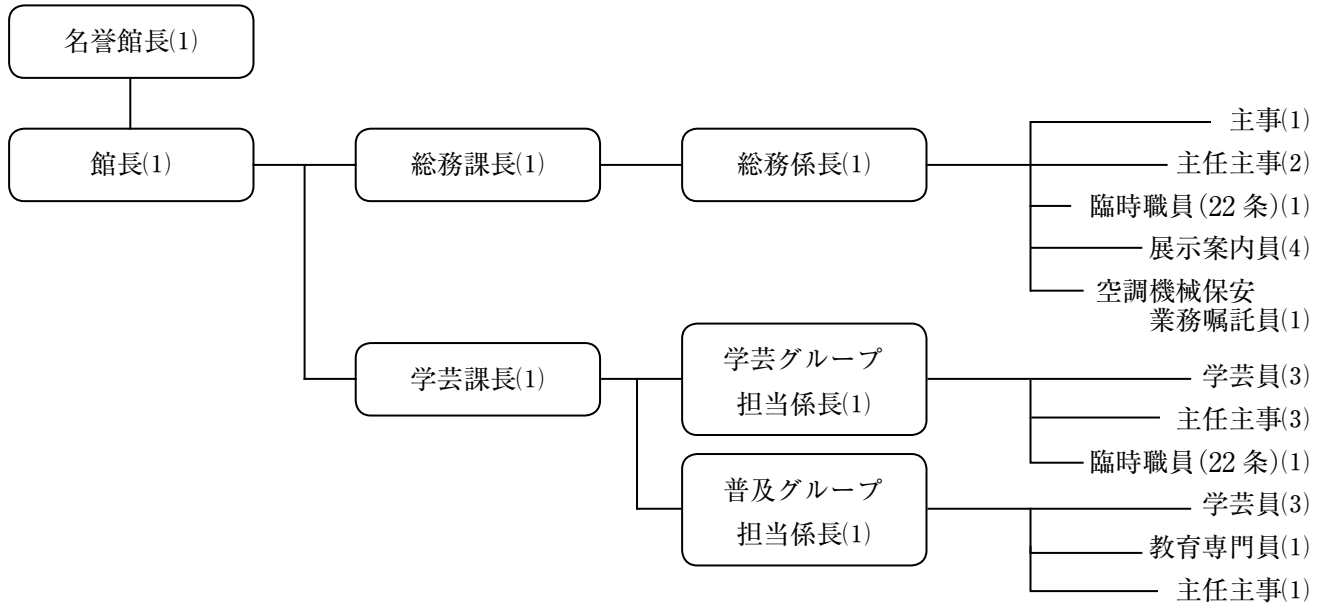
※1 施設利用人員の「県民アトリエ」には、友の会実技教室も含まれる。

※2 エントランス等にて開催された、美術館主催による事業の参加人数

VIII 組織及び職員構成

1 組織図

職員数 / 28 名



2 職員名簿

職名	氏名	職名	氏名
名誉館長	玉井日出夫	学芸課長	八木誠一
館長	水口洋	学芸G担当係長	長井健
総務課長	武田豊明	専門学芸員	武田信孝
総務係長	大野由華	主任学芸員	杉山はるか
主事	影浦梨沙	学芸員	喜安嶺
主任主事(再)	高藤勝弘	主任主事(再)	竹田和明
〃	相原祥二	〃	門田伸治
臨時職員(22条)	田窪晴香	〃	宮岡清子
〃	池田元子	臨時職員(22条)	神野創太郎
展示案内員	高須賀亮介	〃	藤田明
〃	山崎さり	普及G担当係長	二宮茂樹
〃	佐山明子	教育専門員	檜垣正
〃	中井悠記子	専門学芸員	鈴木有紀
空調機械保安業務嘱託員	東朝紀	〃	石崎三佳子
		〃	田代亜矢子
		主任主事(再)	岩田憲二

IX 愛媛県美術館協議会委員名簿

平成 31 年 3 月 31 日現在

役 職	氏 名	現 職
会 長	本田 元広	(株)愛媛銀行会長
副会長	秋山 一夫	愛媛県美術会会長
委 員	尾崎 正明	元独立行政法人国立美術館理事 元京都国立近代美術館長・茨城県近代美術館長
〃	山脇佐江子	元姫路市立美術館長 独立行政法人国立美術館監事
〃	稲畑ルミ子	奈良県立美術館学芸課学芸係長
〃	関 厚子	セキ美術館副館長
〃	吉田 慎吾	愛媛県小中学校長会長
〃	小倉 好正	愛媛県高等学校文化連盟会長
〃	宮崎 恵	愛媛県 P T A 連合会副会長
〃	飯野 敦子	(公募)

設置：平成 12 年 7 月 21 日 (任期：2 年)

X 関係法規 (平成 30 年 4 月 1 日現在のものを掲載しています。)

1 愛媛県美術館使用料条例

(使用料の徴収)

第1条 愛媛県美術館(以下「美術館」という。)を使用する者から、この条例の定めるところにより、使用料を徴収する。

(使用料の額)

第2条 前条に規定する使用料(以下「使用料」という。)の額は、別表に定める額の範囲内で教育委員会が定める額とする。

2 前項に定めるもののほか、特別の企画による展示に係る観覧料は、当該特別の企画による展示に要する費用を勘案して教育委員会がその都度定める額とする。

(使用料の納付時期)

第3条 使用料は、美術館の使用の前に納付しなければならない。ただし、教育委員会が必要と認めるときは、後納させることができる。

(使用料の減免)

第4条 教育委員会は、特に必要と認める者に対しては、その使用料を減免することができる。

(使用料の不還付)

第5条 既に納付した使用料は、還付しない。ただし、次の各号のいずれかに該当するときは、この限りでない。

- (1) 天災その他美術館を使用する者の責めに帰することができない理由により使用が不能となったとき。
- (2) 別表施設使用料の項に掲げる施設を使用する者又は美術館が収集し、保管し、若しくは展示する美術品及び美術に関する資料の閲覧、撮影、複写、模写、模造等若しくはこれらにより得たものの展示若しくは刊行物への掲載(以下「特別利用」という。)をする者が教育委員会が定める日までに使用又は特別利用の取消しを申し出て、教育委員会がやむを得ないと認めたとき。

(委任)

第6条 この条例に定めるもののほか、使用料の徴収に関し必要な事項は、教育委員会が定める。

一部改正〔平成 12 年条例 30 号〕

附 則

この条例は、平成 10 年 10 月 1 日から施行する。

附 則(平成 12 年 3 月 24 日条例第 30 号)

この条例は、平成 12 年 4 月 1 日から施行する。

附 則(平成 16 年 3 月 26 日条例第 18 号)

この条例は、平成 16 年 4 月 1 日から施行する。

附 則(平成 21 年 3 月 24 日条例第 28 号)

- 1 この条例は、平成 21 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 改正後の愛媛県美術館使用料条例別表の規定は、この条例の施行の日以後の許可に係る特別利用について適用する。

附 則(平成 26 年 3 月 28 日条例第 9 号抄)

(施行期日)

1 この条例は、平成 26 年 4 月 1 日から施行する。

(経過措置)

3 第 16 条の規定による改正後の愛媛県美術館使用料条例別表の規定は、施行日以後の使用に係る使用料で、施行日以後にその全額又は未徴収額について徴収するものについて適用し、施行日前の使用に係る使用料及び施行日以後の使用に係る使用料で、施行日前にその全額について徴収したものについては、なお従前の例による。(後略)

附 則(平成 29 年 3 月 24 日条例第 5 号抄)

(施行期日)

1 この条例は、平成 29 年 4 月 1 日から施行する。(後略)

(経過措置)

3 第 16 条の規定による改正後の愛媛県美術館使用料条例別表の規定は、施行日以後の使用に係る使用料で、施行日以後にその全額又は未徴収額について徴収するものについて適用し、施行日前の使用に係る使用料及び施行日以後の使用に係る使用料で、施行日前にその全額について徴収したものについては、なお従前の例による。

別表(第 2 条、第 5 条関係)

種 別		単 位	金 額
常設展観覧料		1 人 1 回につき	500 円
施 設 使 用 料	展示室	1 室 1 日につき	28,920 円
	講堂	1 日につき	7,690 円
	研修室	1 日につき	4,600 円
	県民 ギャラ リー	全室使用	1 日につき
単室使用		1 室 1 日につき	14,840 円
特別利用料		1 点 1 回につき	5,140 円

2 愛媛県美術館管理規則

(目的)

第1条 この規則は、愛媛県美術館(以下「美術館」という。)の管理運営に関し必要な事項を定めることを目的とする。

(事業)

第2条 美術館は、博物館法(昭和 26 年法律第 285 号)第 3 条に規定する事業を行う。

(組織)

第3条 美術館に次の表の左欄に掲げる課を置き、これらの課にそれぞれ同表の右欄に掲げる係を置く。

総務課	総務係
学芸課	

(職員の職)

第4条 美術館に置かれる職員の職は、次のとおりとする。

- (1) 館長
- (2) 参事
- (3) 課長
- (4) 副参事
- (5) 教育専門員
- (6) 専門員
- (7) 専門学芸員
- (8) 係長
- (9) 担当係長
- (10) 主任
- (11) 教育主任
- (12) 主任学芸員
- (13) 主任主事
- (14) 主事
- (15) 学芸員
- (16) 主任業務員
- (17) 業務員

(開館時間)

第5条 美術館の開館時間は、午前9時40分から午後6時までとする。

2 館長は、特別の事情があると認めるときは、前項に規定する開館時間を変更することができる。

(休館日)

第6条 美術館の休館日は、次のとおりとする。

- (1) 毎月の第1月曜日以外の月曜日及び当該第1月曜日の翌日（これらの日が国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日（以下「休日」という。）に当たるときは、当該休日の直後の休日でない日）
- (2) 1月1日から3日まで及び12月29日から31日まで

2 館長は、特別の事情があると認めるときは、臨時に休館し、又は休館日に開館することができる。

(入館の制限)

第7条 館長は、次の各号のいずれかに該当すると認められる者については、入館を禁じ、又は退館を命ずることができる。

- (1) 美術館の秩序を乱し、又は乱すおそれのある者
- (2) 美術館が収集し、保管し、若しくは展示する美術品及び美術に関する資料（以下「美術館の美術品等」という。）又は美術館の施設、附属設備等を滅失し若しくは損傷し、又は滅失し若しくは損傷するおそれのある者
- (3) その他美術館の職員の指示に従わない者

(観覧券の交付)

第8条 館長は、美術館が展示する美術品及び美術に関する資料を観覧しようとする者が観覧料を納付したときは、観覧券を交付する。

(使用の許可)

第9条 美術館の施設のうち、次の各号に掲げる施設を使用しようとする者は、それぞれ当該各号に定める期間内に愛媛県美術館使用許可申請書（様式第1号。以下「使用許可申請書」という。）を教育委員会に提出し、その許可を受けなければならない。

- (1) 企画展示室、常設展示室、特別展示室、講堂及び県民ギャラリー 使用日の1年前から7日前まで
- (2) 研修室 使用日の6月前から2日前まで

2 教育委員会は、前項の規定による使用の許可の申請があった場合において、使用が適当であると認めるときは、使用の許可を決定し、当該申請をした者に対し、愛媛県美術館使用許可書（様式第2号。以下「使用許可書」という。）を交付するものとする。この場合において、美術館の管理運営上又は公益上必要があると認めるときは、許可に条件を付することがある。

3 教育委員会は、第1項に定める期間外に使用許可申請書の提出があった場合であっても、特に理由があると認めるときは、同項の使用の許可をすることがある。

(許可の基準)

第10条 教育委員会は、美術館を使用しようとする者が次の各号のいずれかに該当すると認めるときは、前条第1項の使用の許可をしないものとする。美術館の管理運営上やむを得ない理由があるときも、同様とする。

- (1) 美術館の秩序を乱すおそれがあるとき。
- (2) 美術館の美術品等又は美術館の施設、附属設備等を滅失し、又は損傷するおそれがあるとき。

(使用の許可の変更)

第11条 第9条第1項の使用の許可を受けた者（以下「使用者」という。）は、使用日時、入場料徴収の有無その他教育委員会が定める事項を変更しようとするときは、あらかじめ愛媛県美術館使用変更許可申請書（様式第3号）に使用許可書を添えて教育委員会に提出し、その許可を受けなければならない。

(使用の許可の取消し等)

第12条 教育委員会は、使用者が次の各号のいずれかに該当すると認めるときは、その使用の許可を取り消し、又は使用を制限し、若しくは停止することがある。美術館の管理運営上やむを得ない理由があるときも、同様とする。

- (1) この規則に違反し、又は美術館の職員の指示に従わないとき。
- (2) 偽りその他不正な手段により使用の許可を受けたとき。
- (3) 風俗を乱すおそれがあるとき。
- (4) 使用の許可の条件に違反したとき。

(使用料の額)

第13条 愛媛県美術館使用料条例（平成10年愛媛県条例

第26号。以下「条例」という。)第2条第1項に規定する教育委員会が定める使用料の額は、別表に掲げるとおりとする。

(観覧料の減免)

第14条 教育委員会は、条例第4条の規定に基づき、次に掲げる者に対しては、観覧料を免除する。

- (1) 教育課程に基づく学習活動として展示室を観覧する県内の高等学校、中等教育学校の後期課程又は特別支援学校の生徒及びその引率者
- (2) 身体に障害を有する者で、本人又はその保護者が身体障害者福祉法(昭和24年法律第283号)第15条に規定する身体障害者手帳の交付を受けているもの及びその介護者
- (3) 都道府県又は地方自治法(昭和22年法律第67号)第252条の19第1項の指定都市から療育手帳の交付を受けている者及びその介護者
- (4) 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律(昭和25年法律第123号)第45条に規定する精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている者及びその介護者
- (5) 65歳以上の者

2 教育委員会は、前項に定めるもののほか、必要と認めるときは、条例第4条の規定に基づき、観覧料を免除し、又はその一部を減額することがある。

3 前2項の規定にかかわらず、特別の企画による展示に係る観覧料の減免については、教育委員会がその都度定める。

4 第1項第1号の規定により観覧料の免除を受けようとするときは、あらかじめ、学校長が愛媛県美術館観覧料免除申請書(様式第4号)を教育委員会に提出しなければならない。

5 第1項第2号から第5号までの各号の規定により観覧料の免除を受けようとする者は、当該各号に該当することを証する書類を提示しなければならない。

(特別利用料の減免)

第15条 教育委員会は、条例第4条の規定に基づき、次に掲げる者に対しては、特別利用(条例第5条第2号に規定する特別利用をいう。以下同じ。)に係る使用料(以下「特別利用料」という。)を免除する。

- (1) 美術に関する教育、学術上の調査研究又は啓発のために特別利用をする者で、教育委員会が必要と認めるもの
- (2) 美術館の広報に関し効果があると認められる用途に供することを目的として特別利用をする者

2 教育委員会は、前項に定めるもののほか、必要と認めるときは、条例第4条の規定に基づき、特別利用料を免除し、又はその一部を減額することがある。

(使用料の還付)

第16条 条例第5条第2号に規定する教育委員会が定める日は、次の各号に掲げる区分に応じ、それぞれ当該各号に定めるとおりとする。

- (1) 企画展示室、常設展示室、特別展示室、講堂及び県民ギャラリー 使用日の30日前の日
- (2) 研修室 使用日の7日前の日
- (3) 美術館の美術品等 特別利用日の前日

第17条 条例第5条ただし書の規定により、教育委員会は、次の各号に掲げる場合においては、それぞれ当該各号に定める額を還付する。

- (1) 条例第5条第1号に該当する場合 使用料の全額
- (2) 条例第5条第2号に該当する場合 使用料の50パーセントに相当する額

2 前項の規定により使用料の還付を受けようとする者は、愛媛県美術館使用料還付申請書(様式第5号)を教育委員会に提出しなければならない。

(美術館の美術品等の特別利用)

第18条 美術館の美術品等の特別利用をしようとする者は、館長に愛媛県美術館美術品等特別利用許可申請書(様式第6号)を提出し、その許可を受けなければならない。

2 前項の場合において、特別利用に係る美術館の美術品等が寄託されたものであるときは、同項の申請書に、当該美術館の美術品等の寄託者の承諾書を添付しなければならない。

3 館長は、第1項の規定による特別利用の許可の申請があった場合において、特別利用が適当であると認めるときは、特別利用の許可を決定し、当該申請をした者に対し、愛媛県美術館美術品等特別利用許可書(様式第7号)を交付しなければならない。この場合において、美術館の美術品等の管理上必要があると認めるときは、許可に条件を付することができる。

(美術館の美術品等の館外貸出し)

第19条 館長は、美術館の業務に支障がない場合であって、美術に関する学術上の調査研究又は啓発のために特に必要と認められ、かつ、美術館の美術品等の取扱い上の安全が確認できるときは、美術館の美術品等の館外貸出しを行うことができる。

2 前項の規定により美術館の美術品等の館外貸出しを受けようとする者は、愛媛県美術館美術品等館外貸出許可申請書(様式第8号)を館長に提出し、その許可を受けなければならない。この場合において、当該美術館の美術品等が寄託されたものであるときは、同申請書に、当該美術館の美術品等の寄託者の承諾書を添付しなければならない。

3 館長は、前項の規定による館外貸出しの許可の申請があった場合において、館外貸出しが適当であると認めるときは、館外貸出しの許可を決定し、当該申請をした者に

対し、愛媛県美術館美術品等館外貸出許可書（様式第9号）を交付しなければならない。この場合において、美術館の美術品等の管理上必要があると認めるときは、許可に条件を付することがある。

4 美術館の美術品等の館外貸出期間は、50日以内とする。ただし、館長がやむを得ない理由があると認めるときは、この限りでない。

5 館長は、館外貸出期間中であっても、館外貸出しを許可した美術館の美術品等の返還を求めることができる。
（美術品等の寄贈又は寄託）

第20条 美術館は、美術品及び美術に関する資料（以下この条において「美術品等」という。）の寄贈又は寄託を受けることができる。

2 美術館に美術品等を寄贈しようとする者は愛媛県美術館美術品等寄贈申出書（様式第10号）を、美術品等を寄託しようとする者は愛媛県美術館美術品等寄託申請書（様式第11号）を館長に提出しなければならない。

3 館長は、前項の規定による寄贈の申出又は寄託の申請があった場合において、当該寄贈の申出又は寄託の申請に係る美術品等の受入れが適当であると認め、当該美術品等の寄贈又は寄託を受けたときは、寄贈者又は寄託者に対し、愛媛県美術館寄贈美術品等受領証（様式第12号）又は愛媛県美術館寄託美術品等預り証（様式第13号）を交付しなければならない。

4 寄託を受ける美術品等の取扱いについては、館長が寄託しようとする者と協議して定める。

5 美術館は、寄託を受けた美術品等の不可抗力による損害に対しては、その責めを負わないものとする。
（損害賠償等）

第21条 自己の責めに帰すべき理由により、美術館の美術品等又は美術館の施設、附属設備等を滅失し、又は損傷した者は、原状回復をし、又はそれによって生じた損害を賠償しなければならない。

（補則）

第22条 この規則に定めるもののほか、美術館の管理運営に関し必要な事項は、教育委員会が定める。

附 則

1 この規則は、公布の日から施行する。

2 この規則施行の際現に愛媛県美術館使用規則（平成10年愛媛県規則第50号）の規定により、知事若しくは館長が行った処分その他の行為で現にその効力を有するもの又は現に知事若しくは館長に対してなされている申請その他の行為は、この規則施行の日以後においては、この規則の相当規定により、教育委員会若しくは館長が行った処分その他の行為又は教育委員会若しくは館長に対してなされた申請その他の行為とみなす。

附 則（平成13年3月30日教育委員会規則第4号）

（施行期日）

1 この規則は、平成13年4月1日から施行する。

（経過措置）

2 この規則施行の際現に提出されている改正前のそれぞれの規則の様式の規定による申請書その他の書類は、改正後のそれぞれの規則の様式の規定による申請書その他の書類とみなす。

3 この規則施行の際現にある改正前のそれぞれの規則の様式の規定による書類の用紙は、当分の間、これを訂正して使用することができる。

附 則（平成13年4月1日教育委員会規則第6号）

この規則は、公布の日から施行する。

附 則（平成14年3月29日教育委員会規則第5号）

この規則は、平成14年4月1日から施行する。

附 則（平成17年3月29日教育委員会規則第3号）

1 この規則は、平成17年4月1日から施行する。

2 第3条の規定による改正後の愛媛県美術館管理規則別表1の表の規定は、この規則の施行の日以後に徴収する常設展観覧料について適用し、同日前に徴収した常設展観覧料については、なお従前の例による。

附 則（平成17年4月1日教育委員会規則第7号抄）

（施行期日）

1 この規則は、公布の日から施行する。

附 則（平成18年3月31日教育委員会規則第2号）

この規則は、平成18年4月1日から施行する。

附 則（平成18年4月1日教育委員会規則第6号）

この規則は、公布の日から施行する。

附 則（平成18年9月1日教育委員会規則第11号）

（施行期日）

1 この規則は、公布の日から施行する。

（経過措置）

2 この規則施行の際現に改正前のそれぞれの規則の様式の規定により提出され、又は交付している書類は、改正後のそれぞれの規則の様式の規定により提出され、又は交付した書類とみなす。

3 この規則施行の際現にある改正前のそれぞれの規則の様式の規定による書類の用紙は、平成18年度に限り使用することができる。

附 則（平成19年3月30日教育委員会規則第3号）

この規則は、平成19年4月1日から施行する。

附 則（平成19年3月30日教育委員会規則第5号）

この規則は、平成19年4月1日から施行する。

附 則（平成20年8月29日教育委員会規則第17号）

1 この規則は、平成20年9月1日から施行する。

2 この規則施行の際現に改正前の愛媛県美術館管理規則様式第1号及び様式第2号の規定により提出され、又は交付している書類は、それぞれ改正後の愛媛県美術館

管理規則様式第1号及び様式第2号の規定により提出され、又は交付した書類とみなす。

附 則(平成21年3月31日教育委員会規則第5号)

- この規則は、平成21年4月1日から施行する。
- この規則施行の際現に改正前の愛媛県美術館管理規則様式第1号、様式第2号及び様式第5号から様式第13号までの規定により提出され、又は交付している書類は、それぞれ改正後の愛媛県美術館管理規則様式第1号、様式第2号及び様式第5号から様式第13号までの規定により提出され、又は交付した書類とみなす。

附 則(平成22年4月1日教育委員会規則第4号)

この規則は、公布の日から施行する。

附 則(平成26年3月28日教育委員会規則第2号抄)

(施行期日)

- この規則は、平成26年4月1日から施行する。
(経過措置)
- 第4条の規定による改正後の愛媛県美術館管理規則別表の規定は、この規則の施行の日(以下「施行日」という。)以後の使用に係る使用料で施行日以後に徴収するものについて適用し、施行日前の使用に係る使用料及び施行日以後の使用に係る使用料で施行日前に徴収したものについては、なお従前の例による。

附 則(平成26年4月1日教育委員会規則第5号)

この規則は、公布の日から施行する。

附 則(平成28年3月31日教育委員会規則第2号抄)

この規則は、平成28年4月1日から施行する。

附 則(平成29年3月24日教育委員会規則第2号抄)

- この規則は、平成29年4月1日から施行する。
- 改正後の愛媛県美術館管理規則別表の規定は、この規則の施行の日(以下「施行日」という。)以後の使用に係る使用料で施行日以後に徴収するものについて適用し、施行日前の使用に係る使用料及び施行日以後の使用に係る使用料で施行日前に徴収したものについては、なお従前の例による。

別表(第13条関係)

1 常設展観覧料

区 分	一 般	団体(20人以上)
1 高等学校及び中等教育学校の後期課程の生徒、大学の学生その他これらに類する者	200円	160円
2 15歳以上の者(中学校及び中等教育学校の前期課程の生徒並びに1に該当する者を除く。)	300円	240円

2 施設使用料

区 分		使用料	
企画展示室1	入場料が無料の場合	14,760円	
	入場料が有料の場合	23,610円	
企画展示室2	入場料が無料の場合	14,760円	
	入場料が有料の場合	23,610円	
常設展示室1	入場料が無料の場合	13,360円	
	入場料が有料の場合	21,370円	
常設展示室2	入場料が無料の場合	18,080円	
	入場料が有料の場合	28,920円	
常設展示室3	入場料が無料の場合	11,810円	
	入場料が有料の場合	18,890円	
特別展示室1	入場料が無料の場合	4,980円	
	入場料が有料の場合	7,960円	
特別展示室2	入場料が無料の場合	3,500円	
	入場料が有料の場合	5,600円	
特別展示室3	入場料が無料の場合	5,820円	
	入場料が有料の場合	9,310円	
講 堂	入場料が無料の場合	午前9時40分から正午まで	1,810円
		午後1時から午後6時まで	3,000円
		全日(午前9時40分から午後6時まで)	4,810円
	入場料が有料の場合	午前9時40分から正午まで	2,890円
		午後1時から午後6時まで	4,800円
		全日(午前9時40分から午後6時まで)	7,690円
研修室	午前9時40分から正午まで	1,990円	
	午後1時から午後6時まで	2,610円	
	全日(午前9時40分から午後6時まで)	4,600円	
県民ギャラリー1		14,840円	
県民ギャラリー2		11,650円	
県民ギャラリー3		3,170円	
県民ギャラリー4		4,230円	
県民ギャラリー5		4,230円	
県民ギャラリー6		2,110円	
県民ギャラリー7		2,110円	
県民ギャラリー8		6,350円	
県民ギャラリー9		2,750円	
県民ギャラリー10		2,850円	
県民ギャラリー11		2,850円	
県民ギャラリー12		3,170円	

注 県民ギャラリーをすべて使用する場合の使用料は、この表の規定にかかわらず、53,490円とする。

3 特別利用料

区 分	単 位	金 額
閲覧	1点1日につき	510円
模写・模造	1点1日につき	5,140円
撮影・複写	1点1回につき	5,140円
原版使用	1点1回につき	5,140円

- 注1 文書は、1葉を1点とする。
- 2 びょうぶは、1隻を1点とする。
- 3 1そろいをなす卷子は、1巻を1点とする。
- 4 掛軸は、1幅を1点とする。
- 5 小型の物で1組又は1箱となっているものは、1組又は1箱を1点とする。
- 6 多数の物で1そろい又は1具となっているものは、数量に応じて数点に分けるものとする。
- 7 その他の資料は、各個を1点とする。

※ 様式については、掲載を省略します。
施設使用許可申請書が必要な場合は、愛媛県美術館ホームページ(<https://www.ehime-art.jp/>)を参照してください。

3 愛媛県博物館協議会設置条例

(設置)

第1条 博物館法(昭和26年法律第285号)第20条第1項の規定に基づき、次の表の左欄に掲げる博物館に、それぞれ同表の右欄に掲げる博物館協議会(以下「協議会」という。)を置く。

愛媛県総合科学博物館	愛媛県総合科学博物館協議会
愛媛県歴史文化博物館	愛媛県歴史文化博物館協議会
愛媛県美術館	愛媛県美術館協議会

(任命の基準)

第2条 協議会の委員(以下「委員」という。)は、学校教育及び社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者並びに学識経験のある者のうちから任命する。

(定数)

第3条 委員の定数は、それぞれ14人以内とする。

(任期)

第4条 委員の任期は、2年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(雑則)

第5条 この条例に定めるもののほか、協議会の組織及び運営に関し必要な事項は、教育委員会規則で定める。

附 則

この条例は、平成24年4月1日から施行する。

4 愛媛県美術館協議会運営規則

(趣旨)

第1条 この規則は、愛媛県博物館協議会設置条例(平成12年愛媛県条例第31号)第5条の規定に基づき、愛媛県美術館協議会(以下「協議会」という。)の組織及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(会長及び副会長)

第2条 協議会に会長及び副会長1人を置く。

2 会長及び副会長は、協議会の委員(以下「委員」という。)の互選による。

3 会長は、協議会を代表し、会務を総理する。

4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき、又は会長が欠けたときは、その職務を代行する。

(招集)

第3条 協議会の会議(以下「会議」という。)は、愛媛県美術館長が招集する。

2 会議の日時、開催場所及び会議に付議する事項は、あらかじめ委員に通知しなければならない。

(会議)

第4条 会議は、会長が主宰する。

2 会議は、委員の過半数が出席しなければ、開くことができない。

3 会議の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、会長の決するところによる。

(庶務)

第5条 協議会の庶務は、愛媛県美術館において処理する。

(委任)

第6条 この規則に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、協議会が定める。

附 則

この規則は、公布の日から施行する。

附 則(平成24年3月27日教育委員会規則第1号)

この規則は、平成24年4月1日から施行する。

5 愛媛県美術品等収集評価委員会設置要綱

(設置)

第1条 美術作品の収集等に関する事務を適正かつ円滑に行うことを目的として、愛媛県美術品等収集評価委員会(以下「委員会」という。)を設置する。

(任務)

第2条 委員会は、次の事項について教育長の諮問に応じ、審議を行う。

- (1) 美術作品の選定及び評価に関すること。
- (2) 美術作品の情報提供に関すること。
- (3) その他必要な事項に関すること。

(組織)

第3条 委員会は、委員7人以内をもって組織する。

2 委員は、美術に関する知識を有する者の中から、教育長が委嘱する。

(委員長及び副委員長)

第4条 委員会に委員長及び副委員長各1人を置く。

2 委員長は、委員のうちから互選し、副委員長は委員長が指名する。

3 委員長は、会務を総理する。

4 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるときは、その職務を代理する。

(会議)

第5条 委員会の会議は、委員長が招集する。

2 委員会の会議には、委員長が必要に応じて、委員でない者の出席を求めることができる。

(任期)

第6条 委員の任期は、委嘱の日から2年間とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 委員は、再任されることができる。

(庶務)

第7条 委員会の庶務は、愛媛県美術館において処理する。

(その他)

第8条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は教育長が定める。

附 則

この要綱は、平成12年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成14年2月5日から施行する。

附 則

この要綱は、平成16年2月20日から施行する。

附 則

この要綱は、平成18年3月3日から施行する。

XI 施設・設備の概要

○ 新 館

(1) 施 設

所在地	愛媛県松山市堀之内
設計	株式会社日建設計
施工	
建築	大成・野間共同企業体
電気	四電工・三信電設共同企業体
空調	須賀・日比谷共同企業体
衛生	株式会社ダイイチマリン
昇降機	三菱電機株式会社
構造	鉄骨鉄筋コンクリート造 地上3階地下1階
敷地面積	7,199.73㎡
建築面積	3,218.78㎡
延床面積	10,365.46㎡
仕上げ	外 部 特注磁器質ポータータイル 打込PC版
屋 根	鋼板段葺・アルミハニカムパネル アスファルト防水の上コンクリートパネル敷
特殊工法	PC版圧着構造・外壁大型カーテンウォール

(2) 設 備

空調設備

空調方式	中央ダクト方式・パッケージ方式・ファンコイル方式
主要熱源機	直だし吸収冷温水機・空気熱源ヒートポンプユニット
熱源設備	(ガス焚吸収式冷温水機) + (空気熱源回収形ヒートポンプ) + (冷温水蓄熱槽) 組み合わせ方式

容 量	ガス焚吸収式冷温水機 150R ton × 1台
	空気熱源熱回収形ヒートポンプ 100R ton × 1台

空調系統・空調方式	展示室 8系統 単一ダクト変風量
	収蔵庫 4系統 単一ダクト定風量方式 一部ファンコイル併用
	一 般 15系統 単一ダクト定風量方式 単一ダクト変風量 (ファンVAV) 方式

1F中監盤室、講師控室、ボランティア室
ビル用マルチパッケージ方式

換気設備 熱源機械室、電気室、特殊ガスボンベ室、荷捌室、EV機械室他は第1種換気とし、便所、湯沸他は第3種換気とする。

排煙設備 自然排煙…エントランスホール等
機械排煙…BF廊下、企画展示室(1)、(2)、常設展示室(1)、(2)、展示ロビー(3)、搬入口、荷解室、ハイビジョンギャラリー

蓄熱槽 冷水槽…540㎡、温水槽…170㎡

(床下二重ピット利用)

電気設備

引 込	高圧・架空
電 灯	Tr200KVA × 3台
動 力	Tr500KVA × 2台
コンデンサ	低圧 50KVr × 6台
リアクトル	低圧 3KVr × 6台
発電機	3φ3W220V 205KVA・240PS 1φ3W 110V 6Kw ディーゼル軽油

直流電源 サイリスタ全自動式整流器 3φ3W 200V 10時間 MS-E 300Ah/54セル
 放送機器 出力(非常・業務)720W 出力(BGM)360w
 卓上型2台 ワイヤレス 800MHz
 テレビ共聴 VHF・UHF・BSアンテナ
 電話 PCM時分割方式 一般内線90/120内線10/10回線64局線1/10回線 PHS接続装置10/10
 回線 アナログ局線10/12回線 INS1500局1/4回線
 インターホン 身障者用・夜間訪問用
 電気時計 ダイチ製 DC-3002、DC-3006
 火報防火扉 GP型1級50回線 副表示20L 諸警報55L 防排煙130L ガス漏れ5L
 表示設備 DC24V発光ダイオード(2モード形)

衛生設備

給水設備 飲用 松山市上水道引き込み(50mm)→受水槽(11m³)加圧ポンプ方式
 雑用 雨水利用+井水→受水槽(28m³) 加圧ポンプ方式
 給湯設備 中央給湯方式(太陽熱利用)+局所方式
 真空式温水ヒーター 100,000kcal/H 2台
 貯湯槽 2m³ 2台
 電気湯沸器 30リットル8台
 排水設備 建物内汚水・雑排水分流方式(雨水は分流)
都市ガス設備(中圧)
 消火設備 吸収式冷温水機及び真空式温水ヒーターに供給
 屋内消火栓設備、連結散水設備(5系統)、イナージェン消火設備(6系統)、
 消火器設備、移動式粉末消火設備、フード消火設備(厨房)
 その他 太陽熱利用設備、雨水再利用設備(有効水量206m³)、井水設備
 昇降機設備 乗用油圧エレベーター(15人乗 車椅子対応)2台
 乗用油圧エレベーター(11人乗 車椅子対応)1台
 荷物用油圧エレベーター(4,200kg Wカゴ3,500mm×D4,800mm×H3,000mm)1台

○ 南 館

(1) 施設

所在地 愛媛県松山市堀之内
 構造 鉄筋コンクリート造
 地上3階地下1階
 敷地面積 2,301.50m²
 建築面積 921.20m²
 延床面積 4,296.69m²

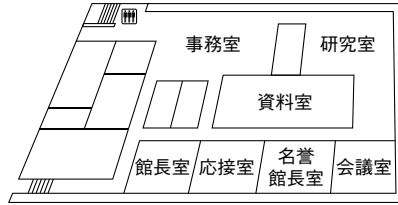
区分	室名	面積(m ²)
南館	創作部門	
	県民ギャラリー1～12	2,004
	県民アトリエ1	68
	県民アトリエ2	105
	実技教室	124

● 館内案内図 ●

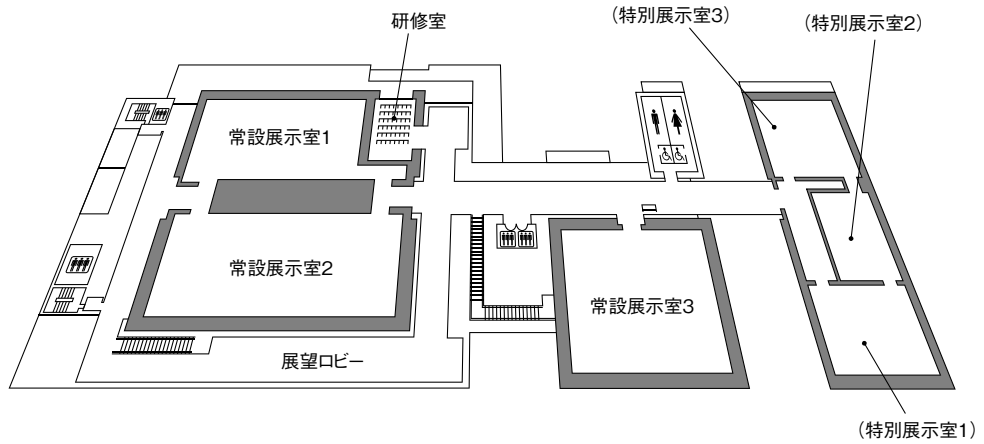
新館フロア



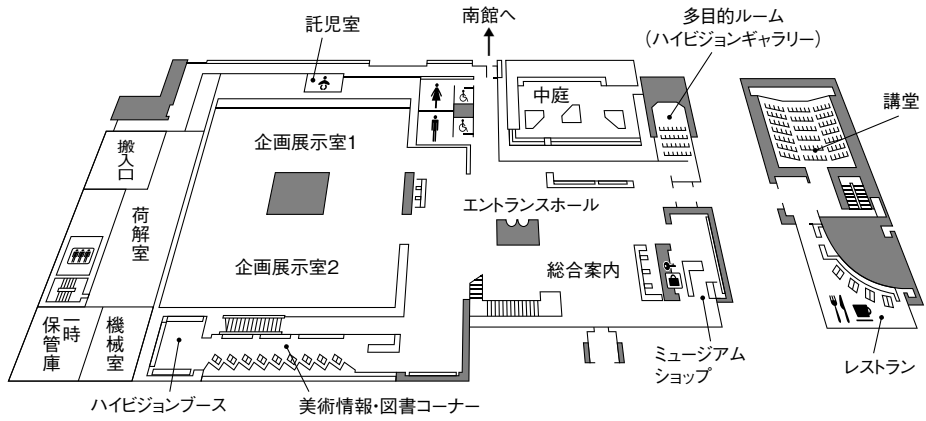
3階



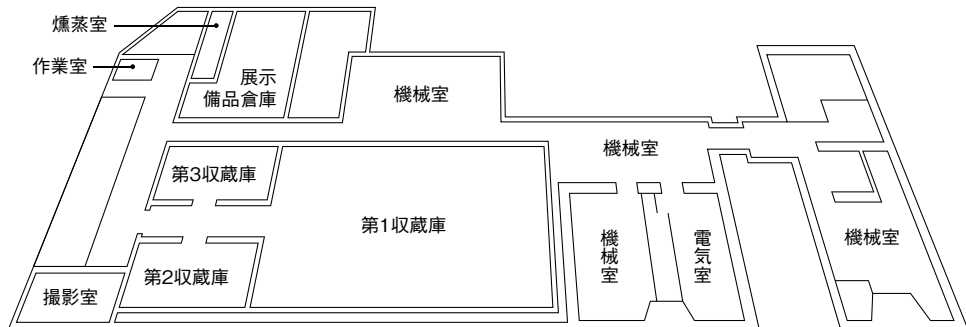
2階



1階



地下1階



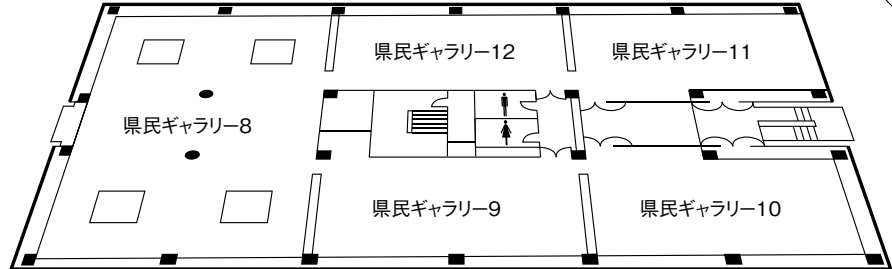
XI 施設・設備の概要

● 館内案内図 ●

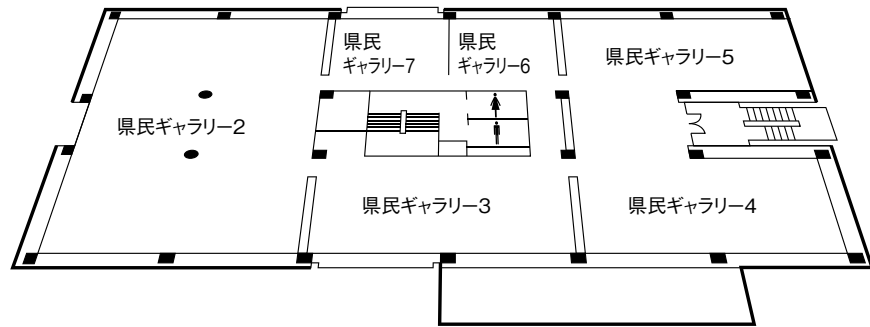
南館フロア



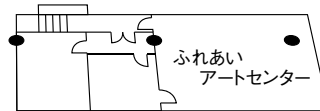
3階



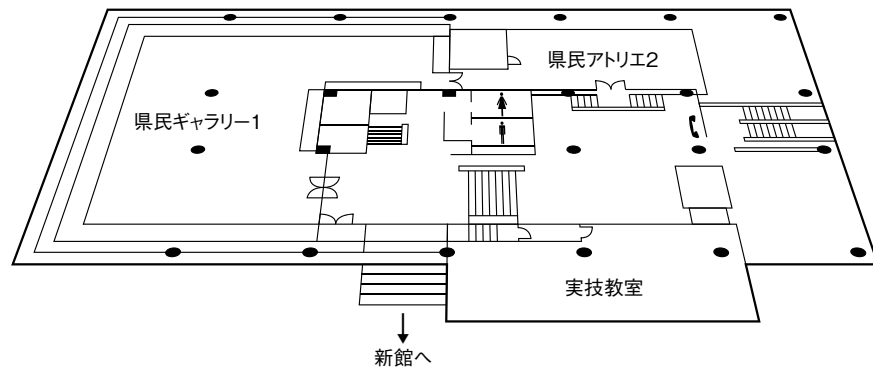
2階



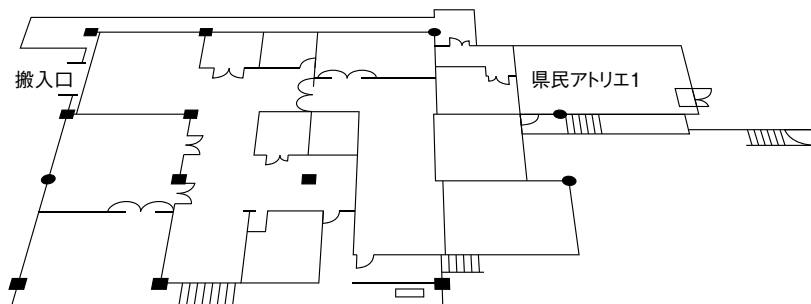
中2階



1階



地下1階



愛媛県美術館

研究紀要 第18号

BULLETIN

THE MUSEUM OF ART, EHIME

実践報告

来館者の持っている力を引き出す①

— コレクション展『なぞなぞ美術館』の試み —

鈴木 有紀

1 はじめに

学芸員として「博物館」⁽¹⁾で仕事をするようになってから、展示室を主なフィールドに、「来館者の主体的な学びのあり方」について探ってきた⁽²⁾。その取掛かりとして始め、今も学び続けているのが、①「博物館」スタッフと来館者がコミュニケーションを重ねながら資料や作品について理解を深めていくワークショップ—特に「対話型鑑賞」の考え方と、②その中で展開される「博物館」スタッフのナビゲーション（ファシリテーション）の在り方である⁽³⁾。しかしその一方で、活動日時や定員等の制限に縛られず、来館者が来たい時に「博物館」を訪れ、自分のペースで学びを進めていける「展示」を創ることが出来ないかとその可能性について考えてきた。そのような中で出会ったのが、日本に「対話型鑑賞」を紹介した国外の専門家の一人であり、元ニューヨーク近代美術館のエデュケーター（同館の教育部門を担当する専門スタッフ）で美術史家のアメリア・アレナスの次の言葉である⁽⁴⁾。

これまでのやり方や経験に縛られないで、来場者のもっている能力を引き出せるような、別のやり方を探ってみるのは十分に意味がある。また実際に世界各地の美術館で、今もこうした試みに意欲的にとりくんでいる人々がいる。たとえば2001年バルセロナで開かれる現代美術の大規模な展覧会では、展示品の約半分に、1つではなく7つのラベルが添えられることになった。ラベルは作品の脇に映写機を使って投影され、来場者はこれを読めば、ただ学芸員の言葉だけではなく、10歳の子ども、若手研究者、お年寄り、家事手伝い、作家、そして美術館の警備員の考えも知ることができる。

そうしてこのバルセロナのラ・カイシャ財団で開催された現代美術の展覧会⁽⁵⁾での事例に勇気とヒントを

得て、愛媛県美術館では2005年より、常設展示室を舞台に、コレクション展『なぞなぞ美術館』の試みを始め、2019年の夏で9回目を迎えた⁽⁶⁾。

2 なぜ、「常設展示」なのか

さて、2019年（平成31年度）に実施した『なぞなぞ美術館』の報告の前に、なぜ「常設展示」なのか、説明したい。次の声は今年度、『なぞなぞ美術館』の来館者から寄せられたものである。

コレクション展はどこ美術館でも少しつまらないと感じていました。しかし観光ついでにたまたま立ち寄ったこのコレクション展は、チャレンジしていて、面白くて驚きました。小さい子どもも連れていましたが、一緒に「発見」ある鑑賞ができて、お話ししながらみることができたのが、良かったです。松山に来たときは、また来ます！

各地の美術館で開催されている「常設展示」について、具体的にどういうところが面白くないのか、残念ながらこの来館者は語っておらず、また筆者も聞いていない。しかし自分一人、もしくは他者ととも常設展示室を訪れ、来館者が「発見のある時間」を持てた、「常設展示」がそのような「場」を提供出来たということは「博物館」として幸せではないだろうか。「常設展示」は企画展と違い、華やかさや話題性に欠けるところがある。しかし期間限定の企画展とは違い、いつ訪れても来館者を迎えてくれる（待っていてくれる）安心感がある場所でもある。また、その館のコレクションがメインなので館のオリジナル色が最も良く出せる。そして何より来館者の「発見」、つまり、来館者にとって、より豊かな「気づきと学びの場」を創造するために、「博物館」が繰り返しチャレンジ出来る大事な展示研究の場と筆者は捉えている。

3 平成31年度(2019)コレクション展『なぞなぞ美術館 ヒミツの呪文は「ミル・カンガエル・ハナス・キク」』

ここでは一番最近(2019年・夏)に実施した『なぞなぞ美術館』第9回目の試みについて紹介する。

- (1) 実施時期:2019年7月6日(土)～8月18日(日)
- (2) 開催場所:愛媛県美術館新館1階企画展示室1
- (3)『なぞなぞ美術館』の特徴

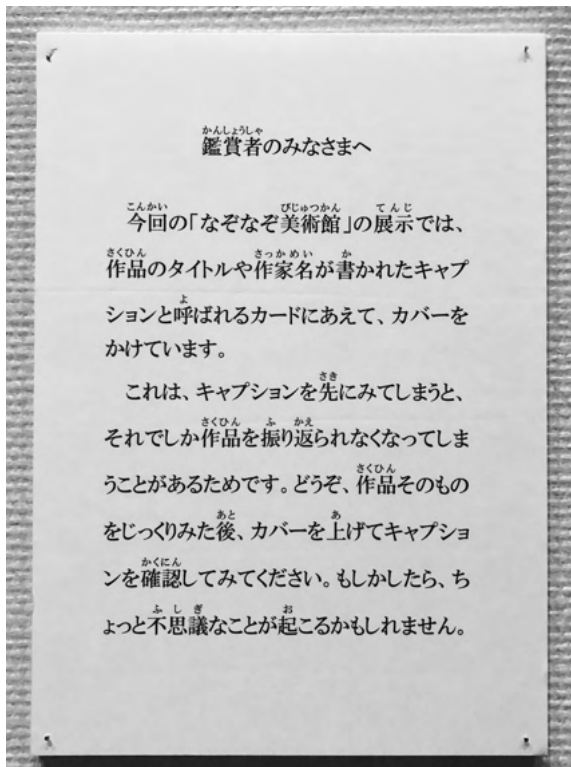


写真1 キャプションにカバーをかける理由

『なぞなぞ美術館』は文字どおり、「作品の謎をみんなで解き明かしていこう。“正解”はないかもしれないけれど」というコンセプトのコレクション展である。一番の特徴は、普段、作品のそばに添えられているキャプション(作品名や作家名、サイズ、使われている素材等が記されたラベル)や作品の解説文にカバー(写真1)がかけられており、その代わりに幼稚園生から高齢者まで、年齢も性別も様々な「来館者のその作品をみた言葉」が3～5つ添えられていることである(写真2・3)。

この3～5という数は第1回目からの試行の結果である。当初(2005年)は、来館者から寄せられた言葉を全て(最大20枚くらいまで)紹介していた。しかし読む方(来館者)も時間がかかり、ラベルを作る



写真2

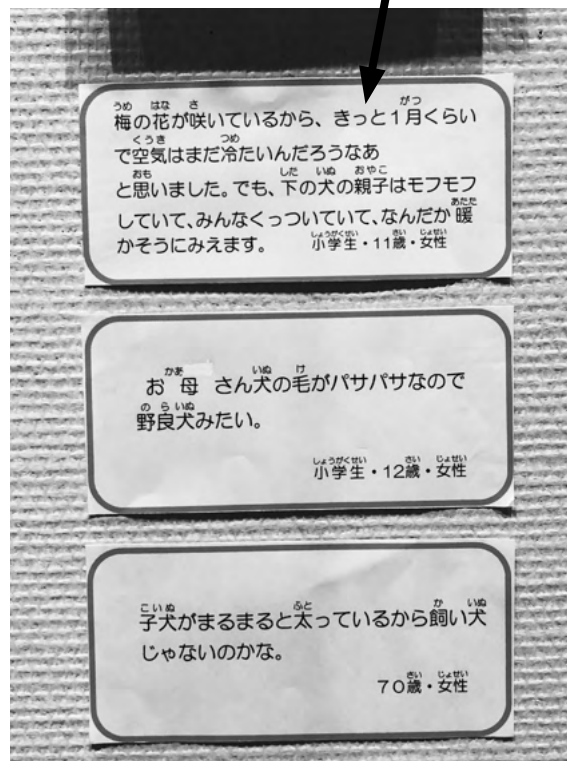


写真3 来館者の「発見」キャプション

方(美術館)も壁面のスペース確保に苦慮するという状態になり、当時別の事業で実施した来館者調査結果を参考に、来館者が一回のトライでストレスなく取り組みやすい数として現在はこの数に落ち着いている。

この「来館者の言葉」は展示室を訪れた来館者がそれぞれの気になる作品をみつけた後、展示室内に準備された「発見カード」に作品の感想を記入し、ポストに投函後（写真4・5）、美術館側で誤字脱字等、他の来館者も読み易い形に少し編集し直して紹介している（写真3）。



写真4

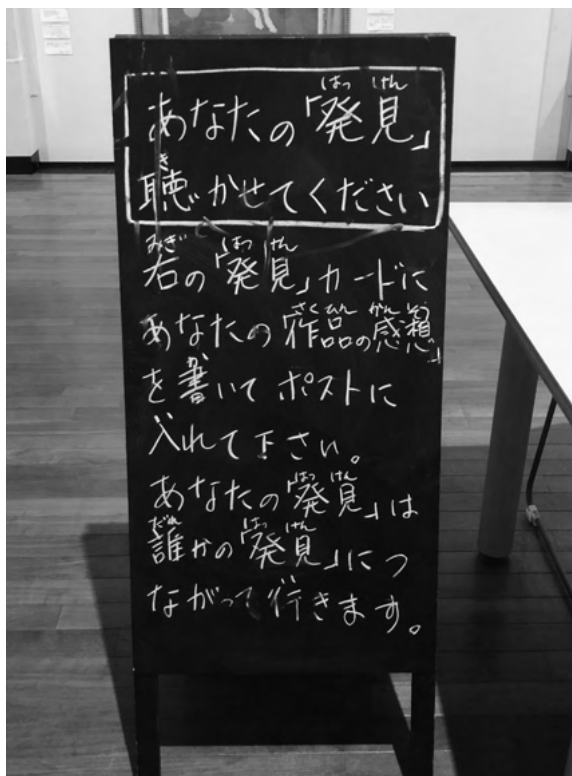


写真5

（4）第9回目の取組みで試みたこと

2005年を皮切りに、来館者の様子をみながら展示する作品やテーマについて試行錯誤を重ねてきた『な

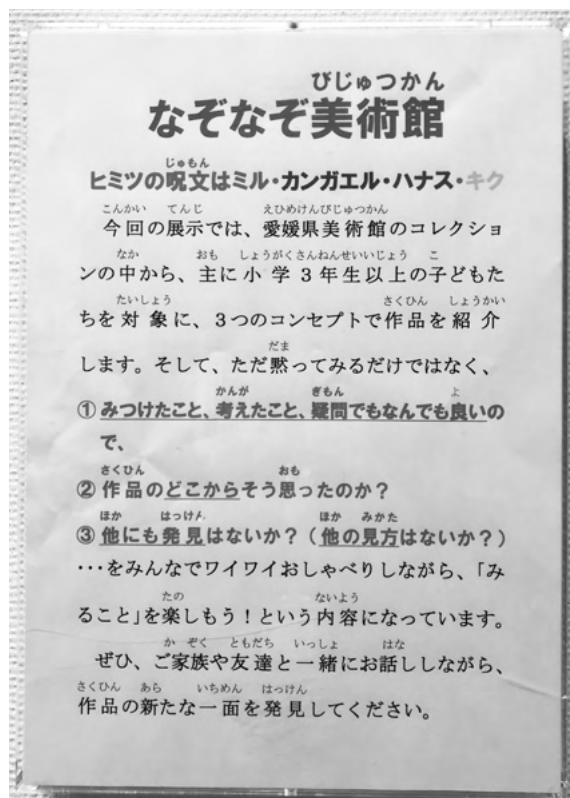


写真6 『なぞなぞ美術館』のご挨拶パネル

ぞなぞ美術館』であるが、今回は展示する作品を3つのコンセプトでくくり、構成していった（写真6）。

第1章のコンセプト「不思議な世界」では具体的には①野間仁根《魔法の森》(油彩・画布)、②畦地梅太郎《鳥のすむ森》(多色木版・紙)、③入江明日香《Magnoria Obovata》(銅版・コラージュ・紙)、④木村武山《羽衣》(紙本着色・屏風)、⑤遠藤広実《十六羅漢図》(絹本着色・軸)、⑥沖冠岳《百狸々図》(紙本着色・軸)、⑦畦地梅太郎《白い像》(多色木版・紙)、⑧真鍋博《靴の花》(油彩・画布)、⑨真鍋博《鉛筆の鳥》(油彩・画布)、⑩磯辺行久《WORK' 65-11~34》(油彩・麻布ほか)の順番に作品を展示した。次に第2章のコンセプト「動物観察」では、①北川民次《ロバ》(油彩・画布)、②沖冠岳《梅狗図》(絹本墨画淡彩・軸)、③小林古径《荒野》(絹本着色・軸)、④前田青邨《鯉三題》(紙本墨画)、⑤小清水漸《作業台 Blue Fish》(桂・塩地・群青)、⑥海老原喜之助《幸せな雪の村》(油彩・画布)、⑦白川義員《キャリブー》(写真・パネル)の順に作品を紹介した。そして第3章では「人間の姿をみてみよう」をコンセプトに、①古茂田公雄《炭鉱》(スクラッチング・紙)、②畦地梅太郎《山小屋の老人》(多色木版・紙)、③土佐光起《柿本人麻呂像》

(紙本着色・軸)、④安田靉彦《古事記》(紙本着色・軸)、⑤ピエール・ボナール《アンドレ・ボナール嬢の肖像—画家の妹》(油彩・画布)、⑥安田靉彦《守屋大連》(絹本着色・軸)、⑦長谷川竹友《霊峰 石鎚》(紙本着色・屏風)という順序で作品を展示した。なお、今回の展示は作品鑑賞の経験が恐らく初めてに近い小学3年生を主なターゲットに構成したため、24点の作品はほぼ具体的で描き込みが多い(視覚要素がある程度あり何が描かれているか分かり易いもの)、しかしよくみていくと「謎」—わからないことがあるものを選んだ。

そして、最初に見る作品よりは、2番目に見る(挑む)作品(謎)は、例えば背景等の描きこみが少なく、場所や状況がすぐにはわからないものを選び、来館者に更に作品をじっくりみてもらう(考えてもらう)よう努めた(写真7~13)。



写真7 展示室の様子・前半部分(各作品はコンセプトでくくりながら、いろいろな表現方法の作品を紹介した)



写真8 展示室の様子・前半部分



写真9 展示室の様子・中ほど



写真10 展示室の様子・中ほど



写真11 展示室の様子・中ほど



写真12 展示室の様子・後半部分



写真13 展示室の様子・後半部分

(5) 来館者からの『なぞなぞ美術館』への感想文

ここでは、第1回目から9回目まで来館者から寄せられた展示の全体的なことについての言葉を紹介します。

- ①「全体的に言えることなのですが、私は今まで作品を『題名』だけで見てきたのではないかと、とほっとさせられました。この企画で美術館の新たな楽しみ方を発見したような気がします」。(20歳・女性)
- ②「ともだちと絵について思ったことをいいながらみました。たのしかったです。また来たいです。おとうさんとおかさんにも思ったことをいいたいです」。(7歳・男性)
- ③「みなさんの意見を読むことにより、「あーやっぱり」とか「そうだ」とか「フーンそんなんとらえ方もあるの」とか、共鳴したり教えられたりして身近に感じたり違った見方ができたり、少しスパイスを自分にプラスして絵の鑑賞が出来るという初体験。面白いナー

と思いました。

また楽しみにしています。この企画。(47歳・女性)

④「この企画いいですね。次回も楽しみにしています」。(52歳・男性)

⑤「絵のタイトルを読まずに作品をじっくり見ていると、色々想像しながら作品を見ている自分に気がきました。タイトルを見てしまうと想像したと違っていると、つまらなくなりそうなので、今日は見ずに帰ります。タイトルを隠す美術展示は初めてでした。とても面白くていいなあと思います。また来たいですし、今後も続けてほしいです」。(44歳・女性)

⑥「コレクション展はどこ美術館でも少しつまらないと感じていました。しかし観光ついでにたまたま立ち寄ったこのコレクション展は、チャレンジしていて、面白くて驚きました。小さい子どもも連れていましたが、一緒に「発見」ある鑑賞ができて、お話ししながらみることができたのが、良かったです。松山に来たときは、また来ます!」。(28歳・女性)

4 いろいろなコレクション展の可能性—ベルナル・ビュフェ美術館『美術館に行こう! ディック・ブルーナに学ぶモダン・アートの楽しみ方』展

(1) 展示について

このようなコレクションを用いて、キャプション等のラベルを工夫し、「来館者の学びの場」を創っていくとする動きは各地の「博物館」で始まっている。

例えば静岡のベルナル・ビュフェ美術館では2019年4月20日(土)から9月29日(日)の間、オランダを代表するグラフィックデザイナーで絵本作家のディック・ブルーナが生み出した「ミッフィー」とともに同館のコレクション、ベルナル・ビュフェの作品をみつめる展覧会が開催された⁽⁷⁾(写真14・15)。同館はフランスの画家ベルナル・ビュフェの作品をその初期から晩年までたっぷりみることの出来る美術館である。

筆者は2019年秋にこのコレクションを使った展覧会を訪れた。実は愛媛県美術館でも過去に同企画でのコレクションを活用した展覧会を開催したことがある。しかし、ミッフィーを主人公にした絵本《美術館に行こう!》のあらすじに添って自館のコレクションを選び、展示を創ることは一見簡単そうにみえて、絵本に登場する作品とコレクションが必ずしもリンクすると

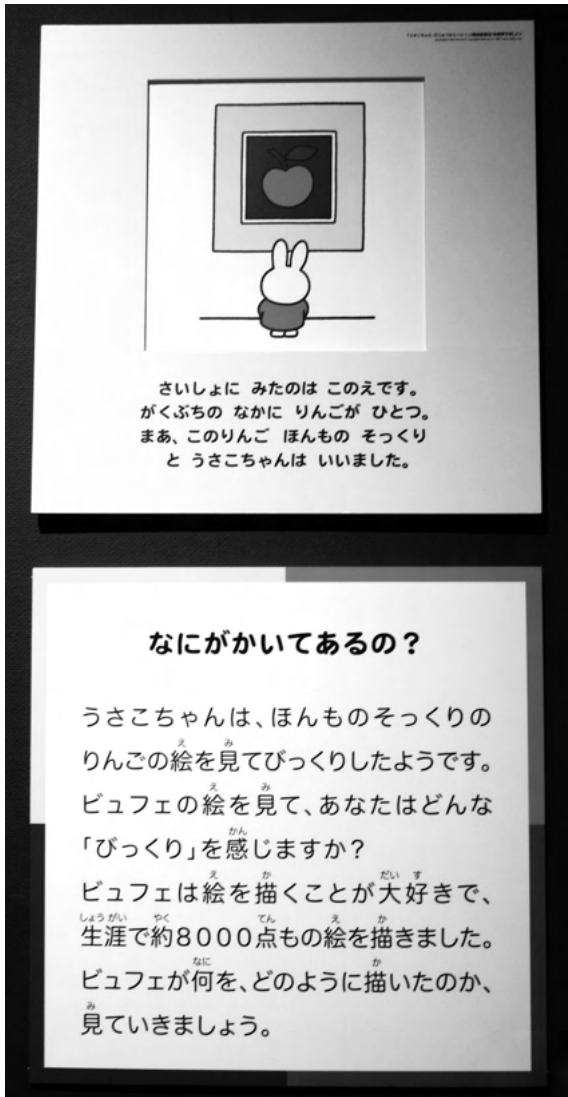


写真14 展示会の導入パネル ©Mercis bv

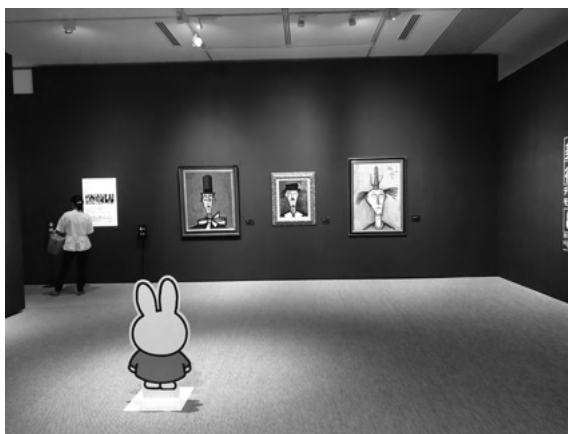


写真15 展示室の入口（プロローグ）の様子 ©Mercis bv

は限らないため、思いのほか苦戦した。そのため、ピュフェ美術館の、全てピュフェの作品で構成される「美術館へ行こう！」展がいったいどのような内容になるのかに興味を湧いていた。そして、みる事が出来て大変良かったと感じている。おそらく愛媛県美術館を始め、他の多くの館で実施された同タイトルの展覧会の中でも、今回のピュフェ美術館の展示室は、来館者にとって優れた「発見のある場」だったのではないだろうか。

まず、展示の全体的な印象を述べると、この展覧会の主人公ともいえるミッフィーと、ピュフェ美術館のコレクションが「対等な」関係で構成されていた。(写真15~20。上段がミッフィーの物語。下段がピュフェ美術館で考えられた章立てパネル)。同館の企画は「美術館が誰に対して、どのようなありたいか、その上でピュフェの作品—コレクションをどうみてもらいたいか」という美術館の主体性が明確であり、言葉は悪いがミッフィーの物語に強く引きずられていなかった(少なくとも愛媛県美術館で同展を開催した時は「美術館に行こう！」という絵本の再現性に力点を置き過ぎていた)。

少し展示室内の様子について紹介していこう。ピュフェ美術館で同展を担当したのはエドゥケーターの井島真知と雨宮千嘉の二人である。展示室の中では両名の担当者が「対話」を重ね、選ばれた「言葉」と分量による解説パネルもところどころで作品の近くに添えられていたが(写真21)、その内容は先ほどの章立てパネルと同じく、来館者に対して決して「問いかけ過ぎず」「説明し過ぎず」(過度な問いかけ、説明は来館者の思考停止につながる、しかし読んだ後は、来館者が再び作品に戻って考えていけるように創られていた。そのためか、当日作品鑑賞をしていた来館者の多くの様子を見てみると(おそらく筆者と同じようにピュフェの作品鑑賞が初めてに近い人々と思われたが)、展示室内は、ほど良い緊張感とともに「私(来館者)は受け止められている」といった空気感に包まれ、皆、終始、リラックスした表情で展覧会を楽しんでいた。

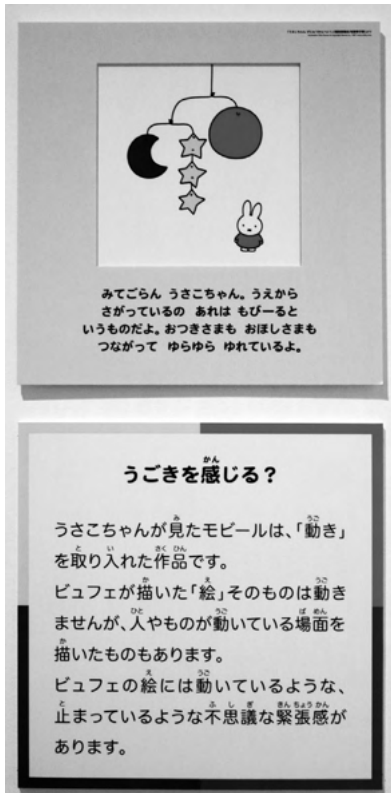


写真16 ミッフィーの物語（上段）とピュフェ美術館の章立てパネル（下段）。「物語」と展示されている「コレクション」の関係が「対等」であることが伺える。 ©Mercis bv

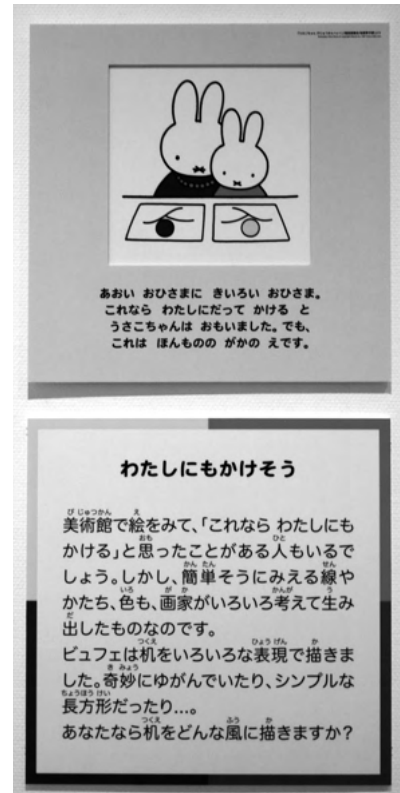


写真18 章立てパネル ©Mercis bv

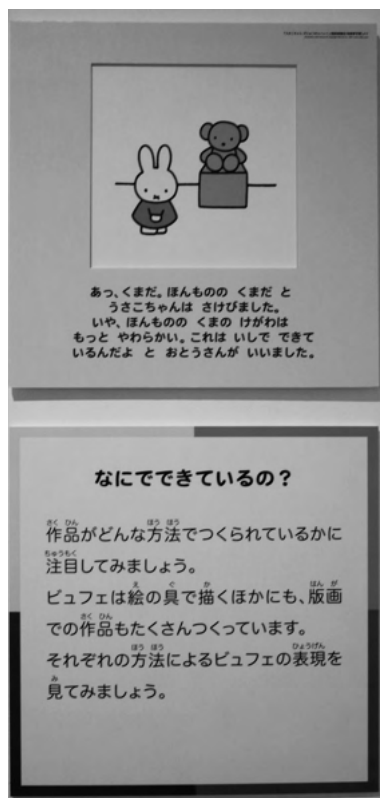


写真17 章立てパネル ©Mercis bv

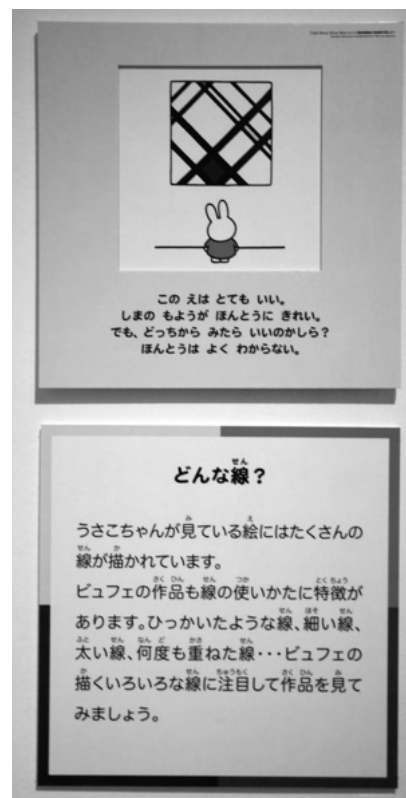


写真19 章立てパネル ©Mercis bv

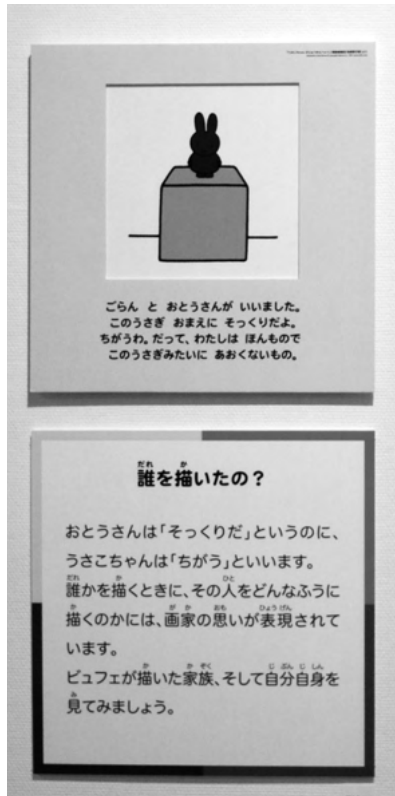


写真20 章立てパネル ©Mercis bv

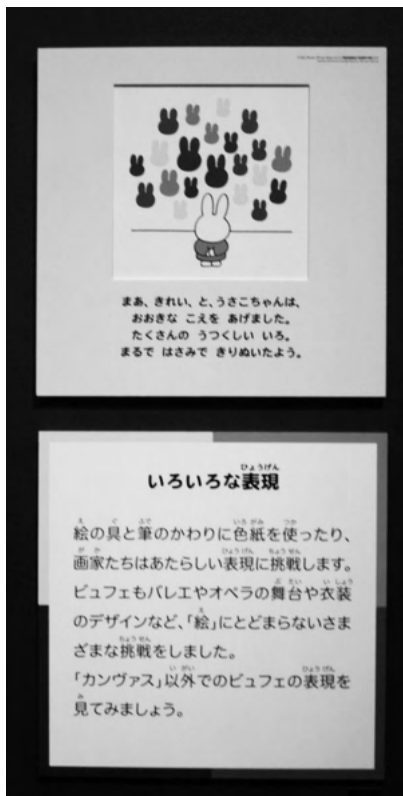


写真21 章立てパネル ©Mercis bv



《コーヒーポットを頭にのせたピエロ》
Clown à la cafetière 1995年 油彩・画布
116×81cm ベルナール・ピュフェ美術館蔵



《黒い帽子のピエロ》
Clown au chapeau noir 1966年 油彩・画布
65×50cm ベルナール・ピュフェ美術館蔵



《ピエロの顔》
Tête de clown 1961年 油彩・画布
100×81cm ベルナール・ピュフェ美術館蔵

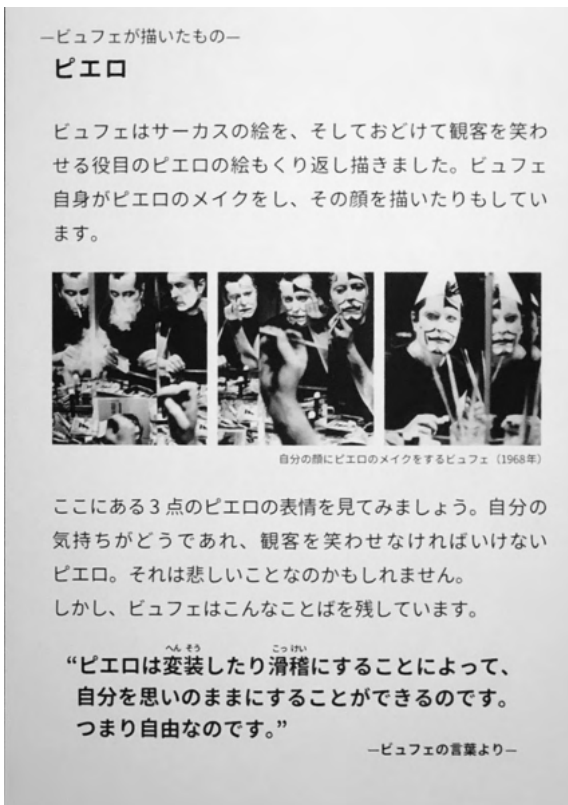


写真22 ピエロの作品の近くに添えられた解説パネルのうちのひとつ

(2) ワークシートプログラムについて

もうひとつ、今回のピュフェ美術館の展示室で「発見」したことがある。それは、同館のワークシートには作品と対峙した来館者に対し、「まずは、じっくりみてみよう」という問いかけが記されていることである。来館者が作品をじっくりみるための時間の確保である。実は至極当たり前のこの働きかけが、多くの「博物館」のワークシートで抜け落ちている。

筆者がこれまでみて来た限りでは、他館のそれは例えば「どんな音が聞こえてきそう?」「寒そう? 暖かそう?」「どんな気持ちかな?」等、最初にじっくりみることを促さず、(それは前提のこととされているのだろうか?) まだ作品をみてもいないのに、いきなり「問い」が始まる、あるいはキャプションに書かれた情報を書き写す、といった感が否めない。

このことについて同館のワークシートプログラムの趣旨を井島は次のように語ってくれた。

うちのワークシートは、本当に作品を見慣れていない人を想定しています。ですので、まずは描いてあるものを挙げる活動を通じてじっくりみてもら

おうというねらいで、特に第1問目は作ってあります。1問目からひとつずつステップを踏んでいくという感じです。

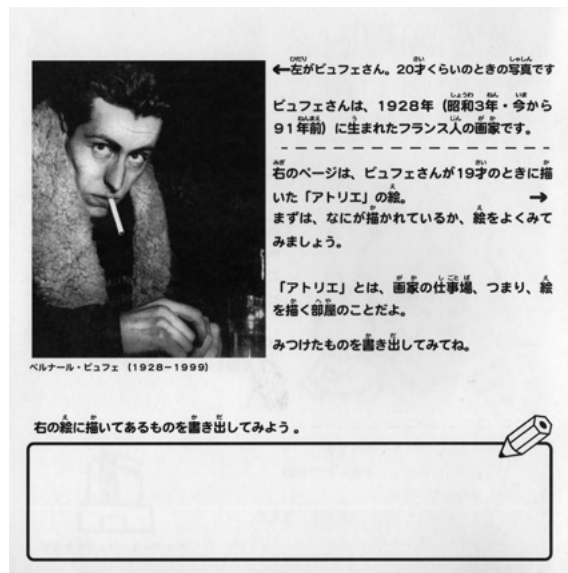


写真23 ピュフェ美術館のワークシート(第1問目のページの左側)



写真24 ピュフェ美術館のワークシート(同じく第1問目のページの右側)

現在、日本の「博物館」でも普及されている「対話型鑑賞」を最初に開発したニューヨーク近代美術館ではその開発過程で、美術館にやってくる来館者に対し、「美術と思考」についての大規模な調査を行っている。それによると美術館に来る来館者の約8割は「みることの初心者」であり、専門家等の来館者は2割にもみ

たないという結果が出ている⁽⁸⁾。筆者はこの結果はほぼ世界各地の「博物館」の来館者にも当てはまると考えている。とすれば、「博物館」が先ずやるべきことは明白ではないだろうか。

このビュフェ美術館のワークシートのような「まずは作品をじっくりとみること」を来館者に促すような方法は他にもある。例えば当館では「花鳥画」を紹介するコレクション展の中で、作品のそばに来館者が読み易い程度の字数のディスクリプション—作品を描写

した文章（この文章を読むことで自然に作品をじっくりみる時間を担保する）と、更にもうちょっとだけ作品を理解することにチャレンジ出来るような情報を（数は1～2程度が良い）を記したパネル等を1つだけ設置し、他の作品も同様に楽しめるように誘う、というような試みも始めている。（写真25）



写真25 コレクション展「花鳥画—飯想の楽園」(担当:当館学芸員 五味俊晶)より

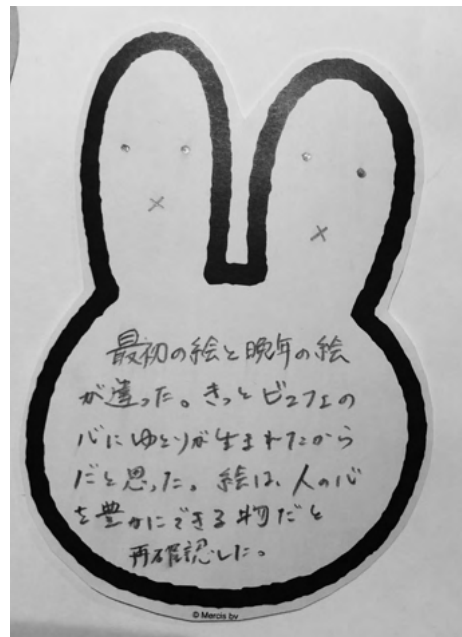


写真27 「発見カード」のひとつ

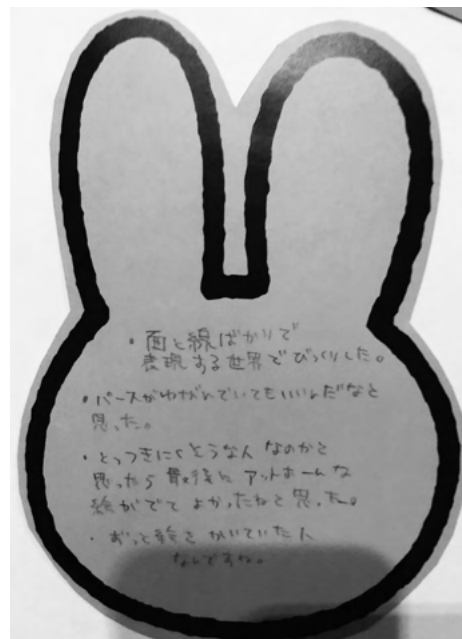


写真28 「発見カード」のひとつ



写真26 展示室の最後にある「発見カードコーナー」

今回のビュフェ美術館の展示は同館エドゥケーターのコレクションに対する「愛情」と来館者への「思い」がよく伝わって来る、ビュフェ美術館の強みを活かしたとても「面白い」企画であったと思う。このことは展示室の最後のコーナーに準備された、来館者が記した数々の「発見カード」(写真26～28)からもよく伝わってくる。そこには、

- ・最初の絵と晩年の絵が違った。きっとビュフェの心にゆとりが生まれたからだと思った。絵は人の心を豊かにできるのだと再確認した。
- ・面と線ばかりで表現する世界でびっくりした。
- ・パスがゆがんでいてもいいんだなと思った。
- ・とっつきにくそうな人なのかと思ったら、最後にアットホームな絵が出ていてよかったねと思った。
- ・ずっと絵をかいていた人なんですね。

というような、ビュフェの作品を「みる」ということを「発見」した、たくさんの来館者の声が寄せられている。今後も同館のコレクションを用いた、「展示」の企画について注目していきたい。

5 キャプションも来館者との「対話の場」

本レポートの「はじめに」で述べた「対話型鑑賞」について筆者が学び続けている京都造形芸術大学教授の福のり子は、度々その講演の中で来館者がひとつの作品にかかる鑑賞時間（10秒前後）について紹介している。2019年秋に東京大学情報学環・福武ホールで開催された福の講演会に参加した島根県安来市加納美術館理事の千葉 潮は講演後、同館のキャプションを工夫する試みを始めている。その様子について同館の企画展で「対話型鑑賞」を開催している島根県出雲市立湖陵中学校教頭の春日美由紀は次のように述べている⁹⁾。

美術での展示にも携わる千葉は、福のキャプションと作品との鑑賞時間の差異の話に衝撃を受けている。鑑賞者に良かれと思って説明事項を増やすことが逆に「作品をみない（作品をみる時間を奪っている）」という実態につながっていることを知り「ショックだった！」と述べている。そして現在展示中の企画展では、館内関係者の不評にも負けず、極めて簡略化したキャプションに挑戦した。筆者も来館し、鑑賞したが、シンプルな情報提供で作品（陶

器の茶碗が中心）ファーストになっており、作品そのものに向き合えた。千葉自身、来館者が作品と対峙する時間が増えているように感じるとも述べている。

後日、この春日の報告に対し「キャプションも他者なのだと気付かされました」と京都造形芸術大学アート・コミュニケーション研究センター研究員の三重野優希から感想が寄せられたという。更に「キャプションを作成しているのは各館の学芸員の方々であり、そうしたキャプションの向こうに在る“他者”の存在に来館者が気づけると、来館者がキャプション（ひいては、美術館）に感じている権威的な認識が変容するのではないか。もともとキャプション（ひいては美術館）に権威があるのではない。実はそうってしまう“私”と美術館の間に“権威を生む関係”が生じている。つまり“私”も美術館を“権威的”にしている一部である、と気づけると、“来館者である私”が美術館に一方的に権威を感じる、その関係性が変わっていくのだと思いました」と三重野は語る。

近年、「博物館」ではこれまで無記名だった展覧会担当者の名前やその館で働く学芸員を紹介するキャプションやパネルを少なからずみかけるようになってきている。先日も、埼玉県立歴史と民俗の博物館で、ある試みを目にした。そこには館内の飲食禁止を知らせるピクトグラムサインに、もう一工夫、なぜダメなのか、飲食するとどうなるのか、その理由と資料保全の協力を伝える言葉が添えられていた。来館者からは「わかりやすく良い」と好評を得ているという。愛媛県美術館でも、館内のマナーについて、これまで来館する小中学校の子どもたちやホームページ内では、その理由も添えて説明を行ってきた。けれども館内のサインにはそれは一言も書かれてはいない。筆者は、大人、つまり一般の来館者がその理由を必要としているとはこれまで思いも寄らなかった。しかし少し想像すれば、「ダメ」の一辺倒ばかりでは、相手はそこから次に何が起こるか考えられず、結果、行動はいつまでたっても変化しないのである。

こうなってくると、これから「博物館」がしなければならないことはとてもはっきりしている。館内のキャプションもサインも全て来館者との「対話」の場といえる。マナーのサイン改善については、まずは新年度より来館者にその理由がはたして現状どこまで伝わっているのか来館者調査を行うところから始めたい。

そして来館者の持っている力を引き出すための展示の可能性について、今後も探り続けていきたい。

註

- (1) 美術館・歴史系博物館・自然史博物館・科学系博物館・水族館・動物園等は同じ博物館群であるため、ここでは「博物館」とした。
- (2) 拙稿「研究ノート ビジターへの学習活動の支援～インタープリテーションの意義～」『愛媛県総合科学博物館研究報告』第1号(1996、愛媛県総合科学博物館) pp.51-56、拙稿「博物館見学プログラム “さがしてごらん、カミさまはどこにいる？” -子どものための教育活動の試み-」『愛媛県歴史文化博物館研究紀要』第4号(1999、愛媛県歴史文化博物館) pp.126-131、拙稿「国宝 鑑真和上展 小学生のための展示プログラム「あきらめなかった人の顔」の実践から(報告)」『愛媛県美術館研究紀要』第4号(2004、愛媛県美術館) pp.31-50、鈴木有紀・田代亜矢子・西田多江・長井建編集『平成18年度文化庁芸術拠点形成事業 博物館教育シンポジウム ともに見る、ともに学ぶ 利用者との「対話」からはじまる展示プログラム～ワークシートを中心に～(報告書)』(2007、愛媛県美術館)、拙著「愛媛県美術館博物館小中学校共働人材育成事業実行委員会執筆協力『教えない授業 美術館発、「正解のない問い」に挑む力の育て方』(2019、英治出版)、鈴木有紀・田代亜矢子編集『平成30年度文化庁・地域と共働した美術館・歴史博物館創造活動支援事業 えひめ「対話型授業」アウトリーチプロジェクト 先生のための対話型授業のススメ』(2019、愛媛県美術館・博物館・小中学校共働人材育成事業実行委員会)
- (3) 愛媛県美術館では2006年より京都造形芸術大学の福のり子教授より対話型鑑賞を学び、以後、同大学アート・コミュニケーション研究センターが開発した「みる・考える・話す・聴く」を基本プロセスとし、推進しているアート・コミュニケーション・プロジェクト(通称ACOP)の考え方を取り入れている。
- (4) アメリア・アレナス著 木下哲夫訳『みる・かんがえる・はなす・きく 鑑賞教育へのヒント』(2001、淡交社) p167
- (5) アメリア・アレナス著 木下哲夫訳、前掲、(2001、淡交社) 註Ⅲ、第7章4。
- (6) 以下は全て第一回目の「なぞなぞ美術館」で試みた展示方法を踏まえて、改善・継続してきたコレクション展である。

愛媛県美術館平成17年度年報p.21「特集展示 なぞなぞ美術館」、愛媛県美術館平成18年度年報pp.21-22「特集展示 なぞなぞ美術館Ⅱ 何してるの?」、愛媛県美術館平成19年度年報pp.14-15「特集展示 なぞなぞ美術館Ⅲ—「わたし」の視点からはじまるミニ展覧会、愛媛県美術館平成22年度1年報p.9「なぞなぞ美術館Ⅳ—Landscape《風景画を楽しもう》」、愛媛県美術館平成23年度年報p.12「特集展示 なぞなぞ美術館Ⅴ—日本美術を楽しもう!」、愛媛県美術館平成26年度年報p.8「美術館に行こう!ディック・ブルーナに学

- ぶモダン・アートの楽しみ方」、愛媛県美術館平成27年度年報p.11「特集展示 What't going on in this picture? どこからそう思う? -小学生のための美術鑑賞」、愛媛県美術館平成28年度年報p.5「特集展示 What't going on in this picture? どこからそう思う? -中学生のための美術鑑賞」、愛媛県美術館イベントスケジュールみるん・するん2019.4-9(前期)コレクション展「なぞなぞ美術館—ヒミツの呪文は「ミル・カンガエル・ハナス・キク」」
- (7) ベルナル・ビュフェ美術館企画展『美術館に行こう! ディック・ブルーナに学ぶモダン・アートの楽しみ方』
 - (8) アビゲイル・ハウゼン「美的発達インタビュー (Aesthetic Development Interview)」、カリン・デ・サンティス、アビゲイル・ハウゼン著「発達理論と美的発達に関する概論」『連続セミナー ヴィジュアル・シンキング・ストラテジー Step1 課題テキスト集』(2011、VTSジャパン実行委員会・福のり子 板井由紀 北村秀之 伊達隆洋) pp.30-31
 - (9) 春日美由紀、講演会レポート「アート&コミュニケーションで鍛える先がみえない時代のサバイバル術」(2019年11月17日(日) 東京大学情報学環・福武ホール 福竹ラーニングシアター講師:福のり子 伊達隆洋 平野智紀(総合司会)、(京都造形芸術大学アート・コミュニケーション研究センター ARCHEIVS レポート紹介 2019.12.30)

資料協力

ベルナル・ビュフェ美術館 エデュケーター井島真知

アングルとナポレオン時代の美術活動展

武田 信孝

はじめに

スペインとイタリアで各国初のアングル展が相次いだ。2015年11月24日から翌年3月27日までマドリードの国立プラド美術館で「アングル」展⁽¹⁾が開かれたのに続き、2019年3月12日から6月23日までミラノのパラッツォ・レアーレ（旧王宮）で「アングルとナポレオン時代の美術活動」展⁽²⁾が開かれたのだ。前者は、全70点の展示作品の内69点がアングル作品という、紛れもない個展である。後者も、全106件の展示作品の中、アングル作品が59件を占めるので⁽³⁾、アングル展と呼んで語弊は無いだろう。

マドリードの展覧会がアングル芸術の多様性を総合的に検証したのに対し、ミラノの展覧会は、前半で新古典主義が隆盛したナポレオン時代の美術活動を概括してから、後半でアングルの画業を紹介する構成をとっていた。それは、ナポレオン時代の美術を座標化し、その枠におけるアングルの個性と独立性を検証する、数理的なアプローチとも言える。

共通するのは、フランスとの戦争の記憶が残る近隣の当事国で新古典主義様式の美の殿堂、言わば神殿型の美術館を会場に開かれたことだ。厳密に言えば、プラドの会場は、18世紀スペインの建築家ビリャヌエバが設計した新古典主義様式のビリャヌエバ館ではなく、その東側に2007年増築されたヘロニモス館の一角であったが、アングル《グランド・オダリスク》の図像を使用した垂れ幕がビリャヌエバ館に掲げられ、これによく合っていた。対するパラッツォ・レアーレは、18世紀イタリアの建築家ピエルマリーニが既存の建物を新古典主義様式で改築したものである。

そもそも、啓蒙思想の所産としての社会教育、すなわち美術の一般公開の場としての美術館が出来始めた頃、既存建築をそのまま活用するのではなく改築または新築する場合に採用された建築様式の多くは新古典主義であった。これらの建築が現在でも市民生活に溶け込み、機能しているにもかかわらず、同じ新古典主

義の絵画や彫刻等の美術は、アカデミズムの理論や教育への懐疑、アカデミーの権威主義と結び付けられて、前衛美術の進歩の歴史に立ちだかった旧弊なものとして等閑視されがちだ。「新古典主義」という術語はパスティーシュや追従的な模倣をイメージさせるとして、これが近代性を基礎付けた一つの芸術運動であることを公正に評価しようとしなないネガティブな見方を払拭するのも、図録監修者が目指した本展の目的と聞く⁽⁴⁾。

2015年の「アングル」展については別稿にその展評を記したので⁽⁵⁾、本稿では筆者が2019年5月4日、7日に2回観覧した「アングルとナポレオン時代の美術活動」展を取り上げて、外から見えた本展の概要に触れた後、展示を振り返ることとしたい。

1 展覧会の概要

ミラノでは本展に先立ち、ブレラ美術館の「第7回ダイアログ：アングルとアイエツについて、19世紀中庸の女性達の相貌の違い」展が2018年10月4日から翌年1月20日まで人々を魅了していた。同館所蔵のアイエツ《テレーサ・マンゾーニ・スタンパ・ボッリ》、モントーバンのアングル美術館所蔵のアングル《ゴンス夫人》、そして個人蔵のアイエツとバルトリーニの作品各1点を比較する展示である。

パラッツォ・レアーレの展覧会には、アングルの手になる女性の油彩肖像画が含まれていなかったことで、二つの展覧会を見ることで相互補完的にアングルへの理解が深まったものと想像される。ミラノにおける両展の実現には、アングル美術館が改築のため休館中であつたことも関係していたのだろう⁽⁶⁾。

展覧会監修者を務めたのはアングル美術館長のフロランス・ヴィギエ＝デュティユである。彼女を5人の識者から成る学術委員会がサポートした。展覧会及び図録の構成は、簡潔でありながら重層的な構造をも有する、練りに練られたものだった。

図録に触れると、監修者には、学術委員会の一員でもある美術史家ステファン・ゲガンと先のヴィギエ・デュティユが名を連ねる。原語はイタリア語で総240頁。まず巻頭に、扉絵や挨拶文に続けて4件の論文と年譜が収録されている。年譜は、ボンバイ発掘調査が始まった年でありダヴィッド生誕の年でもある1748年から、アングルがローマへ同地のフランス・アカデミー院長として赴任した1835年までを対象とする。その後八つの章が設けられ、各章毎に論文と作品図版を収録してある。なお、章番号が振られていないため、本稿では便宜上、これに言及する際は図録内の順序に従って1から8まで数字を添えて表記することとした。4～8章には計10の小見出しが付けられ、図版が振り分けられている。小見出しに解説文は付されていない。なお、前付けの扉絵や各種論文の挿図という形でのみ収録されている図版もある。特に記されているわけではないが、5章までをナポレオン時代の美術、6章以降をアングルに焦点を絞ったものとして大別できる。

会場構成は概ね図録に準じながらも、一部作品は章を超えて展示されていた。前半最後の5章で、アングルがローマへの給費留学直前のパリ時代にサロンへ出品した《玉座のナポレオン1世》、その準備習作等に加えて、これに続くイタリア時代の素描習作を紹介し、後半最初の6章で、同じパリ時代とイタリア時代の作品を紹介することにより、両者の間に連続性が生まれていたため、自然な流れに沿って進んでいった。

展示施工は、ミラノで美術館の展覧会会場造作に関し2004年以降の実績を持つコッラード・アンセルミ建築事務所のアンセルミが主担当し、同事務所のラウラ・メッローネがこれをサポートした。日本の大型展でも大掛かりで華やかな展示造作が目立つようになって久しい。部屋毎に壁の色を変えたり、華やかなバックパネルや巨大な展示台を設えたりと、趣向が凝らされる。これは、1920年代末以降、現代に至るまで支配的な、ホワイト・キューブというニュートラルな環境で色眼鏡無しに1点ずつ順に芸術作品との対峙を繰り返す鑑賞の形式からの離脱、またはその変形であろう。現代の美術館から時空を超えて美術品受容の諸相を見渡せば、宮殿や城、邸館の部屋に見事なカラーコーディネートが見られたり、個人の収集室やパリのサロン（官展）の会場で段掛けが行われたり、教会で壁龕や祭壇に聖像が配されたりと、美術品の飾り方や美術品と過ごす環境は多様性を示している。それは、絵画

や彫刻が近代的な意味での「芸術」となる以前の社会では、むしろ普通のことだった。その反映とも言える展示方法の多様化の流れの中で、興行性、大衆性への過剰な意識が裏目となり、作品を引き立てる造作になっているのか、作品が息衝く空間になっているのか、その機能に首を傾げる会場に遭遇することがある。その点、ミラノの展示は洗練されていた。暗い中にスポットライトで作品が浮かび上がり、上品な色味に発色した背景色（グレー、青、水色、緋色）が作品を引き立て、緊張感のある雰囲気が漂う。アンセルミと照明担当のジャンパッティスタ・ボンジョルノとのコラボレーションの成果と言ってよい。造作物は、立派で、すっきりとしていて、かつ機能美を体現している。背景に通じる視覚効果を狙った仕掛けがあるかと思えば、完成作と準備習作等を見比べるための新しい展示手法も見られる。全ての趣向はさりげなく、高い完成度を有していた。

最後に、広報物に目を向けると、メインビジュアルはアングル《玉座のナポレオン1世》であった。図録や三つ折りリーフレットの表紙をはじめ、ポスターにも図像を使用。ミラノ市内のプラダ財団が面するジョヴァンニ・ロレンツィーニ通りに繋がるブレンボ通りの掲示板でポスター（図1）を見かけたが、その威容は遠くから見てもインパクトがあった。

加えて、パラッツォ・レアーレの正面上方を見上げると、やはり同作の図像を使用した垂れ幕（図2）があった。階段を上がりプリモ・ピアノ・ノービレへ進み、会場に近付くと、入口の左手にアイキャッチのための看板があった。こちらも含めて、全てイメージは《玉座のナポレオン1世》で統一されていた。



図1 アングルとナポレオン時代の美術活動展ポスター
(現地時間2019年5月5日筆者撮影)



図2 アングルとナポレオン時代の美術活動展垂れ幕
(現地時間2019年5月4日筆者撮影 ※右から2番目)

2 展覧会を巡って

ナポレオンに迎えられて、カーテンを開き会場へ入ると、奥へ細長く広がる明るい空間に、挨拶や年譜のパネルが掛けられている。突き当りのカーテンを開けると、作品の展示がはじまる。最初の主題は図録1章に照応する「逆説的な近代性」。三つの続き部屋での展開だ。最初の部屋には、右半分にパネルとダヴィッドがローマのフランス・アカデミーへ給費留学中の末期に制作した《男性裸体像、またはパトロクロス》、左半分にアングルによる男性人体モデルに基づく油彩半身像2点とファブルの裸体画《休息する剣闘士》《聖セバスティアヌス》が並ぶ。これらは、アカデミズムの主流を成した新古典主義の象徴とされがちな、英雄の力強い表現の基礎を成す写実的な裸体表現である。それは古代の生硬な模倣ではなく現実の息吹の再生と第二の自然の創造だ。

アカデミックな教育は石膏モデルの描写のみならず人体モデルの描写もカリキュラムに組み込んでいた。アングルのトルソには再現描写の巧みさがうかがえる。そして、その発展とも言える彼の師と兄弟子の諸作には、若い男性の裸体が張り詰めた緊張感を伴って表されている。それは古典主義的写実主義とも言えるもので、写実的でありながら既にダヴィッド派を特徴付ける幾何学的秩序の萌芽を示している。すなわち、人体の構造と配置に幾何学的要素を干渉させて秩序と堅牢さを生み現実を強化する手法⁽⁷⁾が、ダヴィッド作品における重なる足や臍脂色の布の形状の平行四辺形への還元、ファブル作品における垂直線、水平線への志向の中に見出せるのだ。

加えて、配色やカラヴァッジェスキ風の明暗のコン

トラストもその効果を高めている。岩や巨木の褐色や暗い緑、布の臍脂色が、明るく輝く肌色を引き立てているのだ。しかも、浅い空間に大きく描かれることで、人体は野獣の如き威圧感を伴って眼前へ肉迫し、観者を圧倒する。左上の一角に山や空が見えて奥行が暗示される《聖セバスティアヌス》についても、山は青黒く霞み空には暗雲が立ち込めているので、人体の迫り出す効果に変わりはない。そして、いずれも自然物の堅固さと人間の肉体の強靭さが照応しているのである。

レイアウトの点で興味深いのは、《男性裸体像、またはパトロクロス》の掛かる右壁と、《聖セバスティアヌス》の掛かる左壁の間の開口部から、正面突き当たりの壁に掛かるファブル《スザンナと長老達》が欠けることなく綺麗に見える点だ。これは欧米でよく見かけるもので、記念碑的建造物が見渡せる都市景観に擬せられよう。本展ではなおかつ、前景の2点と遠景の1点が、重層的に意味のある対を成すよう、選択され、組み合わせられている。

次の間の《スザンナと長老達》では、暗く沈む森を背景に、裸のスザンナを着衣の男達を取り囲んでいる。そして、壮年男性の衣料の臍脂色が女性の肌の白さを引き立てている。2点の男性裸体画と、使われている色や浅い空間、画面に対する人物像の大きさが似通っているため、無理なく調和する。それでいて、老年と壮年の男に言い寄られるスザンナは感情豊かで柔らかな肉体の魅力的な女性像として描かれているため、背面から捉えられて表情の読めないダヴィッドの男性像や、顔面が影に沈む瀕死の状態のファブルの男性像と好対照を成している。

《スザンナと長老達》に次のテーマを予感しながら部屋を移ると、入ってすぐ右脇の壁に、ダヴィッドのエポックメイキングな《ホラティウス兄弟の誓い》の水彩ヴァージョンが飾られている。その先の角を左に折れると、ダヴィッドの師ヴィアンの有名な《アモール売り》がある。古代壁画を銅版画化した作品に材を取り、ロココ風の甘やかさを残しながらも、片蓋柱のある壁で奥行を浅く遮断し、端正な線で象った女性達を横に並べた、新古典主義の息吹を感じさせる作品である。その先を左折すると、《スザンナと長老達》に辿り着く。逆に、入って左の一角に、ファブル《古代の泣く女》とグロ《浴女》が掛かる。

ここで、本章パネルの大意に触れてみよう。新古典主義は1785年以来、今日でも、ダヴィッド《ホラティウス兄弟の誓い》の男性的で感動的な気高さに、その

革新性が頂点を極めると不適切に定義されがちである。この世代は真理も高潔さも欠いたロココから離れ、古代を模倣するのではなくそこに新しい生命を吹き込んだ。経験主義と啓蒙のエネルギーが形にも衝撃を与えた。ダヴィッドの絵を初めて見た人は、英雄像の真剣で断固としたカラヴァッジョ的外見に感銘を受ける。哲学者ディドロはこの新様式を賛美する一方、自然を軽んじ古代遺物を偏愛すれば、あなた方の芸術は冷たく見える、と警告を発揮した。しかし、この新しい絵画は男性のヒロイズムと美のみを取り上げたわけではなく、女性に異なる役割を託した。ダヴィッドの作品における女性像は感情の力と魅惑する力の表象である。女性の芸術家は革命前から活躍し始め、1789年以降、その勢いは増した。

前室で、新古典主義の英雄的男性美の作例を見ることによって、その表現が自然を軽んじていたわけではなく、自然に基づく省察を十分行った上でのものであることが確認された。それ以外の点はどうか。まず《ホラティウス兄弟の誓い》が果たして英雄美のみを表現したものなのか考えてみたい。

ルイ16世の時代、1773年から91年まで王家建造物監督官を務めたダンジヴィレール伯爵は、歴史画復興のために徳と愛国心の涵養を主題とする絵画を画家達に注文しサロンに出展させた。《ホラティウス兄弟の誓い》も、その内の1点である。本作はリウウス『ローマ史』に取材したもので、ローマとアルバの争いに決着をつけるべく、前者の代表となったホラティウス兄弟が、後者の代表クリアティウス兄弟との闘いに赴く前、命を賭して戦う誓いを父に向かって立てる場面を表している。ホラティウス兄弟の長兄の妻サピナはクリアティウス家出身で、ホラティウス家のカミルラはクリアティウス兄弟の一人と婚約していることから、ホラティウス家の母は孫達を抱き寄せ、義理の姉妹は顔を寄せ合って、悲しみに沈んでいる。

この絵は確かに古代ローマの英雄を称揚するものにはある。しかし、ダヴィッドは男性のみならず女性も登場させ、左の男性群像に理を、右の女性群像に情を象徴させているように見える。しかも、フリーズ状の構図を採用して両者の占める空間を明確に分割していることから、鈴木杜幾子が近年のトーマス・プットファルケンらの先行研究を踏まえて指摘するとおり、大義と私情の優劣を判定するものではなく、両義的な絵と解することが可能なのである⁽⁸⁾。

眼を閉じてくずおれる身振りに悲嘆のほどがうかが

えるホラティウス家の女達と響き合うように周りに配された他の女性像へ眼を転じてみよう。ファーブル《スザンナと長老達》《古代の泣く女》とグロ《浴女》の女性達はいずれも、目を見開き、口を微かに開いて眉尻を下げ、悲しみや戸惑い、怯え、警戒を示している。こうした感情の力に加え、誘惑する魅力もここには具現化されている。瓜実顔の女達の長髪は輝き、体付きは柔らかく豊かで、肌はバラ色の調子を宿しているのだ。

そして次の部屋では、芸術家を中心とした若い男女の絵が並べられ、革命前後から増加した女性画家の華々しい活躍振りが紹介される。パネルには言及されていないものの、その中には、女性像へ情を、男性像へ理を象徴させる役割分担を反転した例が含まれている。

まず入って正面に、アングルの婚約者で画家のフォレスティエによるアングルの自画像の模写が掛かる。次いで、左手の壁にアングルやダヴィッド派による、彫刻家等の肖像画が並ぶ。金の耳飾り、髻の寄ったシャツ、色彩豊かなネックチーフと、三者三様の特徴的な恰好をした若い男達。あるいは固く、あるいは軽く口を閉じ、それぞれに思案顔をしている。筆触の違いにより全体の調子が異なり、目付きも異なる。個性の際立つ作品群だ。

その先に、女性画家による女性の絵が続く。一つはヴィジェールブランによる《イリスとしてのカロリーネ・フォン・リヒテンシュタイン侯妃》。もう一つは彼女の弟子でダヴィッドのアトリエに移ったブノワによる自画像である。これらの魅力的で聡明さ溢れる女性像は、先に見た個性的な男性像に比べて面相の類型化が目立つ。目が大きく、僅かに口を開いて微笑む顔は明るく、肌は滑らかで、開明的な印象を与える。前者は頬がバラ色で足も裸足であり、魅力や奔放さが色濃いつけれども、後者と同様に豊かな髪はバンドできちんととめている。両者ともに屈託のない自由な姿は明瞭な線で理想化されており、どこまでも晴れやかだ。考え深げな男達の悩みとは無縁の顔付きである。

特に注目したいのがブノワの自画像。像主の職業を示すイーゼルに置かれた描きかけの画布には、うな垂れた老人の頭半分、眉根を下げて潤んだ眼をしながら老人に寄り添う少年の頭部が見える。地味な色の恰好をしたブノワの曇り無き顔が、画中画の男達の感情に揺れる顔と対照を成す。老人と少年は明らかにダヴィッド《施しを受けるペリサリウス》の登場人物である。

恐らくブノワは、ダヴィッドが老人と少年のみを描いた個人蔵の油彩習作（1780年）の人物配置や表情を元に、リール宮殿美術館所蔵の同一主題作品（1781年）のイメージを統合させて、この画中画を描いたのであろう。女（ブノワ）が理知的で男（画中画の登場人物）が感情的なブノワ作品。《ホラティウス兄弟の誓い》に見られた男女の象徴性、すなわち男に理を、女に情を象徴させるスタイルは、ダヴィッド派の中で人物描写の性役割として固定化されたものではなかったのである。

次の主題は図録2章に照応する「夜と夢」。パネルで語られるとおり、1770年から1820年にかけて、社会には少なくとも二つの矛盾する感情が存在した。芸術家も、禁欲的で有徳であるかと思えば、快楽主義的で冷酷な顔を見せる時もあり、暗く夢幻的な表現について殆どパイオニア的と言い得る新展開を示した。ダヴィッドが後進のためにローマへの道を舗装する一方、ダヴィッドの好敵手ヴァンサンはゴシック小説に靈感を得、ファーブルはメランコリーに沈潜した。苦悩が英雄的ストイシズムを凌駕する一方、愛国的な市民や行動の賞賛に、ある種のプレロマン主義が報いる。ジロデはロンドンとローマで時代の変化を感じ取り、グロヤプリュードン、アングルを先導する。ロココの雅、すなわち明るい昼下がりの無邪気な色恋沙汰が、想像的な月の世界、すなわち暗い夜の冷たく官能的なロマンスへと作り変えられる。

理性の支配を超える眠りや無意識。死、夜、闇、内面の不可解で深遠な世界。古い、病、苦悩、愁いの生を脅かす力や、家の存続のための生殖に限られない秘められたセクシュアリテの魅力。様々な影に光が当てられる。

前半は、1点を除くとロベスピエール失墜後も政情不安定な1795年のパリのサロンの一角を見るかのようなラインナップである。理性至上主義のジャコバン派の支配する社会に徳と恐怖が共存していたことを頭の隅に置きながら歩みを進めると、まず、入って右手にジェラルール《ベリサリウス》の版画がある。前室最後に飾られたブノワの自画像の画中画と同一の主題だ。この版画は、1795年のサロンに出品された作品（所在不明）に若干アレンジを加えて作者自身が制作したレプリカに基づくものである。ビザンティン皇帝ユスティニアヌス配下の将軍ベリサリウスは、有能であるがゆえに、廷臣の讒言、皇帝の疑いによって投獄され、盲目となり、追放されて物乞いとなった挙句、かつて彼の

麾下にあった兵士に発見されて救済される。ダヴィッドの手になるリール宮殿美術館所蔵の《施しを受けるベリサリウス》では、ベリサリウスに不屈の英雄性を見出しにくく、むしろ彼に背を持たせかけた少年の方がしっかりとしており、感情を滲ませながらも盲目の主人に代わり兜を差し出して女から施与を受けている。しかし本作では、蛇に噛まれてぐったりとなった少年を、老いたベリサリウスが肩に担いで、しっかりと砂漠を歩いている。その姿は、苦境にあっても不屈の精神を持つ逞しい英雄像そのものである。ここに、先程の男女の役割の反転に続いて、老若の役割の反転が見られる。しかしながら、遠くに見える日は沈みかけており、目の見えない老人は頼りとするべき少年を頼ることもできず、砂漠の夜の寒さを思えば先行きは明るくない。遍く理性の光に照らされているはずの啓蒙主義の時代にあって、人々の手本となるべき英雄像にハッピーエンドが確約されるかわりに絶望の影が忍び寄る表現は、社会の闇、理想の限界を炙り出している。なおアングルは、1801年頃に《ホラティウス兄弟の誓い》の模写をした他、1797年頃にこのジェラルール《ベリサリウス》の部分模写も行っているものの、道徳的テーマの積極的な展開には進まなかった。「ノンボリの新古典主義」とも言われた彼にとって⁽⁹⁾、その関心はメッセージ性よりもむしろ造形性に向けられていたのかもしれない⁽¹⁰⁾。

さて、入って左の空間には、ヴィアン門下でダヴィッドの兄弟子にあたる王党派の⁽¹¹⁾ヴァンサンが描いた《ウィリアム・テルとゲスラー》と、革命思想に熱狂してはいたものの⁽¹²⁾ローマ滞在を延長していたが故にパリ帰還にあたり「逃亡者」として誹りを受ける懸念のあった⁽¹³⁾ジロデによる《アルタクセルクセスからの贈り物を拒否するヒポクラテス》が、向かい合わせに掛かる。その間の壁には先の2点とは主題の上で異質なジロデ《エンデュミオンの眠り》が掛けられている。

《ウィリアム・テルとゲスラー》と《アルタクセルクセスからの贈り物を拒否するヒポクラテス》は、共に1795年のサロンに展示された。なお、前者については、1791年に国家から注文を受けて同年以降に完成し95年のサロンに出品された作品に基づく94年頃の縮小ヴァージョンを本展では展示していた。ヴァンサンとジロデの作品は共に愛国的テーマを取り上げたものであるが、その表現は複雑だ。前者は代官の乗る護送舟から岩に飛び移ったウィリアム・テルが、その舟

を転覆させようとするものだが、テルの相貌は英知に富む正義漢というよりは憤怒の形相を呈した怪物に見える。劇的な暴力性の点で、ジェリコーを予告するブレロマン主義的な作品でもある。

後者はジロデがダヴィッド的な硬質な造形を示した作品。後に養父となる医師トリオゾンのために描いた。ギリシャの医者ヒポクラテスが、疫病に苦しむ敵国ペルシャの使者の甘言と贈り物を毅然とした態度で拒絶している。分け隔てなく病を癒す信義に反することへの躊躇いこそ見えないものの、知者は目を見開いて真正面から断るのではなく、目を閉じて使者を突き放している。ギリシャ側の空間にヒポクラテスが足蹴にする金貨の山への露骨な興味を示す男がいれば、ペルシャ側の空間に交渉の難航を見守る理知的な表情の男も見える。ペルシャ側を悪魔的誘惑者と断ずるでもなく、ギリシャ側を廉潔の士として一括りにするでもない。ペルシャの使者達の白く輝く衣装は古代の喪服に想を得たものであり⁽¹⁴⁾、その厳かな輝きと相俟って顔や身振りに悲哀を感じさせる使者の姿もある。こうした表現は、アカデミーで研究された感情の類型の描き分けの総決算であるが⁽¹⁵⁾、技術の誇示のみが目的ではなく、ヒポクラテスに苦悩のストア的克己や同胞愛を象徴させながらも、万人がこれを範とする難しさを表しているようだ。

そして《エンデュミオンの眠り》。この作品は1793年以降、数回サロンに出展されているが、95年のサロンには展示されていない。《アルタクセルクセスからの贈り物を拒否するヒポクラテス》完成の前年、1791年に描かれた。永遠の若さと引き換えに眠りに落ちた男のもとへ月の女神が夜な夜なやってくる物語に取材したもので、ヒポクラテスの絵とは主題こそ全く異なるものの、玲瓏な光と布地の曲線美への関心は共通する。

横たわる男の体のラインはなだらかで、グレコやジョルダンの青白い肢体に見られるような形の振動や色の逆りはここにはなく、一つの流れが形作られている。パルミジャーノのようなアンバランスな構造でもない。カラヴァッジョのような色の対比よりも精妙な色調が重んじられている。それは、ゲガンの評のとおり、「大理石の輪郭にコレッジョの軽やかさ」を組み合わせたものと言えるかもしれない⁽¹⁶⁾。光の取り扱いやなまめかしくも清雅な雰囲気、画面左手に舞うゼフュロスの人体表現に、ジロデがパルマで賞賛したコレッジョ《聖母子と聖ヒエロニムス、マグダラの

マリア(昼)》からの影響を見て取る向きもある⁽¹⁷⁾。

試みに、田中佳佑が読み解く15世紀後半の哲学者マルシーリオ・フィチーノの『大ヒッピアース摘要』にみえる「優美(羅gratia/伊grazia)」の存在論に基づけば⁽¹⁸⁾、エンデュミオン像には、若さによって活力を与えられた精気(魂と肉体との結び目)の流れによって輝く肉体美が表現されているとも言えようか。若い人程この精気は温かく滑らかで輝いているとされるが、エンデュミオンは眠りに落ちているから、全体の印象が冷ややかなのも頷ける。放たれる華、輝きとしての「優美」は体内で流動しているという。よって、この流動態は流麗な形の人体によくマッチする。他方、フィチーノはこの小宇宙と相似形を成す大宇宙に神々しい光の円環を認める。この光(恩寵/優美)が魂を活気付けるのだが、万物のほうにも神々しい輝きを受取るための備えがあらねばならないと述べる。その意味でも、人体の流麗な形状は神の光の受容器としてふさわしいと言えるかもしれない。

ローマ風のダヴィッド《ホラティウス兄弟の誓い》と対照的なギリシャ風のジロデ《エンデュミオンの眠り》。後者に見られるような優美さを湛える人体は、陰に陽に形を変えて社会に蔓延していく。たとえば、エンデュミオンの頭部は、先に見たジロデの友人ジェラールによる《ペリサリウス》の少年像の頭部に、ポーズと特徴の点で似通っている⁽¹⁹⁾。

隣の部屋に移ると、中央に絵画用展示台と壁が背中合わせに設えられて空間が二分されている。手前が「夜と夢」の後半である。はじめに、理性の光に照らされし明るい時代に何を憂える必要があるのか、苦悩の淵から脱出出来ない人間の弱さを描いた作品が紹介される。ジロデによる《死について考える男》と、カルパントイエやヴァンサンのメランコリーの絵だ。いずれも目元に影を宿して俯き加減の姿が痛々しい。ジロデの筋骨逞しい半裸の男性像には、石を握った右手から右腕、頭、左腕、骸骨を掴む左手へと、五角形が形作られる。周囲の空間から分離された人物は、終りなき苦悩の繰り返し、死によって終わる苦悩を想像させなくもない。他方、座る女達は、首回りや腕が露わになる上に体のラインが見え隠れする薄手の白い服を身に着けており、影のある冷たい官能性を湛えている。腕や衣服の布、カルパントイエ作品の場合は木の枝葉や髪も垂れ下がり、重力に逆らえない景物の描写が重く沈んだ人物の気分を強める。性的魅力を湛える逞しき男も美しき女も苦悩から逃れられない。理性は万能で

は無く、セクシュアリテや肉体的な力、美貌、若さも万能ではないのだ。パネルに言及されるフェアブルのメランコリーの作例はここには無いが、1章のフェアブル《古代の泣く女》を思い出すことで、感情の表出である落涙と感情の沈潜である憂愁に共通する悲哀感が増幅される。前者の残響が消えるや、音も動きも無い深刻な憂愁が胸に染み込んでいく。

そして、その先の展示台に、豎琴の上に顔を伏せて眠る老詩人の絵《オシアンの子》が飾られている。展示台は横から見るとほぼL字型の構造で、直立する部分が凹んでおり、そこに絵が嵌められている。上方にはコーニスが付いている。《オシアンの子》は、1812年にローマへ凱旋予定のナポレオンを迎えるべくパラッツォ・デル・キリナーレの寝室用に描かれたものだ。但し、ナポレオンのローマ入りは実現しなかった。

眠りに落ちたオシアンの見る夢には死の匂いが漂う。オシアンの背後にグリザイユで描かれた兵士と愛人は冷やかな官能性を湛えている。手前にはオシアンの先立った家族の姿が見え、オシアンを慰めるかのように、あるいはまた死の世界へ誘うかのように、手を伸ばしたり、近付いたりしている。本展の照明は一貫して、暗い室内にスポットライトで絵を浮かび上がらせるものであり、とりわけ2章のテーマとは、よく合致していた。その中でも最後を飾る大作《オシアンの子》は、天井のレールに付けられたライトに加えて、展示台の下突き出た部分の端に内蔵された複数のライトによって遍く照らされ、幻想的な輝きを見せていた。

《オシアンの子》の飾られた展示台の向こう側へ進むと、主題が幻想から現実へ転換されて、「イタリア遠征」にまつわる絵画が展示される。図録3章の主題に照応するものだ。1796年から1800年にかけて、フランスは政体を変化させ外征を重ねた。1801年リュネヴィルの和約によりフランスはヨーロッパの覇権を握った。この間、軍の偉業を称えナポレオンを開明的な軍神として美化する作品が量産された。オーストリア支配からの再度のイタリア解放に希望を抱いていた人々は、重税と徴兵制により政権に情動的に距離を置き始める。以上のような歴史が章パネルで語られる。

この部屋で興味深いのは、1799年にマルメゾンの城館を購入したジョゼフィーヌから、オシアン主題のジロデとジェラルルの作品を補うものとして、翌年8月に將軍の人生にまつわる逸話を表した装飾画の注文を受けて、トーネーとビドゥーが共作した、現在ミラノ・リソルジメント博物館寄託の一連の逸話画の紹介

である。1801年春にこれらを見たナポレオンは、その表現に当惑し、直ちに片付けるよう命じたともされる諸作だ⁽²⁰⁾。

《アルプスを越えるボナパルト司令官》は、華麗なる出で立ちの馬上のナポレオンが、持ち運び易いように解体された大砲の車輪を道端に置いて額の汗をぬぐう兵士の方を労うかのように振り返る場面を捉えたもので、將軍の人間味が開示されている。もっともナポレオンは実際には馬ではなくラバに乗ってアルプスを越えたというから⁽²¹⁾、像主を美化する演出も入っている。もう一つの《バール要塞の攻撃》が曲者で、要塞を遠望する道端にアルプス越えの疲れから眠りこんでしまっている小太りのナポレオンに兵士達が驚きながらも歩みを止めずに進軍する様を描いている。

他方、司令官の肖像といえ、トーネー作品におけるナポレオンの騎士的要素を飛躍させた印象もある⁽²²⁾。ダヴィッド《アルプスのグラン＝サン＝ベルナル峠を越えるボナパルト》のような、険しい道を颯爽と進む華麗なる出で立ちの馬上の英雄像がすぐに思い浮かぶだろう。あるいはまた、恐らくアッピアーニの影響を受けながらグロが描いた⁽²³⁾《アルコレ橋のボナパルト司令官》のように、髪を乱し厳しい顔付きの凛々しい武官としてのイメージを思い出す人もいるだろう。そうしたタイプの絵と趣の異なる件の逸話画は、果たして突然生まれたのだろうか。

フランスでは18世紀中葉以来、フランソワ1世やアンリ4世など過去の統治者の私人としての善さを絵画化する美術の流れが認められ、ルイ16世の時代には君主の人間性や慈悲を表す作品がサロンで展示された。この手の絵画は保守的な批評家から像主の威厳を損なうものとして非難されることもあったという。しかし、ジョゼフィーヌは、逸話的歴史、感傷的小説を好んだ⁽²⁴⁾。その趣味があったからこそ、対象を現代に押し広げたナポレオンの逸話的作品が生まれ得たのであろう。もっとも、1801年のサロンにナポレオンの逸話画が展示された時、批評家達はやはり、英雄的性質を欠く不快な凶像だと非難した⁽²⁵⁾。遠近法が弱く色彩は鈍いと断ずる様式面での批判もおきた⁽²⁶⁾。しかし、1801年以降、像主を身近な存在と感じさせ、観衆のセンチメンタリズムに訴えることで英雄崇拜を喚起する可能性をもちらむような、ナポレオンの逸話画は流行し、サロンにも重ねて出品されるようになっていく⁽²⁷⁾。

なお本展には、これらとほぼ同寸で作風の似たリソ

ルジメント博物館寄託のデュヌイ《アルプスを越えるミュラ⁽²⁸⁾》も出展されていた。両手を挙げる笑顔の男に目を遣るミュラの表情は穏やかだ。先の2点と同じく、戦時の厳しさを和らげて描いた作品である。

最後に締めるのはアッピアーニによる2点。司令官としてのナポレオンのアグレッシブで厳しく精悍な顔付きを捉えた素描と、余裕のある優美な風采への理想化が認められる油彩だ。若く志の高き武官の戦闘時と平時の姿が描き分けられている。ナポレオンをモデルとした多様な作品は次章以降も紹介されるが、ナポレオン自身が肖似性にこだわりのない人物だったゆえに、美術家達は写生的表現に限らず、ナポレオン像の造形に創意工夫を凝らした。

次の主題は図録4章に照応する「芸術の都ミラノ」。図録では図版を二つの小見出し「帝国第二の都市」「ソンマリーヴァの場合」に振り分けてあるが、会場には章解説と「ソンマリーヴァの場合」のパネルのみ認められた。入ってすぐ右脇の壁に章パネルがあるが、最初に読んでも左手の一角を回った後で読んでも、配列上の特別な仕掛けに支障は無い。章パネルによれば、ナポレオンは1797年初め、外務大臣シャルル・ドラクロワに対し、栄光の歴史を有するイタリアについて、次のように打ち明けた。「イタリアにある何もかもが革命思想に距離を置いている。」しかし、イタリアの愛国主義者にとってフランスの出現は希望の光であり、権威主義的な方針が示された後に失望する者もいれば、熱の冷めやらぬ者もいた。ナポレオンは統一を目指すかわりに一族を各国の君主に据え、イタリア王として戴冠するとイタリアのフランス化を宣言する。そして、ヨーロッパの近代性を特徴付ける、異なる文化的傾向の混交が促進された。

ここにはナポレオン一族やミラノの有力者の庇護を得た芸術家の作品がずらりと並ぶ。前半が、図録の小テーマ「帝国第二の都市」に振り分けられている作品の紹介である。ナポレオン、その妃ジョゼフィーヌの連れ子でイタリア王国副王のウジェーヌ・ド・ボアルネ、同妃、ナポレオンの弟リュシアン、の肖像画やその準備習作、肖像彫刻が飾られている。

入って正面、部屋の中央に一行に並ぶナポレオンの彫刻群を尻目に左へ折れると、白黒の版画、ペインターリーな絵画、下半分(胸、腕)を白描画風に描き上半分(顔と肩、襟)を豊かな色彩で彫刻的に描いている絵画、画中に彫刻のある絵画、浅浮彫が、順に現れる。これらを見てから、先程の彫刻群へと出戻れば、人物

のイメージが2次元から3次元へ変化していくように配列してあることに気付く。最後の彫刻が遂にはピュグマリオン神話のように実体化しやしまいか、とその先を夢想させる効果すら期待されよう。

そして、両サイドにジェラルドによる副王夫妻の一对の肖像画を振り分けた入口から小部屋に入ると、小テーマ「ソンマリーヴァの場合」が展開する。対象となるのはソンマリーヴァ父子のコレクションであると同時に、プリュードンとカノーヴァの関係性でもある。

ジョヴァンニ・バッティスタ・ソンマリーヴァはミラノ政界で長きに渡り権力を掌握した政治家であり、チザルピン共和国時代に執政官となり財を成し、トレメツティーナのコモ湖畔のヴィラを購入。イタリア共和国が成立してナポレオン大統領に次ぐ副大統領にライヴァルのメルツイ・デルリが指名されると、政界を引退してパリへ移った。伊仏を往復する生活を送り、今まで以上に芸術の庇護に専心した⁽²⁹⁾。イタリアやフランスの同時代の作家達の作品収集に対する情熱は、小テーマのパネルに引用されるとおり、スタンダールから「諸芸術の開明的なパトロン」と称えられるほど並々ならぬものであった。コレクションは息子ルイジに引き継がれた。

入ってすぐ左脇の壁を右に折れると、プリュードンによるソンマリーヴァの肖像画が掛かる。画中には像主所蔵のカノーヴァの彫刻2点が見える。開口部を挟んだ先の壁に、これと対を成すようにルフェーヴルによるルイジの肖像画が掛かる。他方、入って右脇の壁を左折すると、小テーマのパネル、カノーヴァの彫刻、カノーヴァを称える文章が続く。その角を左に折れるとプリュードン《犯罪を誅求する正義と神罰》が掛かり、更に左に折れると先程のルイジの肖像画が掛かっている。

ソンマリーヴァが好んだプリュードンとカノーヴァの作品には、すっきりとしたフォルムに軽みのある質量を感じさせる瑞々しい優美な造形が共通していると言える。両者を重ねる見方は同時代人達の間でも既に存在していた。ダヴィッドはプリュードンを「絵画のカノーヴァ」と呼んだとされている一方、考古学者で新古典主義美術の理論的指導者でもあるカトルメール・ド・カンシーはプリュードンの葬儀における弔辞の中でプリュードンとカノーヴァを結び付けた⁽³⁰⁾。

プリュードンはローマに給費留学した際、とりわけカノーヴァ、カウフマン、そしてこの二人にも影響したメングスの芸術に興味を持ち、カノーヴァ同様、冷た

く官能的な優美さの創造へ向かった⁽³¹⁾。加えて、彼はパリ時代から関心を持っていたであろうコレッジョ⁽³²⁾、すなわちメングスが優美で調和のとれた趣を学ぶ対象として勤める16世紀イタリアの巨匠への関心を強めた⁽³³⁾。コレッジョは優美を表現した画家であるが、古典主義やマニエリスム、バロックの要素を併せ持つ。このコレッジョこそ、プリュードンとカノーヴァを結び付けるもう一人の存在だ。1801年にパリで刊行されたブルーネ＝ネアゴア『フランスにおける美術の状況について、または、あるデンマーク人から友人へ宛てた書簡集』には、プリュードンに関して次のようなくだりがある。「彼は優美の画家であり、フランスのコレッジョと呼ぶ者さえいる⁽³⁴⁾。」他方カノーヴァは、例えば1800年頃以降の理想的作品《パリ》《三美神》にコレッジョの優美さからの影響が指摘されている⁽³⁵⁾。

本展に出展されたカノーヴァ作品は、1794－96年に大理石で制作されたと考えられている《マグダラの MARIA》(ソンマリーヴァ旧蔵)の石膏によるモデロで、1795年の作である⁽³⁶⁾。1808年のパリのサロンに出品された大理石像は、カノーヴァ自身による表層の仕上げと淡い色付けによる色彩表現を理解した画家にとりわけ評価され、ここに古典解説の手法としてのコレッジョ主義の道が拓かれた⁽³⁷⁾。

大理石像を「優美な形態」とするならば、石膏像は「美しき形体」と言えようか。ダヴィッドはカノーヴァの表面処理に否定的だった。ダヴィッド・ダンジェへの助言がそのことを物語る。「魅力的で勤勉な大理石像の作り手をよくみてきなさい、しかし、真似をしないように気を付けなさい、何故なら、彼の見せかけだけの気取った手法は若者をだめにしてしまうから⁽³⁸⁾。」本展では石膏像が展示されることで、カノーヴァの造形力が示されたといえるかもしれない。ただし、その素のフォルムにも、腕や脚の造形に柔らかさが見い出され、力なく座り込む姿勢に脆さがイメージされるのであって、繊細な情感を湛えるにふさわしいものではあった。また、カノーヴァの作品の中には頭部の造形が型に嵌った印象を抱かせるものもあるが、《マグダラの MARIA》の石膏像の頭部の形体は、涙を滲ませるにふさわしいものであった。そこには、健やかな優美でも甘美に近い優美でもなく、弱々しくも清らかな優美の内在を許す形が認められた。

「カノーヴァは古代ギリシャ美術を模倣しないことを恐れなかった。彼はそうする代わりに、ギリシャ人

がしたように、美を創り出した：あらゆる好きな連中には悪いけれども。」カノーヴァの造形力と形式美を肯定する評が壁にライトアップされ、観者を頷かせる。

次にプリュードン《犯罪を誅求する正義と神罰》である。1808年のサロンに出品されたルーヴル所蔵品をもとにソンマリーヴァの注文により制作された縮小ヴァージョンが本展には展示されていた。これは、空飛ぶ「正義」と「神罰」の寓意像、古代ローマ皇帝カラカラの胸像を思わせる⁽³⁹⁾「罪」の寓意像の古典主義的な形体に堅牢な美しさが表現される一方、若き犠牲者像の形態に失われつつある優美さが表現されている。犠牲者像の人体表現は、弓なりに硬化しつつある状態を示唆してはいるけれども、流れるような形態をまだ保っており、先のエンデュミオン像の延長線上にあると言い得る。色彩表現は、古典主義的ではなくバロック的である⁽⁴⁰⁾。

他方、プリュードンは同じ年のサロンに《ゼフェロスに運ばれるプシュケー》(ソンマリーヴァ旧蔵)も出展しており、そちらには流麗にして優美な形態表現が存分に示されて、プリュードン畢竟の世界が広がっている。彼は1808年のサロンで官能的な私的を描く軟派の顔と裁判所のための公的な作品を描く硬派の顔を示した。翻って、この小部屋は、カノーヴァとプリュードンの、優美さを頭の隅に置きながらもクラシッな造形性に着眼し、これを対照させるものであったように思う。

小部屋を出ると、ソンマリーヴァがドードベールとコンスタンタンに依頼して彼の所蔵するフランス絵画をエナメルで写させた細密画15点がケースに展覧される。このコレクションを通じて、いよいよプリュードンのコレッジョ的優美さが明らかになる(プリュードン《ゼフェロスに運ばれるプシュケー》《若きゼフェロス⁽⁴¹⁾》)。加えて、ソンマリーヴァの好みが一貫したもので、かつ当時の新古典主義美術に見られた一つの傾向に照応していることに気付かされる。すなわち、いみじくもマルク・フマロリが指摘するとおり、ソンマリーヴァは「フランスの『古代回帰』における優美な傾向の公式のパトロン」なのである⁽⁴²⁾。ダヴィッド主義、叙事詩的ローマ趣味の厳しさとは異質なコレッジョ主義、牧歌的ギリシャ趣味と言えような優美さを感じさせる、若い男女のはかなげでありながら瑞々しく弾力があり質量が保たれていて柔らかな陰影を宿し光り輝く甘やかな身体表現、そしてそのデフォルマシオンとも言える、流麗なフォルムを特徴とする官能

的な身体表現が揃っている。新古典主義の画家の間で流行した、若い男女の無抵抗で流れるような曲線美の系譜は、小部屋で見たブリュードン《犯罪を誅求する正義と神罰》の犠牲者像をも含むものであるが、その代表的な作品は、既に2章で見たジロデ《エンデュミオンの眠り》である。にもかかわらずソンマリーヴァのコレクションに《エンデュミオンの眠り》が欠けているのは、単にルーヴル入りを願う作者に売ってもらえなかったからに過ぎない⁽⁴³⁾。

なお、一連の細密画に示されるとおり、ソンマリーヴァはダヴィッド作品も購入していた。ブリュッセル時代に描かれた《アモールとプシュケー》だ。それは、オルレアン公旧蔵のコレッジョ《ダナエ》《レダ》を思わせる。ダヴィッドは両作品がフランス国外へ流出する前にパレ・ロワイヤルで実見するか、その版画を知っていたのであろうか。ダナエと大きなアモール、そしてレダのポーズを統合して自身のアモールのポーズにアレンジし、《ダナエ》における冷たく光る白い布の上に若い肉体が輝く官能性を受け継いでいるかのようだ⁽⁴⁴⁾。彼はベルギーへ亡命後、ロココ的なものを志向した原点に帰る、あるいは弟子達の絵に近づくかのように、形の一定の強度と硬度は保持した上で、官能的なロココの古典主義へ自ら転じたのだった。

ケニス・クラークが「水中にゆらめくように通り過ぎる銀色の光」と評した《ダナエ》独特の光は、ダヴィッド作品のみならず、ジョン・エルダーフィールドが指摘するように、ブリュードン《犯罪を誅求する正義と神罰》《若きゼフュロス》にも影響を及ぼしたのだろうか⁽⁴⁵⁾。18-19世紀初頭のフランスにおいて、一般に16世紀のイタリア絵画が好まれた中⁽⁴⁶⁾、様々な引き出しを持つ画家コレッジョは、主題によって様式を変化させエクレクチズムをも厭わないスタンスの抛り所だった。絵によって時に温かく時に冷たいコレッジョのデリケートな光が、画家達を幻惑していたとしても不思議はない。

さて、細密画の先には、ナポレオンの事績を表したアッピアーニの版画が間隔を詰めて三段掛けにより壁に整然と陳列されていた。図録では3章「イタリア遠征」に組み込まれているものだ。細密画から版画への転換は、多彩から白黒、軟派から硬派、非現実から現実への転換でもある。その前を行進し右に折れると、いよいよ展覧会前半のフィナーレである。

緋色の壁面を持つこの部屋は図録5章「一人の皇帝のための二通りの肖像」に対応するもので、図録の小

見出し「統治するナポレオン」と同題のパネルが掲げられる。既に見たとおり、1799年の第一執政就任以降、ナポレオンは美術の主要モチーフとなり、帝位に就くとその傾向に拍車がかかる。帝国の正統性を強固なものとするべく、また新しい君主への興味関心から、多くの肖像画が描かれた。中でも、荘厳なアングル《玉座のナポレオン1世》はインパクトが強い。

部屋の右上の角に設えられた壁に、《玉座のナポレオン1世》が鎮座する。その手前に6台の展示ケースが、恒星の周りの惑星か、はたまた星の光の如く放射状に並べられ、準備習作他が展示される。従って、観客はじわじわと皇帝の前ににじり寄ることになる。《玉座のナポレオン1世》の中で、鷲の模様を中心に配し黄道12球の模様で周縁を飾った絨毯の上に、黄金色の玉座が光り輝き、その上にナポレオンが座す様子と相俟って、部屋の中心を成す皇帝像が、国の中心、宇宙の中心のように浮かび上がる。神々しさすら感じさせる見事な演出だ。

パネルの解説にあるとおり、「氷のように冷たく、ハイエラティック（聖美術的）で象徴的なアイコンの率直さ」をもって、帝国の正統性の造形言語への翻訳が見事に成し遂げられている。その超然とした印象は神々や君主達のイメージと響き合う。過去の東西の君主達のイメージ、権力のシンボルが統合されていることについて、習作素描を介して順に見落とすことなく確認していける構成は、用意周到なものであった。

なお、サロンで発表された当初、ある批評家は、この肖像が「月の光で描かれているように見える」とし、「ローマを訪れ、ヴェロネーゼやティツィアーノ、コレッジョ等の肖像を見ることで多分、この画家はかつて採用していたような情感のない輪郭の浮き上がった様式から抜け出て、その色彩は温かいものになるだろう。」と非難した⁽⁴⁷⁾。この非難は、ある意味で正鵠を得ている。冷たい光が横溢し、塵一つ無く清浄な冴え冴えした空間に景物の形が際立っている。その澄みやかさが、張り詰めた緊張感を生み出している。それは、2章で見た2種類の月の光よりも一層清冽なものであり、かつ非現実の存在ではなく現実の存在を照らしている。ここに、斬新さが認められると言えよう。

図録6章「パリとローマの間のアングル」に照応する主題を掲げた次の部屋から、いよいよ展覧会は後半に入り、アングルに焦点が絞られる。図録の小見出し「青年期と修学」「ミラノ見聞」に照応する二部屋続きの展開だ。最初の部屋の章パネルでパリに来るまでの

履歴が回顧されるとおり、アングルは凡庸だが多才で芸術界に人脈のあった父ジョゼフに絵を学び、トゥールーズの王立絵画・彫刻・建築アカデミーを経てパリのダヴィッドのアトリエに学んだ。1801年フランス・アカデミーのローマ賞を受賞したものの、国家の財政難のため給費留学に旅立ったのは1806年のことだ。この部屋では、パリ時代に描かれた同郷の知己や父及びパリの仲間達の肖像画、そしてローマで描かれ修学の成果物、すなわち「提出画（アンヴォワ）」としてパリのアカデミーへ送られるはずだった裸体画が並ぶ。

まず右手に、モントーバン人、すなわちベルヴェーズ＝フォーロンと父ジョゼフ・アングルの肖像画が掛けられる。どちらも中庸で、感じが良い。留学直前の息子をパリに訪ねた1755年生まれの子の父親の肖像は、当時の実年齢には見えない若々しさを湛えている。物柔らかな落着き、雅やかな息吹に、モデルへの親近感と敬意の混ざる作品である。ロココの貴族趣味を市民化したグルーズの感性が木霊する。そして左へ進むと、ローマ時代に描かれた老人の裸体画がある。図録では同作とパリ時代の若者のトルソを見開き2頁で対比させていたが、会場ではこの古代的老人像と先の18世紀的の中年男性像、すなわちジョゼフ・アングルの肖像を対比させて、理想化の仕方の違いを示すことにしたようだ。老人像は、ローマのフランス・アカデミー院長ギヨン＝ルティエールが「歴史上の男性像」として提出画候補リストに載せたものの実際には提出されなかったもので、かつ、アングルの遺したカイエの10巻に《聖ラブル（を表した？）頭部》と記されているものではないかと考えられており⁽⁴⁸⁾、18世紀の人物を概ね写實的に描いてあるものの、頭部に現実離れた古代の彫像的造形が目立つ⁽⁴⁹⁾。

そして、突き当りの一角に、彫刻家バルトリニの肖像画とモントーバン人ジリベールの肖像画が対を成すように掛けてある。二人は共にアングルがパリで親しく交際した仲間である。これらは当時のドイツで流行した「友情絵画」に照応する作品と言える⁽⁵⁰⁾。ジリベールの絵の道具立てには自在な筆触が残る。これは、絵肌を滑らかに仕上げるアカデミズムの原則にとられないものだ。アングル自身、タッチは手わざであり、これを残すのは技巧を見せつける行為に等しいとして、良しとしなかったから⁽⁵¹⁾、例外的な表現である。一方、バルトリニの絵の道具立てや手には、ジリベールの手のそれと似たような、伸びやかで簡潔な描き方が見られる。質の違いこそあれ、どちらの描

き方も画面にカジュアルな雰囲気を与えている。このことについてダニエル・テルノフは、ジリベール作品に筆触がはっきりと残っていることを踏まえてか、「どちらもエスキース風に描かれているものの、バルトリニの方は完成まであと少し。」と評す⁽⁵²⁾。元々アングルは自画像の対作品として手許に置くべくジリベールの肖像画を描いたようだ。ところが結果的に像主が同作をモントーバンへ持ち帰ったため、これに代わる対作品としてバルトリニの肖像画を描いたようだ。こちらも結果的に像主の手に渡った。描き方の自由さには、こうした制作経緯⁽⁵³⁾も関係しているのかもしれない。景物や手が自由に描かれているのに対し、瞳を輝かせる両者の生彩に富む顔は入念に仕上げられている。彫琢されたように巧緻で密度が感じられる。それは、ダヴィッドの硬質な頭部表現をリファインして陰気な雰囲気から陽気な雰囲気へ変えたものと言えるかもしれない。《玉座のナポレオン1世》の頭部表現と似た性質を持つが、これよりは和らいだ印象を受け、そこに画家の像主との友愛、作品の私的性質を認めることが出来よう。

次の部屋は奥に細長く、左にアングルがイタリア各地で描いた女性達の素描を掛けていた。図録8章の小見出し「通行人」に分類されるものである。背景色には緋色を採用していた。精妙な素描肖像画の名手アングルにしては描き方が簡略で、覚え描きの作品ばかりだが、明るくて健やかな女性の印象を軽やかに描きとめた表現には、いつもとはまた別の魅力が宿っている。彼の最初の妻の従姉妹でローマに暮らす女性とその子供を描いた油彩習作も展示されていた。突き当たりの壁に図録6章の小見出し「ミラノ見聞」と同題のパネルがあり、その末尾に、「また、ダンテの国がそれをもって既によく知られていた美しき女達の魅力が注目されずに終わることは無かった。」と補筆されていたから、図録の章を越える展示は織り込み済みだったのだろう。

そして右に、アングルがパリからローマへ給費留学に向かう途中、立ち寄ったミラノで描いたのではないかと考えられている、建築物や美術品（ルイーニ《天使に運ばれる聖カタリナ》等）の素描が掛けられていた。背景色はグレーである。

パネルで語られるとおり、1805年6月12日ミラノのドゥオーモ（大聖堂）でイタリア王としてナポレオンが戴冠する前から、ミラノは変貌の途上にあり、繁栄を謳歌していた。フランス帝国の衛星国としての

イタリア王国成立後、ミラノはナポレオニック・ヨーロッパ第二の都市として、記念碑的な門を始めとする建造物が次々に建てられ、道路も整備された。それらはスタンダールによって、パリよりも清潔、と称えられた。加えて、緑地が造成され、公共彫刻が隆盛した。ブレラ美術アカデミーは公式に国立となり、学生向けのコレクションが各地の教会等から集められた美術品により一般向けに大きく拡充されて、建物の中にブレラ美術館が発足し一般公開される。ナポレオンは国民公会時代にはじまる各政府の方針を受け継ぐ芸術の取奪者であったかもしれないが、美術品をあくまで外交的取引の道具ないし国の威光を高める手段と考えていたようである⁽⁵⁴⁾。僅かな名品で居城を飾ることもあったが⁽⁵⁵⁾、都市に図書館や美術館があるべきだと考え、市民の教養を高めて文化的な生活を保障するべく環境整備を推進したのも事実だ。ナポレオン美術館長就任後より貪欲に美術品の取奪、パリへの移送を皇帝へ提案し始めたドノンも、皇帝自身が王となった後のイタリアの美術品に手を付けるには深慮遠謀が必要であったか、ブレラ美術館の作品とナポレオン美術館の作品を交換するという形を踏むこともあった⁽⁵⁶⁾。中央集権や教会等からの取奪への非難も当然であろうが、その結果、一大コレクションを擁するに至ったブレラ美術館は、今日でも人足が絶えない。加えて、戴冠の直前に、何世紀にも渡って作業が継続していたドゥオーモのファサード完成を指示し、新たに税を課したにせよ1813年これを実現させたのもナポレオンであった⁽⁵⁷⁾。

この部屋で不意を衝かれたのは、アングルがドゥオーモを描いた素描の隣に空の額縁様の造作物が設えられ、そこから窓越しに実際の姿が見えるように仕組まれていたことだ。宮殿建築の窓からドゥオーモの南側面が見える立地を見事に生かし、実景を絵画に見立てる手法は、詠嘆を誘うものであった。似た発想は、足立全康が足立美術館の建物の壁に穴をあけてそこから見える庭園を絵画に見立てた「生の掛軸」「生の額絵」に見られる。しかし、本会場では既存の窓の手前に壁を設けて穴をあけ、額縁様の造作物でこれを縁取り、ドゥオーモを見通せるようにしてあり、建物自体の壁は保全されている。加えて、アトラクションを強調するような説明は何もない。そのさりげなさが、展覧会の品格あるテイストを損なわずに観客へ気分の高揚を静かに齎す。実に粋な計らいだった。

次の部屋には、図録7章「アングル、カロリーヌ& ジョアシャン・ミュラ」に付随する小見出し「オダリ

スクと眠れる女」のパネルが掛けられて、アングルのヌードへの情熱が示される。図録8章の小見出し「果てし無きヌード」に振り分けられた作品が統合されている。ナポレオンの妹カロリーヌとその夫でナポリ王ジョアッキーノ1世となるジョアシャン・ミュラの芸術の庇護者としての事績を振り返るものでもある。ミュラ夫妻はアングルをはじめ、ローマ在住のフランス人画家のサークルと密接に結び付き、これを庇護した。前の部屋から続く右手の壁にパネルと作者不詳のジョアシャン・ミュラの肖像画が掲げられ、入って左手に広がる逆Uの字型の空間に、親密な裸体画が展示されていた。

中心を成すのは3点の油彩画。奥のアプス状のスペース中央に壁を設えて《グリザイユによるオダリスク》を掛け、そこからハの字型に広がるように2つの壁を設えて、画中の裸婦が近似性を示す《眠れる女》と《ゼウスとアンティオペ》を左右に振り分ける。なお、これら3点の背景色はミュラの肖像画のそれと同様に緋色にしてある。《眠れる女》の左横から入口に向けて、《眠れる女》と関連する素描を壁やケースに展示し、《ゼウスとアンティオペ》の右横から出口に向かう壁に、完成まで数十年を要した果てし無きヌード《ヴィーナス・アナディオメネ》《トルコ風呂》の準備習作を展示する⁽⁵⁸⁾。

ジョアシャン・ミュラが1809年にローマで初めて購入したアングル作品は、横たわる裸婦を前から捉えた《眠れるナポリの女》である。ナポレオンの百日天下が終焉し、その影響がナポリに及んだ1815年頃の混乱の中で、同作は失われたと考えられている。そのイメージを1820年頃にアレンジしたのが、先の《眠れる女》だ。一方、カロリーヌは《眠れるナポリの女》と対を成す作品を求めて、アングルに後ろから見た横臥裸婦の絵を注文した。これがルーヴルの《グランド・オダリスク》である。本展にはグリザイユで描かれ、画家の手許に終生残されたメトロポリタン美術館のヴァージョンが展示された。

《眠れるナポリの女》、《眠れる女》、そして《ゼウスとアンティオペ》のアンティオペへと変奏されていく横臥裸婦の造形的源泉の一つと考えられているのが、ティツィアーノ《アンドロス島のバックス祭》の前景に見える裸婦像。ラファエロの優雅に加えてティツィアーノの艶にも興味を抱いたアングルは、《アンドロス島のバックス祭》の作者不詳の部分模写を所蔵していた。この模写と、《眠れるナポリの女》の準備習作

を比べてみると、肘を曲げて頭の後ろに右腕を回すポーズが共通しているものの、左腕のポーズは変えられ、更にもう1本、腰にのびる右腕が描かれている。腕が3本あるのだ。本展には更に、アングルが1832年に描いた素描の《眠れるナポリの女》も展示されている。次から次へと姿かたちを変えるヴァリエーションの展開には、発想の豊かさと形への執念がうかがえる。

右壁にはまず、フィレンツェのパトロンのために描き始められた《ヴィーナス・アナディオメネ》のための準備習作、すなわち、上半身、胸部、乳首、下半身をそれぞれ描いた素描がモンタージュのように掛かる。細部の分析の連続である。その隣に、一時期ナポレオン3世の従兄弟ナポレオン王子が所有した有名な《トルコ風呂》のための油彩習作が見られる。先に見た《眠れるナポリの女》の準備習作と同様、裸婦には腕が3本ある。このように分析された様々な断片が数十年の歳月をかけて総合化されていくのである。

この部屋全体で感じたのは、セザンヌやピカソに通じるアングルの近代的な造形思考だ。実際、パラッツォ・レアーレ館長のドメニコ・ピライナは図録の巻頭挨拶の中で、セザンヌについて、「印象派の画家達による形の溶解の後に、単純化して強固にしたフォルムの構造を取り戻すのに、アングルに負っている」と述べるのみならず、1905年のサロン・ドートンヌにおけるアングル回顧展に展示された《トルコ風呂》とピカソの初期の代表作の一つ《アヴィニヨンの娘達》(1907年)の関係にも触れている⁽⁵⁹⁾。

《トルコ風呂》の準備習作に見えるまん丸い顔、丸っこい体付きには、形体の単純化、変形が見て取られる。こうした女性像を緊密に配置したトンド形式の《トルコ風呂》には、セザンヌやピカソのコンポジションに対する意識を先取りするものがある。一方、オダリスクの背中のデフォルマシオンは、マニエリスムの感覚を思い出させるものであるけれども、アングルは裸婦の体のラインとカーテンの曲線を繋ぐことで流麗な構成美を生み出し、全体の均衡を図っている。ピカソは1907年、《グランド・オダリスク》を簡略に模写しているが、その関心は専らフォルムと構成に向けられている。本展は、ルーヴル美術館の色彩豊かな《グランド・オダリスク》ではなくメトロポリタン美術館の《グリザイユによるオダリスク》を展示することで、エキゾティシズムよりもむしろ人工的なフォルムの明晰な造形性に観者の意識を集中させる。アングルは、現実の美を強化して第二の自然を生み出す術を心得ていた。

あるいはまた、人体やその周辺の道具立てを借りて現実の美を装いながら、抽象絵画に通じる形式美を追求していたとも言える。古典主義の理想化は、抽象化に通じるところがあるのだ。

最後の主題は図録8章に照応する「鷺の墜落後のアングル」である。図録の小見出しは順に「ラファエロとの出会い」「物語の絵画」「通行人」「果てし無きヌード」の四つであるが、前二つの諸作をここで紹介する。《玉座のナポレオン1世》の画中の絨毯にも織り出されている「鷺」は、1804年7月27日以来、フランス帝国の徽章(エンブレム)であったから⁽⁶⁰⁾、「鷺の墜落」とは言うまでもなく、1815年のナポレオン1世の失権と帝政の崩壊を指す。帝政末期から崩壊後のアングルの活動はいかなるものであったか。

本展で取り扱われるのは物語性のあるトロバドゥール風絵画と宗教画等である。トロバドゥール風絵画とは、章パネルに語られるとおり、社会的影響力のあったナポレオンの周囲の女性、すなわち妻ジョゼフィーヌと実妹カロリーヌ・ミュラの好みによって19世紀初頭より流行し、帝政崩壊後の王政復古期もルイ18世に受容されて延命したもので、その取材対象は主に中世から16・17世紀に及ぶ。「偉大なる画家」による啓蒙主義的な歴史画の主流に対し、魅力的な傍流ともいえる新傾向の物語画である。帝政期の絵画が現代史の記録画へ偏ることを危惧したドノンも、逸話的な絵画の制作を画家達に奨励したことが知られている⁽⁶¹⁾。

アングルは、画家や詩人、芸術を庇護した王侯の生活を主に取り上げた。その中には、彼が最も尊敬し、私淑したラファエロの伝記も含まれる。アングルは主題をラファエロ伝に求めるのみならず、ラファエロの優雅な様式から影響を受けた。《聖ペテロに天国の鍵を渡すキリスト》《ルイ13世の誓い》等のキリスト教主題の絵画には、ラファエロを思わせるところがある。

前の部屋から続く壁の奥に章パネルがあり、その先の角を左折するとラファエロの自画像のアングルによる模写、そして《聖ペテロに天国の鍵を渡すキリスト》がある。入ってすぐ左脇の壁と、その突き当りの角を折れて右方向に続く壁に、トロバドゥール風絵画と準備習作が並ぶ。そして、部屋の中央に斜め向きに面状の仮設壁と連子状の仮設壁が平行に設えられており、手前の片面に《ラファエロとラ・フォルナリーナ》と関連作品、奥の両面に《聖ペテロに天国の鍵を渡すキリスト》関連の作品が掛けられている。

手前のトロバドゥール風絵画から見ていくと、イタ

リアの世知に長けた作家アレティーノの生涯に取材した《アレティーノと神聖ローマ皇帝カール5世の使者》が本展唯一の水色のバックパネルで引き立ててある。そして、フランス王アンリ4世にまつわる二つの逸話やダンテ『神曲』の登場人物パオロとフランチェスカを主題とする一連の絵画のための準備習作が続く。なお、カロリーヌ・ミュラも「パオロとフランチェスカ」主題の絵を注文した一人である。最後に、フランス王フランソワ1世に庇護された芸術家の臨終の場面を描いた《レオナルド・ダ・ヴィンチの死⁽⁶²⁾》が紹介される。2019年はレオナルド没後500年を迎える節目の年であったから外せない作品である。いずれも赤や褐色が主調を成す温かみのある雰囲気の中に青や黄を差す独特の色合いで、人間臭い情景を濃密に創造した作品だ。人体表現に優美への接近は見られるものの、なよやかさや甘美への退廃を感じさせるところはなく、ラファエロ作品と同様に形に張りがある。糖衣をアーモンドにかけたドラジェのように、コーティングの下に核があるのだ。他方、芝居がかった身振りを示す登場人物はどことなく糸のないマリオンネット人形を思わせ、空想的な印象を与える。美粧の裏に、デ・キリコの像をイメージさせるような、現実離れた匂いが嗅ぎ取られる。そのテイストが、史実の記録性ではなく虚実絢交ぜの伝説的逸話感を醸し出すのに役立っている。

そして、図録では小テーマ「ラファエロとの出会い」に振り分けられているラファエロ関連の作品。幾つか同名異作が知られる中、オハイオのコロンバス美術館が所蔵する1848年の《ラファエロとラ・フォルナリーナ》が展示されていた。一連の油彩のための1813-14年頃の準備習作も並ぶ。ラ・フォルナリーナの長い首、なで肩、猫背気味の幾分アンバランスなマニエリスムの表現は、オルセー美術館所蔵の《パフォスのヴィーナス》を予告するものと言えるかもしれない。しかしその頭部はラファエロの頭部に支えられることで危なげなく落ち着いている。

最後に、ローマのトリニタ・ディ・モンティ教会のために描かれた《聖ペテロに天国の鍵を渡すキリスト》。準備習作、弟子による部分的模写、造形の源泉の一つと考えられている版画も紹介される。本作を見れば、アングルがイタリアでラファエロの作品に接し、その優雅なスタイル、清らかな調和を学びつつ、目の覚めるような色と明晰な形で、世俗的かつ現代的な聖像を艶やかに創作したことがよくわかる。この系列の《聖杯の前の聖母》が、オルセー美術館常設展の最初

のセクション「アングルとアングル派」に含められたことからわかるように、この種の明るい宗教画は、近代の幕開けを告げる新しい精神性を具えた絵画であり、世俗化・現代化された宗教画であり、古典主義的写実主義の作例である。それらは、2章で見た暗く冷たい官能とも4章で見た優美な官能とも異なる、また王権が強まり人間と神の世界が近付いたバロック期宗教美術の進るような官能とも異なる、晴れやかで開明的な近代市民の健やかな官能を匂わす作品なのだ。

ここで驚かされたのは、完成作と関連作品の展示方法である。完成作の前に一定の距離を置いて、垂直の棒を5本連ねた連子状の仮設壁を設け、その両面に関連作品を固定しているのだ。その手前側に立てば、完成作と準備習作等を同一視野の中に収めることができる。なおかつ、完成作の部分と準備習作等の全体の間を行きつ戻りつして比較考察する場合も、視線の移動が最小限で済むように、位置関係が完璧に計算されていた。不透明な壁ではなく透明な強化ガラスに展示することで作品が宙に浮いているようにみえる展示をブラジルのサンパウロ・アシス・シャトーブリアン美術館が行っており、作品の周囲が空漠である点こそ共通するが、この空漠を利用して、素描の前の空間と後ろの空間を連続させ、素描と完成作を比較させる、機能的で重層的な展示は、これまでに見たことも聞いたことも無い。棒と棒の間から完成作を覗き見る形をとることで、誰もが注意深く観察してみようという気にもなる。格子越しに見ると言っても、ヨーロッパの教会では美術品の前に保全や宗教的理由から格子が設けられていることもあるので気にならない。そもそもここでは、格子の裏へ回り込んで完成作の前に立つことも出来るのであって、キリストは字義通り「解放」されている。

最初の部屋で、王党派支持者とされる⁽⁶³⁾ファールがミラノ生まれと伝承される古代ローマの殉教者を描いた《聖セバスティアヌス》を見た。本作の制作年は奇しくも1789年、革命の年である。ここに、反革命、キリスト教擁護の隠されたメッセージ性を認めるには精査が必要だ。いずれにしても、革命後キリスト教は受難の時代を迎える。この受難の時代はナポレオンによって終止符を打たれ、続くルイ18世の時代にカトリックは勢いを盛り返した。しかし本展の最後の部屋で紹介されるアングルの宗教画は、決して古色蒼然とした復古調に徹したものではなく、ラファエロを温めながらも新味を出したものである。低い位置に据え付

けることで現前性が強められている《聖ペテロに天国の鍵を渡すキリスト》。絵の前に立てば、今まさにキリストと対峙しているかのような感覚に陥る。聖なる作品世界と俗なる展覧会場の連続性は、何よりもまず、明るく親しみ易く美しい現実を強化した、世俗的・現代的であると同時に聖性・古典性を保持する、パラドクシカルな古典主義的写実主義の様式美そのものに負っていた。

おわりに

美術史の巨匠の展覧会で作品をどう見せるか。この問題は、費用と効果、興行性と学術性、親しみと洗練の相克の中で決定されていったのだろうか。同時期にパラッツォ・レアーレの地上階で開催されていた15世紀イタリアの画家の19作品を集めた個展「アントネッロ・ダ・メッシーナ」に行列が出来ていたのに対し、本展は、同じ階の隣で開かれていた、かのスタジオ・アズーロとトレッカーニによる先鋭的な「レオナルド、想像上の機械」展と同様、混雑していなかった。しかし、ある時代の立体的な絵巻としての本展の完成度の高さには目を見張るものがあり、とりわけ展示施工は圧巻だった。コッラード・アンセルミは室内装飾にも大きな業績を残している。その良き趣味が遺憾なく発揮された本展は、絵画を知的に愉しむ工夫に富み、部分（展示品）と全体（空間）を調和させることに成功していた。すっきりとした、緊張感のある雰囲気には、新古典主義美術の端正な様式美に通じるものすら感じられた。作品選定の意を汲み、作品を人に見せる、作品で人を魅了するための、完璧な演出、洗練された空間造形。見れば見るほど、順路や配列に隠された意味が浮き上がって奥深く、かつ見る者が主体的に考えることで広がりが出る。作品の選択と配置、展示空間の演出、パネルによる問いかけと補足的説明を周到に仕上げ、新古典主義再考という大きく複雑な問題を上手く処理していたように思う。イタリア新古典主義を紹介する展覧会は過去にもパラッツォ・レアーレで開かれてきた⁶⁴⁾。その流れに沿いつつ、フランス新古典主義の雄アングルと同時代美術の意義を問い、イタリアとの密接な繋がりをも明らかにするべく、展覧会監修者と学術委員会が導き出した最適解としての「アングルとナポレオン時代の美術活動」展。それは、キュレーション側の面々や芸術家達とのダイアローグの連続であり、対位法と和声法を両立させた音楽のように鑑賞者の胸に響くものだった。

註

- (1) Edición a cargo de Vincent Pomarède y Carlos G. Navarro, *Ingres* [cat.exp.], Madrid: Museo Nacional del Prado, 2015.
- (2) A cura di Stéphane Guégan, Florence Viguier-Dutheil, *Jean Auguste Dominique Ingres e la vita artistica al tempo di Napoleone* [cat.exp.], Venezia: Marsilio Editori® s. p. a, 2019.
- (3) 図録に登録されているのは107件だが、cat.42の作品は展示されていなかった。なお図録に、同作品は状態が悪いため未陳と記されていた。ibid., p.130.
cat.30のアップアーニによる版画は、会場では全35点展示されていたが、図録では12点のみ図版が収録されるにとどまっている。なお、12点の内《ナポレオンのミラノ入場》については、全体図は掲載せず、部分図のみ巻頭の見開き一杯に掲載してある。ibid., pp.10-11, 106-111.
- (4) Anonym, "Jean-Auguste-Dominique Ingres: La Vita Artistica al Tempo dei Bonaparte", <https://www.napoleon.org/en/magazine/whats-on/jean-auguste-dominique-ingres-la-vita-artistica-al-tempo-dei-bonaparte/> (2019年11月21日アクセス)。
- (5) 拙稿「アングル展」『愛媛県美術館平成27年度年報・研究紀要第15号』愛媛県美術館、2017年、85-94頁。
- (6) 2017年1月2日から休館し、2019年12月14日にアングル・ブールデル美術館と改名して新装開館。
- (7) ジャン・クレイは、ピエール・シュブレイラスをダヴィッド派の先駆者とし、本展に展示されたダヴィッド《男性裸体像、またはバトロクロス》やシュブレイラスの諸作の中に、人体構造へ干涉し堅固な肉体を与える幾何学的要素の内包を認めている。ジャン・クレイ著、高階秀爾監訳『ロマン派』中央公論社、1990年、30-31頁。
- (8) 鈴木杜幾子『画家ダヴィッド 革命の表現者から皇帝の首席画家へ』晶文社、1991年、105-106頁。
- (9) フレデリック・ハート著、中川見訳『美術：絵画・彫刻・建築の歴史』下巻、明治書院、1982年、310頁。
- (10) ジェラルド《ベリサリウス》の部分模写に象徴されるアングルの彫刻的様式の探究とその後の展開については次の文献を参照。Edited by Gary Tinterow and Philip Conisbee, *Portraits by Ingres: Image of an epoch* [cat.exp.], New York: The Metropolitan Museum of Art, 1999, p.28.
- (11) *Prix de Rome En Peinture*, Breinigsville: Books LLC, 2010, p.157.
- (12) 島田紀夫監修『南仏モンベリエ フェーブル美術館所蔵 魅惑の17-19世紀フランス絵画展』[展覧会図録]、読売新聞東京本社、2005年、62頁。
- (13) Sylvain Bellenger, *Girodet 1767-1824* [cat.exp.], English edition, Paris: Éditions Gallimard/Musée du Louvre Éditions, 2006, p.224.

- (14) *ibid.*, pp.220, 222.
- (15) *ibid.*, p.222.
- (16) Guégan, Viguier-Dutheil, *op. cit.*, p.78.
- (17) Bellenger, *op. cit.*, p.210. ジョン・エルダーフィールドもここにコレッジョの優美な官能性を認めている。Text by John Elderfield, Drawings Selected by Robert Gordon, *The language of the body : drawings by Pierre-Paul Prud'hon*, New York : Harry N.Abrams, 1996, p.21.
- (18) この段落で示す試論は次の文献に多くを負った。田中佳佑「フィチーノ『大ヒッピアース摘要』にみる優美の存在論」『新プラトン主義研究』第12号、新プラトン主義協会、2013年、29 - 38頁。
- (19) Anonym, The description of 'Belisarius' in a magazine advertisement by Stair Sainty, London, *The Burlington Magazine*, June 2019, London : The Burlington Magazine Publications, p. XIV.
- (20) Philippe Bordes, *Jacques-Louis David : Empire to Exile* [cat. exp.], New Haven and London:Yale University Press, Williamstown : Sterling and Francine Clark Art Institute, 2005, p.32.
- (21) 鈴木、前掲書、184頁。
- (22) フィリップ・ボルドは、ダヴィッドがトーネーとビドゥーによる《アルプスを越えるボナバルト司令官》を確実に見ていたと考えている。Bordes, *op. cit.*, pp.32-33.華麗な軍服を着て馬に乗る帯剣貴族然としたナポレオンのイメージ作りや、大砲を運ぶ兵を周囲に配する発想は、ダヴィッド《アルプスのグラン＝サン＝ベルナール峠を越えるボナバルト》に影響を及ぼしたのかもしれない。
- (23) Guégan, Viguier-Dutheil, *op. cit.*, p.94.
- (24) Bordes, *op. cit.*, p.33.
- (25) *ibid.*, p.32.
- (26) Guégan, Viguier-Dutheil, *op. cit.*, p.97.
- (27) 1801 - 12年の間に制作されたトーネー作品以外のナポレオンの逸話画については次の文献を参照。鈴木杜幾子『ナポレオン伝説の形成—フランス19世紀美術のもう一つの顔』筑摩書房、1994年、121 - 127頁。1810年のサロンに出展されたラーン《ヴァグラムにおけるナポレオンの1809年7月5日から6日にかけての夜の野営》について鈴木杜幾子は、「焚き火のそばの小さな椅子に掛けたまま仮眠する皇帝を、そのタフネスに賛嘆の表情を浮かべた側近たちが取り囲んでいる場面」と解説している。同じ戦時の眠りを描いているにせよ、トーネー作品は、昼間の進軍の最中に眠るナポレオンに向けられた兵士の顔に驚きの表情こそ与えているものの賛嘆の表情は与えていない点で、ラーン作品とは異なっている。当時は様々な逸話画の展開が見られたようだ。
- (28) マルメゾンの城館のリノベーションを担当した建築家フォンテーヌは、同作の主人公をミュラではなく第一執政ナポレオンだと考えていたようである。Bordes, *op. cit.*, p.32.
- (29) ソンマリーヴァの履歴については次の文献を参照。Francis Haskell, "More about Sommariva", *The Burlington Magazine*, October 1972, London : The Burlington Magazine Publications, pp.691-692.
- (30) Sylvain Laveissiere, *Pierre-Paul Prud'hon* [cat.exp.], New York : The Metropolitan Museum of Art, 1998, p.315, note.14 for Chapter 2.
- (31) *ibid.*, pp.50-51. Elderfield, *op. cit.*, p.16.
- (32) Laveissiere, *op. cit.*, p.13.
- (33) Elderfield, *op. cit.*, p.16.
- (34) Laveissiere, *op. cit.*, p.17, note. 16 for Introduction.
- (35) Giuseppe Pavanello, "Canova, Antonio", *The Dictionary of Art*, vol.5, New York : Grove's Dictionaries Inc., 1996, pp.629-630.
- (36) フランコ・ボゲッロはジュゼッペ・パヴァネッロの研究に基づき大理石像の制作年を1794 - 96年、石膏像の制作年を1795年頃としている。なお、本稿では後者の制作年を本展図録に準拠して1795年と表記した。Franco Boggero, "Una rilettura critica del Canova : la «Maddalena penitente»", *Arte Lomvarda*, Nuova Serie, No.55/56/57, 1980, Milano : Vita e Pensiero, p.387. Guégan, Viguier-Dutheil, *op. cit.*, cat. 44.
- (37) Guégan, Viguier-Dutheil, *op. cit.*, p.119.
- (38) Hugh Honour, "Canova's Studio Practice— I : The Early Years", *The Burlington Magazine*, March 1972, London : The Burlington Magazine Publications, p.159.
- (39) Laveissiere, *op. cit.*, p.227.
- (40) エルダーフィールドは、ルーヴル所蔵品にバロックの画家としてのコレッジョからの影響を指摘すると同時に、優美な新古典主義美術からの影響を認め、空飛ぶ「正義」と「神罰」の寓意像とフラックスマン、「犯罪」の寓意像とカノーヴァ、犠牲者像とジロデ《エンデュミオンの眠り》、ファーブル《アベルの死》を比較する。加えて、ウォルター・フリードレンダーが指摘するとおり同作における古典主義とコレッジョの合成がカラッチを思い起こさせると注記する。Elderfield, *op. cit.*, pp.34, 211, note 94. なお、本作にはもう一つ、習作段階で不採用となった構想《テミスとネメシス》があった。シルヴァン・ラヴェイシエールは、その一連の素描習作について、浅浮彫になぞらえた上で、テミス（正義の神）とその従者の彫刻的な像を古典主義の伝統に属するものとし、群像の静けさをブッサン《ソロモンの審判》と比較する。加えて、ネメシス（神罰の神）の造形的源泉としてラファエロ《神殿から追われるヘリオドロス》に描かれている天使を挙げる。Laveissiere, *op. cit.*, p.222.
- (41) ラヴェイシエールは前者について、光を浴びて腕をあげた裸体のアイディアに似たものをコレッジョ《ユピテルとアンティオペ》の中に認めると同時に、ゼフェュロスの足の表現をコレッジョ《ユピテルとガニューメデス》からの引用と考える。そして何より、フォル

ムをソフトな明暗の配合の中に溶け込ませる光こそコレッジョに負うものとする。ibid., p.242. 加えて、後者について、輝きを帯びた量感表現とソフトな影の描写にコレッジョからの影響を指摘すると同時に、1812年にパリで見ることのできたカラヴァッジョ《勝ち誇るアモール》の構図からの影響を認める。ibid.,p.251.

(42) Bellenger, op. cit., p.66.

(43) ジロデはこの絵をナポレオンの兄ホラント王ローデウエイク1世(ルイ・ボナバルト)にもソンマリーヴァにも売らず、サロンへ繰り返し出展。最終的にルイ18世の時代に国家の所蔵となり、リュクサンブールで保管されていたが、ジロデの死後、ルーヴルへ移管された。ibid., pp.206, 213.

(44) ルチア・スキアンキは《ダナエ》に、カノーヴァの人体表現や新古典主義的な人物配置を先取りする要素を認めると同時に、いつもの黄金色の光に比して氷のような冷たい本作固有の色調が17-18世紀の多くの絵画のモデルとなるとしている。ルチア・フォルナリ・スキアンキ著、森田義之訳『コレッジョ』東京書籍、1995年、68頁。なお、《アモールとプシュケー》のプシュケーの横顔を、ナポレオン美術館に所蔵されていたコレッジョ《聖母子と聖ヒエロニムス、マグダラのマリア(昼)》のマグダラのマリアのそれと重ねて見る向きもある。Bordes, op. cit., p.236.

(45) Elderfield, op. cit., pp.39-40. クレイも、《犯罪を誅求する正義と神罰》の犠牲者の身体に降り注ぐ光をコレッジョ風と評している。クレイ、前掲書、117頁。

(46) 鈴木、1991年、前掲書、288-289頁。

(47) Rédigé par Lise Duclaux, Jacques Foucart, Hans Naef, Maurice Sérullaz et Daniel Ternois, *Ingres* [cat.exp.], Paris : Réunion des Musées Nationaux, 1967, p.32. なお、月光を思わせる冷たく澄んだ光は、キリストの人性を表すとも、反映(反省)による認識、すなわち理性的な認識のシンボルともされる「月」のイメージを、新興君主に纏わせるのに有効と言えるかもしれない。同時に、太陽の光の受け手としての月のイメージを、神々や過去の君主達の威光の受け手としてのナポレオンのイメージに重ねるのに有効であるかもしれない。拙稿「J.-A.-D.アングルの肖像画-構成要素の造形的照応とその機能に関するノート-」『愛媛県美術館研究紀要』第3号、愛媛県美術館、2004年、17-18頁、註48。

(48) Georges Vigne, *Ingres*, New York : Abbeville Publishing Group, 1995, pp.68,322, note 1 for CHAPTER III.

(49) ダニエル・テルノワは、様式化された髻と頭上を覆う布に古代的性質を感じ取っている。Duclaux, Foucart, Naef, Sérullaz et Ternois, op. cit., p.64.

(50) Tinterow and Conisbee, op. cit., pp.35-36.

(51) 鈴木杜幾子編著『アングル』講談社、1997年、103頁。

(52) Duclaux, Foucart, Naef, Sérullaz et Ternois, op.cit., p.38.

(53) Tinterow and Conisbee, op. cit., pp.35-36.

(54) 鈴木、1991年、前掲書、285-286頁。

(55) 前掲書、331頁。

(56) 前掲書、314-315頁。

(57) ジョルジョ・カッラドーリ著、池田美幸訳『ドウオーモ ミラノのカテドラル』ステッツァーノ：有限会社NOUS、2012年、12頁。

(58) ヴァレリー・バジューによれば、《ヴィーナス・アナディオメネ》の制作期間は1808-48年、《トルコ風呂》の制作期間は1848-64年である。Valérie Bajou, *Monsieur Ingres*, Paris : Société Nouvelle Adam Biro, 1999, op. cit., n^{os} 201,233.

(59) Guégan, Viguier-Dutheil, op. cit., p.9.

(60) J.P. ベルト著、瓜生洋一・新倉修・長谷川光一・松蔦明男・横山謙一訳『ナポレオン年代記』日本評論社、2001年、53頁。

(61) 鈴木、1991年、前掲書、308頁。

(62) この主題は古くから好まれていた。例えば、ルイ16世の王家建造物監督官ダンジヴィレル伯爵は1780年に「フランスの歴史」シリーズを企画し、その内の1点としてパリ市役所の装飾用にメナジョへ「レオナルド・ダ・ヴィンチの死」を主題とした絵画を発注。完成作は翌年のサロンに展示された。同作については次の文献を参照。野口榮子『デイドロと美の真実-美術展覧会「サロン」の批評-』昭和堂、2003年、83-97頁。

(63) Laure Pellicer, "Fabre, François-Xavier, Baron", *The Dictionary of Art*, vol.10, New York : Grove's Dictionaries Inc., 1996, p.726. なおファーブルは、本展の「芸術の都ミラノ」(図録4章に照応)の部屋に《リュシアン・ボナバルトの肖像》が展示されたとおり、ナポレオン一族の肖像も描いた。

(64)「イタリアにおける新古典主義、ティエポロからカノーヴァへ」展、2002年3月2日-7月28日。「皇帝の宮廷におけるカノーヴァ、サンクトペテルブルク・エルミタージュ所蔵の傑作」展、2008年2月23日-6月2日。

補遺

参考資料として、本展リーフレット（伊・英）掲載の英語による案内文を以下に訳出する。

「ジャン・オーギュスト・ドミニク・アングルは、分類するのが難しいけれども、ラファエロの後継者であると同時にピカソの先駆者であり、おおよそ美しき形の巨匠と形を否定する巨匠の間に位置すると考えることもできようが、何よりも重要なことに一人の『革命家』である。写実的でマニエリスム的なアングルは、誇張された表現と写実主義への情熱が非常に魅力的である。フロランス・ヴィギエ＝デュティユのキュレーション、権威ある国際的な学術委員会のサポートによる大きな展覧会がイタリアで初めて彼に捧げられる。これは、150点を超える作品を紹介するもので、この偉大なるフランスの画家の絵画と素描が60点を占めている。それらは世界の大コレクションの幾つか、すなわち、ニューヨークのメトロポリタン美術館、オハイオのコロンバス美術館、ロンドンのヴィクトリア&アルバート美術館、ルーヴル美術館、オルセー美術館、軍事博物館、パリ市立ブティ・パレ美術館、モンターバンのアングル美術館－多くの絵画はこれらから来ている－、さらには、ブレラ美術館やミラノ近代美術館、ブレシア市立美術館のようなイタリアを代表する幾つかの美術館と個人コレクションから、国際的に貸し出されて、集まったものである。本展は、ジャック・ルイ・ダヴィッドやアントニオ・カノーヴァ、ジャン・オーギュスト・ドミニク・アングルをチャンピオンとする新古典主義の時代にヨーロッパ近代を特徴付けた、異なる傾向の驚くべき混交によって形成されている。同時に、この展覧会は、アングルの様々な斬新さと、いわば『不屈の若さ』を、19世紀の転換期の美術活動の中に蘇らせることを目的とする。特にミラノはこの頃に起きた政治と芸術の再編成に関して、鍵となる役割を果たした。未曾有の繁栄期においてミラノは、新しいブレラ美術館をはじめ、記念碑や緑地、社会基盤施設などができて、大きく変貌した。イタリアの美術家達も、作業・建設の現場の波に乗れないわけではなかった。絵画のアッピアーニ、彫刻のカノーヴァは、ボナパルト支配に完全に依拠する美術振興の方針の大きな恩恵を受けた。同時に新しい個人のパトロンの行動力も、これと同様に重要である。その筆頭は、『皇帝とその家族に次ぐ最も重要なパトロン』と定義出来るジョヴァンニ・バッティスタ・ソンマリーヴァである。アングルは、これらの交差する物語に欠かせない役を担っており、近代ヨーロッパは彼を抜きにして理解出来ない。この展覧会では、オダリスクの画家アングルを近代性という点で帝政期及びその前後の美術活動におけるキーパーソンたらしめている非常にイタリア的な性質が明らかにされる。本展は、ミラノ市文化局、パラッツォ・レアーレ、チヴィタ展覧会・博物館会社によって企画・運営されている。」

参 10 : 17 ~ 18 頁

参 11 : 19 頁、裏見返し (奥付)

参 12 : 裏表紙

参7: 11～12頁

参8: 13～14頁

参9: 15～16頁

参4:5~6頁

参5:7~8頁

参6:9~10頁

参考 『5人の片眼の兵隊』
(久保貞次郎旧蔵、一九五六、個人蔵)

参1：真鍋博エッチング（旧表紙カ）、扉（奈良原一高写真欠）

参2：1～2頁

参3：3～4頁

図 18
『5人の片眼の兵隊 (奈良原 A 本)』(1956、個人蔵)

図 19
『5人の片眼の兵隊 (奈良原 B 本)』(1956、個人蔵)

図 12
『5人の片眼の兵隊（奈良原 B 本）』（1956、個人蔵）

図 13
真鍋博《こん虫》（1956、当館蔵）

図 14
『5人の片眼の兵隊（奈良原 B 本）』（1956、個人蔵）

図 15
『5人の片眼の兵隊（奈良原 B 本）』（1956、個人蔵）

図 16
『5人の片眼の兵隊（奈良原 A 本）』（1956、個人蔵）

図 17
『5人の片眼の兵隊（奈良原 B 本）』（1956、個人蔵）

図 9
「表紙」(『5人の片眼の兵隊(奈良原 A 本)』1956、個人蔵)

図 10
「扉」(『5人の片眼の兵隊(奈良原 A 本)』1956、個人蔵)
写真部分は ©IKKO NARAHARA

図 11
「扉」(『5人の片眼の兵隊(奈良原 B 本)』1956、個人蔵)
写真部分は ©IKKO NARAHARA

図7
真鍋博「表紙エッチング」(『5人の片眼の兵隊 (久保本)』1956、個人蔵)

図8
《(包帯人間)》(制作年未詳、当館蔵)

図 1
「グループ「実在者」結成通知」
(1955、愛媛県立図書館蔵)

図 2
「グループ「実在者」退会通知」
(1955、愛媛県立図書館蔵)

図 3
「カバー」(「5人の片眼の兵隊(久保本)」1956、個人蔵)

図 4
「奥付」(「5人の片眼の兵隊(奈良原 A 本)」
1956、個人蔵)

図 5
「奥付」(「5人の片眼の兵隊(久保本)」
1956、個人蔵)

図 6
「奥付」(「5人の片眼の兵隊(奈良原 B 本)」
1956、個人蔵)

と宣言することができる、私は絵画を通して時代に参加している」と語っている。

- (29) 真鍋博「イラスト・エッセイ」二 この美術の秋(『PL』一九七四年十二月号、四十四頁)。「プリントアート」第4号(一九七二年三月)においても、プロフィールの師事した人の項に宮本の名前を真鍋はだしている。

- (30) 前掲(26)一四五〜一六頁において、真鍋は当時のことを以下のように回想している。「だから「実在者」のときに、みんなからぼくは総スカンを食って、刀で斬りつけられたようなものだね」。

- (31) 「グループ「実在者」退会通知」(一九五五、愛媛県立図書館蔵、S104372712)。

- (32) 『真鍋博日記一九九六年一〜六月』(愛媛県立図書館蔵、S104346100)。なお堀内康司については、堀内美智子監修『堀内康司の遺したもの』(二〇一三、求龍堂)を参照した。

- (33) 真鍋博「ひかり」のなかで「装幀自評」(『波』Vol.21 No.11、一九八七年十一月号)。

- (34) 真鍋博「週刊新潮掲示板」(『週刊新潮』一九九三年一月七日新年特大号、一七九頁)。

- (35) 池田満寿夫「真鍋博のコンバクトされた世界」(『真鍋博 Original 1975』一九七五年、講談社)。

- (36) 『池田満寿夫詩集』(一九七九、水兵社+深夜叢書)一八二〜三頁。

- (37) ただし、前掲(36)に詩文部分のみ掲載されている。

- (38) 前掲(20)一〇〇頁が簡潔にまとめているように、池田満寿夫と久保貞次郎の間には深いつながりがあった。例えば池田の最初の色彩銅版画集を久保は五部購入している。こういった関係性のなかで久保が本書を所蔵していたのであろう。

- (39) 少なくとも池田は、奈良原が複数冊を所有していると考えていた。少し長くなるが引用してみたい。「この「実在者」は六ヶ月も続かないうちに解散してしまったが、そのあとに真鍋博と一高と私とで一冊の奇妙な詩画集をつくった。今では誰れも見ることの出来ない詩集「五人の片眼の兵隊」がそれである。オートマチズムによるシュールリアリズム調の詩文を私が書き、オリジナル・エッチングと挿画とレイアウトを真鍋博がし、オリジナル写真を一枚扉に張りつけたものだが、このオリジナルは一高の写真であった。本文と挿画はガリ版の十数ページにも満たない薄っぺらな詩集で、全部で三十部位しか刊行しなかった。(中略)数年前、ある必要にせまられてこの詩集が入用だったが、真鍋博も私自身も一部も手元に持っていなかった。「高だつて持っていないだろうと思ひ、それでも念のために聞いてみると驚くなかれ二冊もちゃんと保

管してあったのだ。二冊見たわけではないが一冊を気前よく私にくれるというので、もう一冊

自分で持っていない限りそんなに気前いいはずがないという私の推量に他ならない(池田満寿夫「I K K Oと私」(『六月の風』No.16、一九七六、UnacTokyo、六〜七頁)。

- (40) 奈良原一高『太陽の肖像文集』(二〇一六、白水社)八十八頁。

- (41) ここにはタイトルとともに以下の文章が記されている。「オートマチズムによる詩・池田満寿夫／表紙エッチング本文構成・真鍋博 写真・奈良原一高／A5版 40部限定 本文タイプA 版 250円／泰山堂／中央区日本橋本町1-3 (2A) 0826」。

- (42) 「年譜」奈良原一高編『奈良原一高の宇宙王国』朝日新聞社、一九八三)。

- (43) 前掲(36)一八三頁。

- (44) 前掲(26)一三九頁。

- (45) 『多摩美新聞』No.1、一九七七年六月二十一日

【註】

- (1) 谷川俊太郎「愛媛の昔語りについて」(『新聞紙名不明』一九六〇年十一月十六日、510418269)。
本註において用いる十桁の番号は、愛媛県立図書館の資料コード番号である。なお以下の引用における傍線は全て筆者によるものである。
- (2) 『真鍋博展』図録(東京ステーションギャラリー他、二〇〇四) 一六二〜七頁。
- (3) 真鍋博「オヤジ 趣味の人」『芸芸春秋』一九八六年二月号、二六二頁。富太郎が助役であったことは、『別子山村史』(愛媛県別子山村、一九八二)二八六頁に詳しい。
- (4) 三枝佐枝子『日本の母たち』(一九七三、中央公論社)二七九頁。母親である喜美江については本書が詳しい。
- (5) 前掲(3)参照。真鍋富太郎については、真鍋喬編『父・真鍋富太郎』(一九七一)がその制作物なども含めて掲載している。
- (6) 真鍋博「西高、80周年に思うこと」『樟樹』Vol.8 一九九七、三頁。
- (7) 「賞状」愛媛県立図書館蔵、510436128)。愛媛県立図書館が所蔵する真鍋博コレクションは特別取扱資料として公開されている。ただ本稿で用いた資料のなかには、個人資料として一般公開を制限しているものがある。
- (8) 『小磯良平・オリゾン洋画研究所再考』展図録(新居浜市美術館、二〇一七)参照。
- (9) 『西澤富義―オリゾン洋画研究所』展図録(新居浜市立郷土美術館、一九九五)。小磯への興味は晩年になっても持ち続けており、小磯の没後(平成四年)に設立された神戸市小磯記念美術館を真鍋は平成五年(一九九三)十二月二日(木)に訪れている。『真鍋博日記一九九三年』愛媛県立図書館蔵、5104346062)。
- (10) 多くの文献が彼を多摩美術大学油画科の出身としているが、正式には多摩美術短期大学の美術学部絵画科である。大学名の表記については真鍋自身が一番気にしていたようで、自らの個展を池田二十世紀美術館において開催するにあたり、多摩美術大学の森信という人物に確認をとっている。「卒業時の大学名のご助言いただき、ありがとうございます。図録も会場の略歴もすべて、現多摩美大にしました」(『真鍋博日記一九九六年一〜六月』一九九六年五月十九日、
- 愛媛県立図書館蔵、510436100)。ただし、昭和五〇年には多摩美術大学大学院デザイン専門課程グラフィックデザイン専攻に入学し、その二年後に修了しているので、最終学歴は多摩美術大学大学院となる。
- (11) 「第一回真鍋博個展」略歴(一九五四、愛媛県立図書館蔵、5104336123)。
- (12) 「真鍋博個展(チラシ)」(一九五五、愛媛県立図書館蔵、5104336097)。
- (13) 土方定一「美術団体の自己告白」『毎日新聞』一九五六年十月十三日)。
- (14) 奈良原一高「太陽の肖像文集」(二〇一六、白水社)二十六頁。初出は、「ある未知への発端」(『アサヒカメラ』一九六〇年十一月号)。
- (15) 前掲(11)参照。
- (16) 「グループ「実在者」展 テーマ「戦争」(作品目録)」(一九五五、愛媛県立図書館蔵、5104336614)。
- (17) 「グループ「実在者」結成通知」(一九五五、愛媛県立図書館蔵、5104372700)。
- (18) 前掲(16)参照。
- (19) 本日記は旧池田満寿夫美術館が所蔵していたものである。当館には、宮澤壯佳(旧池田満寿夫美術館館長)から送られた該当頁の複写物が残っており、今回はそれを使用した。現在の所在の有無などについては未だ確認はとれていない。
- (20) 宮澤壯佳「池田満寿夫―流転の調書」(二〇〇三、玲風書房)八十五〜六頁。
- (21) 舟木日夫「展覧会評七・八月」(『アトリエ』No.34、一九五五年十月)。
- (22) 藤井昇「実在者グループ展」(『美術批評』一九五五年九月号、五十九頁)。
- (23) 『二紀会五〇年史』(財団法人二紀会、一九九八)一九一頁。
- (24) 「グループ「実在者」の立場から」(『美術批評』一九五五年十二月号、五頁)。
- (25) 「グループと既成団体」(『芸術新潮』第七卷第一号、一九五六年一月、十六〜七頁)。
- (26) 「池田満寿夫グラフィティ」(一九七七、潮出版社)一四二頁。
- (27) http://www.oraritarisovory.org/archives/av-o-interview_01.php「幾帳オーラル・ヒストリー」(二〇一一)。
- (28) 真鍋博「個展を前に」(『愛媛新聞』一九五六年二月七日)において、彼は「私はここではっきり

る。奈良原B本は、久保本の十五頁にあたる文章が別の印刷紙を切り貼りしたも
のになっている。内容やテキスト構成に関して異同はない。

そして十七頁から最終頁にいたるまでは(参10-11)、奥付をのぞいて、全ての諸
本が同様の展開をみせる。

このように三種類の『5人の片眼の兵隊』を比較検討すると、それぞれの版で
大きな違いのあることが分かる。初版本である奈良原A本とそれ以外に違いがあ
るのももちろん、後刷本である久保本と奈良原B本の間にも大きな隔たりがあっ
た。池田が「これ(註…)『5人の片眼の兵隊』は全部手作りだからね(註44)と
述べている点とも矛盾しない。

もちろん、奈良原B本を本当に販売用として真鍋が考えていたかは慎重に検討
しなければいけない。コラージュに強い興味をもっていった真鍋とはいえ、B本だ
け完成度が諸本と大きく異なっている。頁構成を大胆に変更していくなかでの試
し刷りのような存在である可能性も高い。そういったものであれば、初版本であ
るA本とともに奈良原が私蔵していた経緯も領けるのではないだろうか。

いずれにせよ、この三種以外の更なる諸本が発見されることにより、初めて明
らかなる点は未だ残されている。特に、「別刷15部限定」の表記が存在しない、
純然たる十六部再販本の発見を俟たなければ分からない部分も多い。今回の新出
資料を基軸としつつも、様々な視点から研究がなされるべき作品ではないだろう
か。

五. おわりに

真鍋が結成に関わった「実在者」は、先鋭的な油彩画グループであった。フォ
ラム画廊を中心として行われた展覧会は、河原温(一九三二―二〇一四)をはじ
めとした同時代の若い画家に大きな影響を与えた。

しかしながら皮肉なことに、真鍋は「実在者」に所属することにより、逆に油

絵の世界から距離をおくことになった。そして、「実在者」のメンバーと制作した
『5人の片眼の兵隊』のデザインセンスが認められ、イラストの世界へと足を踏み
入れはじめた。

後年、彼は母校のインタビューに対して以下のように答えている。「僕は絵って
のは、絵を通して発言することだと思っていたわけですよ。従来の展覧会に疑問
を持ち、コミュニケーションの方法として非常に閉ざされていると考え、もっと
多くの人に、安く、観てもらえるものというので油絵からイラストにかわった」註
45)。

イラスト・油絵・漫画・アニメーション、どんなジャンルにおいても彼の初期
作品は深淵で先駆的であった。ただ、それをひとりで深く突き詰めていくことに
彼の興味はむかなかった。真鍋にとって、描くことはその行為だけで完結するも
のでなかつたからだ。絵画は、社会との接点であった。

そして、「実在者」という極めて限定的で前衛的な活動を通して、真鍋はそういっ
た自らの性質に気付き始めた。SFブームや博覧会ブームといった社会的機運の
なか、「イラストレーター」の第一人者へと彼がのぼりつめていくことができたの
は、このような若き日の葛藤の賜物であった。

本稿をなすにあたっては、下記の諸氏に種々のご協力をいただいた(敬称略、
五十音順)。石崎三佳子、蝦名則、菅春二、葛谷典子、故奈良原一高、奈良原恵子、
真鍋真、山田和子、柚山紀子。また愛媛県立図書館の皆様には数多くの資料を出
納していただいた。末筆ではあるが、心より御礼申し上げます。

り抜きが存在しない点である。奈良原B本も久保本と同じ後印本であるわけだが、そこには大きな違いのあることが分かる。つまり、両方の見返し部分には形式的に九月二十日発行と記されているものの(図5・6)、十六部(もしくは十五部)を一度に刷ったのではなく、試行錯誤を繰り返しつつ、その都度印刷していたのではなからうか。

この推測は、次の九・十頁の内容からも裏付けることができる(参6)。久保・奈良原A本ともに画面右上から画面左下にかけて、「事に盛られた地図のしみの栄養価を不安ならたらしい性欲との交叉にエレベーターから降りた通訳のあばた面を愛ぶしたその腕を根元から切断するテロリストの干た息づき」が莫進する無人電車の点滅するスポットライトを血だらけ」の詩文が配される。そして十頁には一枚の写真が印刷され、ナメクジのような三つの物体が白と黒の線の合間から頭をのぞかせている。これは、真鍋の作品と関連深いものと推測される。例えば、銀座の松村画廊において一九五六年二月二日から七日まで開催された、真鍋の第三回個展「昆虫」に出品された《こん虫》(図13、当館蔵、油彩・布)という作品。こちらにも同じような物体が四角の枠組みのなかに描かれている。

その一方、奈良原B本の同頁(図14)は、無地の紙の中心に「しみの栄養価を愛ぶしたその腕を根」の文章が横一直線に配されるにとどまっている。ちなみに「根元」の「元」を刷り忘れていた。そして次の見開き頁(図15)において、先程の後半の文章である「から切断するテロリストの干た息づき」が莫進する無人電車の点滅するスポットライトを血だらけ」がフォントの大きさを変えつつ画面下部にかけて不規則に配されている。久保・奈良原A本では二頁で終わらせていた場面を、奈良原B本では四頁かけて処理していることが分かる。このため、B本のみが、諸本より二頁多い全二十一頁となっている。

十一頁から十二頁にかけては左下に赤い丸玉が配され、その周りに三つの文章が印刷されている(参7)。「な食欲で吸収した零時21分の会議室では16人目

の私生児を殺すことも出来」、「ない部屋の中に拡がる限の砂漠でぶつかり合いなから見上げた空にわくテープの幻影」、「と切れた列が歩き出した溝の」である。頁をわたって印刷されている「ない部屋」の一文ではあるが、諸本によってレイアウトが異なっている。まず久保本は、十二頁の右部分に若干のスペースがあり、「限の砂漠……」と続く。一方、奈良原A本を確認すると、「拡がる」の後に「無」の一字が入っていることが分かる(図16)。初版本では頁をまたいでいた「無限」という単語を、分かりやすさを重視し、後印本では一頁に入れ込もうと考えたのだろう。ただ、久保本ではその「無」を刷り忘れてしまったため、意味の通らない文章になっている。

この二頁に関しても、大きな違いがあるのは奈良原B本である(図17)。まず「な食欲で」から始まる最初の一文が久保・奈良原A本では時計回りに傾いているのに対して、奈良原B本では反時計回りに傾いている。テキストの段落替えの場所などは奈良原A本と同じではあるものの(図16)、そもそもこのテキストは本書に直接印刷されたものではなく、別の印刷紙を切って貼りこんだものになっている。そして、左下に配されていた赤い丸玉も本バージョンでは削除されている。

十三・十四頁に関しても久保本と奈良原A本には異同はない(参8、図18)。一方、奈良原B本の頁構成は大きく異なっている(図19)。文章の内容は同じであるものの、これも書籍に直接刷られたものではなく、別紙に印刷したものを時計回りに傾けて貼り付けている。そして丸や三角などで構成された白黒の図が削除され、そのかわりに久保本の十頁に印刷されていた図版(参6)が用いられている。

次の十五から十六頁にかけては文章が配される(参9)。これはふたつのテキストが交差したもので、ひとつが十五頁の左上から右下にかけての「哄笑の連発と過ぎ去った鉛色の金鉞を内含した婦人の靴下がめりこむ下水道に浮ぶラジオが未開人の踊りにまぎ」という一文。もうひとつが十五頁の中央右から十六頁の左下にむかっつての「れこんだ非常に新しい発明家の帽子から人間の顔の昆虫が飛び出す時間に恐るべき倦怠が犬と一緒に地面をほう夏の黒い手形が躍るタイトル」であ

チングには「1/15」というエディション表記がなされており(図7)、表記ミスとも考えにくい。十日の十二部、二十日の十六部とは別に、新たに十五部を増刷したのではないかと現段階では考えている。もしこの推測が正しいのであれば、全体で四十三部が発刊されたことになる。この数字は、「真鍋博作品展案内葉書」(一九五六年九月)に掲載された、本書の刊行予告とも遠くはない(註41)。

いずれにせよ、この発行日時を基準に考えると、初版として印刷されたのが奈良原A本、増刷にあわせて発行されたのは久保本と奈良原B本となる。

それでは具体的に中身を見ていこう。今回は久保本を二十七頁以降に全頁掲載している、その頁展開にあわせて、諸本との違いを指摘していきたい。

まず初版と増刷版で最も異なっているのが、表紙の存在である。奈良原A本(初版本、図9)のみ、表紙として真鍋のエッチングが本書のタイトルや著者表記とともに掲載されている。エッチングの大きさは九・六×二二・八cm。「表紙エッチング・フォトモニタージュ・本文構成・真鍋博」と記されており、本書のデザインを真鍋が全面的に担当していたことが分かる。久保本にもそれに対応すると思しき真鍋のエッチング頁が現存しているもの(参1右)、タイトルデザインは省略されており、もはや表紙としての機能を果たしていない。

なお真鍋が描いている包帯人間についてだが、本図に類似した作品が当館に収蔵されている(図8)。人物の配置場所は本書の挿図を反転したようなもので、包帯を巻いた頭部のない三人の人物が描かれている。部屋を想起させる空間づくりも同様である。何らかの紙媒体に掲載した挿図の原画と考えている。本作の制作年については未だに明らかにできていないものの、こういった題材に真鍋が強い興味を抱いていたことが分かる。一九五五年の第三回ニッポン展にも、真鍋は《繻帯をまいた人》(所在不明)という油彩画を出品している。

そして次に扉が挿入される(参1左)。画面上部に「5人の片眼の兵隊」と記されており、画面下部には「鉄の華・奈良原一高」とある。久保本の空白となっている部分には、この写真が貼られていたと考えられる。実際、奈良原旧蔵本には、

ともに写真作品《鉄の華》が貼られている(図10・11)。写真の大きさは九・九×七・一cm。初版本である奈良原A本のキャプションは再版本と異なっており、「写真・奈良原一高」となっている(図10)。初版時には作品タイトルが決まっていなかったであろう。「奈良原」の「原」の文字の上には紙を貼って修整を施している。ちなみに、この《鉄の華》は奈良原一高について考える際にも重要な作品である。彼の極めて初期の作品であり、このプリントについて彼は以下のように述べている。「僕が『鉄の華』と題した写真を扉にはりつけた。思えばそれが僕の最初のオリジナルプリントだった。長崎の港のあたりを散歩していて、偶然置き忘れられたような船のイカリを目にした。夕日をあびた鉱物質の形態が大変気に入って撮った」(註42)。

一頁目には、三角形に描かれた建物のなかから腕の突き出た図が挿入されている(参2)。これも真鍋によるものである。奈良原A・B本はともに本紙に直接刷られているが、久保本だけは別の紙に印刷した同図を本紙に貼りつけている。

二〜六頁までは諸本とも異なる(参2・4)。二頁から始まる池田満寿夫の詩文は『池田満寿夫詩集』に全文が掲載されているので、本稿では部分的に引用するとどめる。なお、「バラの中の海の太陽がまた、く白い空気が怯える電気冷いらセン形の女の子……」というように、この詩自体に明確な筋立ては存在しない。池田自身も本詩について「オート・マチズムの実験詩である」(註43)と述べている。

七から八頁は見開きとして頁が構成されており(参5)、「弾の様な速さのハンマーの音で目を醒した一人の指導者は朝の食」という詩句が斜めに配される。八頁の左上は不規則な七角形の形に切り抜かれており、十頁に印刷された写真の一部をのぞき見てとることができる。奈良原A本はテキスト・デザインの両面で久保本と変わりはないが、奈良原B本と比較すると、ふたつの相違点を見つけることができる(図12)。まず、久保本では九頁に挿入されている「事に盛られた地図の」という一文が既存の詩句の最後に追加されている点。二点目は、八角形の形の切

詩を彼がレイアウトしイラストレーションをつけて自家版として刊行したのがきっかけだったように思う。5人の片目の兵隊^(註2)と名づけられたその詩集は三十部ほどガリ版タイプで印刷された。刊行は一九五五年である。一冊二百円で数冊売ただけで、いつの間にか人にくれたりしたあげく、刊行者の真鍋博の手元にも私の手元にもなくなってしまった。結果はさんたんたるものだったが真鍋博は印刷とレイアウトに対する関心をこの時から持ちはじめたようである。そしてこの詩集の奇抜なレイアウトのセンスが詩の雑誌「ユリイカ」の編集者の目にとまった。(註35)

Vの「5人の片目の兵隊」は当時、実在者、という生意気な絵画グループを、真鍋博、アイ・オー、堀内康司、等と結成していた頃の遺物である。真鍋博が私のノートに書いてあった詩に注目し、自家出版しようと、彼自身のレイアウト・印刷・挿画で、数十部刊行された。特製は真鍋博のオリジナル・エツチングの表紙、奈良原一高の手焼きの扉写真が入っていて、確か二十八部出した。二百円位だったように思う。これも私自身、持っていないくて、原本は奈良原一高から借りた。オート・マチズムの実験詩である。なんの反響もなかったが、このレイアウトと挿画だけがユリイカの馬場氏に認められ、真鍋博はユリイカの表紙を担当するきっかけになった。彼はそれから急速にデザイナーの道に入っていく。刊行は五六年である(註36)。

池田が指摘するように本書は、真鍋がデザイナーとしての道を進んでいく端緒となった作品であった。しかしながら発行部数の少なさもあいまって、制作に関わった本人たちにとっても稀少本であったことが分かる。このような状況ゆえに、本書は今までに紹介されたことが一度もなかった(註37)。

今回の調査を通して確認できたのは三冊。全てが個人蔵本であり、一冊は美術評論家・久保貞次郎(一九〇九〜一九九六)の旧蔵品(註38)。他二冊は奈良原一

高の旧蔵本である。奈良原は本書を意図的に収集していたようで、ある時点では三冊所蔵していたと考えられる(註39)。

本書は基本的に紙に刷られたものだが、後述するように、諸本で様々な試みを行っており、書籍というよりは手製の冊子の感が強い。実際、この三冊のなかですら、タイプグラフィは大きく異なっている。

外寸は一八・九×一三・五cm。「5人の片目の兵隊」というテキストが斜めに入った見開きの紙がジャケットカバーの役目を果たしており(図3)、そのなかに本紙が収められている。三冊とも無綴。記述の煩雑さを避けるために、本稿では久保旧蔵本を久保本、奈良原旧蔵本のうち出版日時の早い方を奈良原A本、もう一冊を奈良原B本と表記する。全十九頁。ただし後述するように、奈良原B本だけはレイアウトが大きく異なっており、全二十一頁である。

本書の最大の問題点は、発行された日時と出版部数が不明瞭な点にある。前に引用した真鍋や池田の文章を見ても、「二十何部」、「二十数冊」、「三十部ほど」、「確か二十八部」と揺らぎがある。奈良原一高は、最も多い「限定五十部」と記録している(註40)。

三冊ともに裏の見返しに発行年が記されているため、その部分を確認すると以下のことが分かる。版元は東京都中央区日本橋本町一―三に居を構えていた泰山堂。一九五六年九月一日に印刷し、十日に十二部を発行している。奈良原A本は、そのなかのエディクション九番(図4)。そして、久保本(図5)と奈良原B本(図6)の見返しを見ると、同月の二十日に別刷として十六部を発行していることが分かる。池田が「確か二十八部」と述べたのは、初刷りの十二部と別刷りの十六部を足した数字なのであろう。久保本がそのうちのエディクション一番、奈良原B本がエディクション九番である。

疑問が残るのは、この部数表記の更に下の部分に、久保・奈良原B本ともに「別刷15部限定」という記述がある点だ。この「15部」というのが、さきほどの十六部の単なる誤記なのかは判断し兼ねる。ただ、久保本に収録された真鍋のエツ

よくがイラストの仕事をするきっかけをつくってくださったのは、宮本先生である。油絵科を卒業して油絵だけを描いては、とても生活できないので、カットやさし絵を描きたい、どこでもいいから紹介して下さいとお願いすると、先生は即座に朝日新聞と文芸春秋に紹介状を書いて下さった。そして一カ月後には両者にカットが載ったのである(註29)。

大学在学中より、真鍋を積極的に援助してくれたのが、二紀会を設立した宮本三郎(一九〇五―七四)であった。こういった関係性ゆえに出品を断ることもできず、真鍋としてはグループ「実在者」に所属しながらも団体展に主品し続けるという苦渋の決断をくだしたのではないだろうか(註30)。

いずれにせよ、こういった価値観の違いがもとで、真鍋は実在者を脱退する。愛媛県立図書館には、真鍋が脱退を告げた一枚の葉書が現存している。そこには簡潔に「このたび、グループ「実在者」を退会いたしましたのでお知らせいたします。／十一月十二日／真鍋博」と記されている(図2、註31)。

一九五五年の三月頃から始まった「実在者」での活動は、約九カ月という短い期間で終わりをつけた。喧嘩別れのような形でグループを去ることになった真鍋ではあるが、この時代の友情は後年になっても続いていた。例えば、一九九六年に真鍋が池田二十世紀美術館において個展を開催した際には、以下のような手紙を池田満寿夫に送っている。「オーブニングの帰り、宮沢壮佳(註・田池田満寿夫美術館館長)さんと一緒に小田原まで帰り、車中で「池田さんも来て下さる予定だった」とときき感謝しています。堀内康司くんは、都内にポスターを十枚はってかれて、若い時の友情をあらためて感じています。美術館の開館をたのしみに行っています」(註32)。実在者に在籍していた池田満寿夫へ個展の招待状を送り、堀内にいたっては展示の広報活動を手伝ってくれたというのだ。

グループ「実在者」は、画法や思想だけではなく、人間性の面でも若き日の真鍋を間違いなく形成した。しかしながら、そういった団体活動には満足しきれな

い彼の性質こそが、より多くの鑑賞者を獲得できるイラストへと活動媒体を移行させていった理由の根幹にはある。

四.『5人の片眼の兵隊』

実在者とともに歩んだ九ヶ月のなかで、彼は多くの油絵を制作した。その関係性の終着地点が、イラストレーターとしての彼の運命を決定づけた『5人の片眼の兵隊』という書籍である。本書は、真鍋自身にとっても転換点となる、思い入れの強い作品であった。発行部数の少なさから真鍋の手元にも残らなかった同書を、後年の彼は数十年間にわたり探し回っている。

「五人の片目(つゝ)の兵隊」は、池田満寿夫の詩にわたしの銅版画、奈良原一高の写真を入れたものだが、限定二十何部ということもあって十五万円、知人が神田で見つけて連絡してくれ、二、三日たつて行ったら、もう無かった(註33)。

三十六年前に作った詩画集を探しています。『五人の片目(つゝ)の兵隊』というもので、一九五六年に二十数冊発行しました。残念なことに現在、私の手元には一冊もありません。もし、どなたかお持ちの方は、譲って頂きますと、大変幸いです。今まで私が関わった約二千点ほどの本を、郷里である松山の愛媛県立図書館に寄贈しました。そこでこの詩画集も寄贈したいと考えております。(イラストレーター)(註34)

結果的に彼は本書を手に行き届かなかった。本書の詩文を担当した池田満寿夫も同じ状況で、彼はこの本の存在を以下のように語っている。

彼が最初にデザインらしきものを作成したのは、おそらく私の自動記述的な

フォルム●画廊が僕等の作品でうづまる。堀内の180号、120号2点の超大作。真鍋の120号、100号3点の力作。鬚嘔の50号のヒマワリ。ほかの「共同墓地」50号「真昼の不安な行列」50号、「不安な上陸」150号変形、「不安な三人の人物」30号「不安な行列」15号、それにデザイン3点。

まさに暴力的な作品群に福島氏は動いた。

予想していた不安感はいっぺんにすつ飛び、大成功の瞬間が待っていたのだ。総ては決定した。

即ち「実在者」第一回展は6月28日～7月2日までに開きいされる様になったのだ。河原温となら原さん阿部も来ていた。

○本田克己さん是不参加。これで彼の対態度は決定した訳だ。脱退するように話がきまる。

鬚嘔をまじえて、「実在者」の格にとらわれないでぼくらの運動を広範囲なものにするためにいろいろ話し合う。ぼくは「実在者」にまだとらわれていたが、やっとな気が確定した。

「戦争」展が開催される約二ヶ月前の五月に、彼らは美術評論家・福島繁太郎（一九五〇～一九六〇）の主催していたフォルム画廊において事前の発表会を行った。そこで展示されていた作品群に福島が感銘を受け、六月に「戦争」展を行うことが決まった。その際、当初のメンバーであった本田克己が脱会し、その代わりに鬚嘔がグループに参加することになった。

紆余曲折のなかでグループ「実在者」は立ち上げられたわけだが、その後の展開は極めて速いペースで進んでいった。七月の第一回「戦争」展の一カ月後の八月八日から十三日まで、彼らは第二回のテーマ展「無人間時代」を松村画廊において開催する。真鍋も《埋設工事》、《都市》、《製造者》、《企業》、《幸福》という連作「変貌」を同展に発表するなど（註20）、グループは順調に成長を重ねていく。「最

近の若い新人たちの傾向の中でも、最も年令の若い、尖鋭なグループ」（註21）、「今日的な問題の提出と、新しい動きの萌芽の兆しの一端を感じる」（註22）というように、グループの鋭い感覚が高い評価を受けたのだ。

しかしながら、十月に入り事態は急変する。真鍋が第九回二紀会展（十月二日～二十六日）に《セイブツ（人間）》（当館蔵）を出品し、二紀賞（絵画部）を受賞するとともに同人に推荐されるに至り（註23）、グループ内での軋轢が生じ始めたのだ。「ぼく等」（註24）「実在者」の紛争の直接的動機は君（註25）「真鍋」の二紀会展出品であり、同人推荐であり、君の団体展に対する意識と行動であった（註24）というグループ内からの批判に端を発した問題については、『芸術新潮』がその背景を含めてまとめているので、以下に引用する（註25）。

グループ・実在者のメンバーの一人、真鍋博士が三十年秋の第二紀会展に出品、その力量を認められて同人（会員）に推荐されたが、実在者は既成美術団体を否定する立場にあったため、真鍋氏と他のメンバーと対立、数回の話し合いの結果、ついにタモトを分つことになった。今日の既成団体が封建的であり権威主義であって、そこからは何一つ新しい芸術が生れないばかりか、その壁にさえなっているというグループ・実在者の主張に対して、グループ展をやりながら団体にも属して、旧勢力に入っていくことによって過渡期を乗り切るべきで、実在者の考えは小兒病的で観念的だという真鍋氏。

池田満寿夫（註26）や鬚嘔（註27）が述べるように、既成画壇を否定して作ったグループであったため、二紀会という団体に真鍋が属した点が問題になった。真鍋としてもその約束を破ったことになるわけだが、その理由の大部分は、より多くの人に自らの作品を鑑賞してもらいたいという願望にある（註28）。ただ、そう単純な問題でもなからう。

三、グループ「実在者」

愛媛から上京し、油彩を学んでいた真鍋が初めて団体展に出品したのは、在学中の昭和二十七年（一九五二）十月に開催された第六回「二紀会展」（八、二十六日）であった。《生物B》（所在不明）という作品を出品し、翌年の第七回同展には《湿地区》（当館蔵）を出展し、褒賞を受賞した。この頃には、美術史家の土方定一から「真鍋博は多くの期待する新人のひとり」（註13）と評されるまでにいたった。

そのような真鍋の初期の画業を検討する際、最も重要になるのは「実在者」と呼ばれたグループの存在である。

昭和二十九年（一九五四）、写真家の奈良原一高（一九三一～二〇二〇）は美術史家の小川晴暘（一八九四～一九六〇）に連れられ、「元満鉄の友達の家」に行った。そこで奈良原は真鍋に出会った。その頃、真鍋は鬚嘔（一九三一～）、池田満寿夫（一九三四～一九七）、堀内康司（一九三二～二〇一一）とともに新たな団体をつくろうと考えており、奈良原はそのグループの「客員のような形でディスカッションに参加」するようになった（註14）。

そして、同年三月から四月にかけて、真鍋はグループ「実在者」を結成する。この結成日の具体的な日時までは現状では分からない。同年の四月一日から三日にかけて新居浜市の朝日屋で行われた「真鍋博個展」の略歴には、三月の時点で既に「同志とグループ「実在者」結成」と記されている（註15）。一方、実在者の第一回目のグループ展「戦争」（フォルム画廊、六月二十八日～七月二日）のパンフレットには、「ぼくたちはグループ「実在者」を4月に結成」と残る（註16）。正式な団体というよりは、堀内康司を中心とした仲間内の個人的なグループであったため、厳密に結成要項を固めたというわけではないのであろう。ただ、真鍋の収集した関係資料のなかには、このグループ「実在者」の結成通知文が含まれている。文章のみが示されたことはあるものの、重要な資料なので画像とともに紹介する。このなかで彼らは以下のように述べる（図1、註17）。

こゝに私たちは新しい主張と方向をもつてグループ「実在者」を結成した。私たちは個々に妥協したり雰囲気に流されたりすることを嫌う大きな塊となつて創造への道へ謙虚に進みたい。

堀内康司

本田克己

真鍋博

池田満寿夫

グループ事務・文京区駒込林街158大島方池田

この葉書は保管用に取っておかれたもので消印が残っておらず、いつ送付したのかは分からない。明らかにするのは、グループの事務局が池田満寿夫宅であったこと、主に国画会で活躍した洋画家・本田克己（一九二四～二〇一七）が結成当初は参加していたこと、その一方で鬚嘔が入会していなかったことの三点である。一回目のグループ展「戦争」の案内状において、「若い世代の共通の問題を考えねばならぬことに気がついた。その意味で第一回テーマ「戦争」展には鬚嘔君に参加してもらった」と記されている理由についても若干の推測ができる（註18）。グループ「実在者」は堀内康司、池田満寿夫、真鍋博、本田克己という四人が中心となって始まり、その母体を拡大していくなかで奈良原一高や鬚嘔も参加していったということなのであろう。この点について、重要な記述が池田満寿夫の日記に出てくるので、下記に引用する（註19）。

5月9日

○福島氏に鬚嘔も加わって、グループ展の作品を見もらった。

朝から、阿部に手伝ってもらって、作品をフォルムまで運び、昼過ぎ、堀内の大作、ベニヤ板、四枚を歩いて運んだ。ふらくくに疲れた。

存すら確認できていなかったものであり、真鍋博というひとりの「イラストレーター」について理解するための貴重な作品である。

二. 油絵との出会い

谷川俊太郎が真鍋を「画家」と呼んでいたことから察せられるように、彼の出発点は油彩にあった。それは、彼が生まれた新居浜という土地と密接に結びついている。

真鍋博は、昭和七年（一九三二）七月三日、真鍋富太郎（一九〇二～七〇）と喜美江のもとに生まれた。真鍋博が誕生した当時、父親は宇摩郡別子山村の助役をつとめていたが、「子どもの教育」^{〔註3〕}のために新居郡中萩村に移住し、住友金属鉱山の社員となった。この転職は真鍋博にとって大きな転機となった。銅山開発のために父親が持ち帰る図面や建築雑誌を見て、幼少期の真鍋は細い線画に興味をもったためである（註4）。「南画風の絵を描いたり、書をはじめたり、茶碗を焼いたり」^{〔註5〕}した父親の影響を強く受けた。

そして彼は新居浜の中萩尋常高等小学校、新居浜中学校に入学し、昭和二十三年（一九四八）に愛媛県立新居浜西高等学校に進学した。真鍋が入学したのは、それまで女子高であった西高等学校が共学へと移行した年であった（註6）。そのような新たな時代のうねりのなかで、幼い頃より抱き続けてきた美術への興味は一層の高まりをみせる。入学の翌年には美術部を創設し、積極的に自らの作品を発表し始めるのだ。例えば、昭和二十五年（一九五〇）に開催された新居浜市第一回教育祭総合美術展へは作品を実際に出品し、金賞特選を受賞している（註7）。このような形で絵画への関心を深めていくなかで出会ったのが洋画家・西沢富義（一九一五～七四）であった。西沢は小磯良平（一九〇三～八八）の薫陶を受け、新居浜においてオリジン洋画研究所という画塾団体を昭和二十二年（一九四七）に設立した（註8）。西高等学校の三年生であった真鍋も、昭和二十五年八月七日

から三日間かけて行われた講習会に参加している。この時の様子を真鍋は以下のように回想している。

中央画壇でも一、二の人気画家だった小磯良平先生の講習会が、オリジン洋画研究所主催で住友倶楽部であり、小磯先生がわたしのキャンパスの上で、色や形を直して下さったことをはつきりと憶えている（註9）。

美術部やオリジン洋画研究所にて画技を高めた真鍋は、昭和二十六年（一九五二）四月四日に現在の多摩美術大学（多摩美術短期大学美術学部絵画科）に入学した（註10）。在籍中は油画科主任教授であった鈴木誠（一八九七～一九六九）に画法を学んでいたようだ。真鍋の初めての個展に際して、鈴木が以下のような文章を寄稿しているからである。「私の知っている限り最も若く最も優れた真鍋君が最初に故郷の地に作品発表の機会を持たれたことを心から嬉^{（うれ）}こんで居ります。厳しい御批判と今後の暖い御期待を希つて居ります」^{〔註11〕}。

なお昭和三十年（一九五五）四月にも彼は愛媛に帰郷し、一日から三日にかけて、新居浜市の昭和通りにある朝日屋において個展を開いている。そのチラシには、「オリジン展やグループ展を開催して美術の窓を開いて来た本店では、同氏（註12）真鍋博）の近作油絵19点（第7回第二紀会展出品「湿地区」^{（ま）}（褒賞受賞）を含む）、デッサン13点を陳列致します」と記されている（註12）。オリジン洋画研究所や新進気鋭の洋画家に新居浜の商店が広い門戸を開いていたことが見てとれる。このような地域をあげての油彩画支援が、真鍋博というひとりの画家を誕生させたといっても過言ではない。ちなみに多摩美術大学には、昭和三十三年（一九五八）三月の時点で、愛媛県出身の学生が十九人も在籍していた。松山出身の杉浦非水（一八七六～一九六五）や青井辰雄（一九一六～六五）が教授として在任していたことも影響したのかもしれない。

真鍋博研究 グループ「実在者」と『5人の片眼の兵隊』

五味 俊 晶

一・はじめに

真鍋博（一九三二～二〇〇〇）は現在の愛媛県新居浜市（旧宇摩郡別子山村）出身の画家である。星新一や筒井康隆の書籍、『SFマガジン』などの雑誌に多くの挿絵を提供していたことから、「イラストレーター」の先駆者として知られている。しかしながら、彼の画業は「イラストレーター」の範疇を超えていた。若い頃から真鍋と親交があった詩人の谷川俊太郎（一九三一～）は彼の捉えどころのなさを以下のように表現している（註一）。

真鍋博を、単純に『漫画家』という風なことばで定義づけてしまうことに、私は反対です。かといってまた、彼がふだん仕方なしに自分でそうしているように『画家』と呼ぶことも、あまりふさわしくないようです。彼は少なくとも今までのような意味での『画家』のワクをはみ出した存在だし、意識的にそれを目指してもいるからです。また、彼が今度、講談社のさしえ賞をもらったからといって『イラストレーター』といってしまうのも、つまりません。このように彼を呼ぶ適当なことばのみつからぬところに、真鍋博の独自性があると私は考えます。

真鍋博に関する研究は、このような多角的な画業のなかからイラストの仕事を

抽出し、それを時代ごとに追いかけることから始まった。少なくとも真鍋自身は書籍に関わる仕事を最優先にして自らの画業をまとめていった。彼の生前に出版された個人画集は『真鍋博 Original 1975』（一九七五年、講談社）、『真鍋博の線の画集』（一九七九年、平凡社）、『真鍋博オリジナル'85』（一九八四年、講談社）の三冊。若干の誤差はあるものの、この三冊は時代ごとに区切られており、彼のイラストの仕事全体的に把握することができる。

また、彼が展示に全面的に関わった『真鍋博の世界』展図録（池田二十世紀美術館、一九九六）や彼の没後に開催された『真鍋博回顧展』図録（愛媛県美術館、二〇〇二）、『真鍋博展』図録（東京ステーションギャラリー他、二〇〇四）も、基本的には同様の編集方針のもとで進められている。

このような方法論ゆえに、イラストレーションの範疇から外れる初期の作品群はこれまで検討される機会が少なかった。特に「画家」や「漫画家」という立場から「イラストレーター」へと彼が変貌をとげていく過程については積極的に言及されることがない。「真鍋博のタブロー時代」^{註二}という論稿のなかで、西田多江が真鍋の油彩について考察を行っているのが唯一の例外である。

本稿では、真鍋が生まれ故郷の新居浜から上京するまでの足跡をたどるとともに、彼が油彩から印刷物へと活動媒体をうつす契機となった『5人の片眼の兵隊』について考察を行う。同作の重要性に関しては、後述するように生前の真鍋自身が誰よりも強く感じていた。しかしながら、これまでの研究史のなかではその現

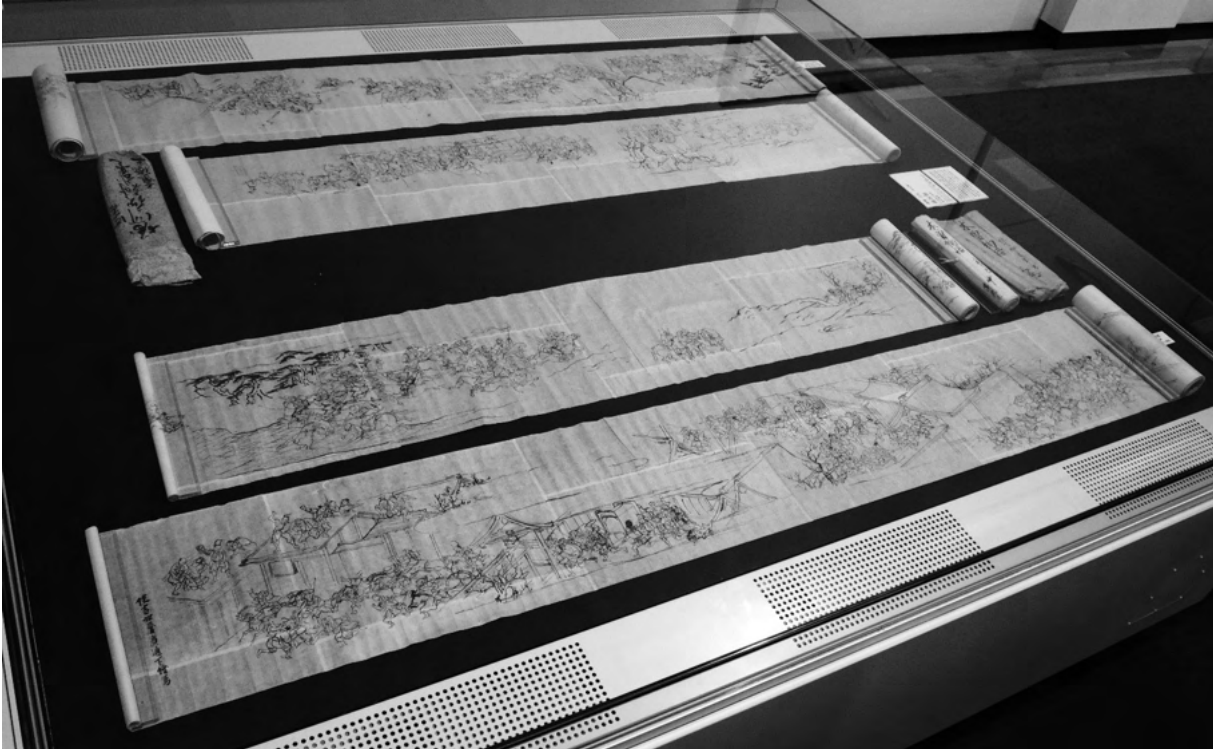


図3
遠藤広古・広実《模本類》
個人蔵（寄託作品）



図4
荻山雅弘《海岸山岩屋寺図》
個人蔵（寄託作品）



図1
松本山雪《枯木呖々鳥図屏風》
個人蔵（寄託作品）

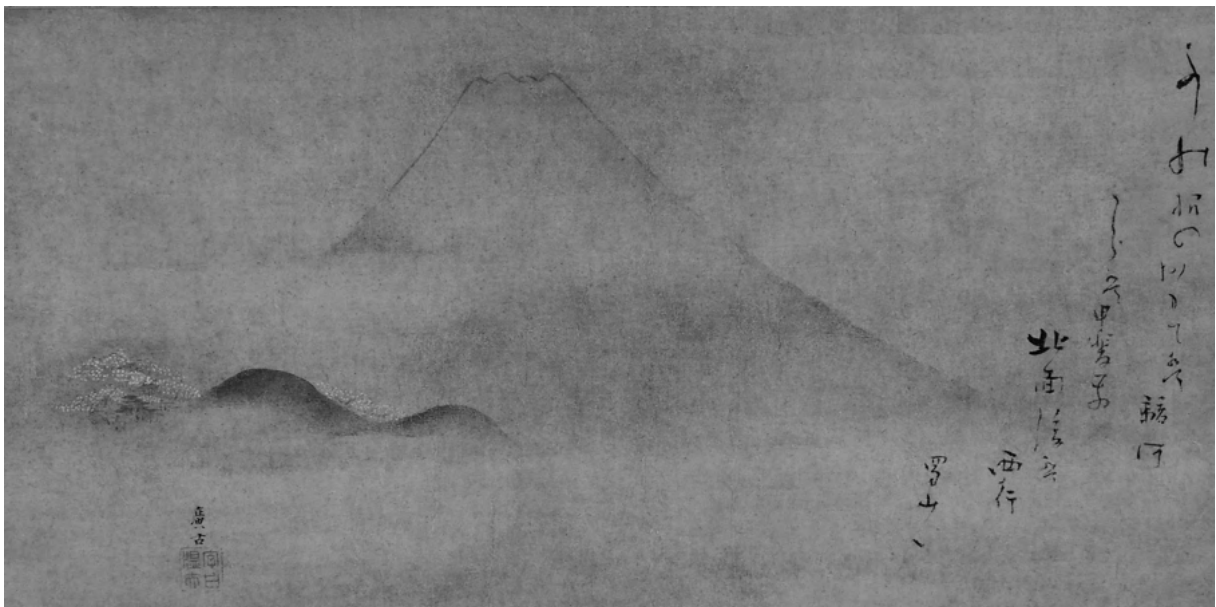


図2
遠藤広古《富士図》
個人蔵（寄託作品）

No.	作者名	作品名	制作年	材質・形状	所蔵／指定	法量(縦×横:cm)
No. 33	遠藤広実	拾得図	江戸時代後期	紙本墨画淡彩・軸	愛媛県美術館蔵	128.5 × 43.0
No. 34	遠藤広実	関羽図	文化2年(1784)	紙本着色・軸	愛媛県美術館蔵	118.6 × 25.2
No. 35	遠藤広実	南天に仔犬図	江戸時代後期	紙本着色・軸	個人蔵(寄託作品)	91.5 × 33.0
No. 36	遠藤広実	楽師図	嘉永6年(1850)	紙本着色・軸	個人蔵(寄託作品)	81.0 × 33.7
No. 37	遠藤広実	犬追物図	江戸時代後期	絹本着色・軸	個人蔵(寄託作品)	54.2 × 80.0
No. 38	遠藤広実	十六羅漢図	江戸時代後期	絹本着色・軸	愛媛県美術館蔵	91.7 × 43.0
No. 39	遠藤広実	貴人親楓図	江戸時代後期	絹本着色・軸	愛媛県美術館蔵	81.3 × 31.6
No. 40	遠藤広実	源氏物語図	弘化元-2年 (1844-45)	絹本着色・軸双幅	愛媛県美術館蔵 (下村観山旧蔵)	各90.0 × 32.0
No. 41	遠藤広実	吉野・龍田図	安政3年(1856)	絹本着色・軸双幅	愛媛県美術館蔵	各95.5 × 30.2
No. 42	遠藤広実	桜山人物図	弘化元年(1844)	絹本着色・軸	個人蔵(寄託作品)	110.6 × 44.2
No. 43	遠藤広実	邸内貴人図	安政3年(1856)	絹本着色・軸	個人蔵(寄託作品)	114.8 × 47.0
No. 44	安倍晴洋	雪柳雀図	江戸時代後期	紙本墨画淡彩・軸	個人蔵(寄託作品)	131.5 × 52.0
No. 45	安倍晴洋	龍虎図	江戸時代後期	絹本墨画・軸双幅	個人蔵(寄託作品)	各119.0 × 32.4
No. 46	安倍晴洋	吉野・龍田図	江戸時代後期	絹本着色・軸双幅	個人蔵(寄託作品)	各127.4 × 50.5
No. 47	荻山雅弘	春江帆船図	江戸時代後期～ 明治時代初期	絹本着色・軸	個人蔵(寄託作品)	98.0 × 36.0
No. 48	荻山雅弘	掛花図	江戸時代後期～ 明治時代初期	絹本着色・軸	個人蔵(寄託作品)	107.1 × 38.4
No. 49	荻山雅弘	立雛図	江戸時代後期～ 明治時代初期	絹本着色・軸	個人蔵(寄託作品)	38.6 × 94.3
No. 50	荻山雅弘	瀧に鷹図	江戸時代後期～ 明治時代初期	絹本着色・軸	個人蔵(寄託作品)	117.0 × 38.9
No. 51	荻山雅弘	海岸山岩屋寺図	江戸時代後期～ 明治時代初期	紙本淡彩・卷子	個人蔵(寄託作品)	41.2 × 135.5
No. 52	荻山雅弘	模本類	江戸時代後期	紙本墨画・まくり	個人蔵(寄託作品)	41.0 × 135.0 ほか

表1 コレクション特別展「松山藩御用絵師列伝」 出品目録

No.	作者名	作品名	制作年	材質・形状	所蔵／指定	法量(縦×横:cm)
No.1	松本山雪	製茶風俗図屏風	江戸時代前期	紙本着色・六曲屏風一双	愛媛県美術館蔵／ 愛媛県指定有形文化財	各 161.5 × 360.0
No.2	松本山雪	雄鶏図	江戸時代前期	紙本墨画淡彩・軸	愛媛県美術館蔵	110.5 × 51.6
No.3	松本山雪	野馬図	江戸時代前期	紙本墨画淡彩・軸双幅	個人蔵(寄託作品)	各 100.4 × 44.5
No.4	松本山雪	馬図屏風	江戸時代前期	紙本着色・六曲屏風一隻	愛媛県美術館蔵	各 108.0 × 51.0
No.5	松本山雪	野馬図押絵貼屏風	江戸時代前期	紙本墨画・六曲屏風一双 のうち左隻	個人蔵(寄託作品)／ 松山市指定有形文化財	各図 131.5 × 53.5
No.6	松本山雪	山水図	江戸時代前期	紙本墨画・軸双幅	個人蔵(寄託作品)	各 100.0 × 43.8
No.7	松本山雪	諸芸遊楽図屏風	江戸時代前期	紙本着色・六曲屏風一双	個人蔵(寄託作品)	各 143.0 × 357.2
No.8	松本山雪	枯木叭々鳥図屏風	江戸時代前期	紙本金地墨画・六曲屏風 一隻	個人蔵(寄託作品)	150.7 × 352.8
No.9	松本山雪	龍虎花鳥山水人物図押絵貼屏風	寛文9年(1669)頃	紙本着色・六曲屏風一双 のうち左隻	個人蔵(寄託作品)	各図 126.5 × 54.4
No.10	松本山月	七福神図	江戸時代中期	紙本墨画淡彩・軸	個人蔵(寄託作品)	44.7 × 82.0
No.11	豊田随園	蘇軾騎驢図	享保16年(1731)	絹本墨画・軸	個人蔵(寄託作品)	91.6 × 27.0
No.12	豊田随園	鍾馗図	江戸時代中期	紙本墨画・軸	愛媛県美術館蔵	74.5 × 35.8
No.13	豊田随園	花鳥図押絵貼屏風	江戸時代中期	紙本墨画淡彩・六曲屏風 一双のうち右隻	愛媛県美術館蔵	各図 128.3 × 47.8
No.14	豊田随園	花鳥人物図押絵貼屏風	江戸時代中期	紙本墨画淡彩・六曲屏風 一双のうち左隻	個人蔵(寄託作品)	各図 132.5 × 53.6
No.15	武井周発	花鳥図屏風	江戸時代中期	紙本金地着色・六曲屏風 一隻	個人蔵(寄託作品)	87.3 × 224.0
No.16	武井周発	山水図屏風	江戸時代中期	紙本着色・六曲屏風一隻	愛媛県美術館蔵	108.0 × 237.0
No.17	武井周発	山水図	江戸時代中期	紙本着色・軸	愛媛県美術館蔵	104.5 × 42.6
No.18	武井周発	双鶴図	宝暦13年(1763)	絹本墨画・軸双幅	個人蔵(寄託作品)	各 113.2 × 39.5
No.19	武井周発	寿老人・龍・鯉図	宝暦9年(1759)	絹本墨画・軸三幅対	個人蔵(寄託作品)	各 113.2 × 39.5
No.20	武井周発	雲龍図押絵貼屏風	江戸時代中期	紙本墨画・六曲屏風一隻	愛媛県美術館蔵	各図 131.0 × 56.6
No.21	武井周発	唐美人図屏風	宝暦13年(1763)	紙本金地着色・六曲屏風 一双	愛媛県美術館蔵	各 172.0 × 378.0
No.22	豊田随可	五節句之図	江戸時代中期	紙本着色・軸	愛媛県美術館蔵	各 119.8 × 49.7
No.23	豊田随可	松鷹図	江戸時代中期	絹本着色・軸双幅	個人蔵(寄託作品)	各 112.0 × 29.8
No.24	豊田随可	竹虎図	江戸時代中期	絹本墨画・軸双幅	個人蔵(寄託作品)	各 105.6 × 39.0
No.25	豊田随可	旭丹頂・月黒鶴	江戸時代中期	紙本着色・軸双幅	個人蔵(寄託作品)	各 114.2 × 71.6
No.26	遠藤広古	雅経卿の歌意	江戸時代後期	絹本着色・軸	愛媛県美術館蔵	82.1 × 38.6
No.27	遠藤広古	架鷹図	江戸時代後期	紙本着色・軸双幅	愛媛県美術館蔵	各 108.6 × 43.2
No.28	遠藤広古	紅葉鹿図	江戸時代後期	紙本着色・軸	個人蔵(寄託作品)	73.5 × 25.7
No.29	遠藤広古	猿田彦神図	江戸時代後期	紙本着色・軸	個人蔵(寄託作品)	86.9 × 27.4
No.30	遠藤広古	富士図	文化5年(1808)	紙本墨画・額	愛媛県美術館蔵	56.7 × 119.8
No.31	遠藤広古	富士図(賛・太田南畝)	江戸時代後期	紙本墨画・幅	個人蔵(寄託作品)	24.4 × 53.6
No.32	遠藤広古	模本類	江戸時代後期	紙本墨画・まくり	個人蔵(寄託作品)	縦 30.6 ほか

四国八十八ヶ所霊場第45番札所・岩屋寺の景観を描く。古来、修験者たちの霊場として信仰を集め、険しい岩窟の行場が残されていることでも知られる同寺の景観は、鎌倉時代に描かれた絵巻《一遍聖絵》(国宝、神奈川・清浄光寺(遊行寺)蔵)が有名だが、本作品もおそらくそれを意識しながら、さらに雪舟《山水長巻》(国宝、山口・毛利博物館蔵)あたりに倣った筆法・構図によって、当地の峻厳さを表現している。

なお、現状は卷子装となっているが、それほど長さのない横幅(一三五・五センチ)や、画面左端ギリギリまで絵があることなどから、もとはさらに左に画面が続いていたものと思われる。真景図として、岩屋寺周辺の景観が他にも描かれていたのか、あるいは八十八箇所霊場の他の札所が描かれていたのか、興味は尽きない。

結び

以上のように、伊予松山藩の場合、2〜3人ごとに、京狩野派系↓江戸狩野派(浜町狩野家)系↓住吉派系↓江戸狩野派系(木挽町狩野家)と御用絵師の画派が変わっていく。これは一見、多様にも見えるが、はじめの松本山雪・山月を除けば、あとは江戸幕府の御用絵師の系譜と同調するものと言え、久松松平家と徳川宗家との親近関係をよく物語っている。その意味では、松本山雪(および山月)に関しては、御用絵師制度が確立する以前の未だ混沌とした初発的な状況を示しているように思える。あるいは「御伽衆」的な立場の人物だったのかもしれない。山月の代に、並行して江戸で狩野随川岑信に禄を与えているのは、国許と江戸で絵師の二元体制を取ることに加え、この時期(十七世紀末〜十八世紀初頭頃)松平定直の治世)に、幕府に準じた絵師雇用体制を整えつつあったことを意味していると言えるのではあるまいか。今回、初めて9名の御用絵師たちを一堂に並べてみて、そのような展開が想定されるように見えてきた。今後は、さらに歴代藩主の文化的素養、藩政としての文化活動などに詳しく着目しつつ、松山藩にお

ける御用絵師のあり方について、研究を深めていければと考えている。

註

- (1) 『松山藩御用絵師 松本山雪 桃山と江戸のはざまに』二〇〇七年二月十日〜三月二十五日
- (2) 『つながる／つなげる―愛媛ゆかりの芸術家たち』二〇一〇年十月九日〜十一月二十八日
- (3) ・梶岡秀一「江戸時代伊予国諸侯の絵師の制度に関する一試論」『愛媛県美術館研究紀要』第六号、二〇〇七年
 ・拙稿「松本山雪の花鳥図について」『愛媛県美術館研究紀要』第八号、二〇〇九年
 ・梶岡秀一「幕末明治初期における復古派としての遠藤廣宗、遠藤貫周と住吉広賢」『愛媛県美術館研究紀要』第十一号、二〇一二年
 ・拙稿「松山藩絵師・遠藤広実研究(一)」『愛媛県美術館研究紀要』第十一号、二〇一二年
 ・拙稿「作品紹介 松本山雪筆《龍虎花鳥山水人物山水図押絵貼屏風》」『愛媛県美術館研究紀要』第十四号、二〇一五年
 ・梶岡秀一「遠藤広実筆《源氏物語図》双福―松山藩久松家と正親町三条実愛」『愛媛県美術館研究紀要』第十四号、二〇一五年
- (4) この過去帳については、以下を参照。矢野徹志『近世伊予の画人たち 愛媛近世絵画の諸流』愛媛文化双書刊行会、二〇一六年。
- (5) この嘆願書については、以下を参照。矢野徹志「幕末の松山藩画師萩山雅弘伝―『萩山家文書とその絵画資料』にみる藩絵師の実態―」(上) (下) 『伊予史談』第三五九、三六〇号、二〇一〇〜二〇一一年。
- (6) 木村重圭「名画探録II 松本山雪筆「枯木叭々鳥図屏風」―伊予松山の山雪―」『聚美』二十六、聚美社、二〇一八年

許を得て「雅弘」と号した。おそらくこの修行時期に描かれたものと見られる多数の粉本類が、当館寄託となっている。

嘉永二年（一八四九）には安倍晴洋の跡を継ぎ、晴れて藩絵師に任ぜられる。元治元年（一八六四）、慶応二年（一八六六）の二度の長州征討には、藩主松平勝成に従い、絵図制作などを行った。なお、同時期に同じく藩絵師として厚遇されていた遠藤広実を羨んで、専任の絵師となるために苦勞を重ねてきた自身の待遇改善を、藩に訴えるべく書かれた「嘆願書」の存在も知られる（5）。

初公開作品より

出品作品のうち、約半数は本展において初公開となるものであった。これらは、ここ数年の間に、相次いで当館に収蔵され、また個人所蔵家より寄託を受けたものである。以下、そのうち特に注目すべき作品をいくつか紹介しておきたい。

・松本山雪《枯木吠々鳥図屏風》（目録No.8、図1）

近年、新たに見出された屏風。木村重圭氏による詳細な紹介（6）がなされたのち、当館へ寄託となった。

おそらくはもと一 双屏風だったうちの左隻が伝わったと考えられる。無背景の金地の上に墨のみで描かれる花鳥図は、桃山〜江戸時代初期に流行したが、金地屏風の作例がこれまでほとんど確認されなかった山雪にとつては、重要な発見である。他の作品のような細部描写が見られず、ゆったりとした筆致の大らかな画風は、桃山のな気分を残す。おそらくは、比較的若い時期の作（松山移住前）ではなからうか。

・遠藤広古《富士図》（目録No.31、図2）

淡墨で簡略に描かれた小品であるが、緩みのない端正な筆致が用いられ、画面全体から高い格調を感じさせる。富士山の左側の裾野に、胡粉の点描によって桜

の花が咲いているところは、水墨作品でありながら、情緒豊かなやまと絵の世界が巧みに表現される。

注目すべきは、画面右寄りに併記される賛文である。江戸時代中・後期を代表する文人、太田南畝（蜀山人）（一七四九〜一八二三）による狂歌「富士のねの表はするがうらは甲斐前は北面のちは西行」が記される。江戸の文人ネットワークと広古（ひいては、やまと絵師）とのつながりを示す、興味深い作例である。

・遠藤広古《模本類》（目録No.32、図3）

広古による絵巻の模写。《木曾物語絵巻》三巻と《堀川夜討絵巻》二巻からなる。いずれも原本は、住吉派の初代・如慶（一五九九〜一六七〇）の作で、現在、前者は出光美術館所蔵、後者は東京国立博物館所蔵のものと思われる。両本ともに、当初から備わっていたと思われる保管用の袋が付属し、《木曾物語絵巻》の袋には文化十年（一八一三）の年記がある。

なお、東京藝術大学大学美術館に所蔵される住吉家粉本の中にも、《西行物語絵巻》《春日権現験記絵巻》など広古による中世絵巻の模写が含まれている。さらに、武蔵野美術大学大学美術館や東京国立博物館にも、子の広実、孫の貫周の古絵巻・中国絵画の模写が所蔵されており、彼らが日常的に古絵巻を中心とした古画の模写研究をしていた様子がうかがえる。

《木曾物語絵巻》には「遠藤伴介廣古主」という款記があり、また両作品ともに、袋と本紙には広古の別号である「蝸廬藏」の蔵印が捺されていることから、ともに広古筆と判断して今回展示したが、《堀川夜討絵巻》下巻の巻末には「文政八癸乙酉 遠藤伴介古致」と記されており、広古は前年の文政七年（一八二四）に没していることから、こちらは広実の筆による可能性も考えられる。本作については、いずれ稿を改めて、詳しく考察する機会を持ちたい。

・荻山雅弘《海岸山岩屋寺図》（目録No.51、図4）

(六) 遠藤広古「えんどう・ひろふる(ひろひさ)」寛延元年(一七四八)〜文政七年(一八二四)

本名・伴助。子の広実とともに、江戸詰の形で、二代にわたって松山藩に仕えた。

『松山歴俸略記』(弘化年間「一八四四〜四七」)に「初代伴助、絵巧者ニ付寛政七年於江戸出、六十俵常府大小姓格絵方、後常詰格」と載る。また川崎千虎編『名印部類』(明治二十五年刊)には、住吉派四代・広守(一七〇五〜七七)の門人として「本姓梅原氏後遠藤ト改ム 初広起 蝸蘆ト号ス 寛政年中伊予松山松平家ノ画師ト為ル累世之ヲ襲フ 文政七年十一月十七日死年七十七」と記される。

いかにも住吉派らしい正統なやまと絵の様式を基本にした穏健な作風を見せるが、「傲光琳筆意」と記す『紅葉鹿図』といった琳派風のものもあり、時流に柔軟に応じた姿勢も垣間見える。

(七) 遠藤広実「えんどう・ひろざね」天明四年(一七八四)〜文久二年(一八六二)

広古の子。『古画備考』の住吉広行門人の欄に「広実、遠藤伴助」と載るほか、弘化年間(一八四四〜四七)の『松山歴俸略記』に「二代、六十俵三人扶持 遠藤伴助」、嘉永五年(一八五二)の『松山武鑑』常府の常詰格の欄に「六十俵 伴師 遠藤伴助」、安政六年(一八五九)の『幕末松山藩御役録』常詰格の欄に「六十俵 常府、格 遠藤伴助」と、それぞれ記される。また川崎千虎編『名印部類』には「初名古致又古行 通称伴助 文久二年五月廿六日死年七十九」と記される。

画技は広古よりもさらに幅広く、和歌や古典文学を主題とした正統なやまと絵の様式に加え、幕末特有の復古的要素も認められるほか、同時代の多様な絵画様式(江戸狩野派、写生派、文人画、南蘋派など)を習得していたことも看取される。

三子の広宗(第二回内国絵画共進会受賞、鑑画会第一回大会出品)、貫周(酒井若狭小浜藩酒井家に仕え、明治維新後は内務省地理寮、農商務省などに勤務)、広賢(住吉宗家八代目を継承、明治維新後はフェノロサの日本美術研究にも協力)はいずれも、幕末から明治初期の美術史上で重要な役割を果たしており、遠藤家

の家格の高さや、住吉派内における立場の強さがうかがえる。広古、広実は、譜代大名ながら親藩に比肩しうる待遇であった久松松平家への派遣にふさわしい絵師として、おそらくは特任のような立場で迎え入れたかと推測される。

(八) 安倍晴洋「あべ・せいよう」文化六年(一八〇九)〜弘化二年(一八四五)

桑村郡新町(現・西条市)の庄屋安倍家の分家に生まれる。安倍家の過去帳には「幼ニシテ画道ヲ学ビ 師ハ東都狩野氏故 京、攝、東都ニ数年遊学シ 国君藩ヨリ、府ニ招カレ、業ニ就任スル 行年三十七歳」と記され(4)、「晴洋養年」と自署する雅号からも、木挽町狩野家九代・晴川院養信(一七九六〜一八四六)に学んだと考えられる。晴川院自筆の『公用日記』(東京国立博物館蔵)に、弘化度江戸城本丸御殿障壁画制作に関わった多くの門人たちが記される中に「晴洋」の名があるのが本人と見られる(さらに、晴洋の跡を継いで藩絵師となった荻山雅弘と見られる人物(覚右衛門)の名も列記されている)。

『松山武鑑』(嘉永五年「一八五二」)には「常府 式具馬具并屏風預 十人扶持 安部晴洋」と記される。また天保十三年(一八四二)十一月には、大山祇神社の宝物の模写を行ったことが、同社の公社用日記に詳しく記されている。

(九) 荻山雅弘「おぎやま・ただひろ」文政五年(一八二二)〜明治九年(一八七六)

本名・覚右衛門。雅窓とも号した。自ら記した「口説」などによれば、祖父、父もともに絵をよくしたが、画道を家業としたわけではない普通の江戸詰めの藩士であったところ、参勤交代に従いつつ、天保十三年(一八四二)には安倍晴洋の松山城二之丸御殿障壁画修復を手伝うなどし、さらに同十五年(一八四四)に自力で木挽町狩野家九代・晴川院養信に入門して修行に励んだという。晴川院を筆頭に江戸狩野派絵師たちが総動員された弘化度江戸城本丸御殿障壁画制作にも関わり、弘化四年(一八四七)には十代・勝川院雅信(一八二三〜七九)より免

追慕・室町回帰の影響を受けた一人としても位置づけられる。

(二) 松本山月「まつもと・さんげつ」慶安三年(一六五〇)～享保十五年(一七三〇)

本名・貞則。半輪斎とも号した。山雪の養子となり、跡を継いで藩の画御用を務めた。山雪に比べると現存作品は少ないが、馬図を中心に、山雪の画風を継承しながらも、独自の展開を見せている。松本家菩提寺である万福寺(松山市土居町)には絹本着色の《仏涅槃図》大幅が伝わるほか、金刀比羅宮(琴平町)の《馬図屏風》、八栗寺(高松市牟礼町)の《八栗寺伽藍絵図》、観音寺の商家・浮田家旧蔵の《野馬図屏風》(香川県立ミュージアム蔵)など、讃岐地方に基準的作例が複数伝来する。

なお、『懐中便覧松山役録』(宝永元年「一七〇四」)に「三人扶持 松本 山月」とあるが、この時、藩は浜町狩野家初代・随川岑信(一六六二～一七〇八)にも禄を与えており、江戸と国許とで絵師の二元体制がとられていたことが知れる。山月の長子・茂助則恒は次小姓として取り立てられたため、以後の松本家は藩士として仕えることとなり、絵師としての松本家は二代で途絶えた。

(三) 豊田随園「とよた・ずいえん」生年不詳～享保十七年(一七三二)

常之とも号した。『懐中便覧松山役録』には「四人フチ 十三石 豊田随円」と記される。また『古画備考』の狩野随川甫信門人の欄に「米田金七甫壽、改称随節、又随圓ト改ム、高松家」と記され、浜町狩野家二代・随川甫信(？～一七四五)に学んだと伝わる。

絵画的に見れば、松本山雪・山月と続いた京狩野派の様式から一転し、時流に沿って、江戸狩野派の王道をゆく淡泊温雅で瀟洒な作風を、伊予の地にもたらした存在と位置づけられる。随園が仕えた藩主・松平定直の治世(延宝～享保初までの約半世紀)は、地坪制度の導入や検見法から定免法への移行による農政改

革をもたらした経済安定を背景に、儒学の興隆や、定直自身も宝井其角に入門して俳諧を愛好するなど、文化面でも成熟を迎える。いわゆる江戸風の文化が本格的に伊予の地へ移入伝播されることとなった。随園、そして以降しばらくは江戸狩野派系の絵師たちが御用絵師に登用されたことも、こうした藩政の特徴を踏まえてみると、より合点が行く。

(四) 武井周発「たけい・しゅうはつ」元禄七年(一六九四)～明和七年(一七七〇)『武井氏家譜』によれば、押川由貞の四男として生まれ、名ははじめ作之丞、のち半三郎、半蔵、作右衛門。正徳五年(一七二五)、河野通有の家系を汲む武井家の養子に入って同家の家督を継ぎ、同七年、次小姓となった。享保二十年(一七三五)、藩主松平定喬の命で作画したことがきっかけで御用絵師となったという。画は、先代の御用絵師で、縁戚関係にあった豊田随園に学び、周発の前は常美と号した。

基本的には随園の作風を継承しながらも、より雄渾な水墨技法に見どころがある。加えて《唐美人図屏風》《花鳥図屏風》などの豪華な作風のものもあり、堅実な画技と幅広いレパートリーを兼ね備えた絵師であったと言える。

(五) 豊田随可「とよた・ずいか」享保六年(一七二二)～寛政四年(一七九二)

豊田随園の子。常令とも号した。『古画備考』の狩野随川甫信(？～一七四五)門人の欄に「友盛弟子、父随圓、松山家」と記され、父・随園とともに、浜町狩野家に学んだことが分かる。また『松山分限録』(寛政元年「一七八九」)に「御側医師同格」として「六人フチ 百石 御画師 豊田随斎」「三人フチ 十五石 画執行 豊田千里」とあるいづれかが随可と推測される。

随園の淡泊瀟洒な作風に比べると、より力強い筆致が特徴。中でも《旭丹頂・月黒鶴》は代表的作例と言える大作で、箱書きでは藩主拝領の品と伝える。

【開催報告】コレクション特別展「松山藩御用絵師列伝」

長 井 健

開催の経緯

松山城三之丸跡（堀之内・城山公園）に位置する愛媛県美術館では、開館以来、歴代の伊予松山藩主・久松松平家に仕えた御用絵師たちについて、調査研究・作品収集を精力的に進めてきた。初代御用絵師の松本山雪（？～一六七六）については、二〇〇七年に企画展を開催し⁽¹⁾、また七人目にあたる遠藤広美（二七四～一八六二）についても、二〇一〇年に開催した「つながる／つなげる―愛媛ゆかりの芸術家」展で顕彰した⁽²⁾。その後もさらに両者を中心に、折に触れて本紀要等において論考・作品紹介等を重ねてきており⁽³⁾、一定の成果を挙げられたと言える。そして、これ以外の御用絵師たちについても、開館以来二十年を経て、少しずつではあるが作品収集・寄託受入等が進み、コレクションを通してようやく一望できる状況となった。そこで、二〇一九年十一月二十三日から二〇二〇年一月十三日にかけて「松山藩御用絵師列伝」と題したコレクション特別展を開催、寄託品を含む計五十二件を展示し、これまでの調査研究・作品収集の成果を初めて一堂で紹介することができた（出品目録は表1参照）。予算等の関係で、残念ながら図録を作成することが叶わなかったため、本報告をもって、展示の記録としたい。

歴代の御用絵師たち

松山藩主・久松松平家に仕えた御用絵師は全部で九名を数える。以下、彼らの

略歴を順に記しておく。

(一) 松本山雪「まつもと・さんせつ」 生年不詳～延宝四年（一六七六）

近江の生まれ。本名・恒則。岨嶺、心易とも号した。同時代史料としては『乾光院殿御治世支配帳』（明暦四年「一六五八」）に「扶持方斗（中略）式人扶持（中略）一 同 松本山雪」と記されるのみである。天保五年（一八三四）に子孫が記した「松本家系図」によれば、松本家は筑前黒田家家臣で、父は紀州藩のち藤堂高虎に仕えるも浪人したという。寛永十二年（一六三五）、松平定行の桑名からの転封に従って来松したと伝わるが、御所造営に携わったとの家系図の記述や、奇想の絵師として知られる狩野山雪（一五九〇～一六五一）と近似した個性が認められることから、京狩野派絵師の一人と考えられてきた。ただし、現段階では京狩野派との具体的な接点は認められていない。

《製茶風俗図屏風》《諸芸遊楽図屏風》など中国趣味を示す特異な風俗画や、奇怪な容貌の野馬図などを描き、いささかアクの強い作風が特徴。長崎探題をつとめた藩主定行の新奇な中国趣味、文人的趣向も濃厚に反映されていると見られる。また、朝岡興禎編『古画備考』（嘉永四年「一八五一」起筆）では、山雪を「雪舟風ナレドモ、如雪、周文ノ風アリテ」「雪舟流ヲ帯ベル者、純粹ノ狩野派ニハアラズ」と評しており、狩野探幽（一六〇二～一七四四）、雲谷等益（一五九一～一六四四）、曾我二直庵（生没年不詳）らを中心に、江戸前期画壇を席卷した雪舟

愛媛県美術館
平成30年度年報・研究紀要第18号

令和2年3月発行

発行所 愛媛県美術館
愛媛県松山市堀之内
TEL.089-932-0010
FAX.089-932-0511

印刷所 株式会社 明 朗 社



愛媛県美術館